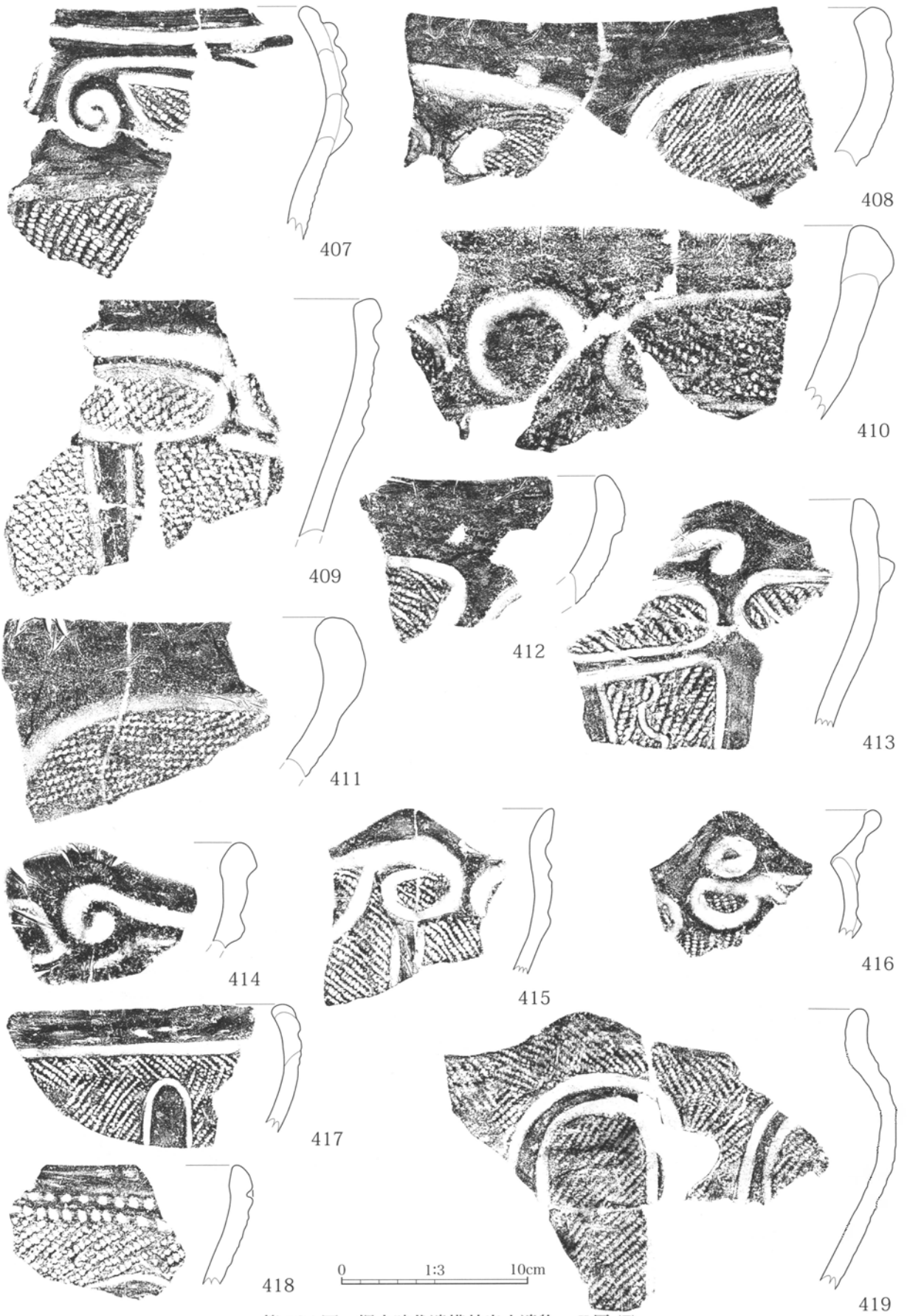
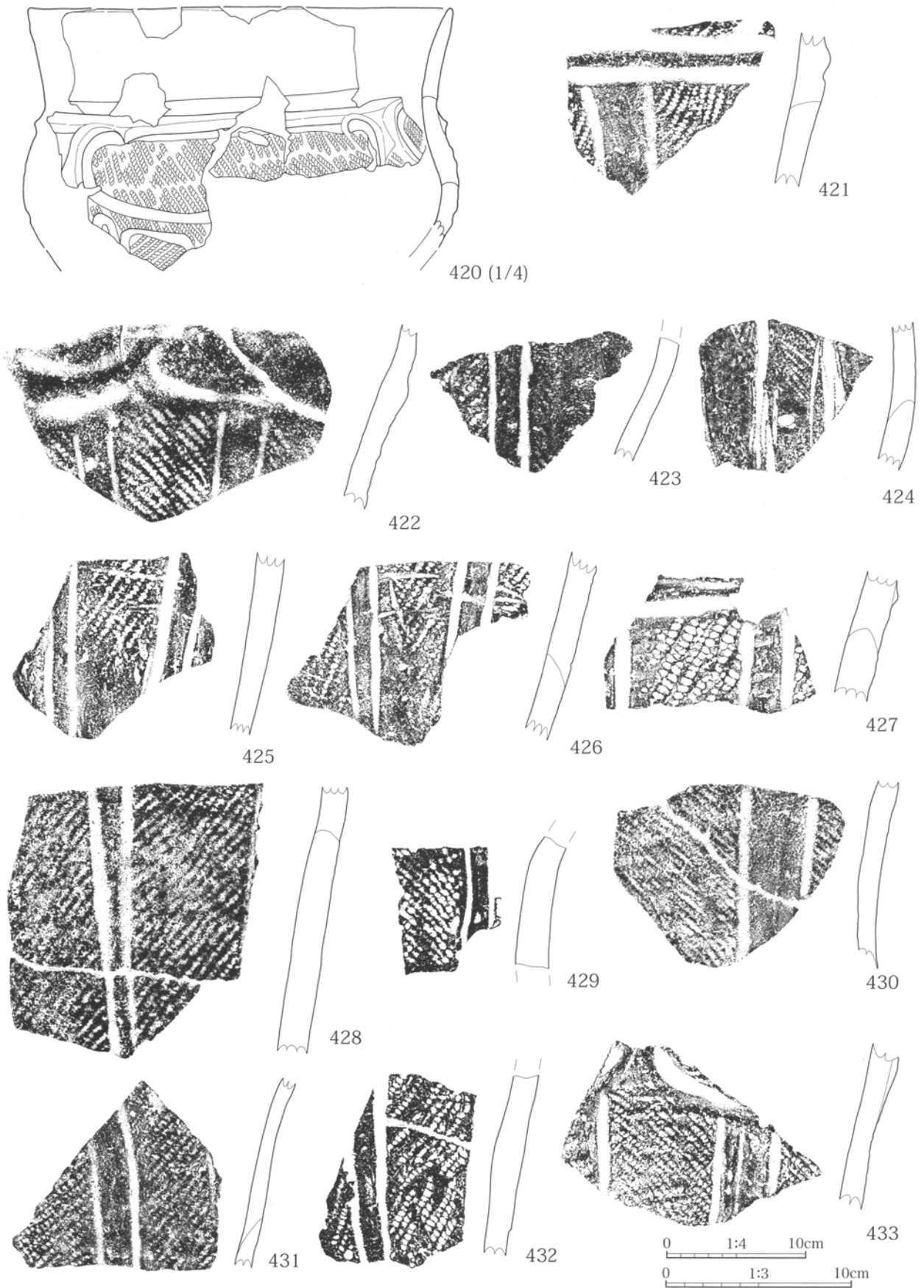


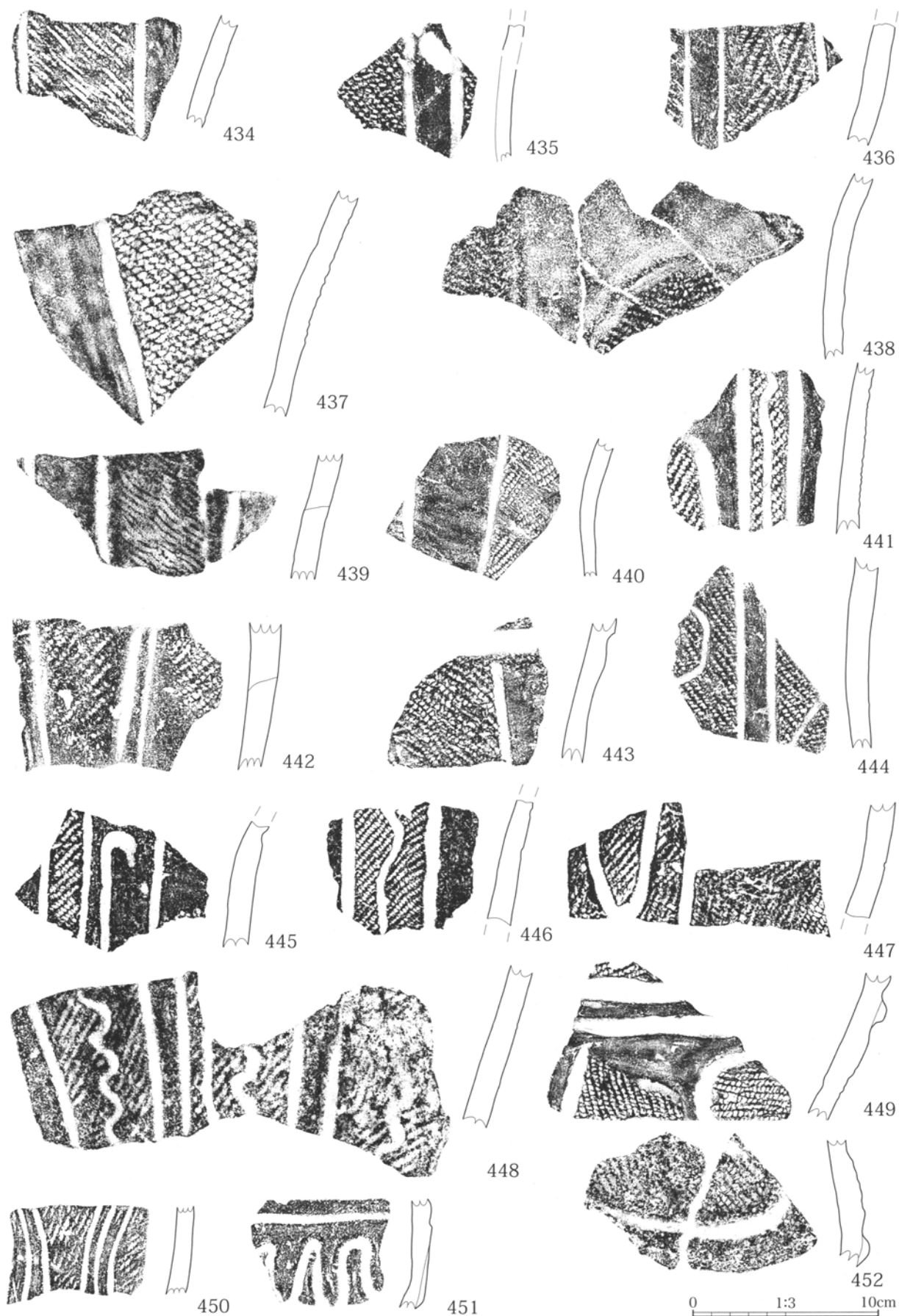
第 183 図 縄文時代遺構外出土遺物 II 区 (6)



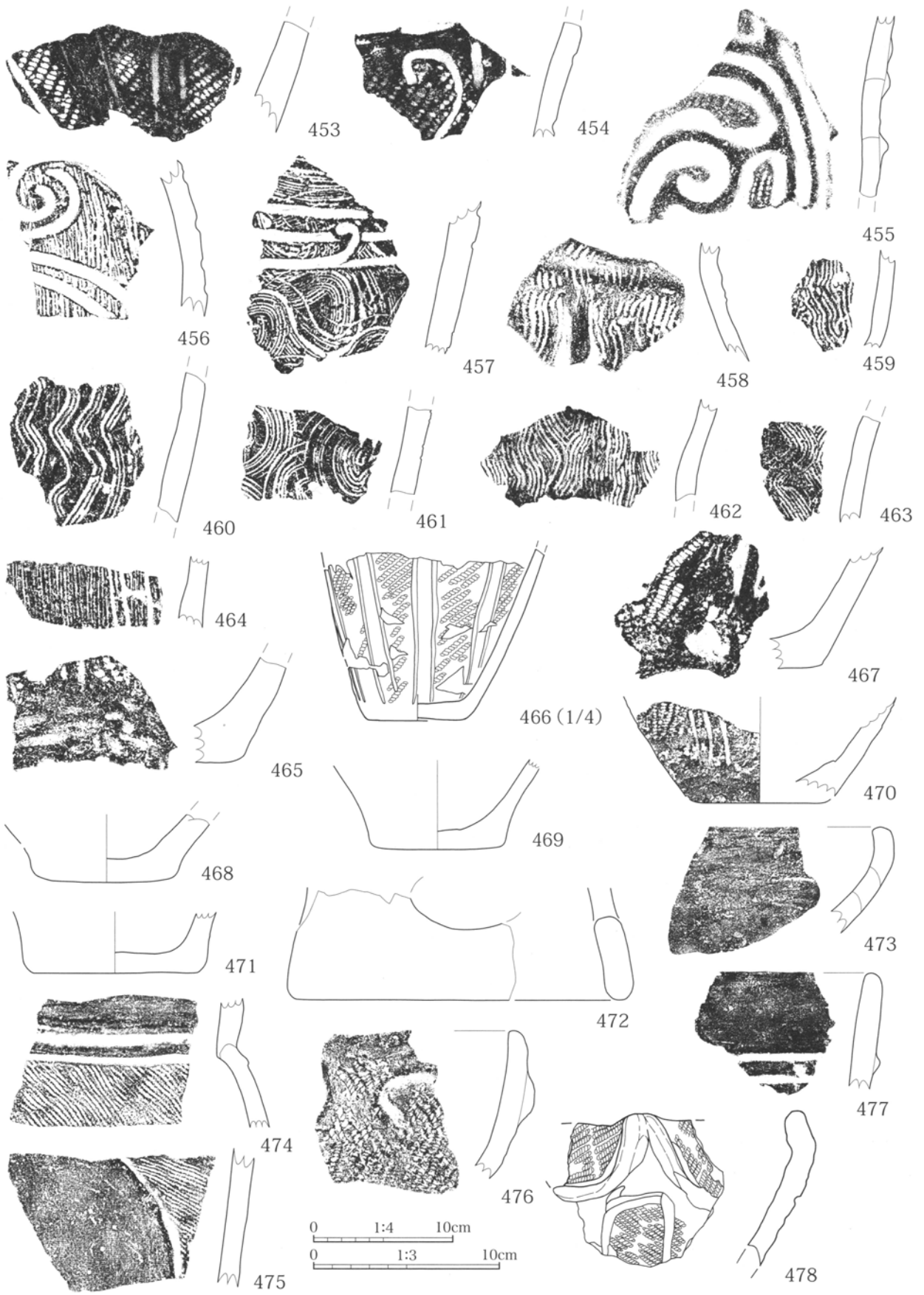
第 184 図 縄文時代遺構外出土遺物 II 区 (7)



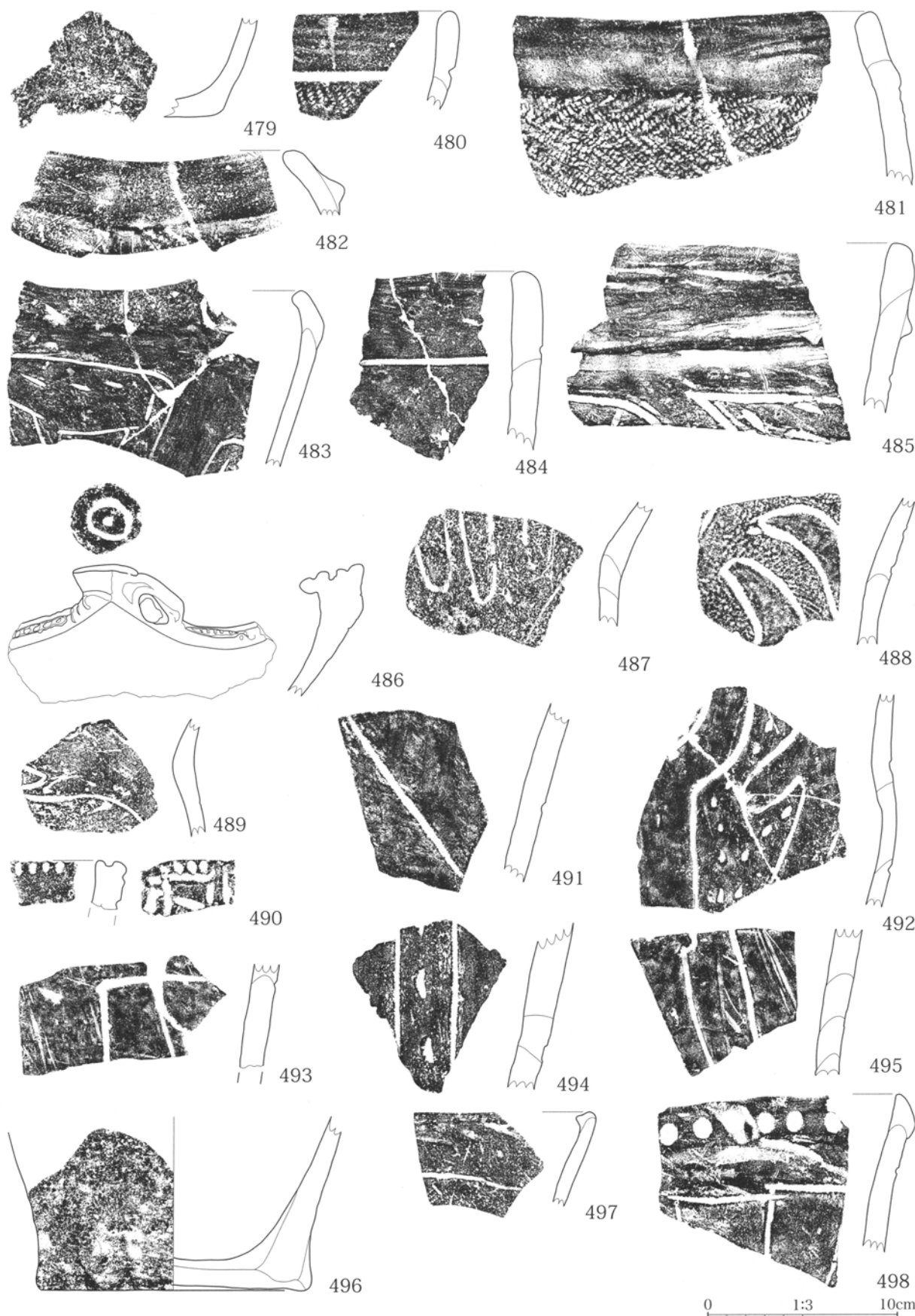
第 185 図 縄文時代遺構外出土遺物 II 区 (8)



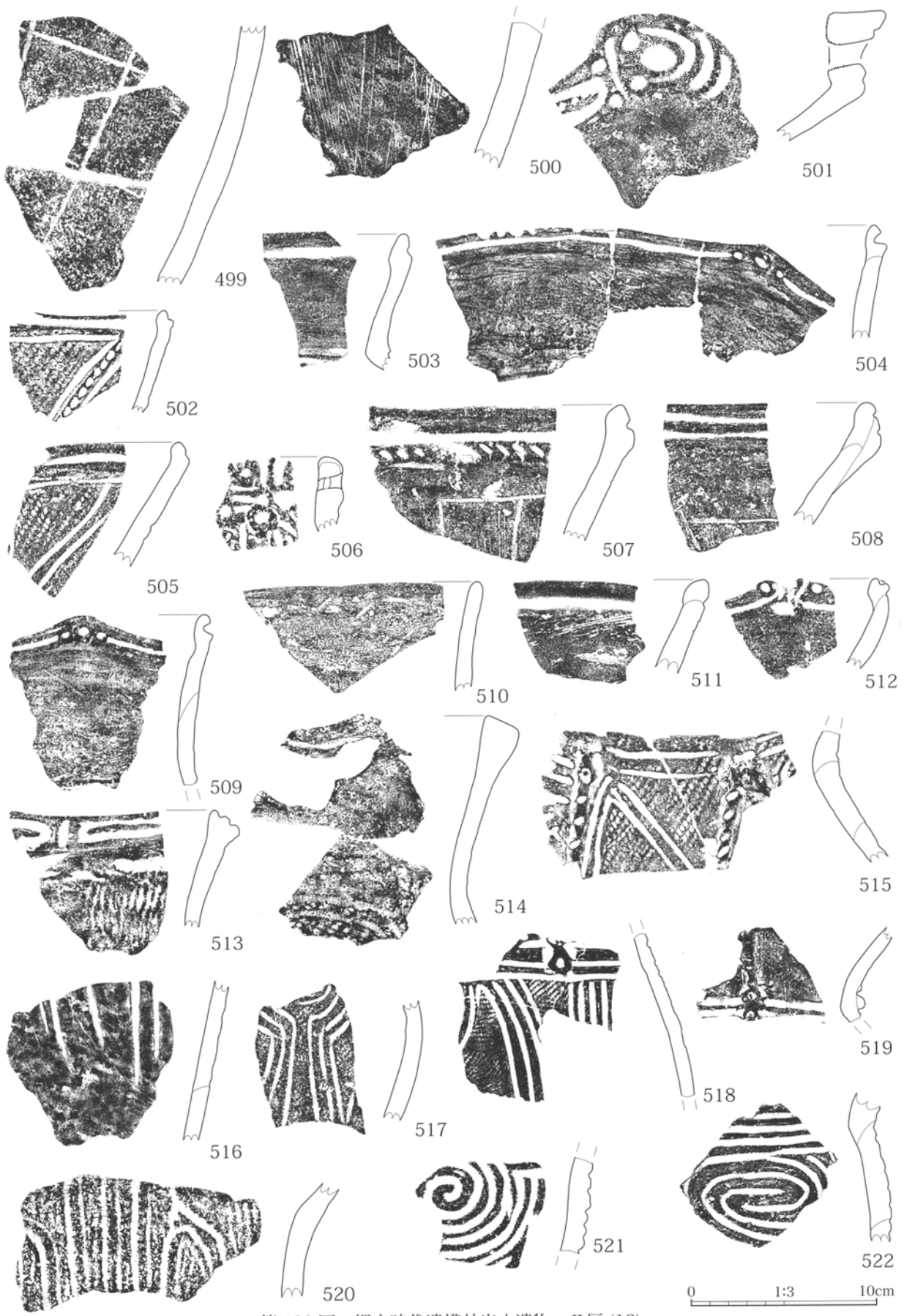
第 186 図 縄文時代遺構外出土遺物 II 区 (9)



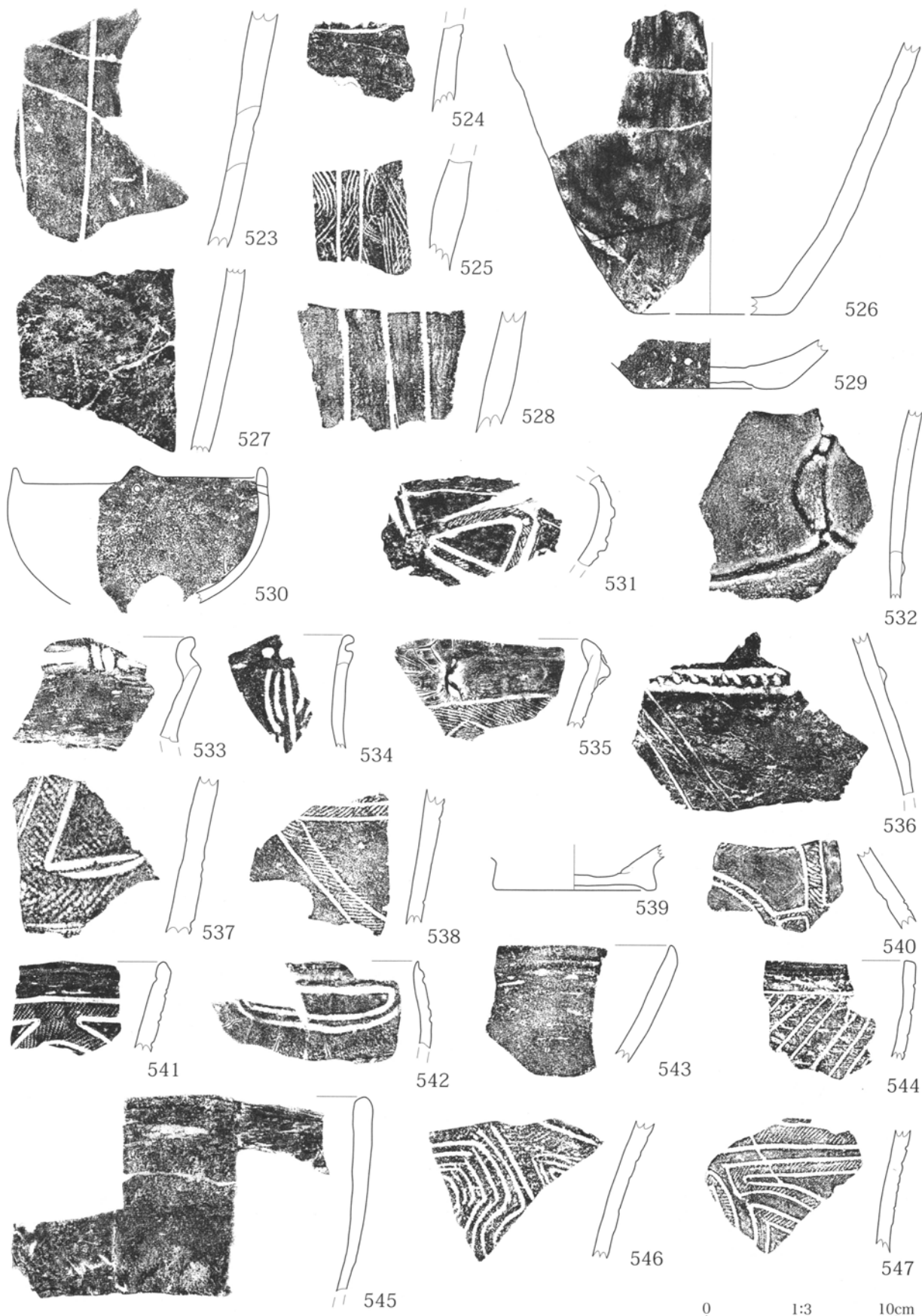
第 187 図 縄文時代遺構外出土遺物 II 区 (10)



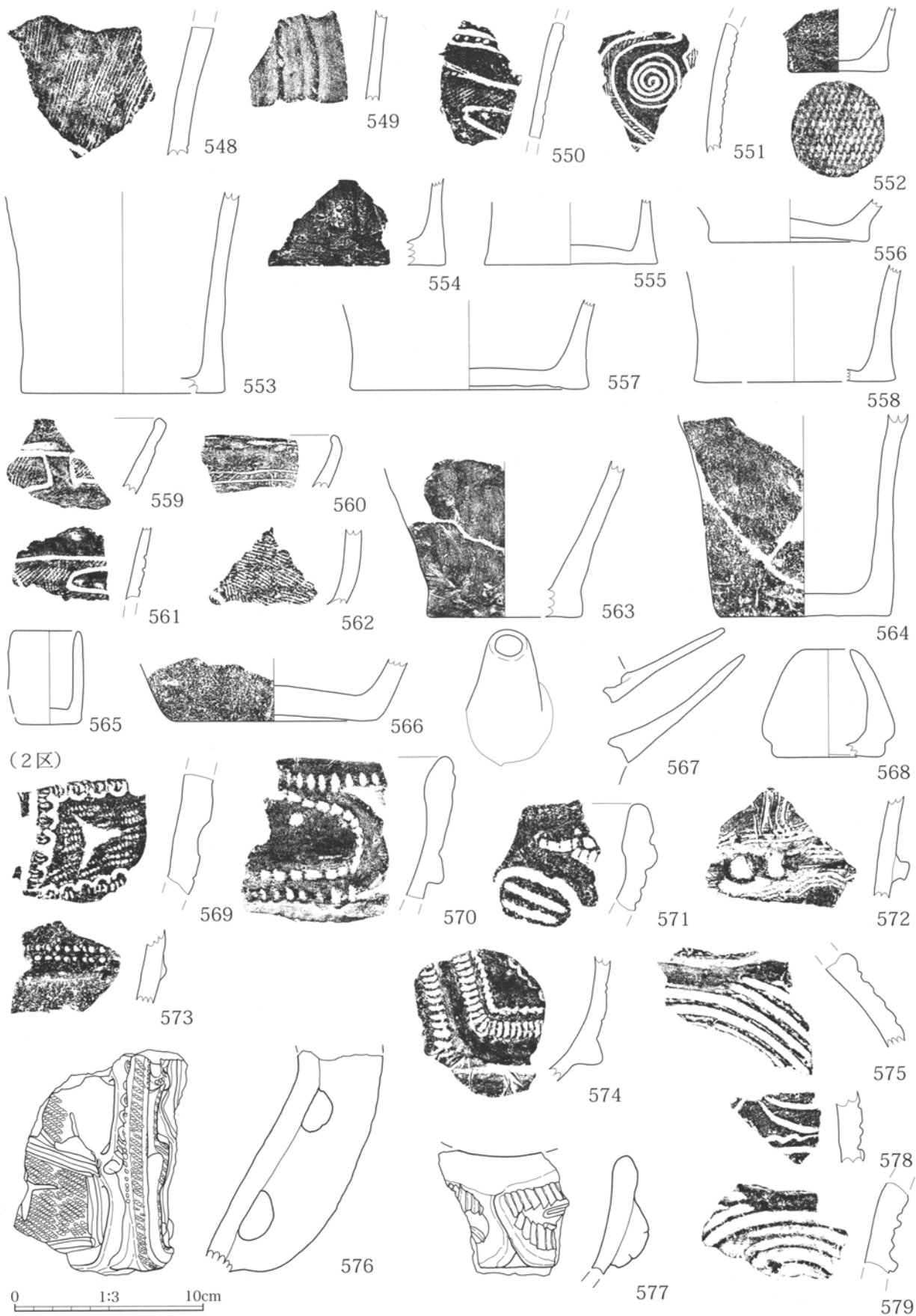
第 188 図 縄文時代遺構外出土遺物 II 区 (11)



第 189 図 縄文時代遺構外出土遺物 II 区 (12)



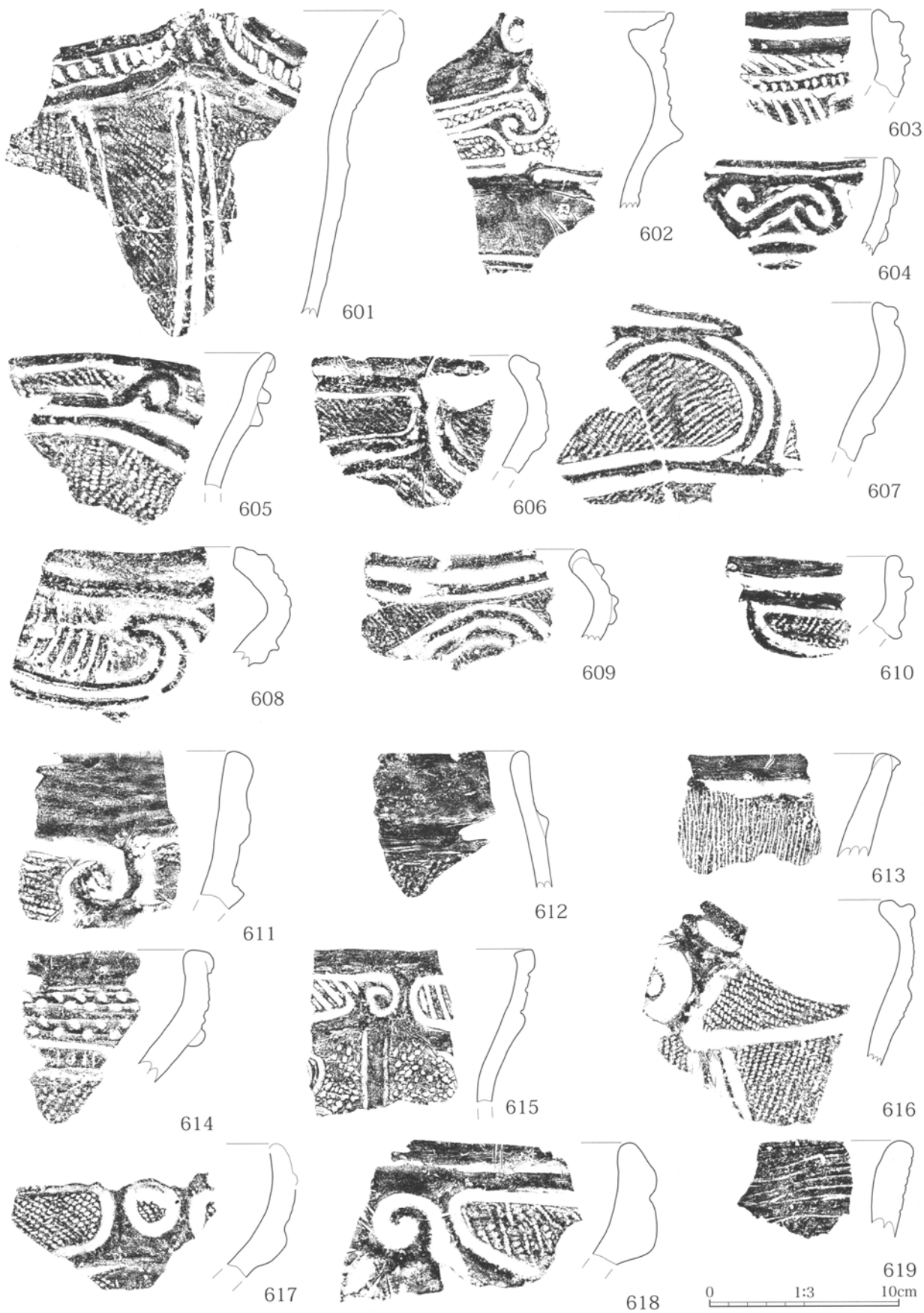
第190図 縄文時代遺構外出土遺物 II区(13)



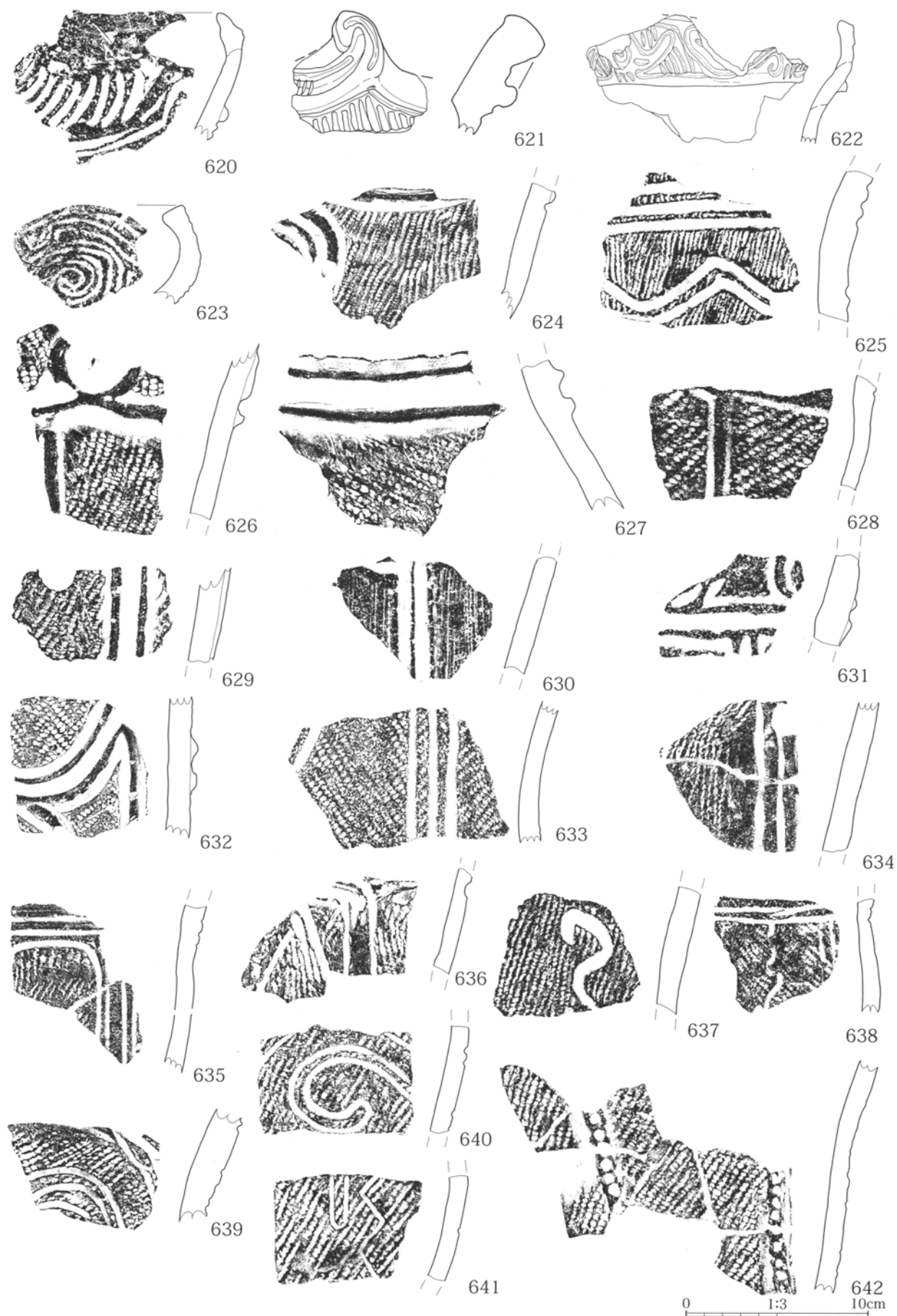
第 191 図 縄文時代遺構外出土遺物 II区(14)・2区(1)



第 192 図 縄文時代遺構外出土遺物 2区(2)



第 193 図 縄文時代遺構外出土遺物 2区(3)

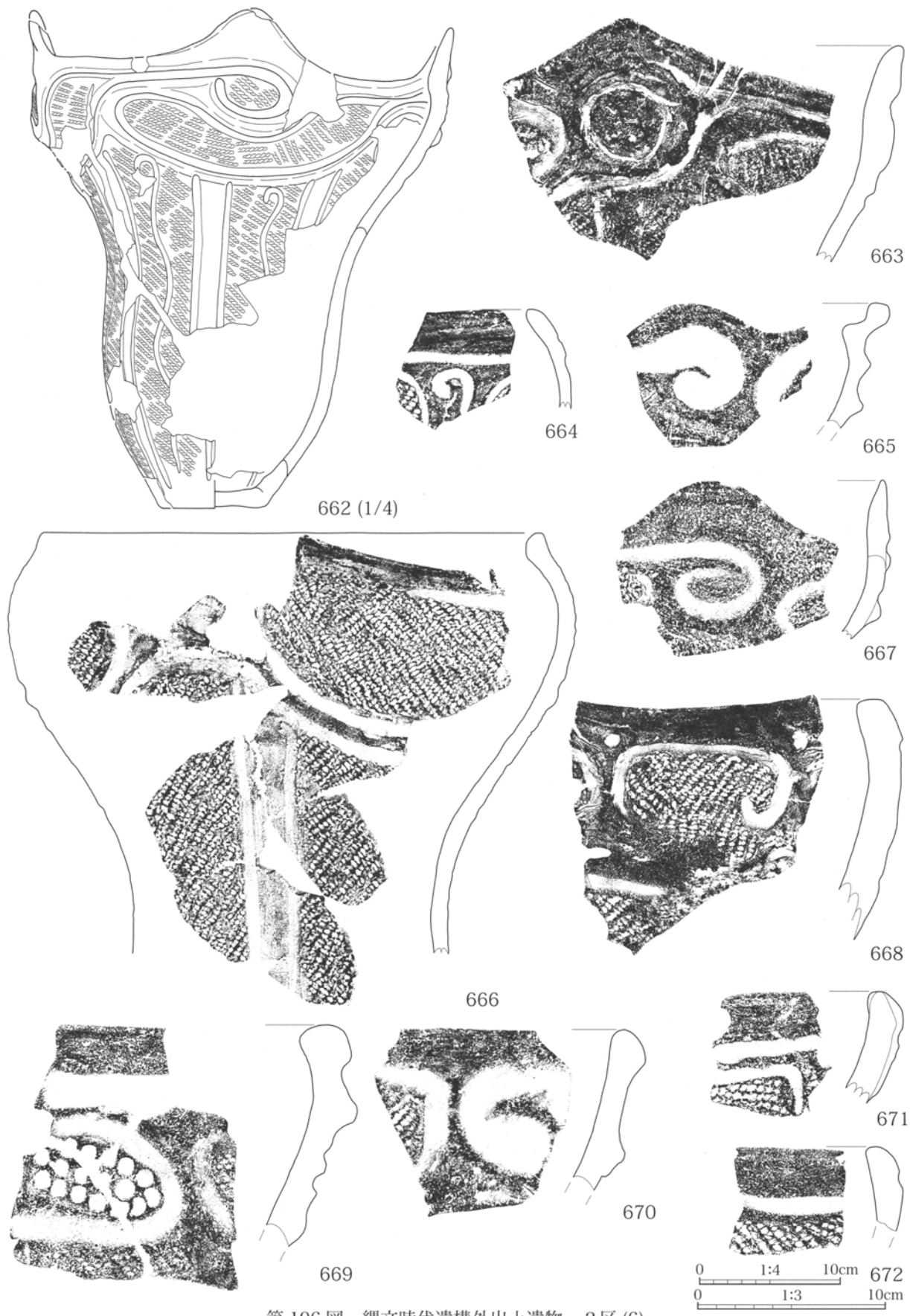


第 194 図 縄文時代遺構外出土遺物 2 区 (4)

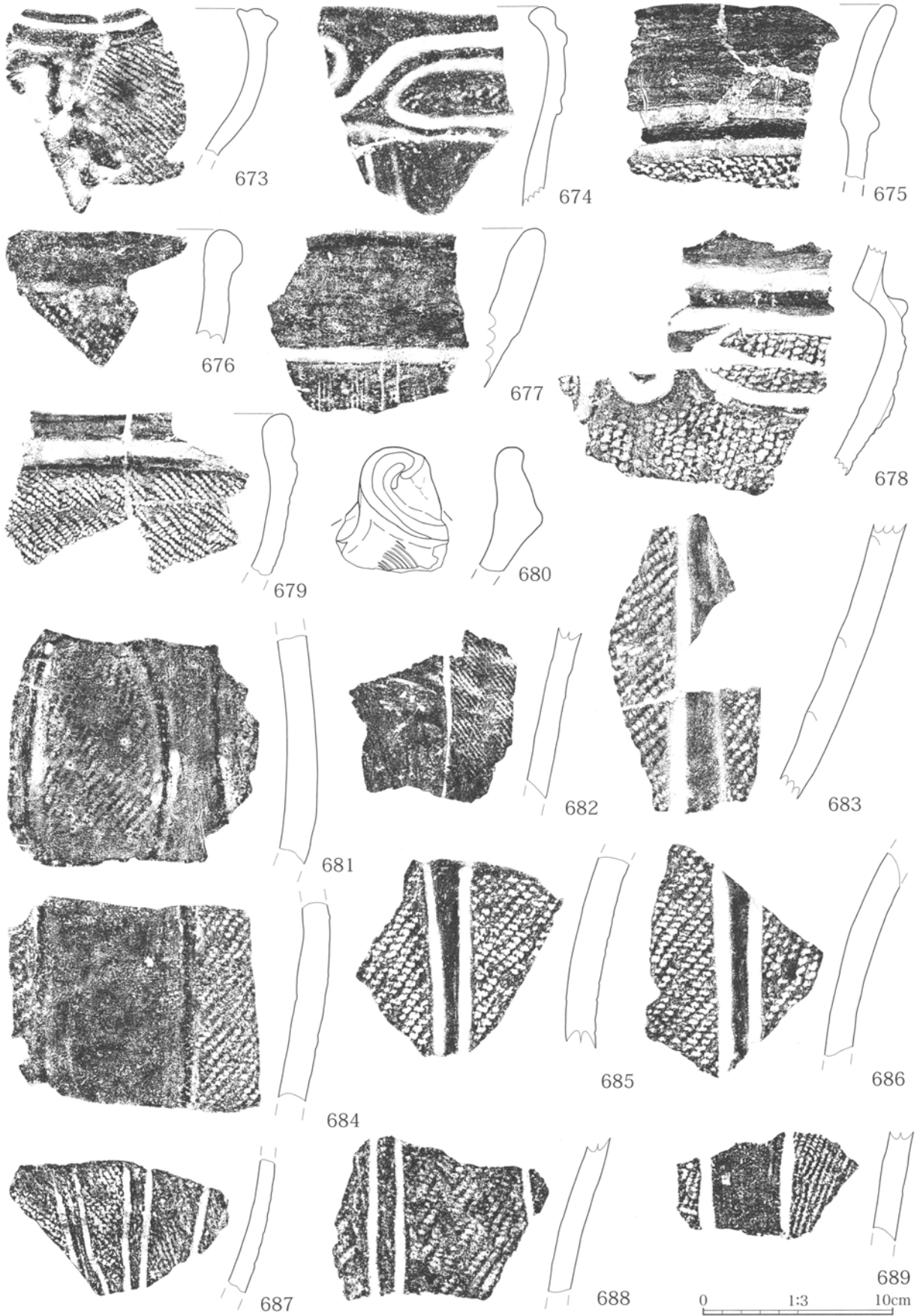


第 195 図 縄文時代遺構外出土遺物 2区 (5)

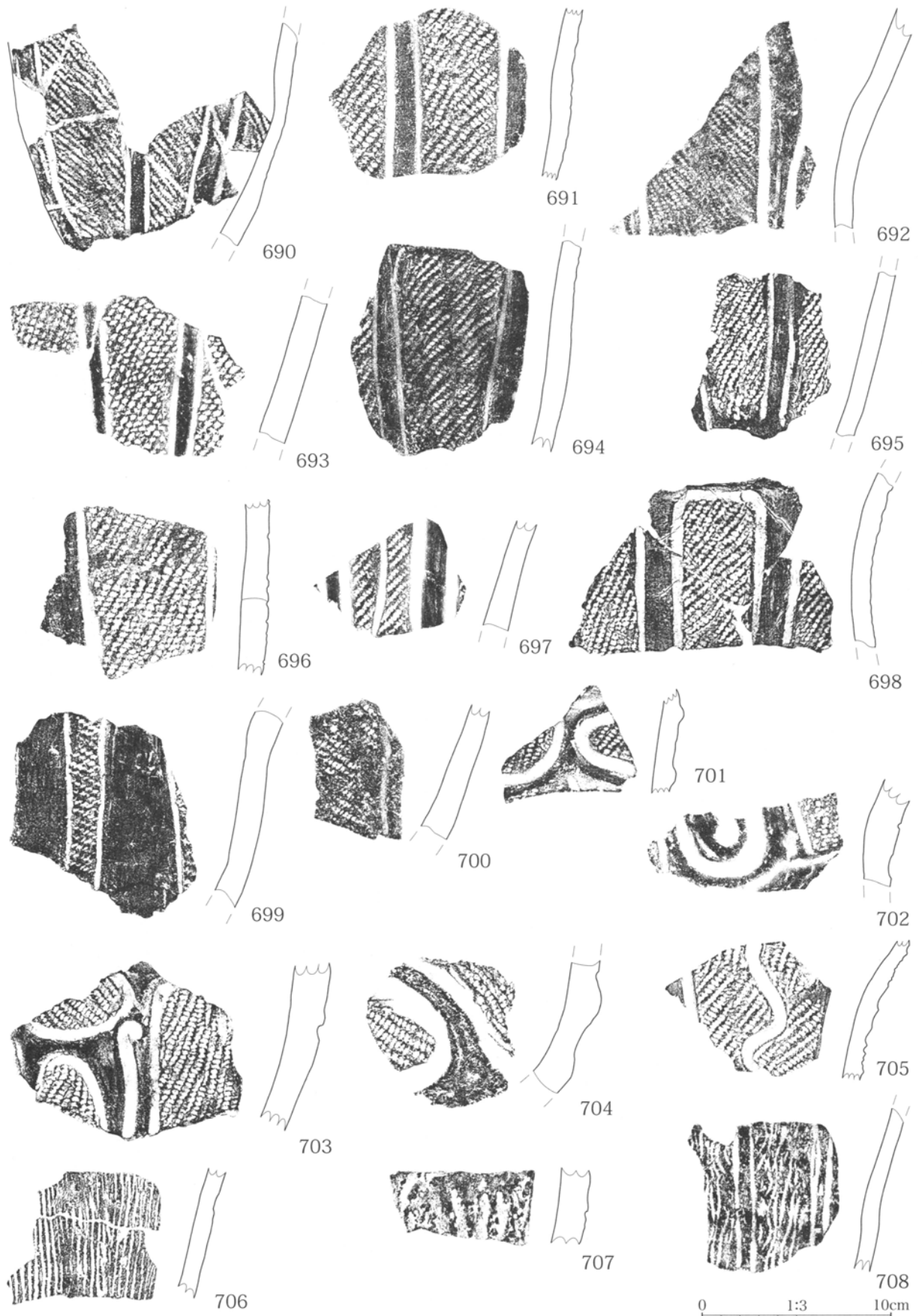
0 1:3 10cm



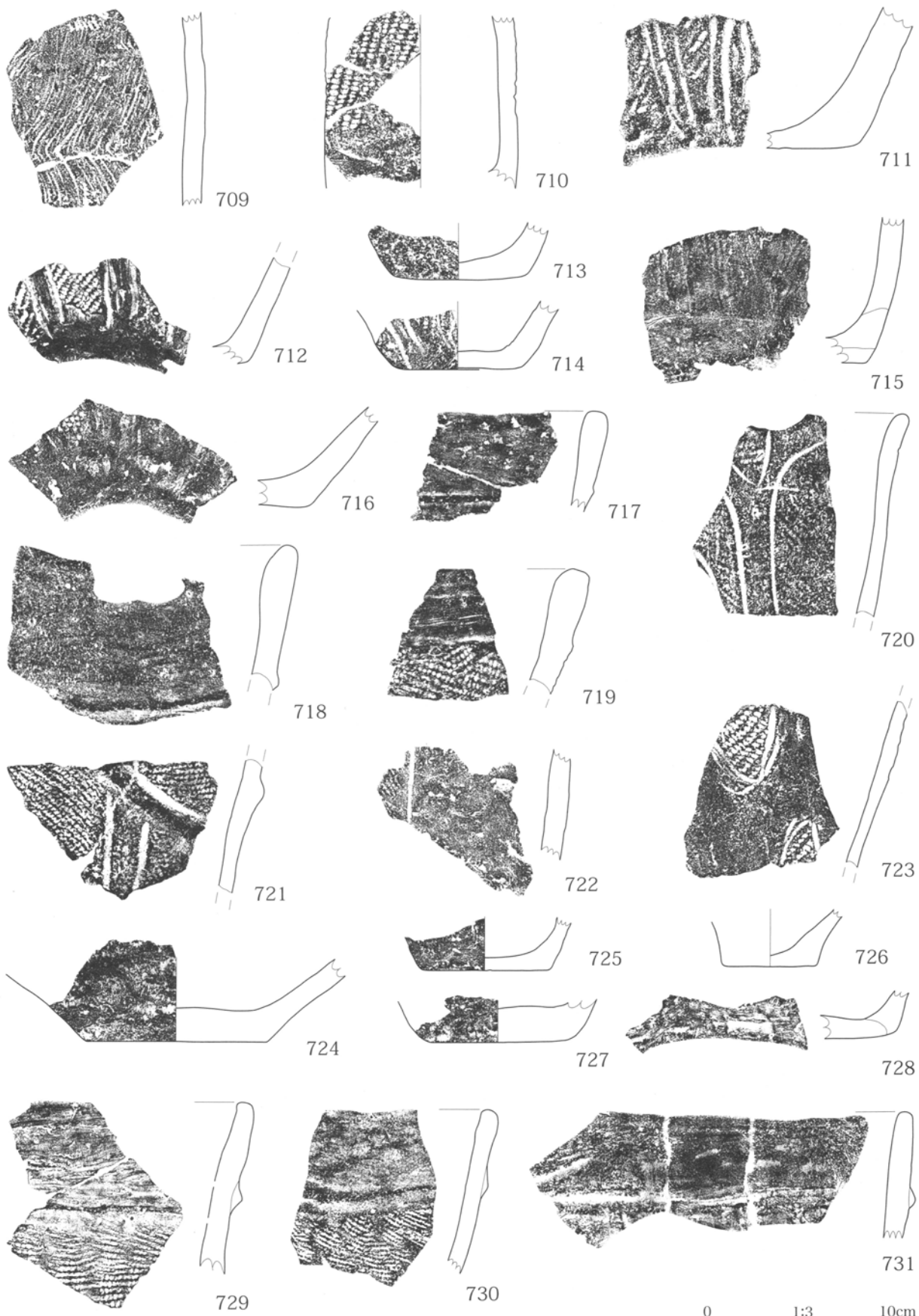
第 196 図 縄文時代遺構外出土遺物 2区(6)



第 197 図 縄文時代遺構外出土遺物 2区 (7)

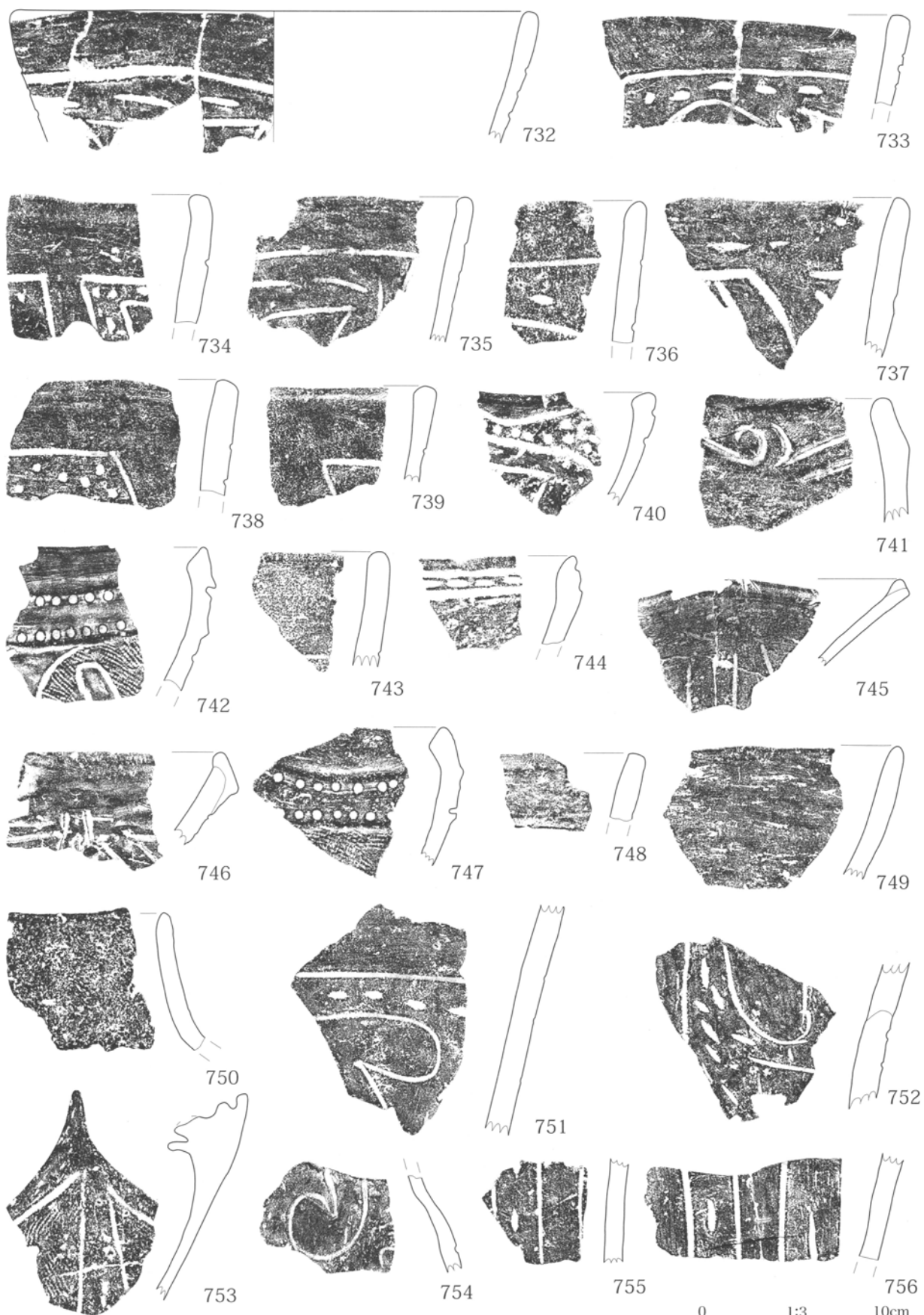


第 198 図 縄文時代遺構外出土遺物 2区 (8)

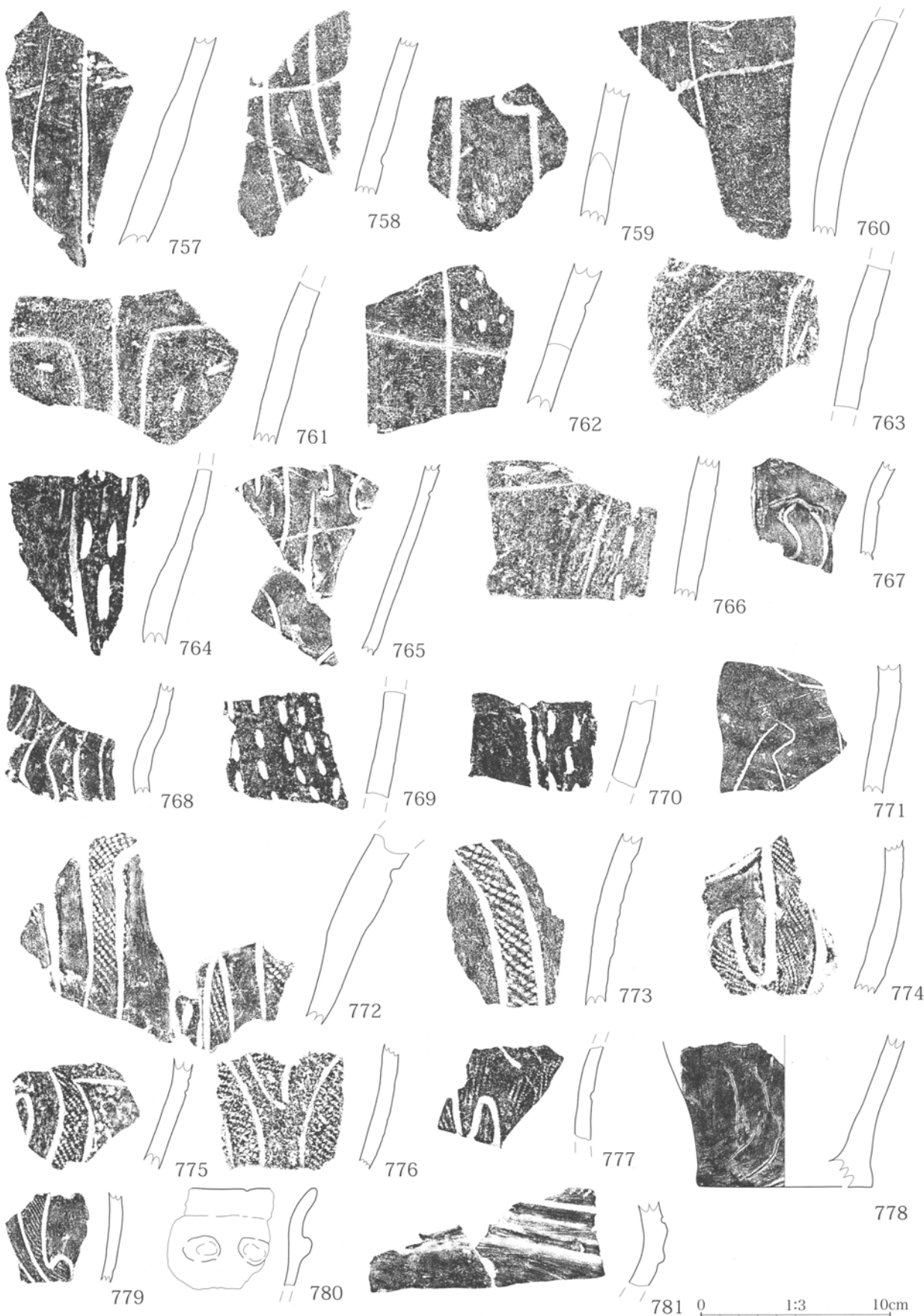


0 1:3 10cm

第 199 図 縄文時代遺構外出土遺物 2区 (9)

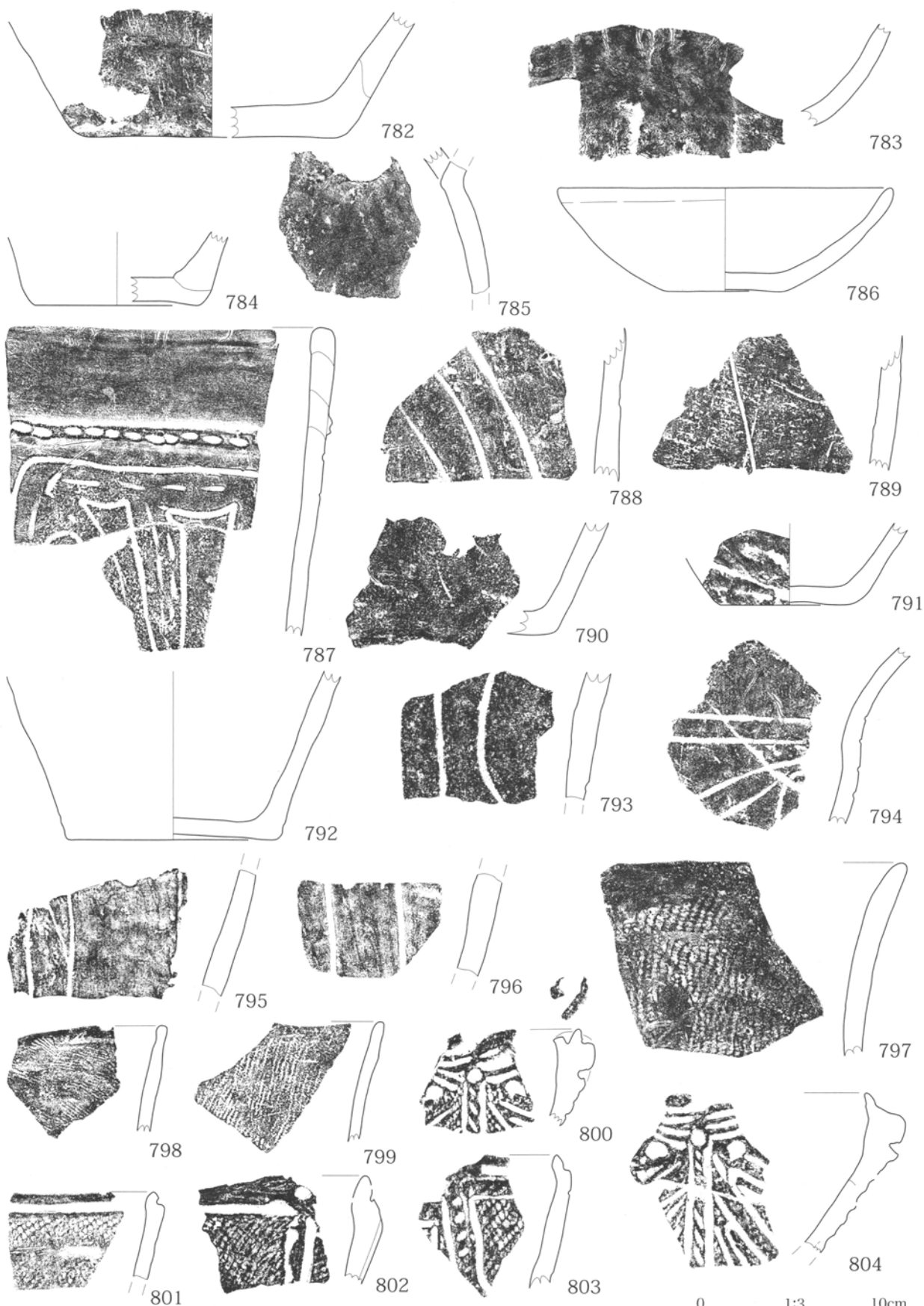


第 200 図 縄文時代遺構外出土遺物 2 区 (10)

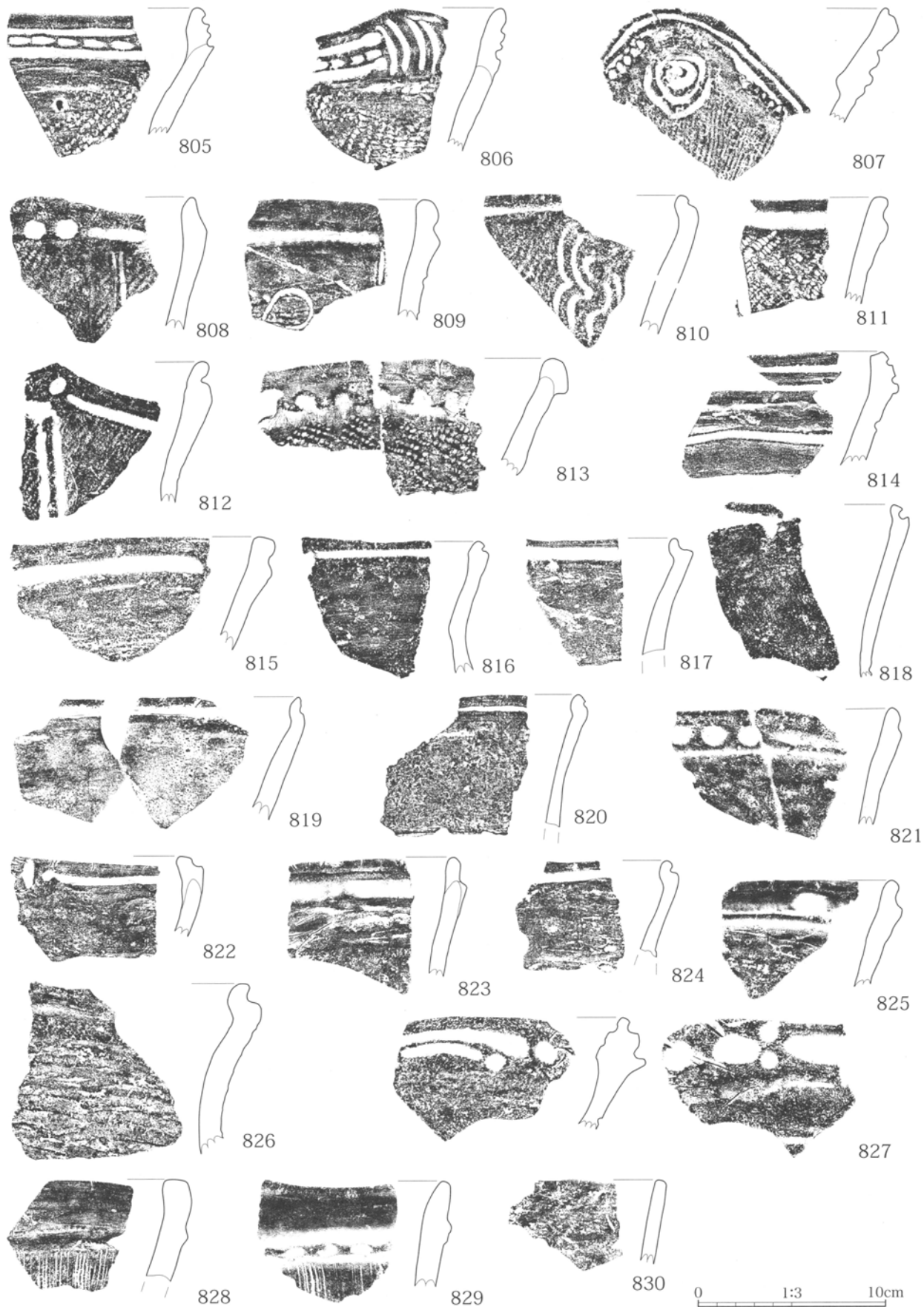


第 201 図 縄文時代遺構外出土遺物 2区 (11)

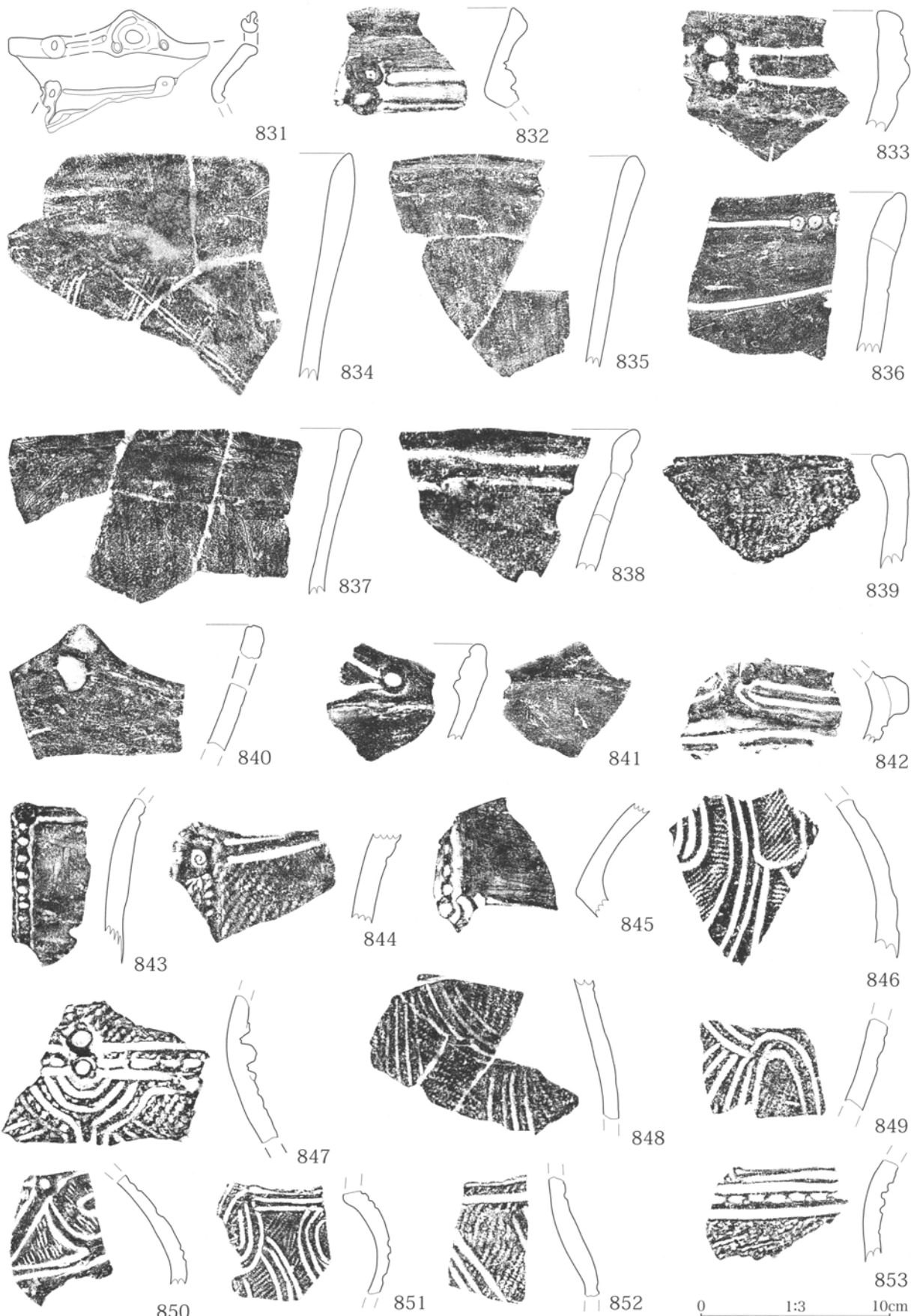
0 1:3 10cm



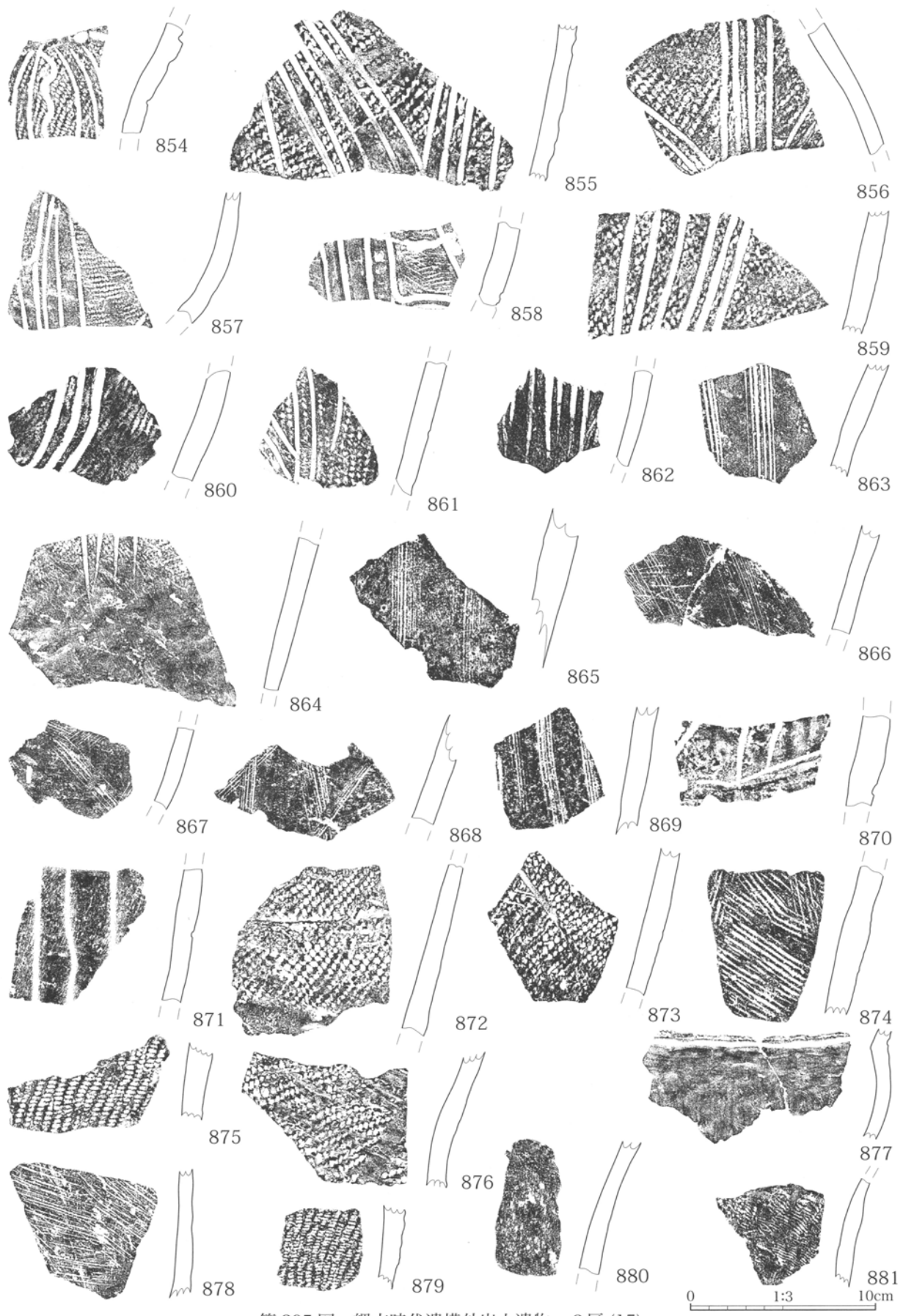
第 202 図 縄文時代遺構外出土遺物 2区 (12)



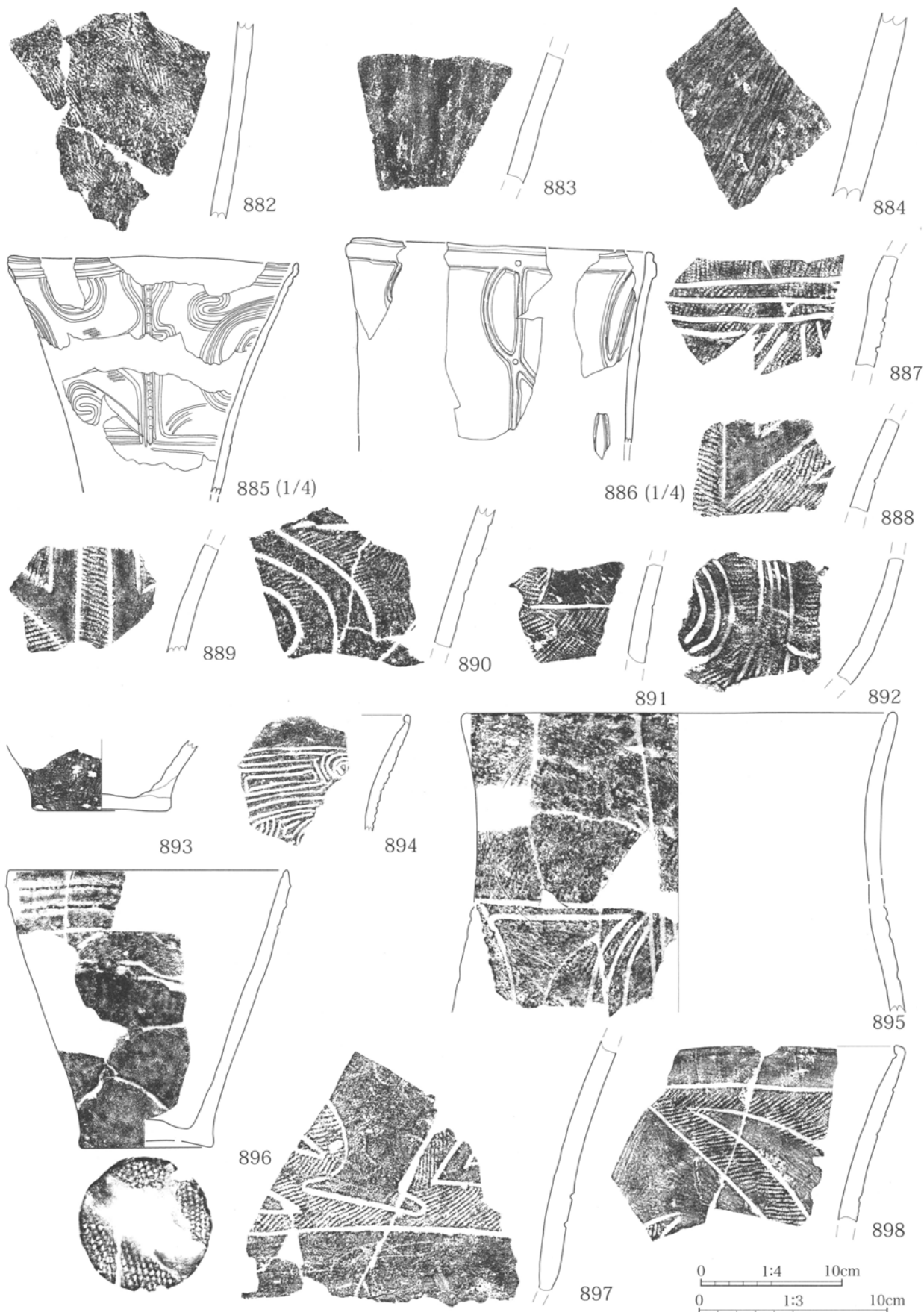
第203図 縄文時代遺構外出土遺物 2区(13)



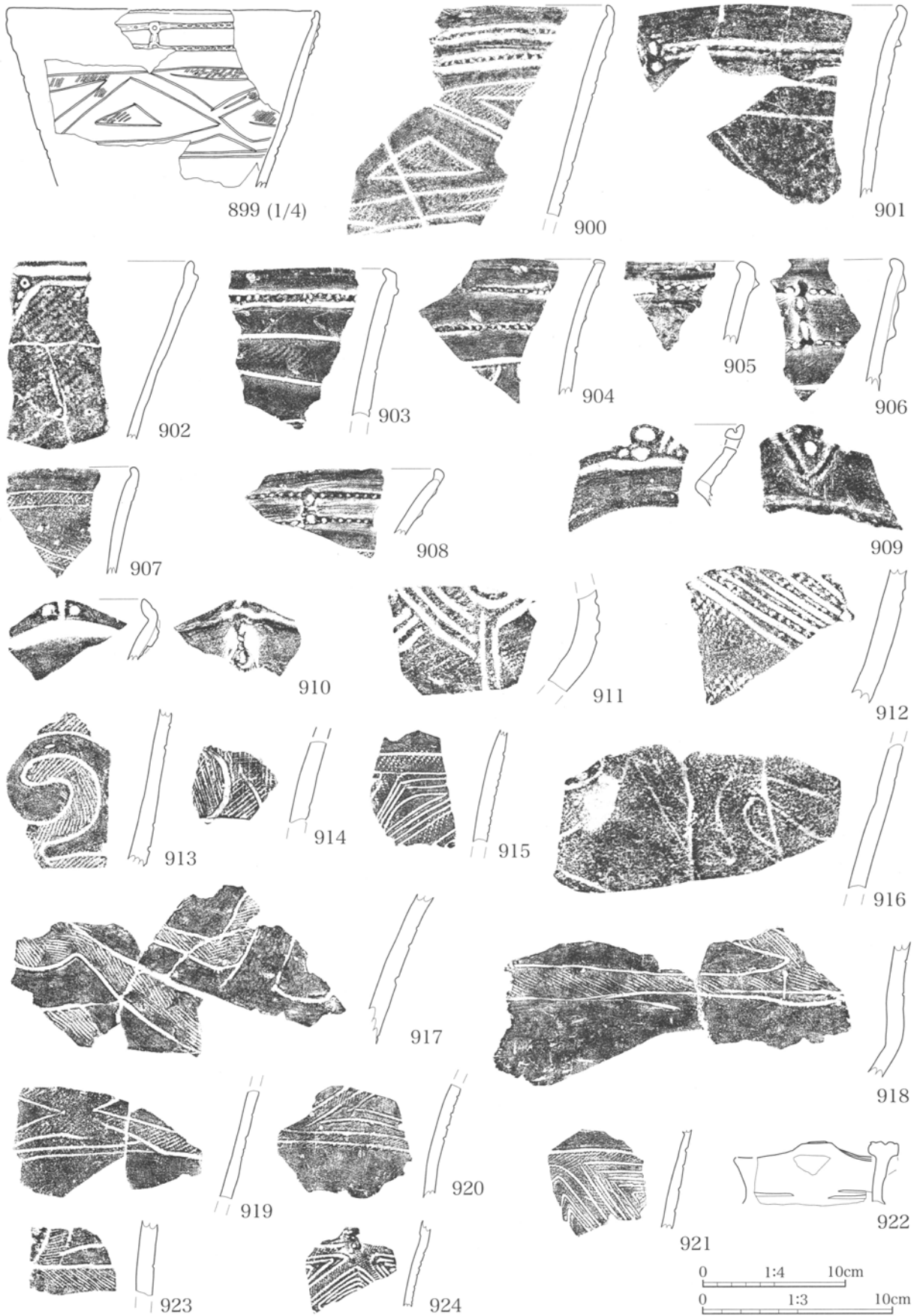
第 204 図 縄文時代遺構外出土遺物 2 区 (14)



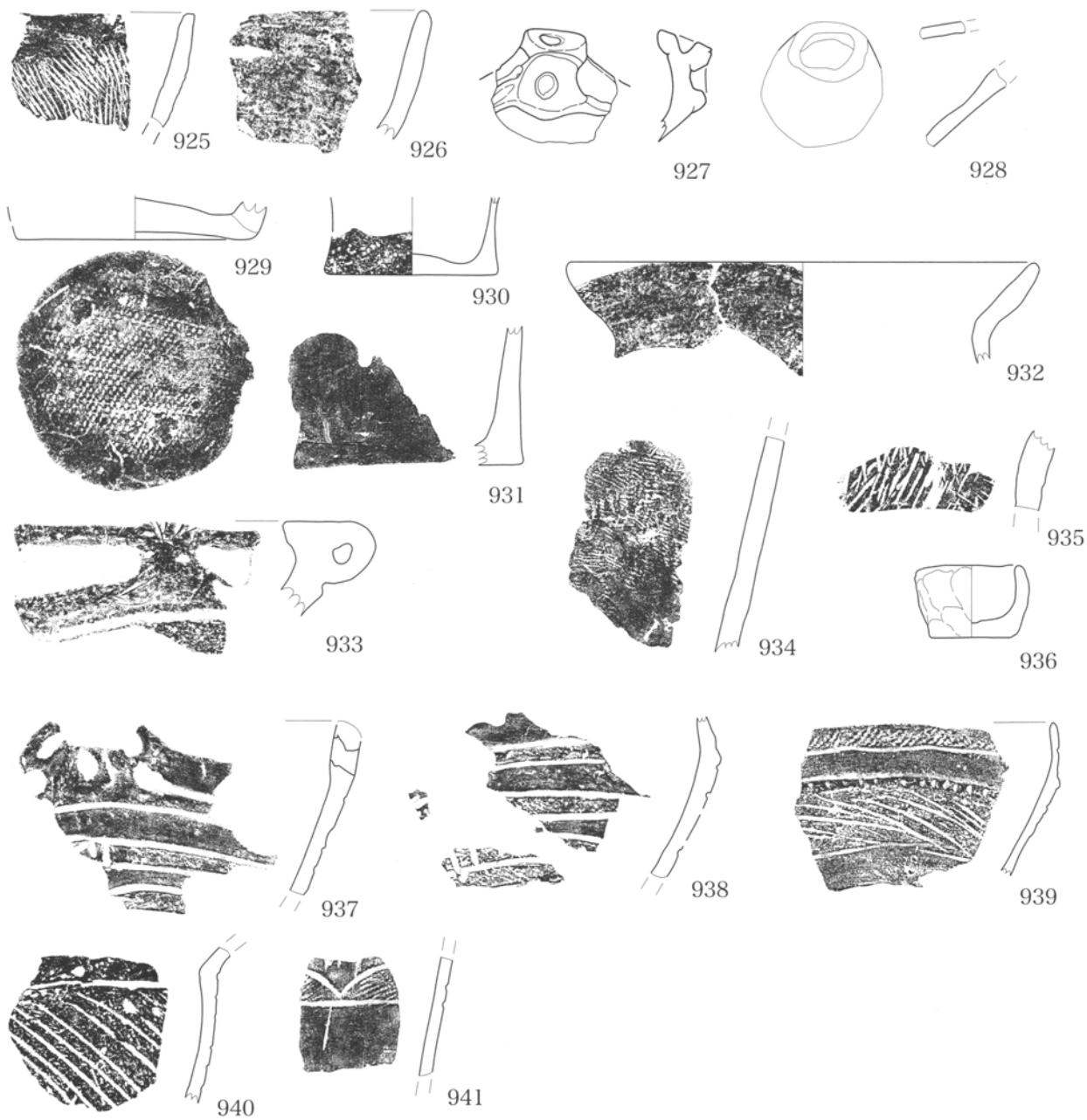
第 205 図 縄文時代遺構外出土遺物 2 区 (15)



第 206 図 縄文時代遺構外出土遺物 2 区 (16)

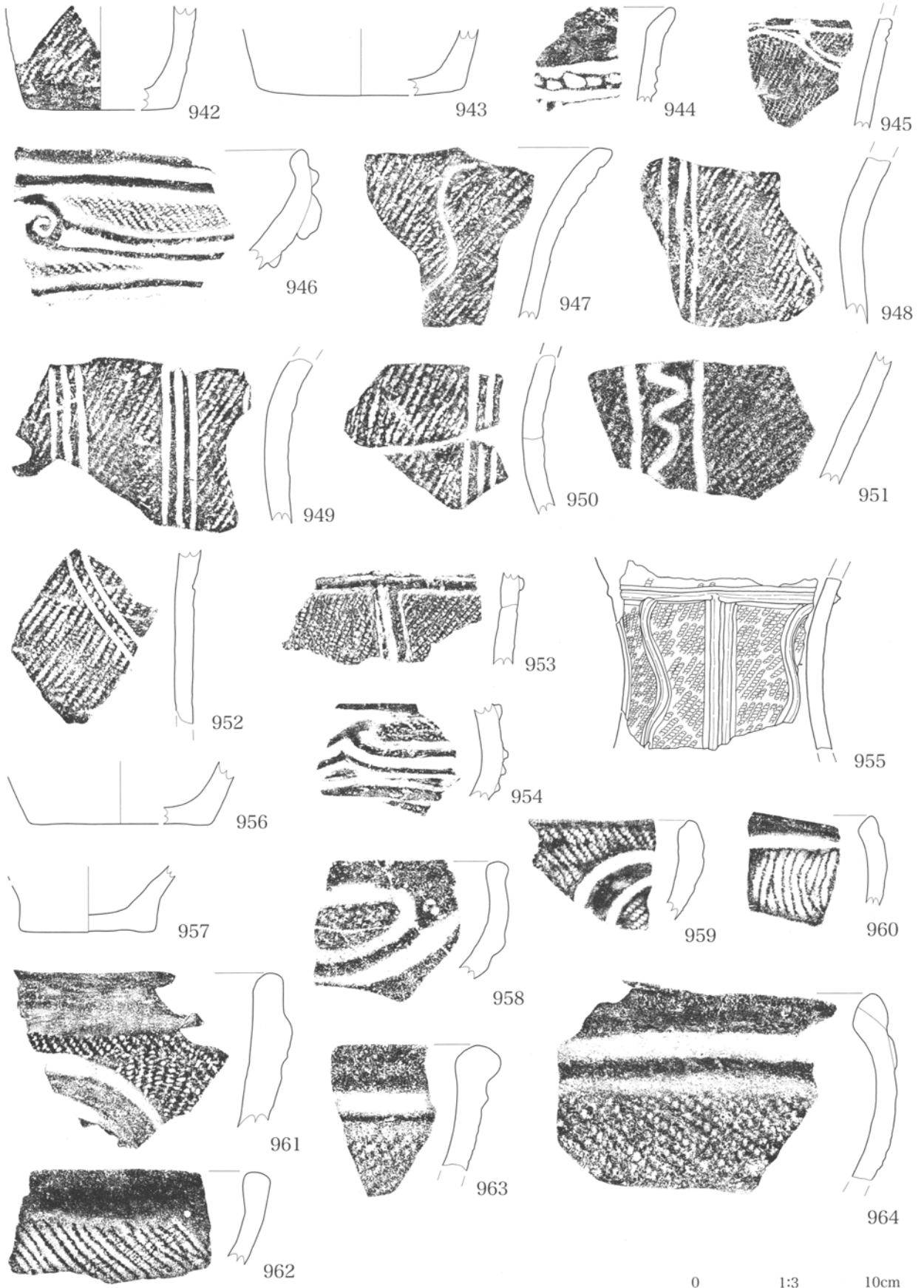


第 207 図 縄文時代遺構外出土遺物 2 区 (17)

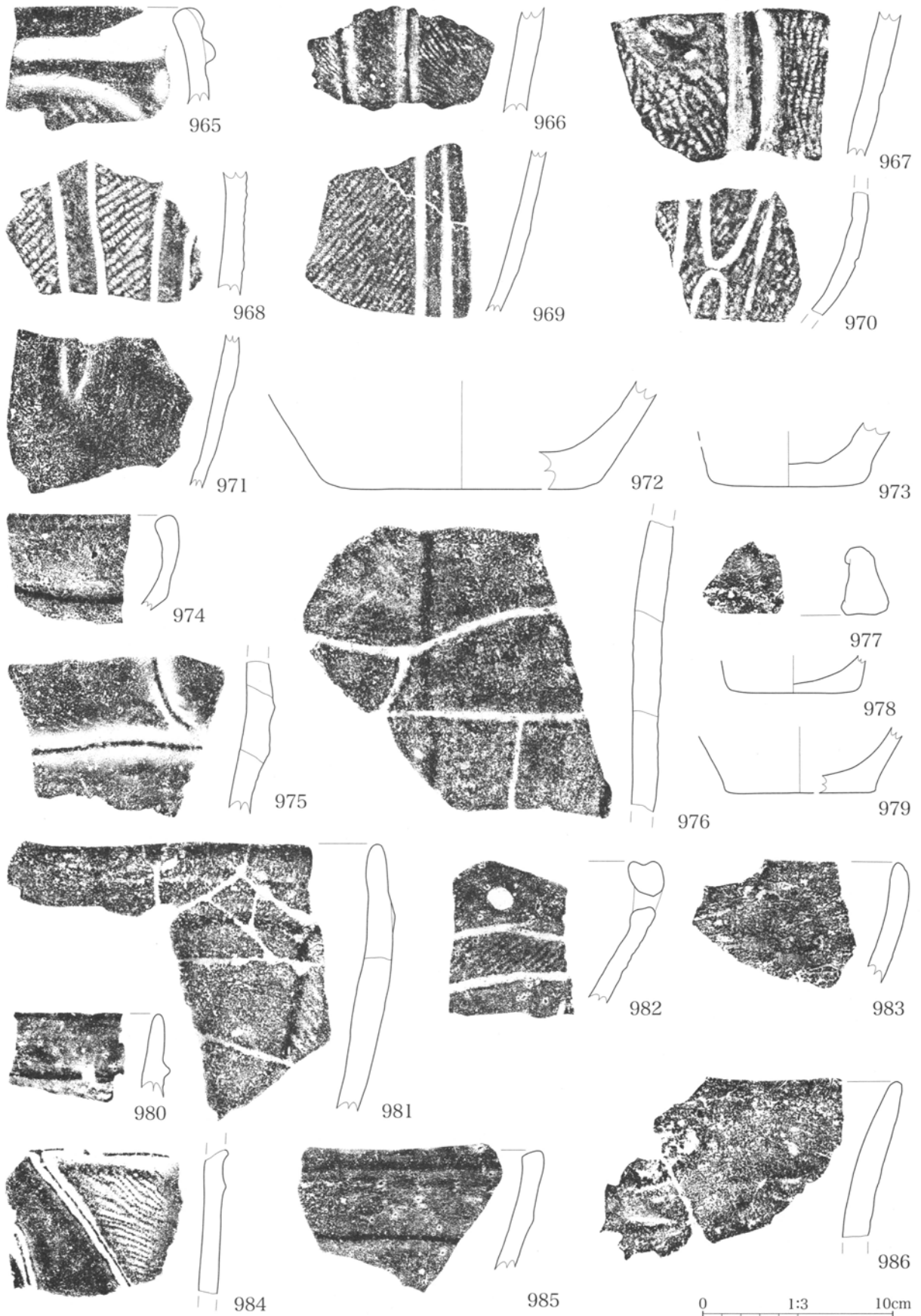


第 208 図 縄文時代遺構外出土遺物 2区 (18)

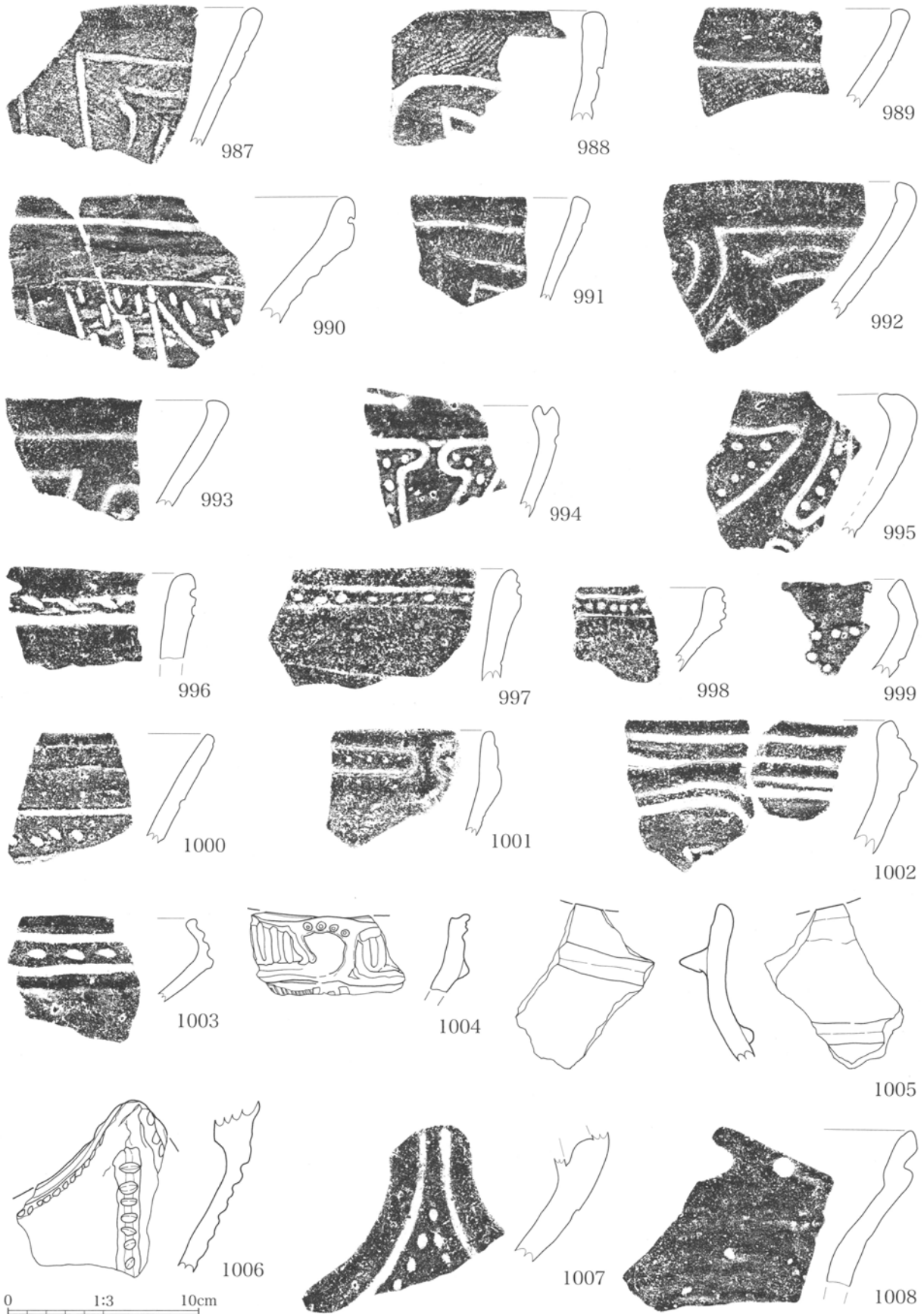
0 1:3 10cm



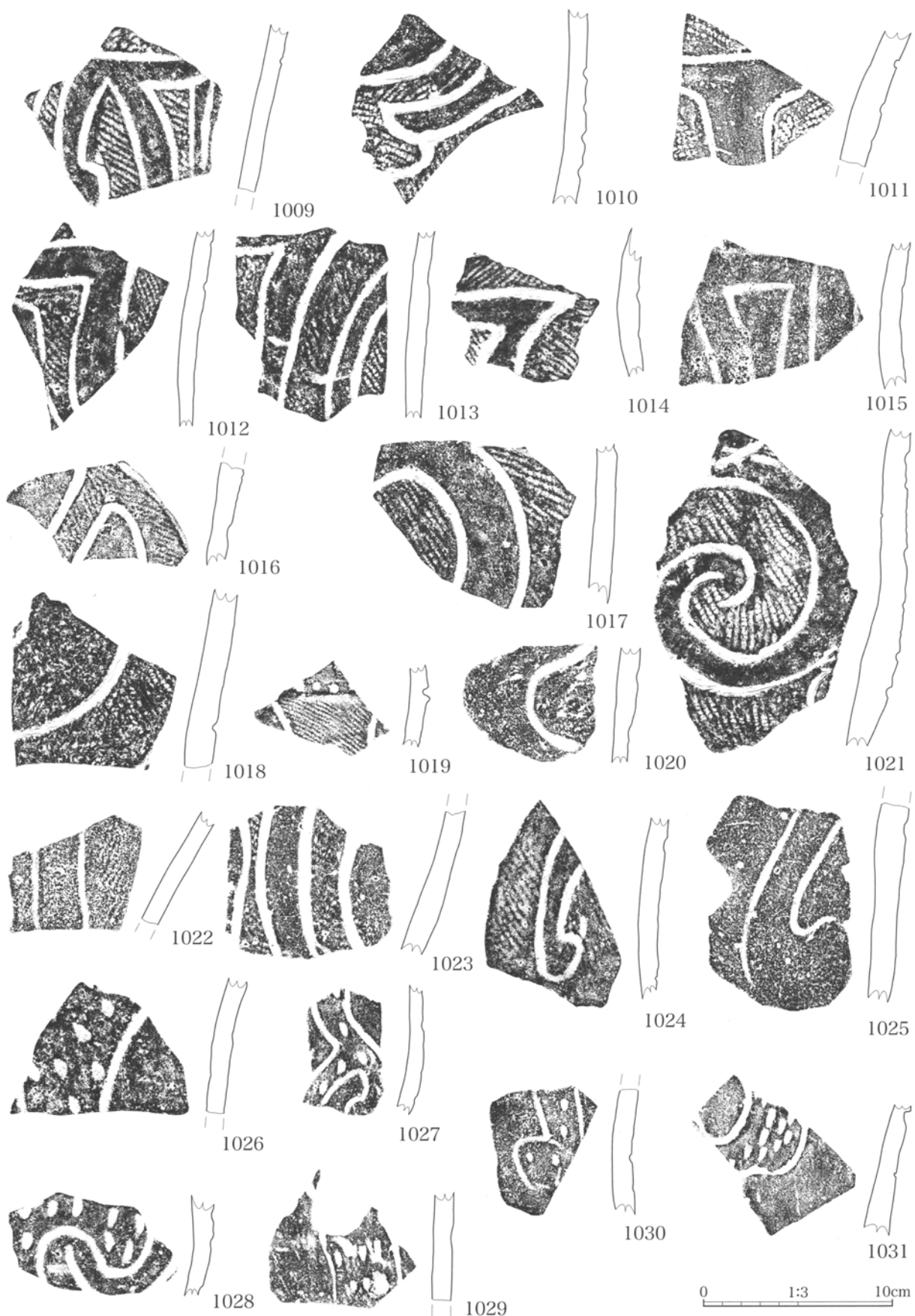
第 209 図 縄文時代遺構外出土遺物 III区 (1)



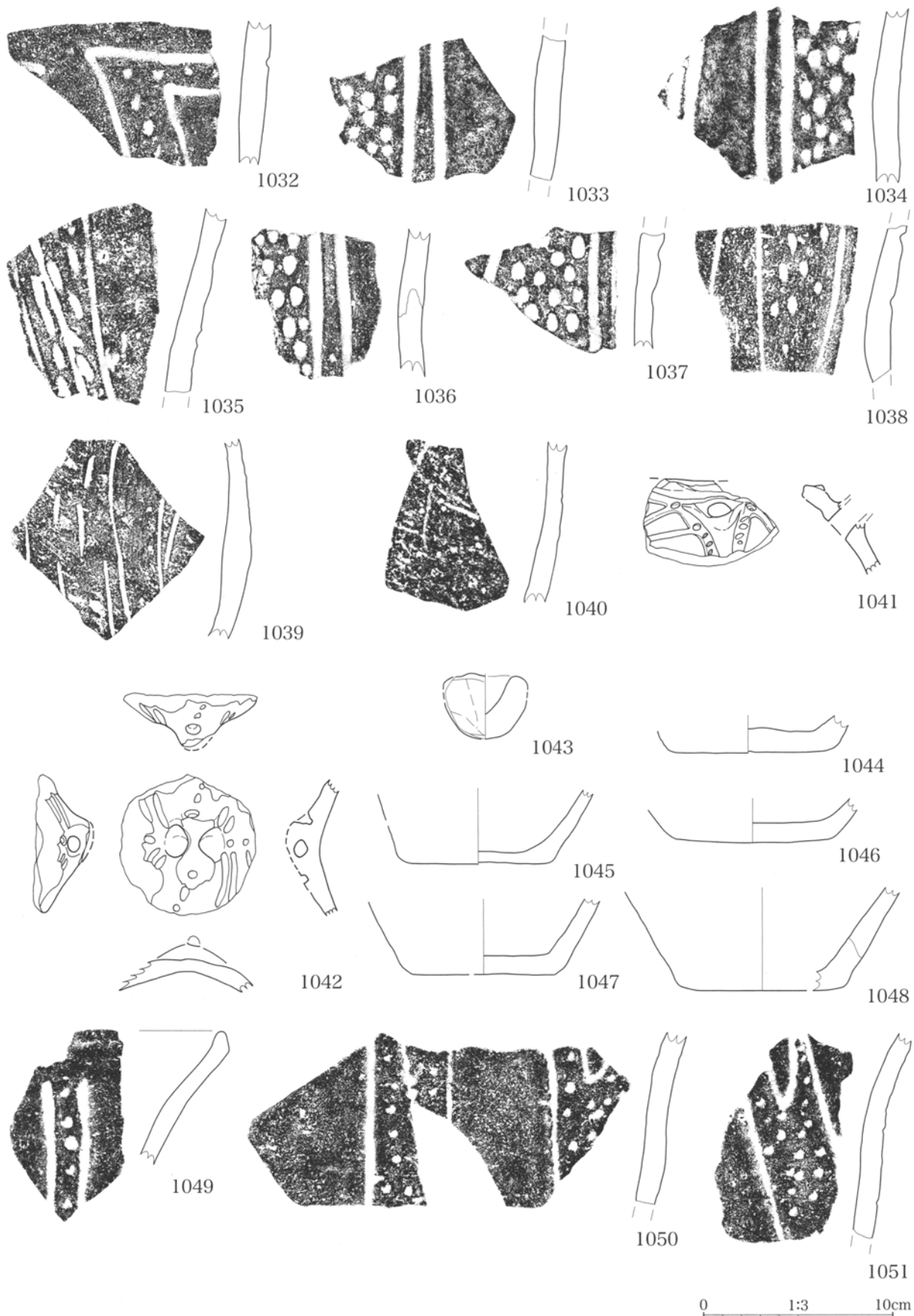
第 210 図 縄文時代遺構外出土遺物 III区 (2)



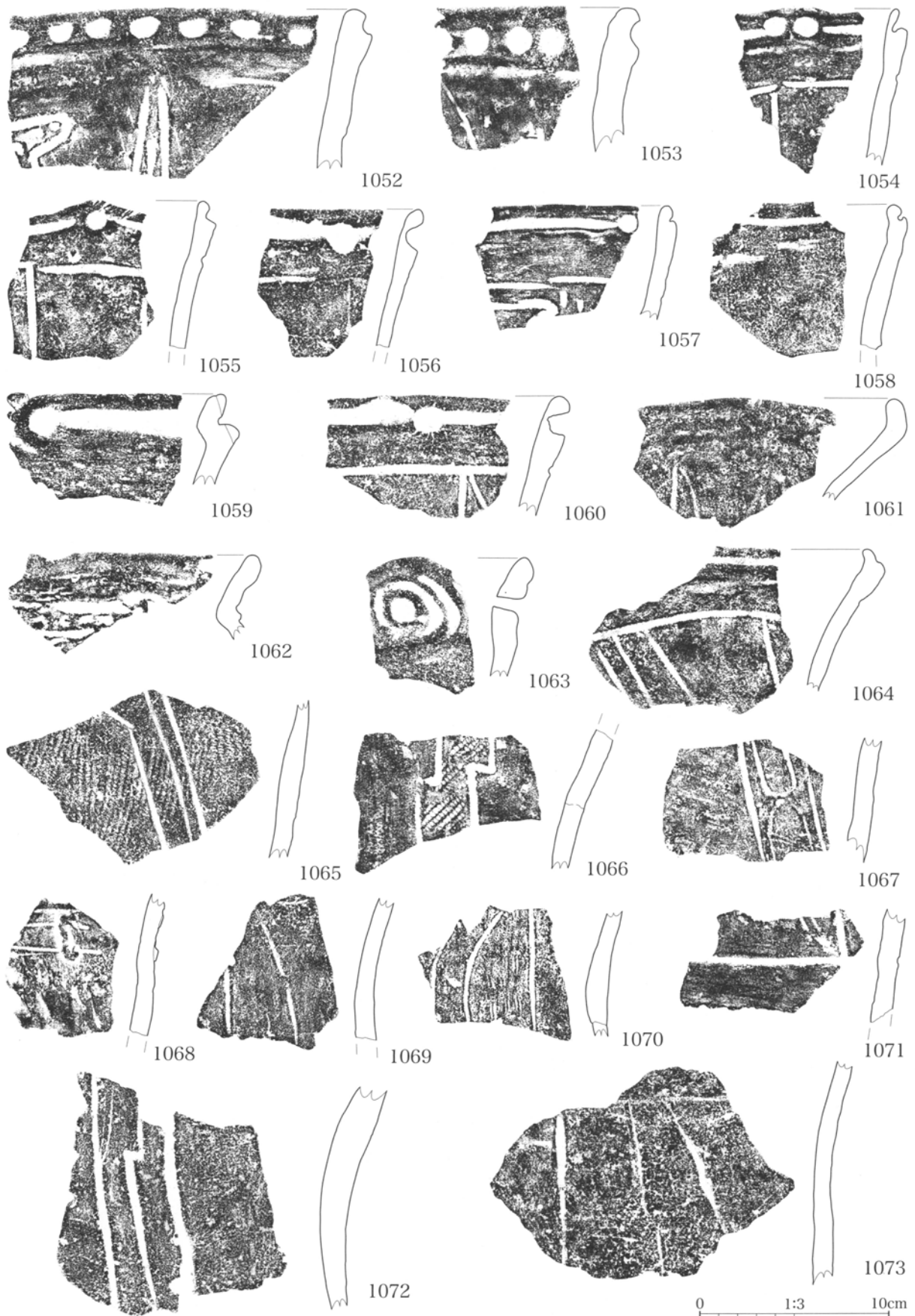
第211図 縄文時代遺構外出土遺物 III区(3)



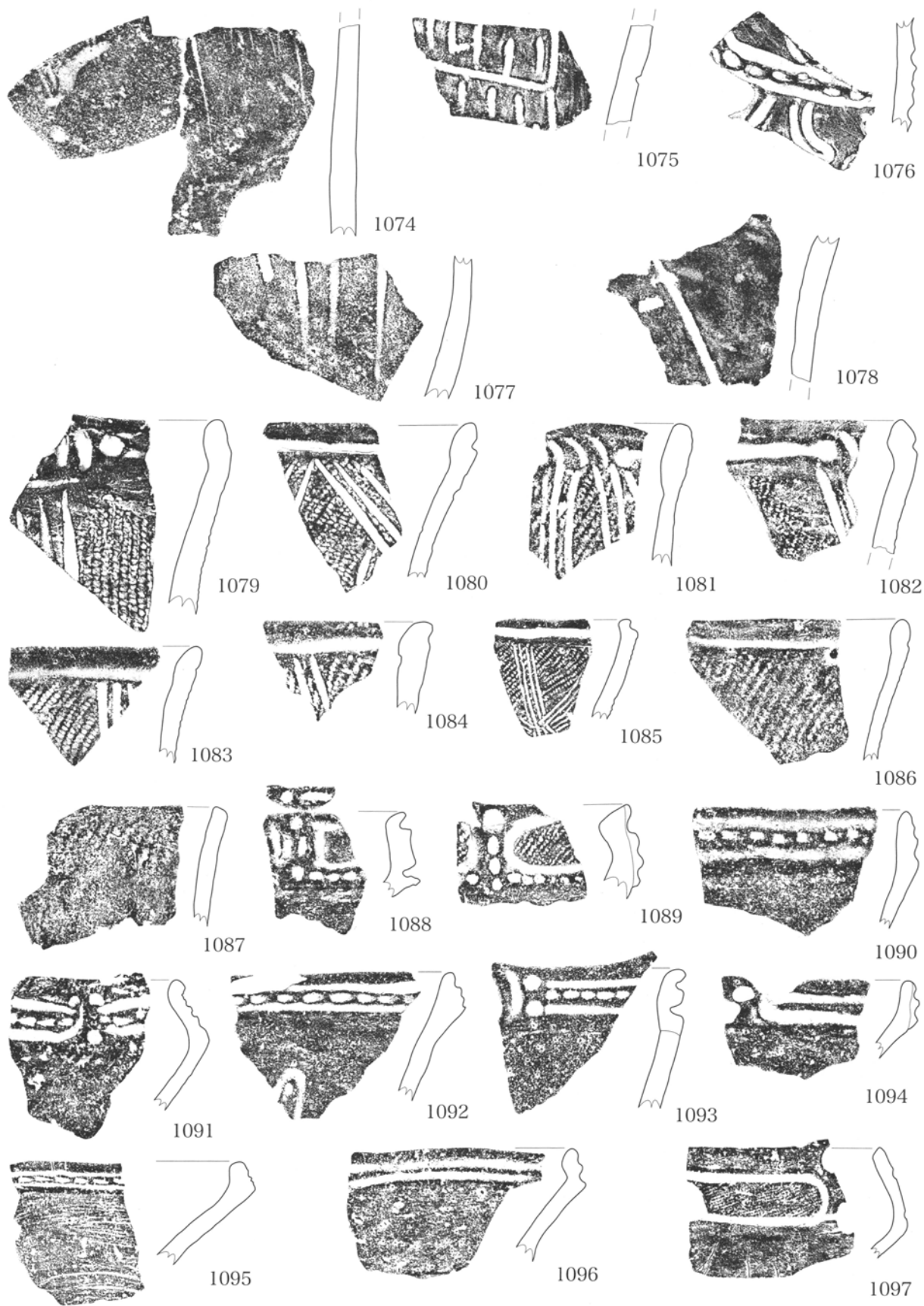
第 212 図 縄文時代遺構外出土遺物 III区 (4)



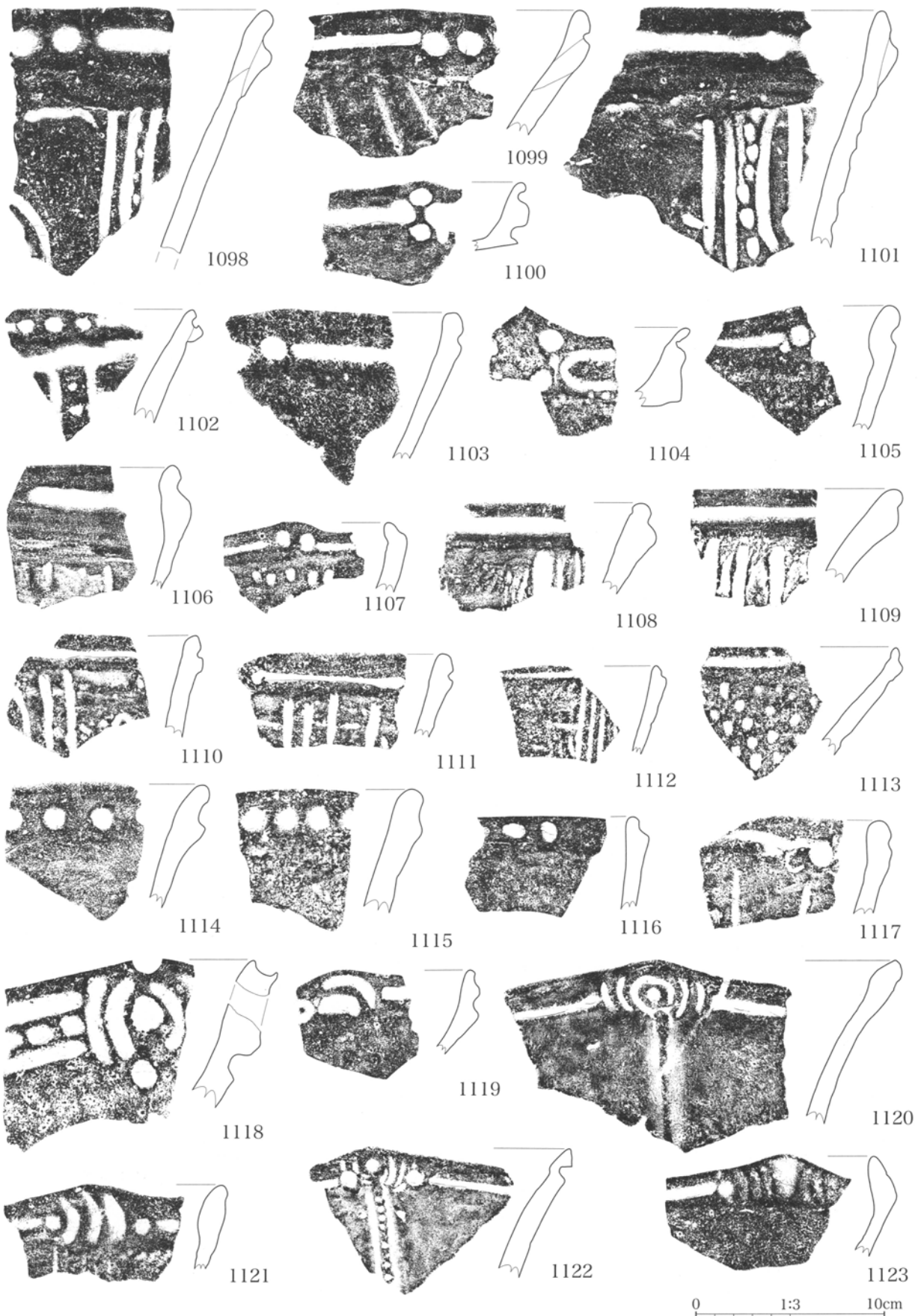
第213図 縄文時代遺構外出土遺物 III区 (5)



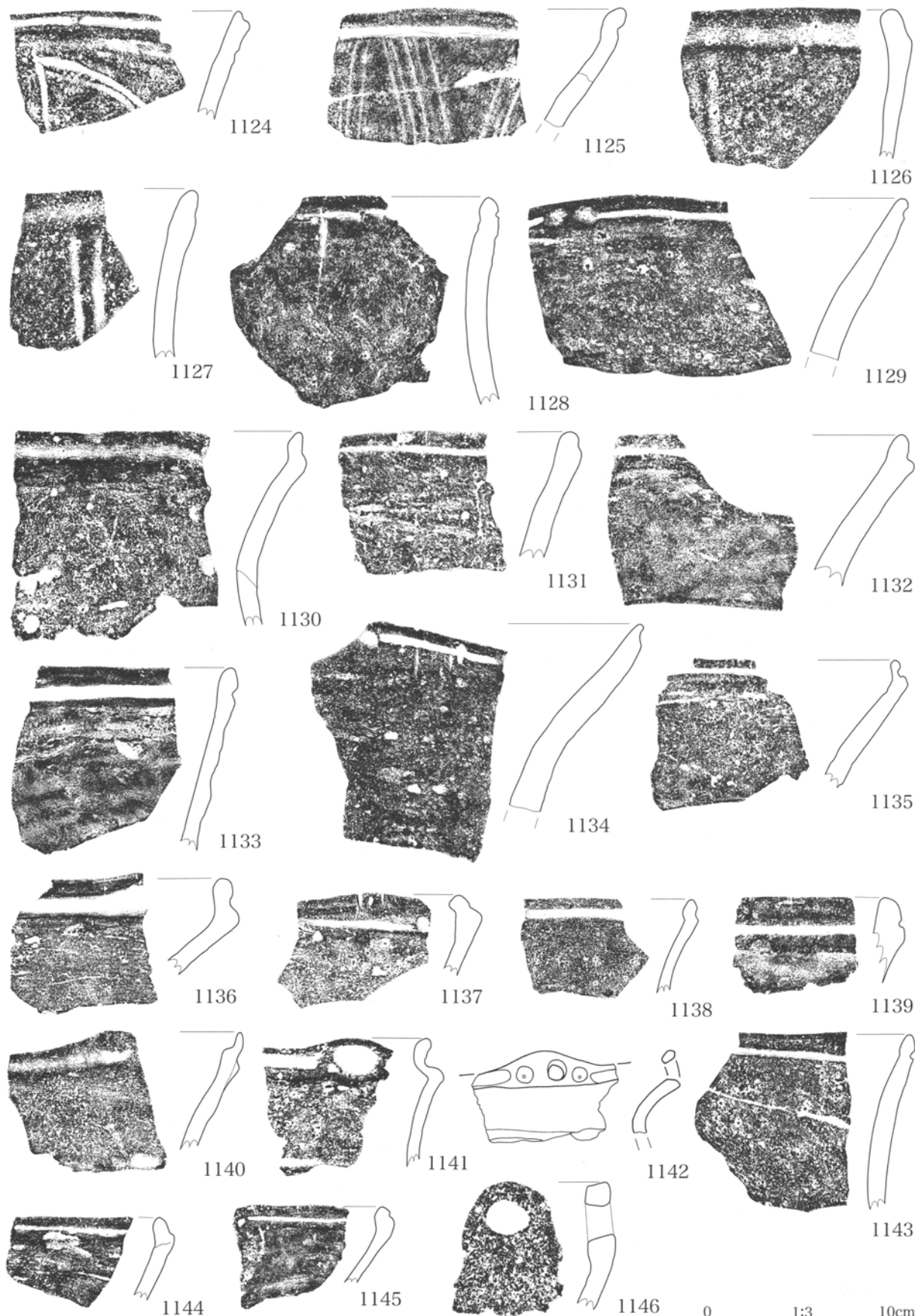
第 214 図 縄文時代遺構外出土遺物 III区 (6)



第 215 図 縄文時代遺構外出土遺物 III区 (7)



第 216 図 縄文時代遺構外出土遺物 Ⅲ区 (8)

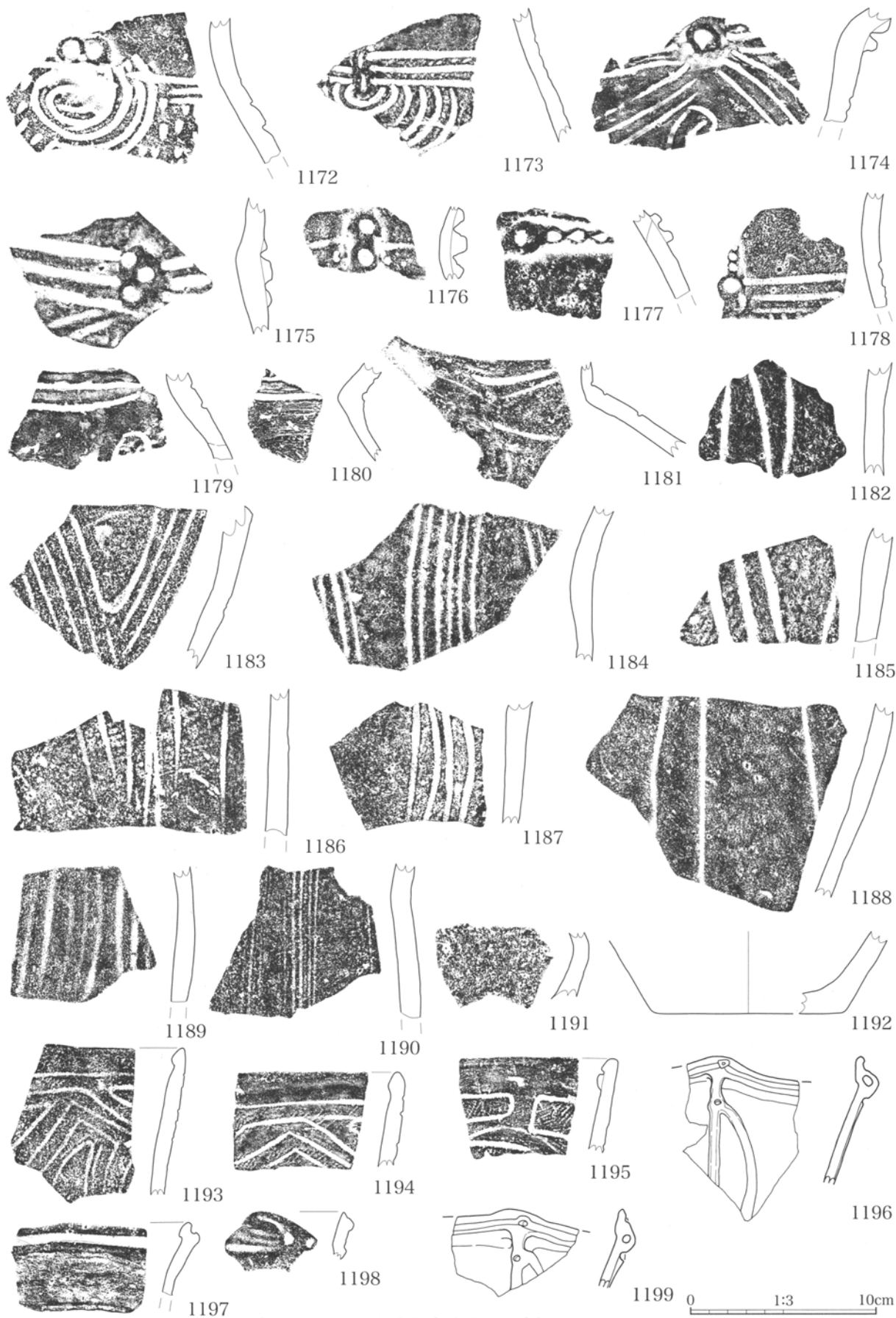


第 217 図 縄文時代遺構外出土遺物 III区 (9)

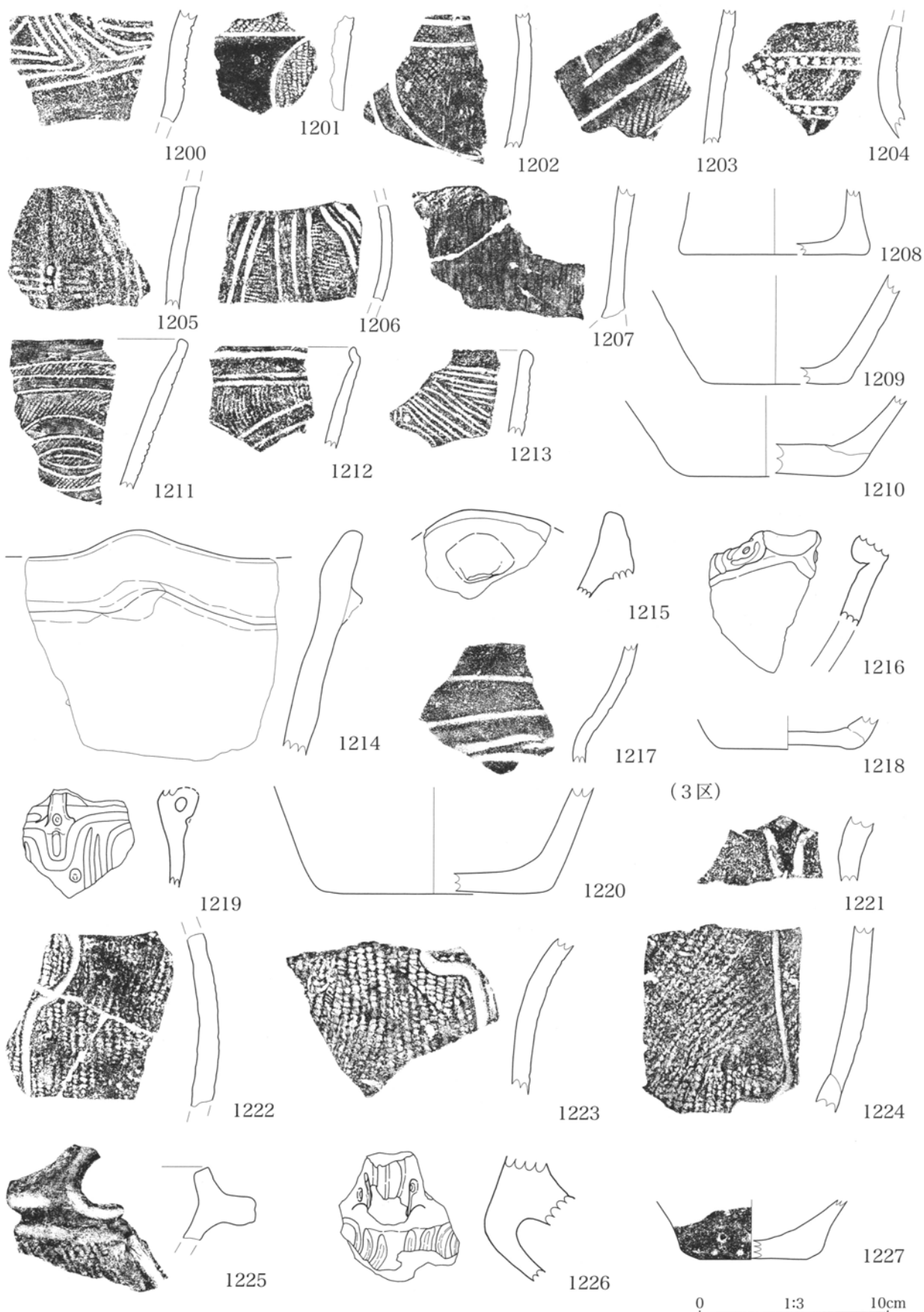


0 1:3 10cm

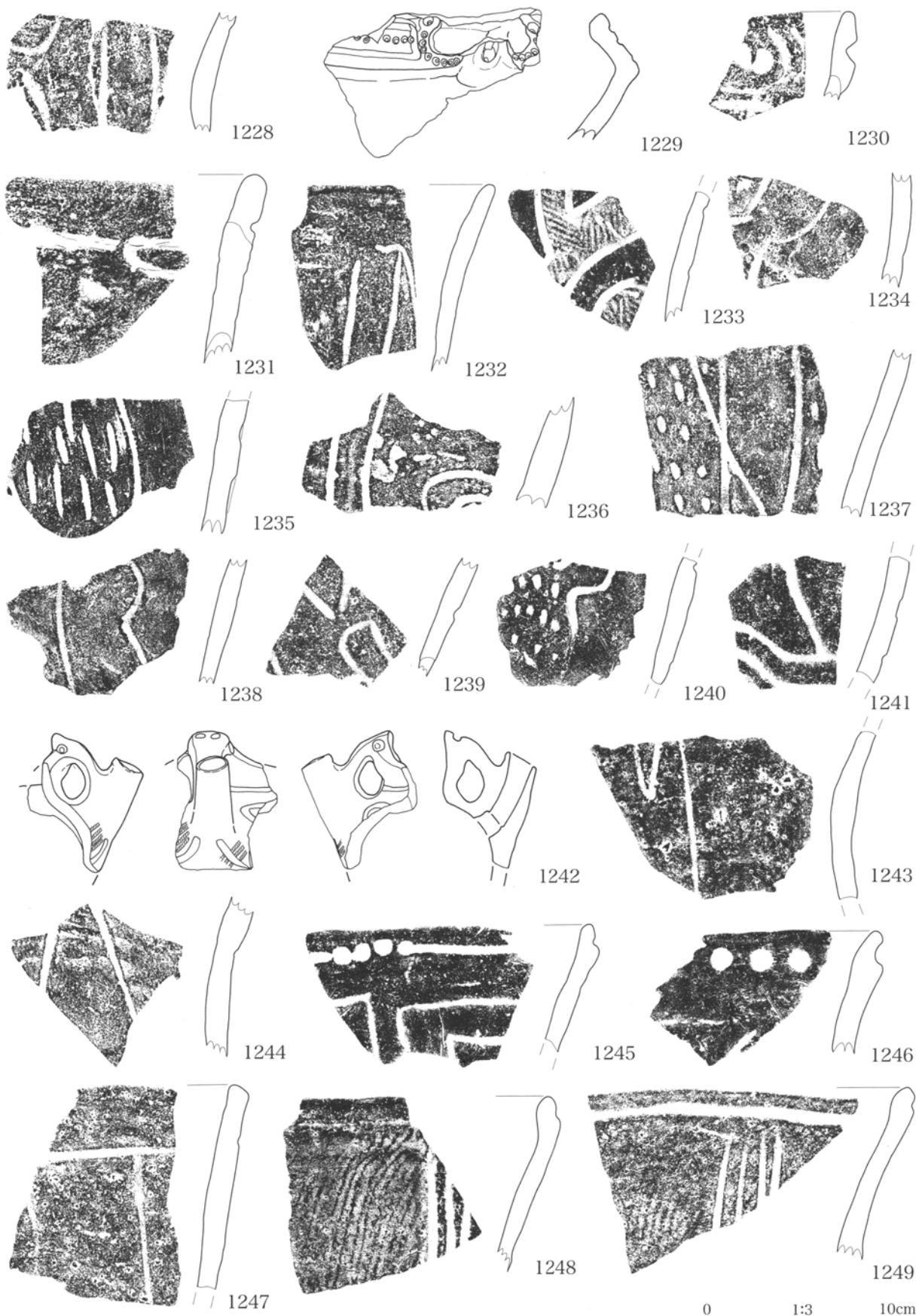
第 218 図 縄文時代遺構外出土遺物 III区 (10)



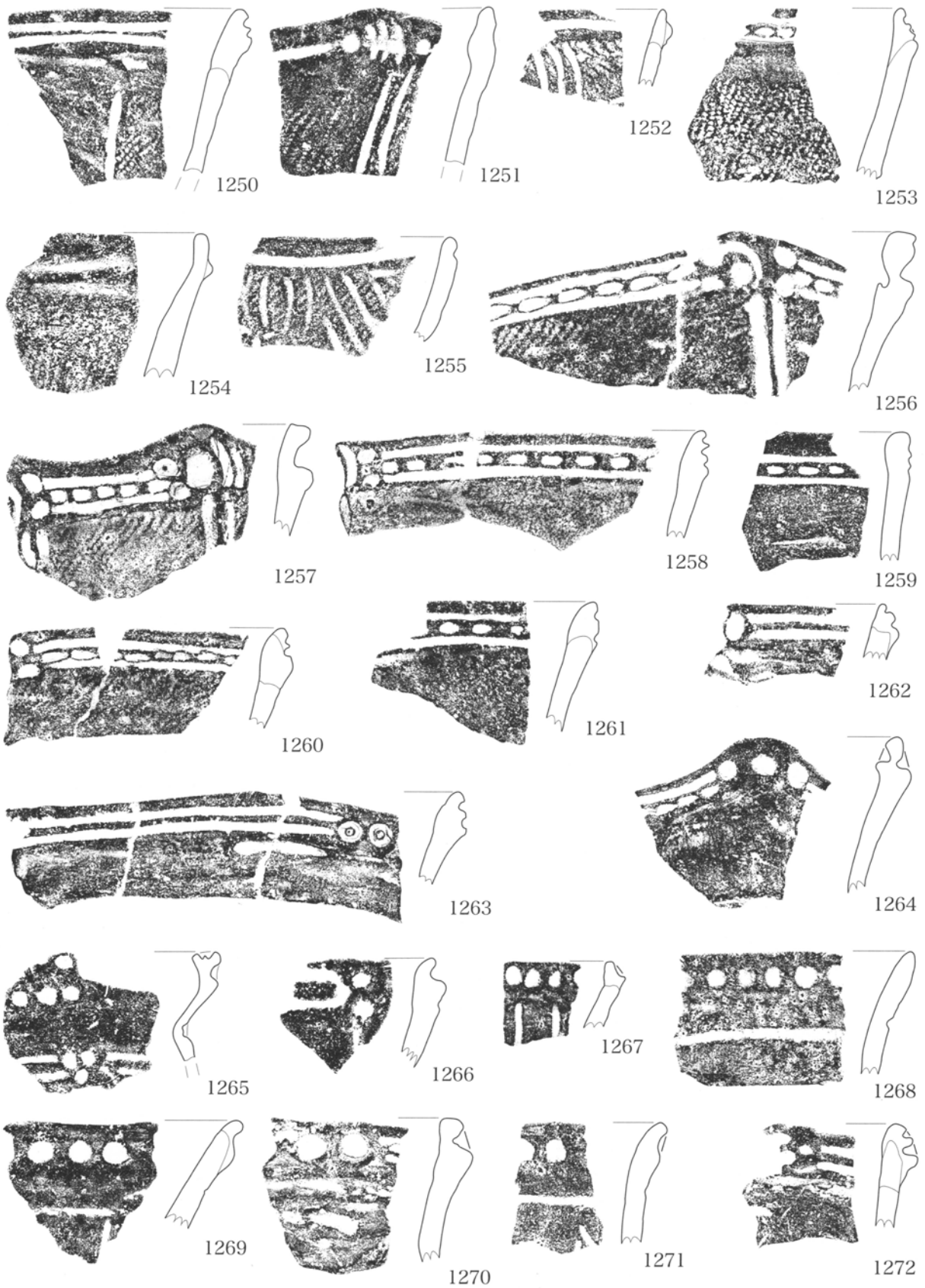
第219図 縄文時代遺構外出土遺物 III区(11)



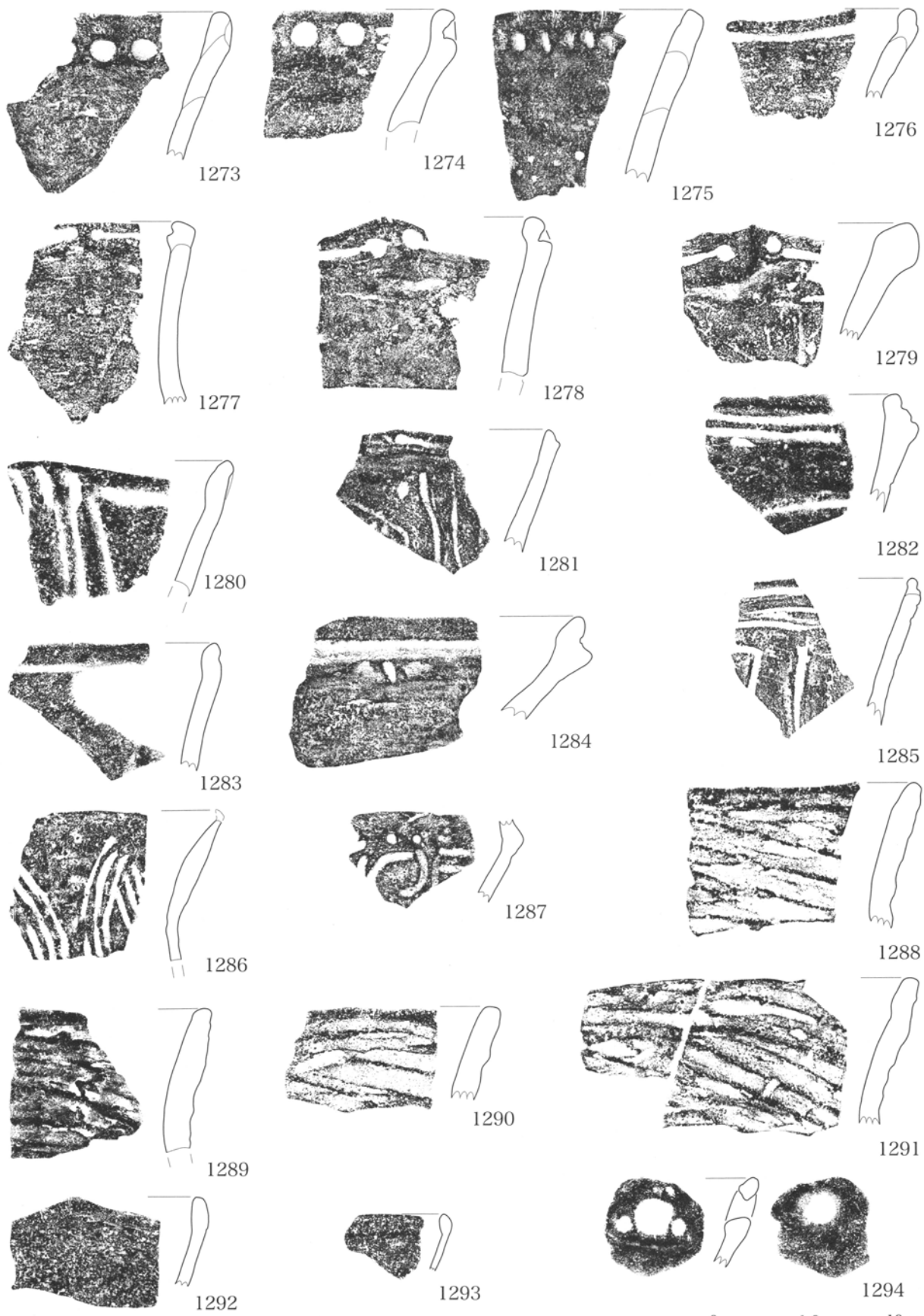
第 220 図 縄文時代遺構外出土遺物 III区(12)・3区(1)



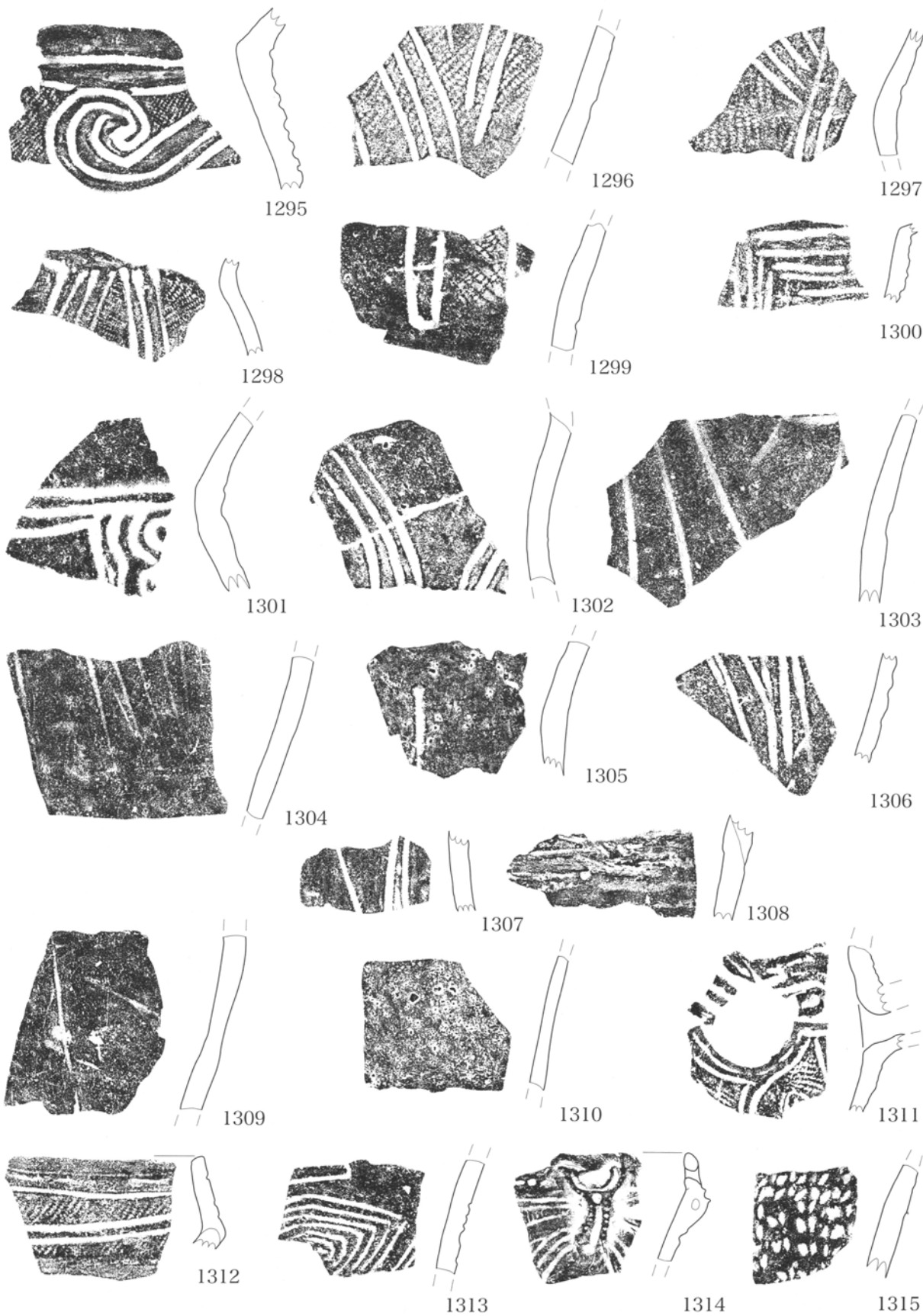
第 221 図 縄文時代遺構外出土遺物 3 区 (2)



第 222 図 縄文時代遺構外出土遺物 3区 (3)

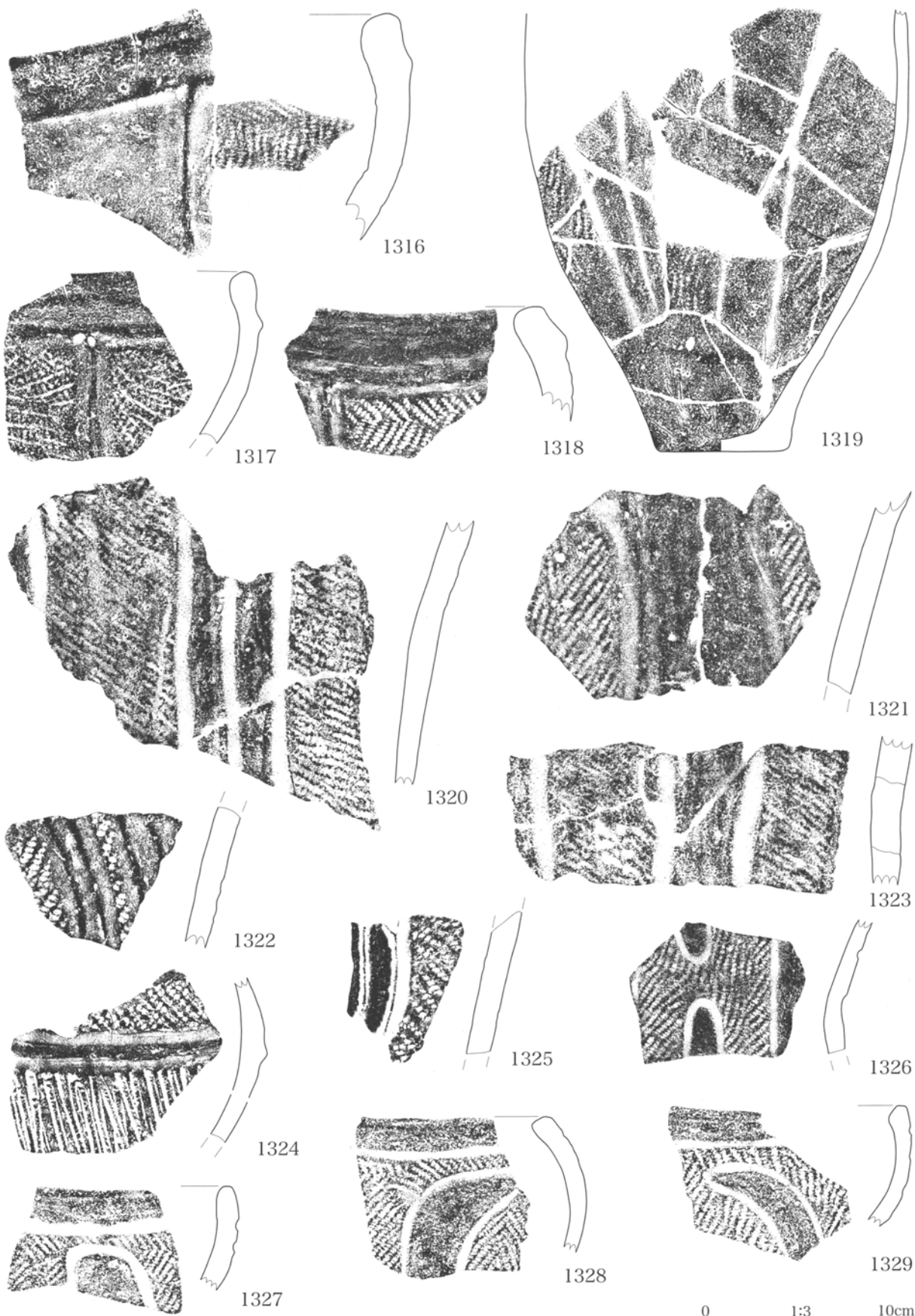


第 223 図 縄文時代遺構外出土遺物 3区(4)

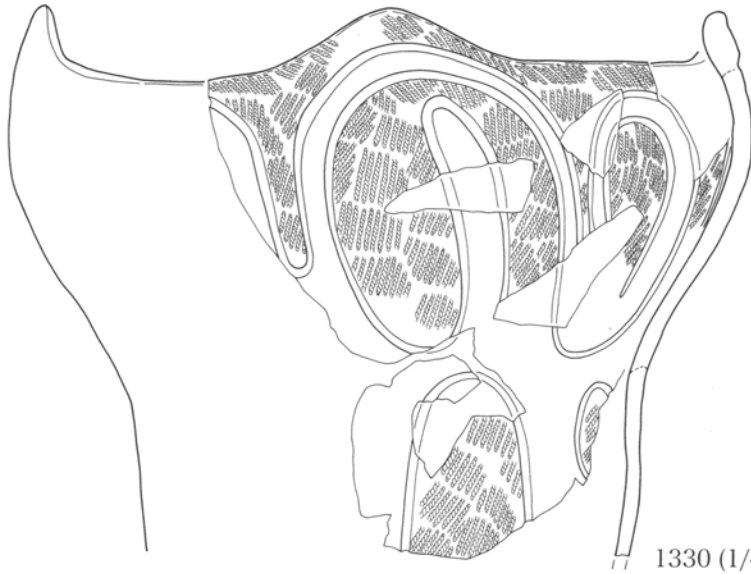


0 1:3 10cm

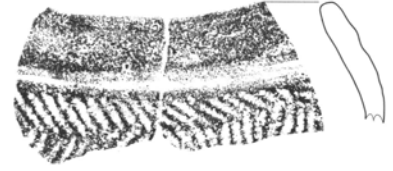
第 224 図 縄文時代遺構外出土遺物 3区 (5)



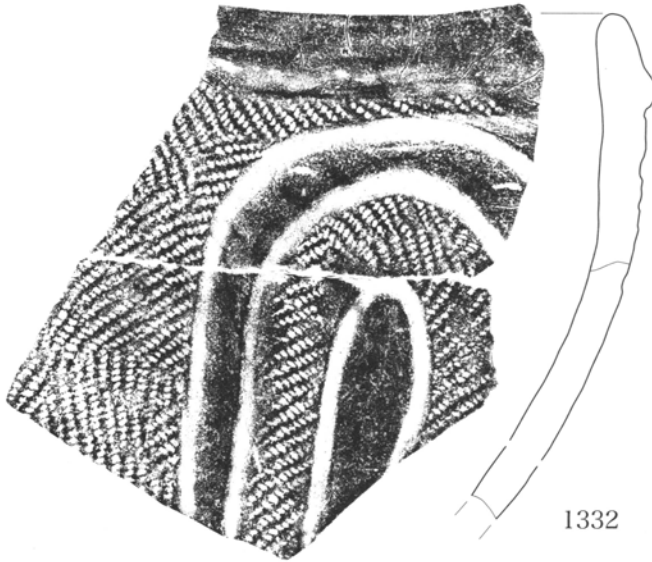
第 225 図 縄文時代遺構外出土遺物 IV区 (1)



1330 (1/4)



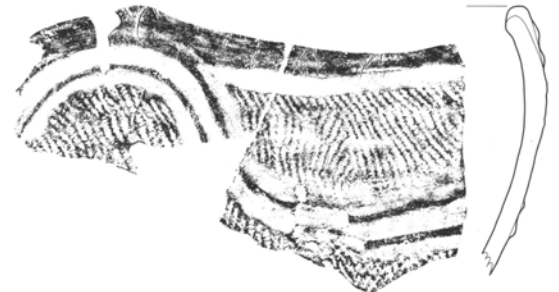
1331



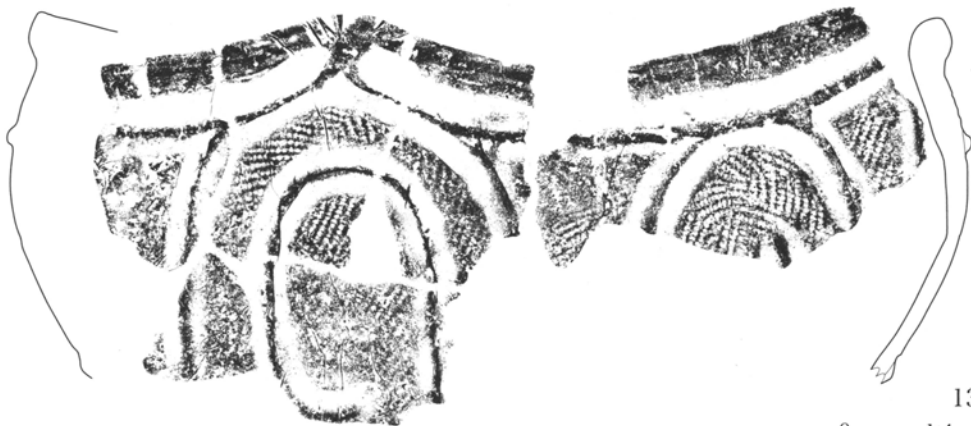
1332



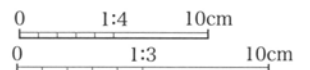
1333



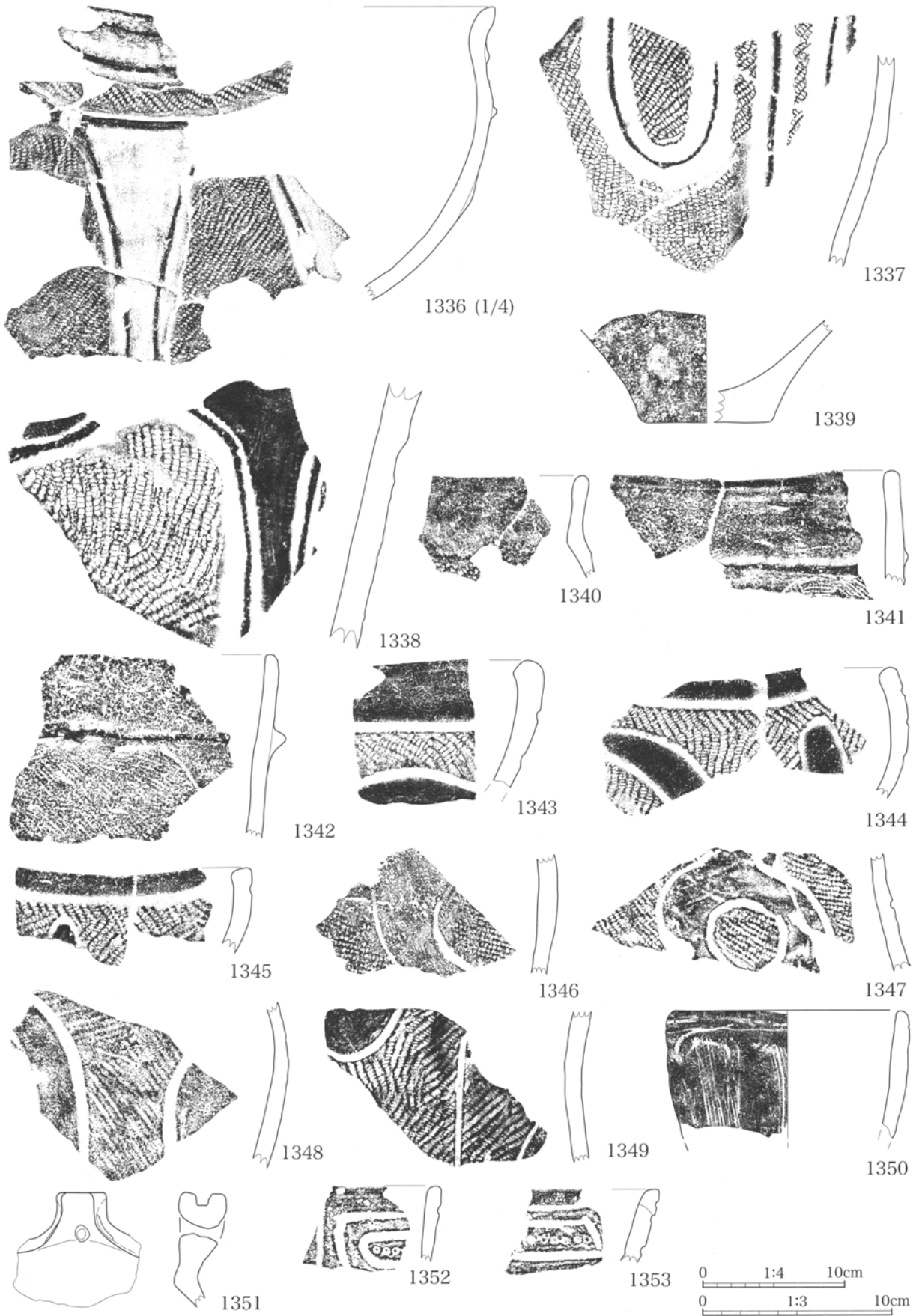
1334 (1/4)



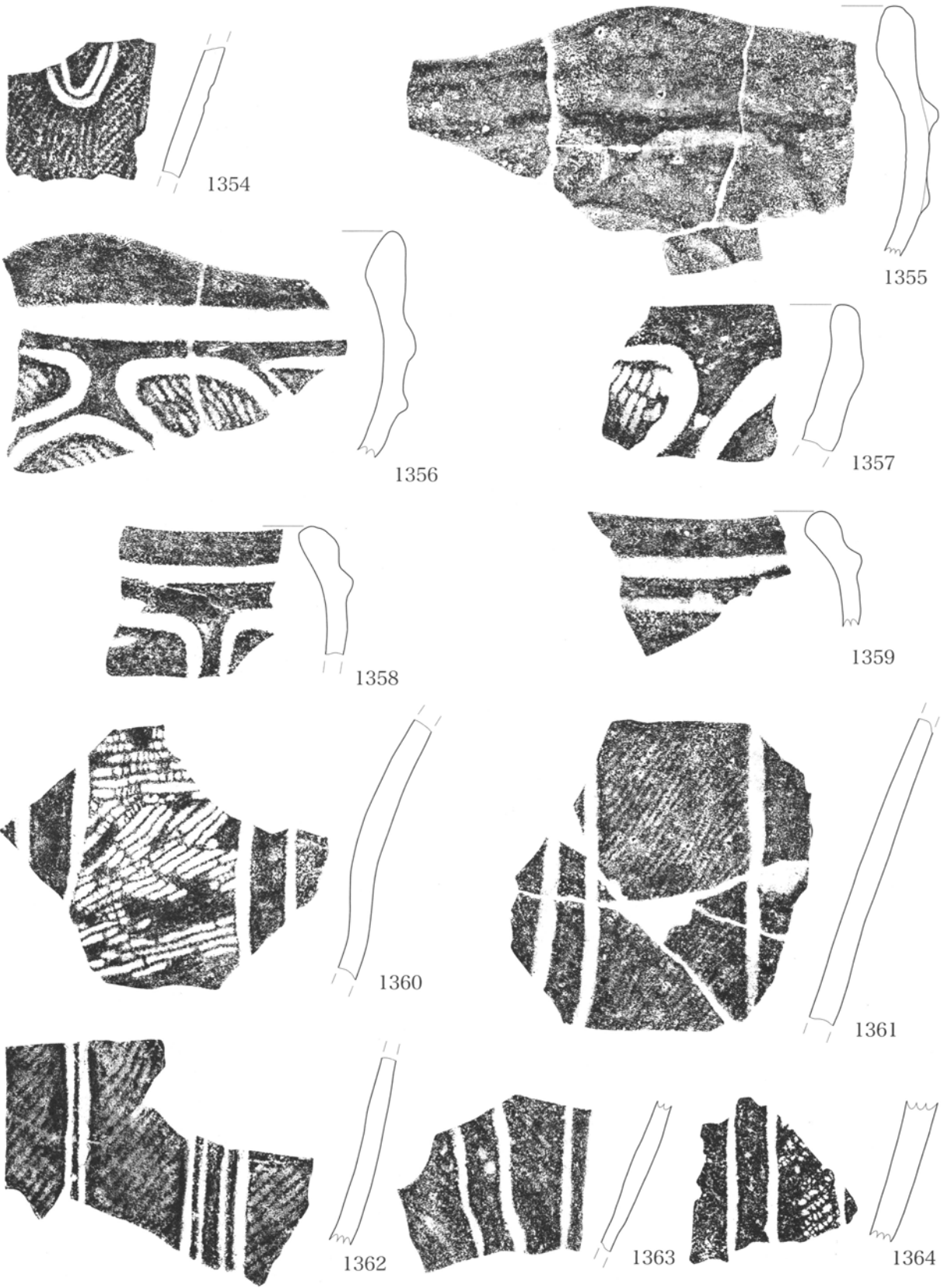
1335



第 226 図 縄文時代遺構外出土遺物 IV区 (2)



第 227 図 縄文時代遺構外出土遺物 IV区 (3)

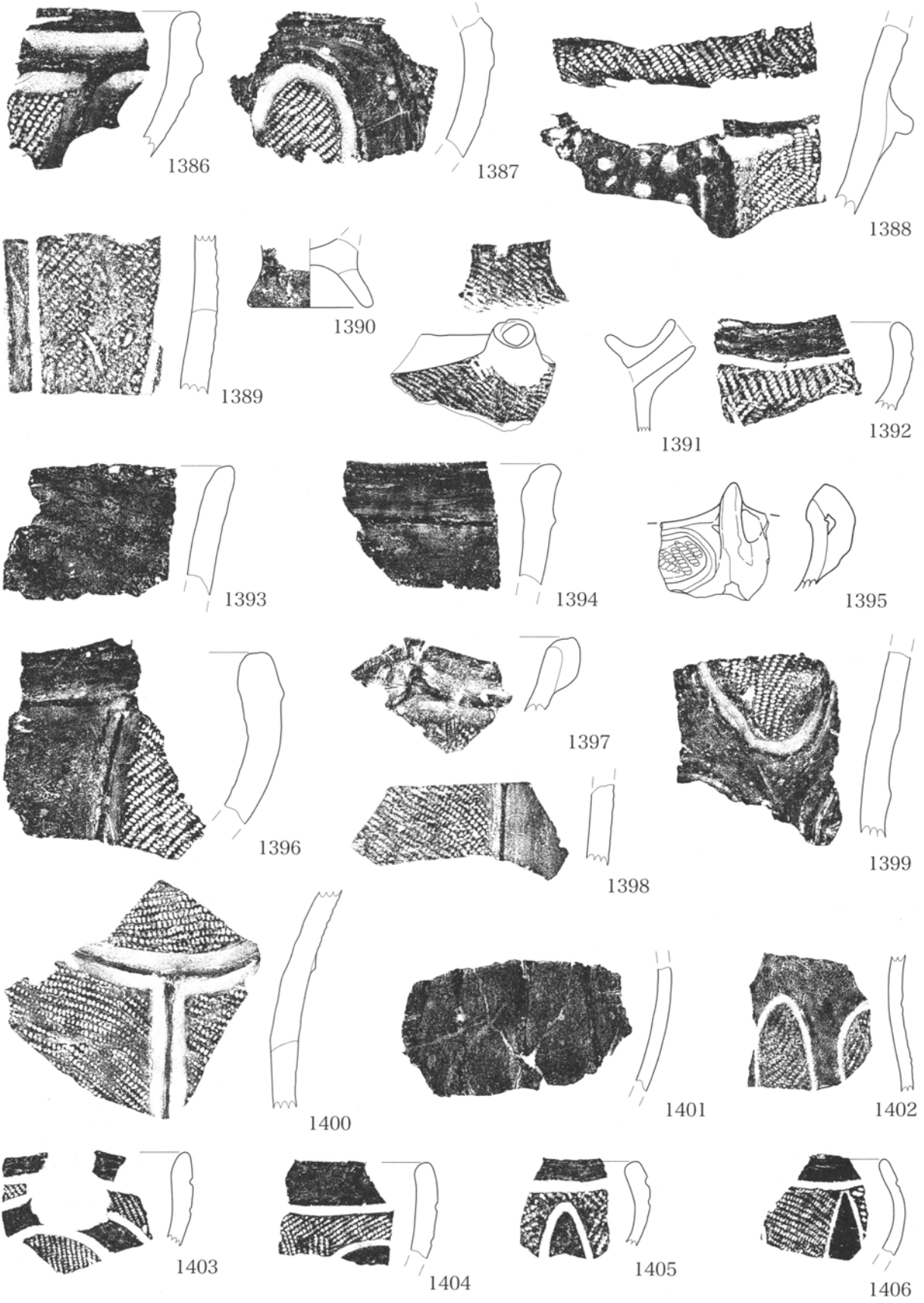


第 228 図 縄文時代遺構外出土遺物 4 区 (1)

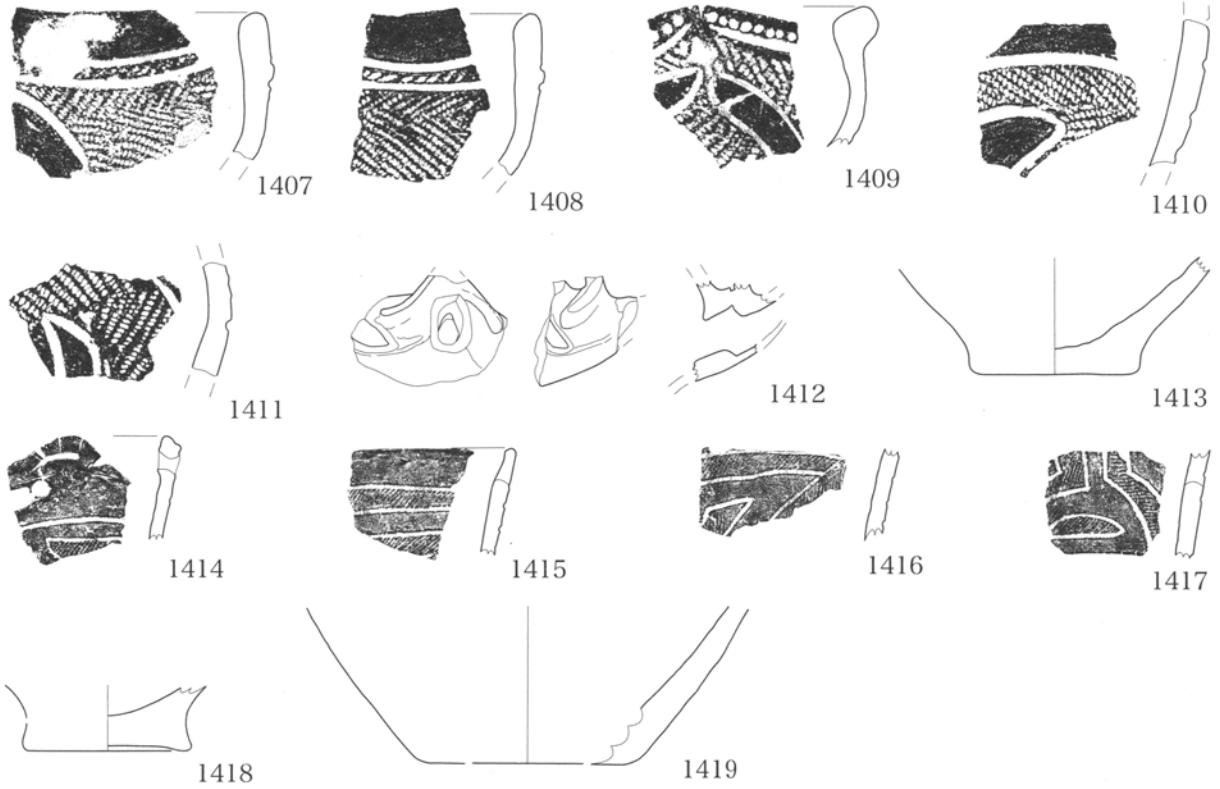


0 1:3 10cm

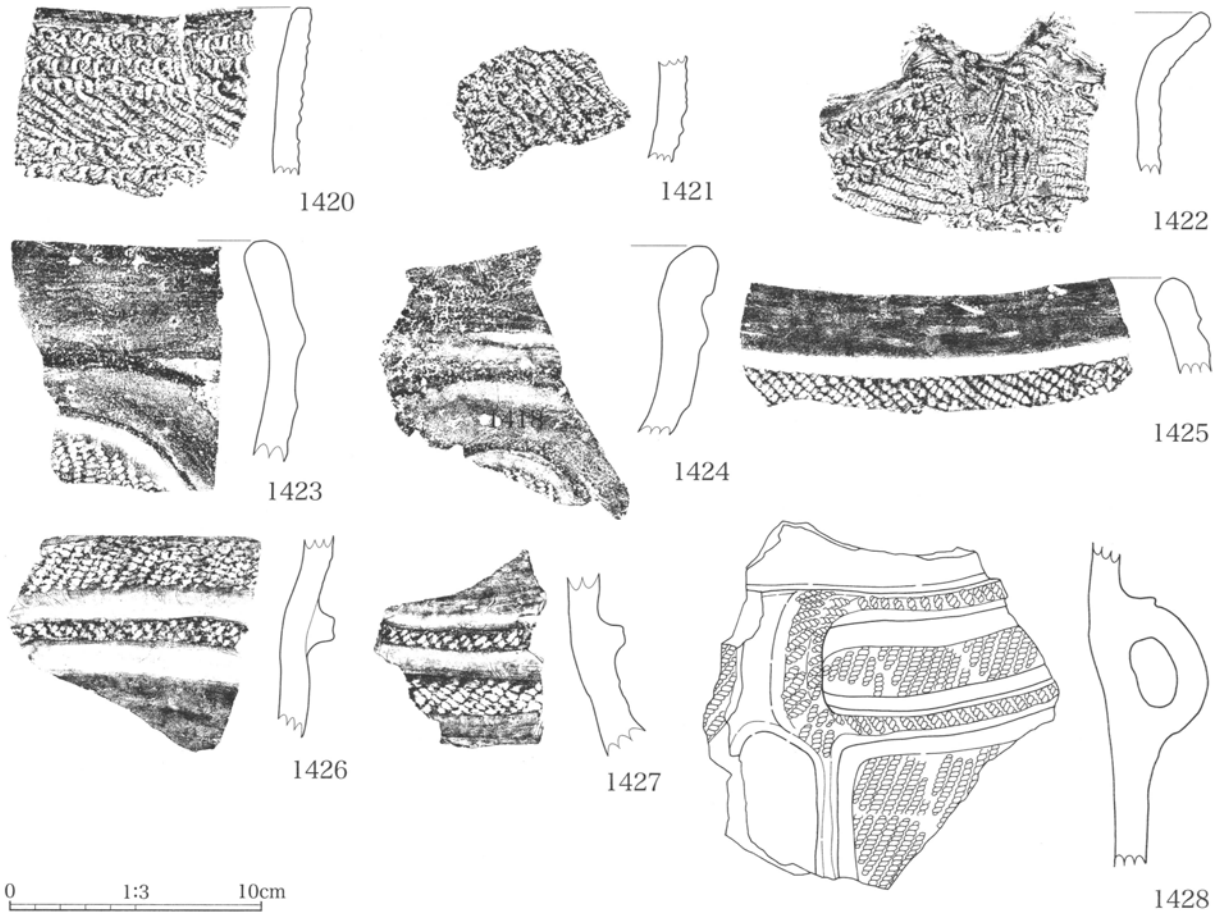
第 229 図 縄文時代遺構外出土遺物 4区(2)・V区(1)



第 230 図 縄文時代遺構外出土遺物 V区 (2)

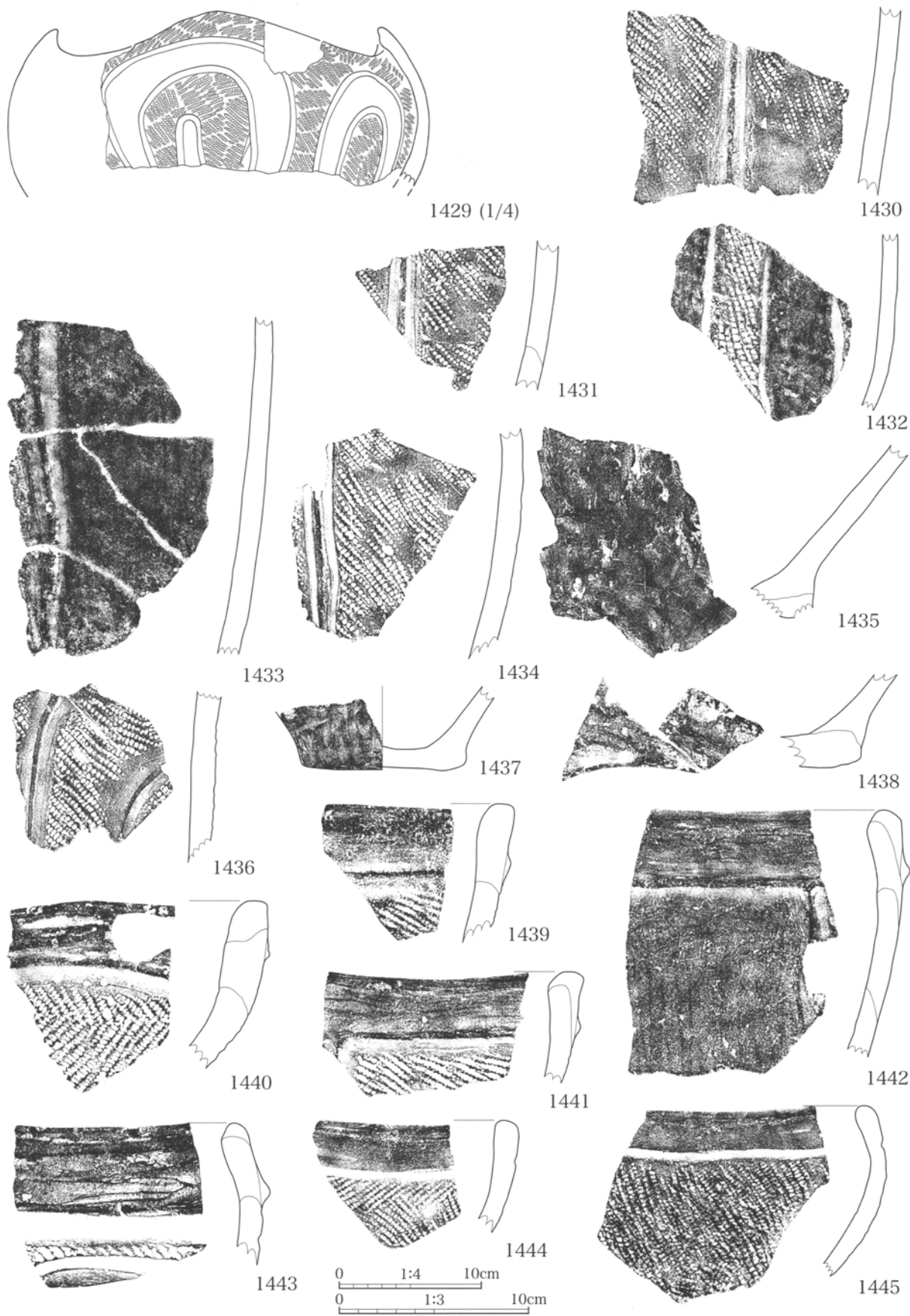


(5区)

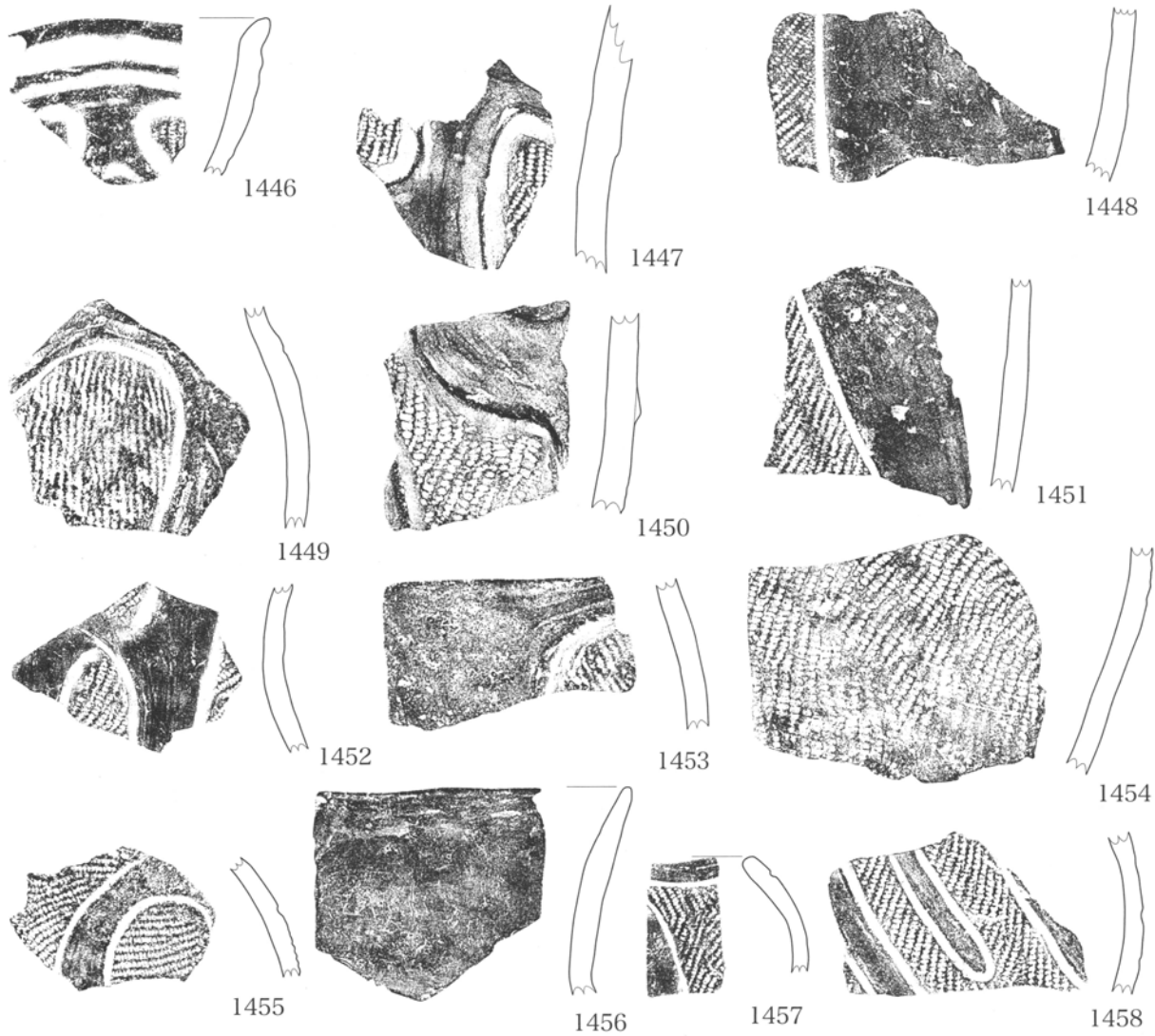


0 1:3 10cm

第 231 図 縄文時代遺構外出土遺物 V区(3)・5区(1)

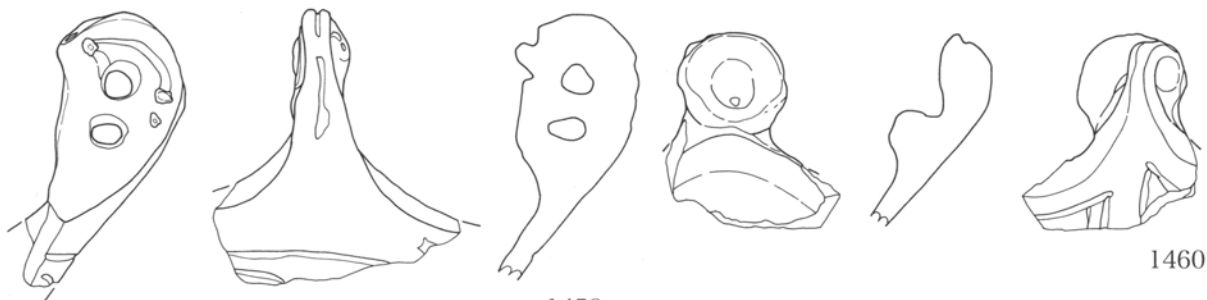


第 232 図 縄文時代遺構外出土遺物 5 区 (2)



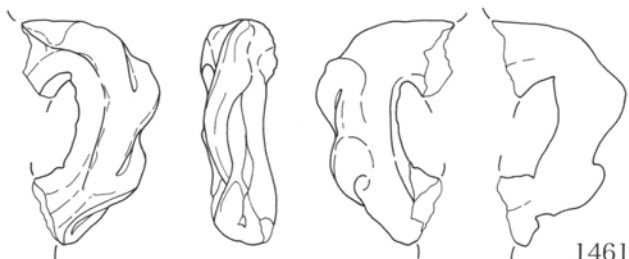
第 233 図 縄文時代遺構外出土遺物 5 区 (3)

0 1:3 10cm

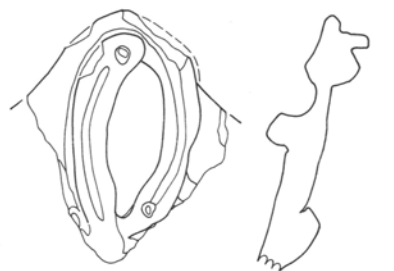


1459

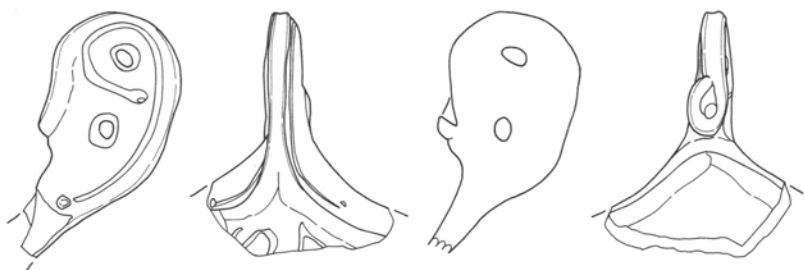
1460



1461



1462



1463



1464

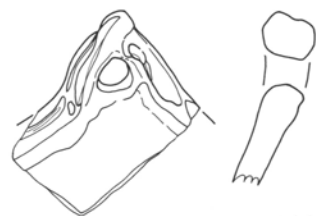


1465

1466



1467



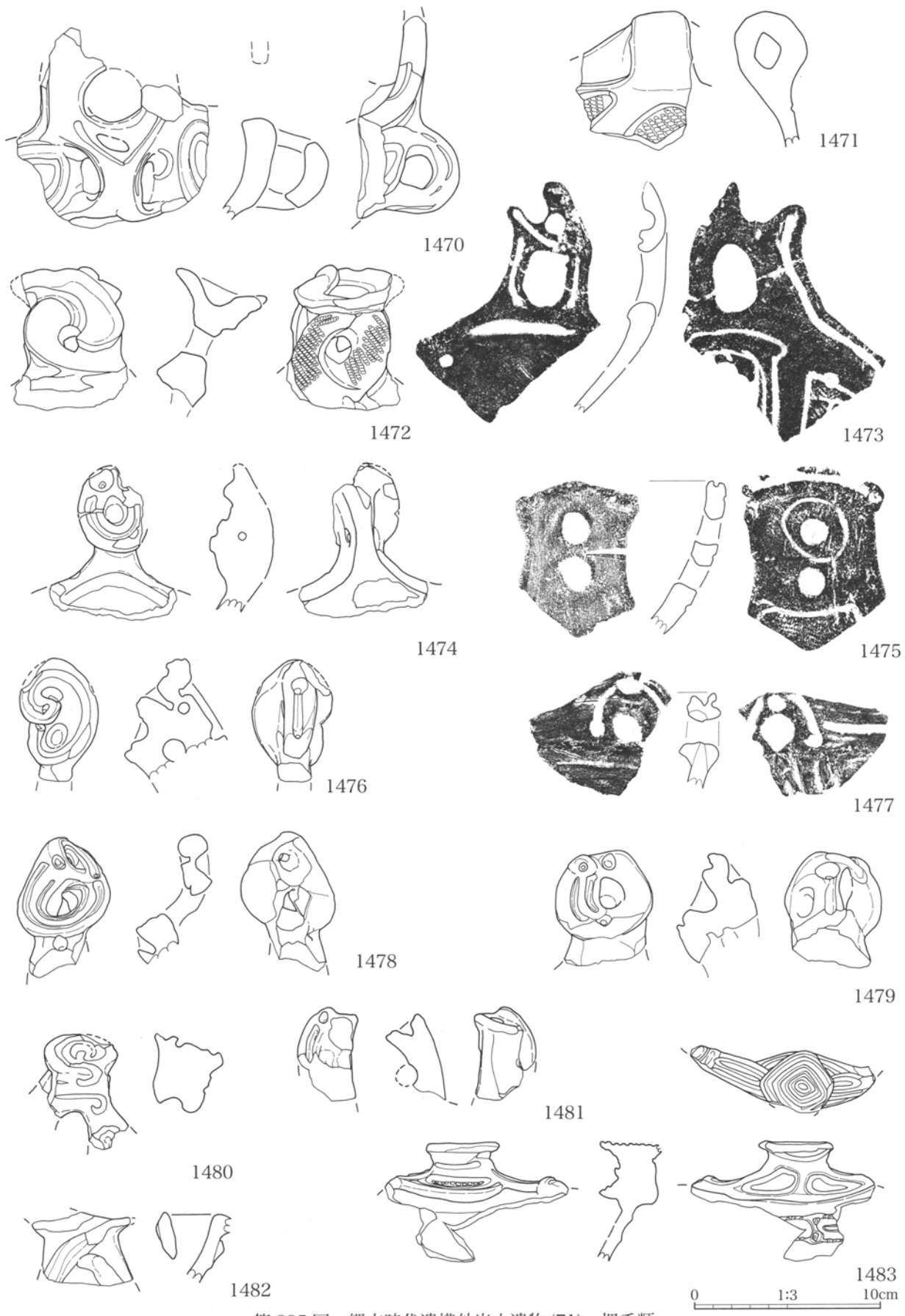
1468



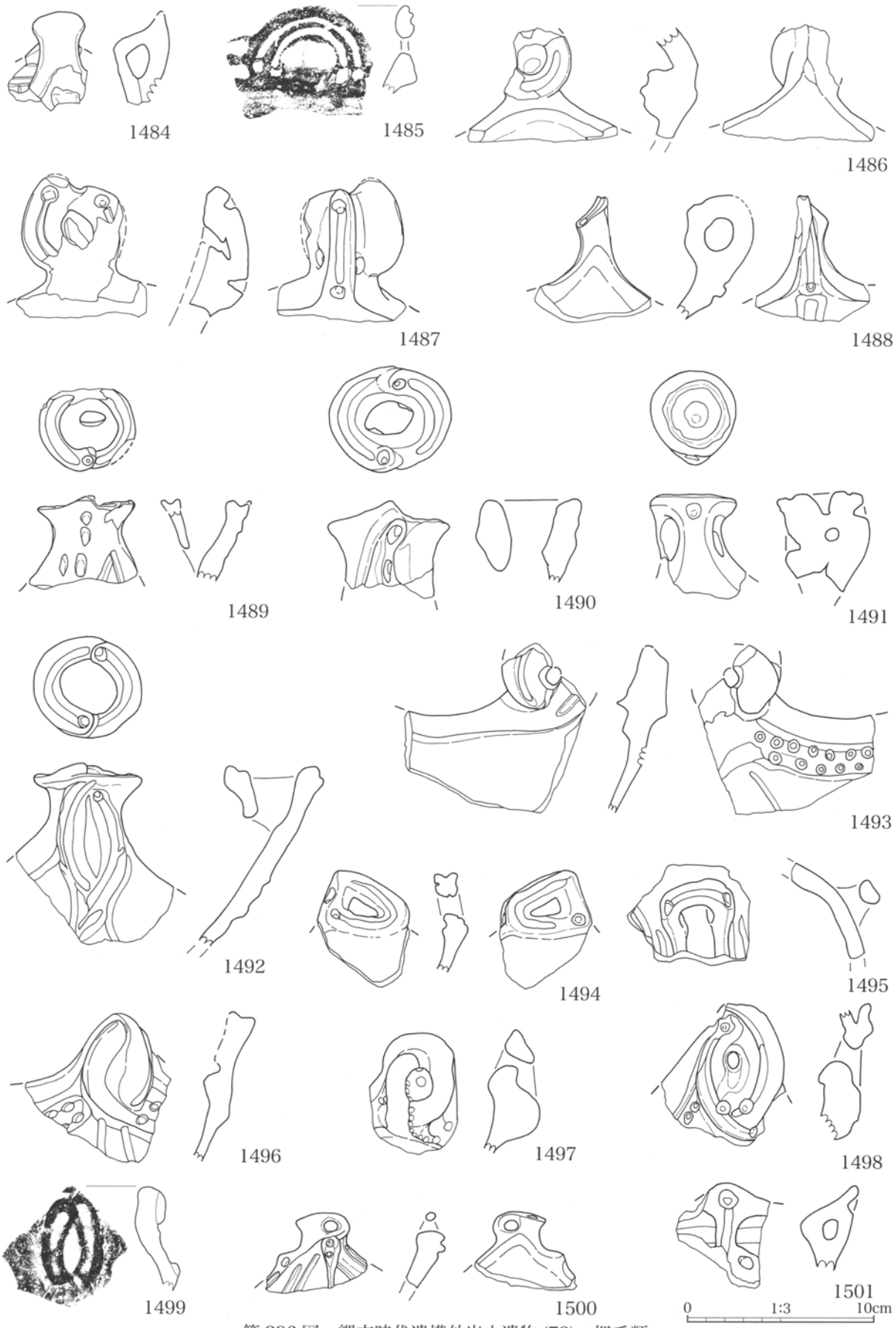
1469

第234図 縄文時代遺構外出土遺物(70) 把手類

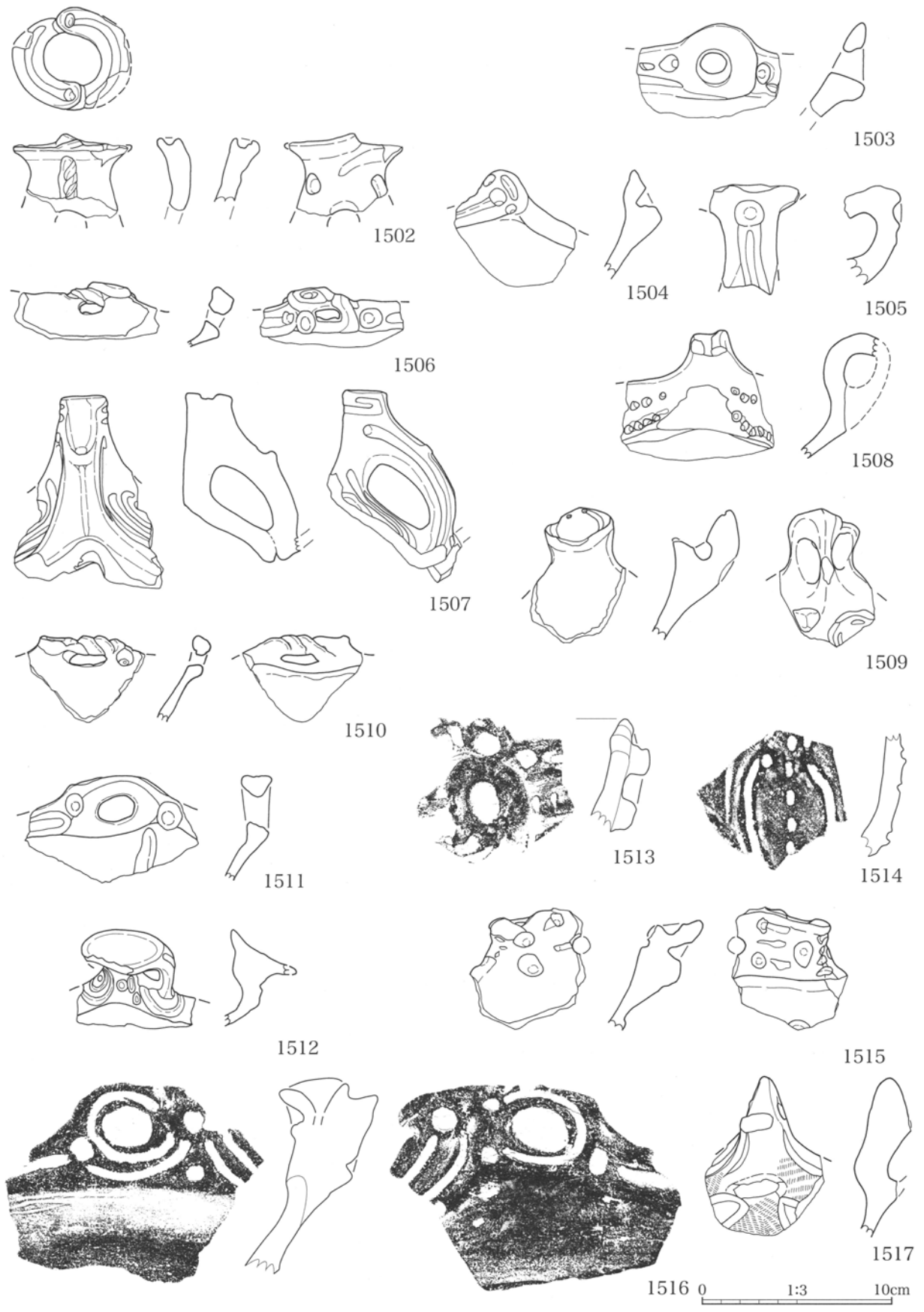
0 1:3 10cm



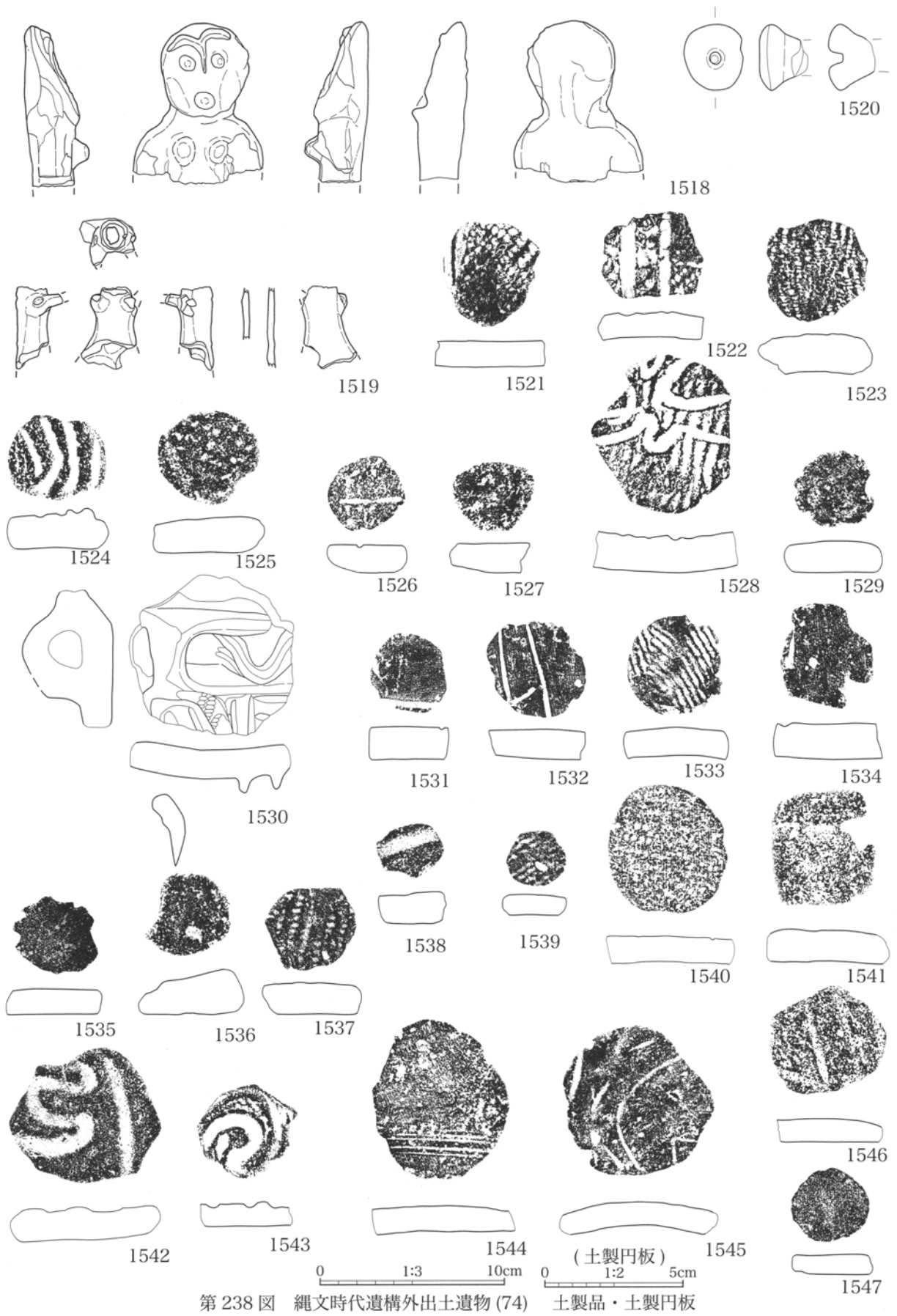
第 235 図 縄文時代遺構外出土遺物 (71) 把手類



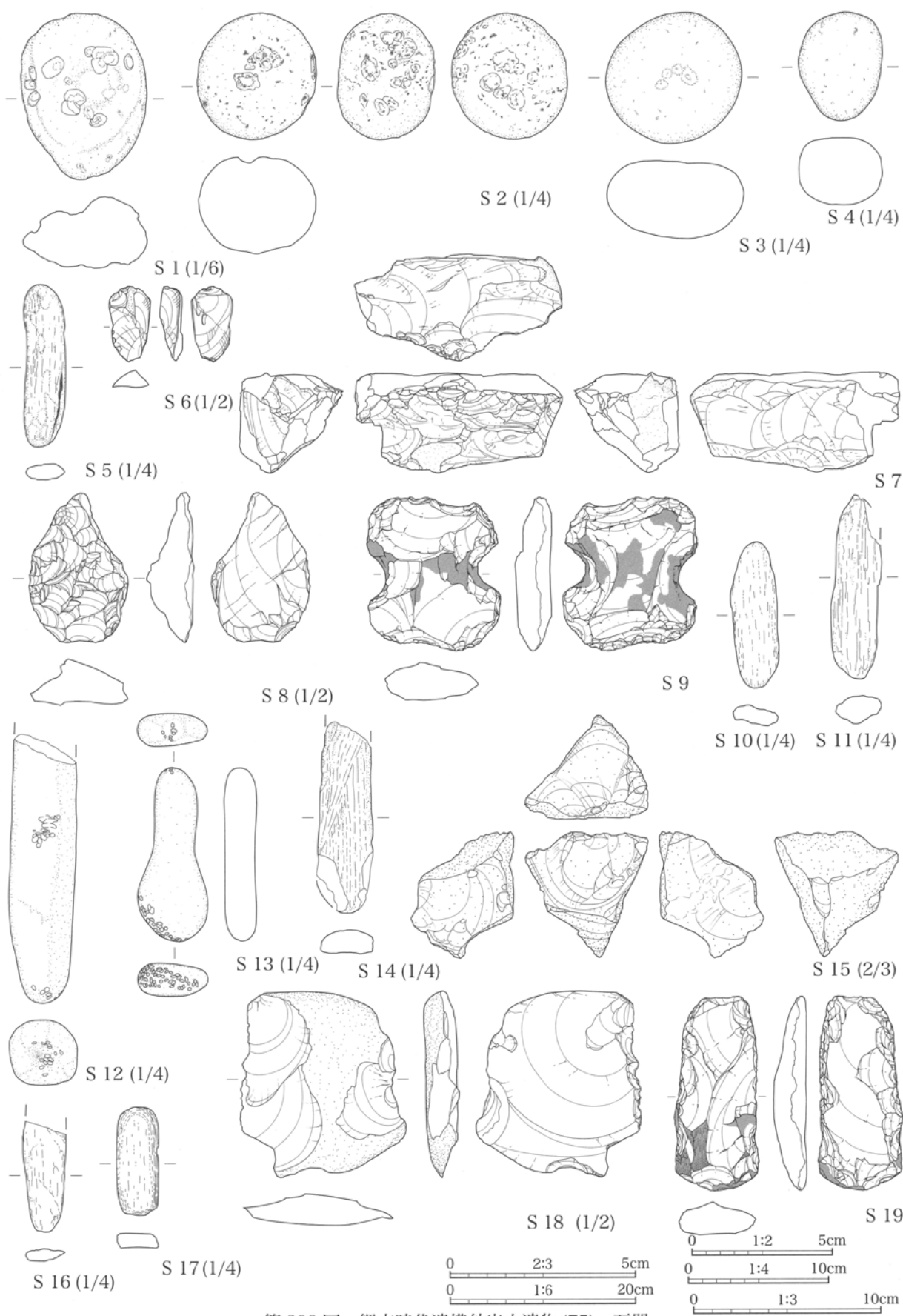
第 236 図 縄文時代遺構外出土遺物 (72) 把手類



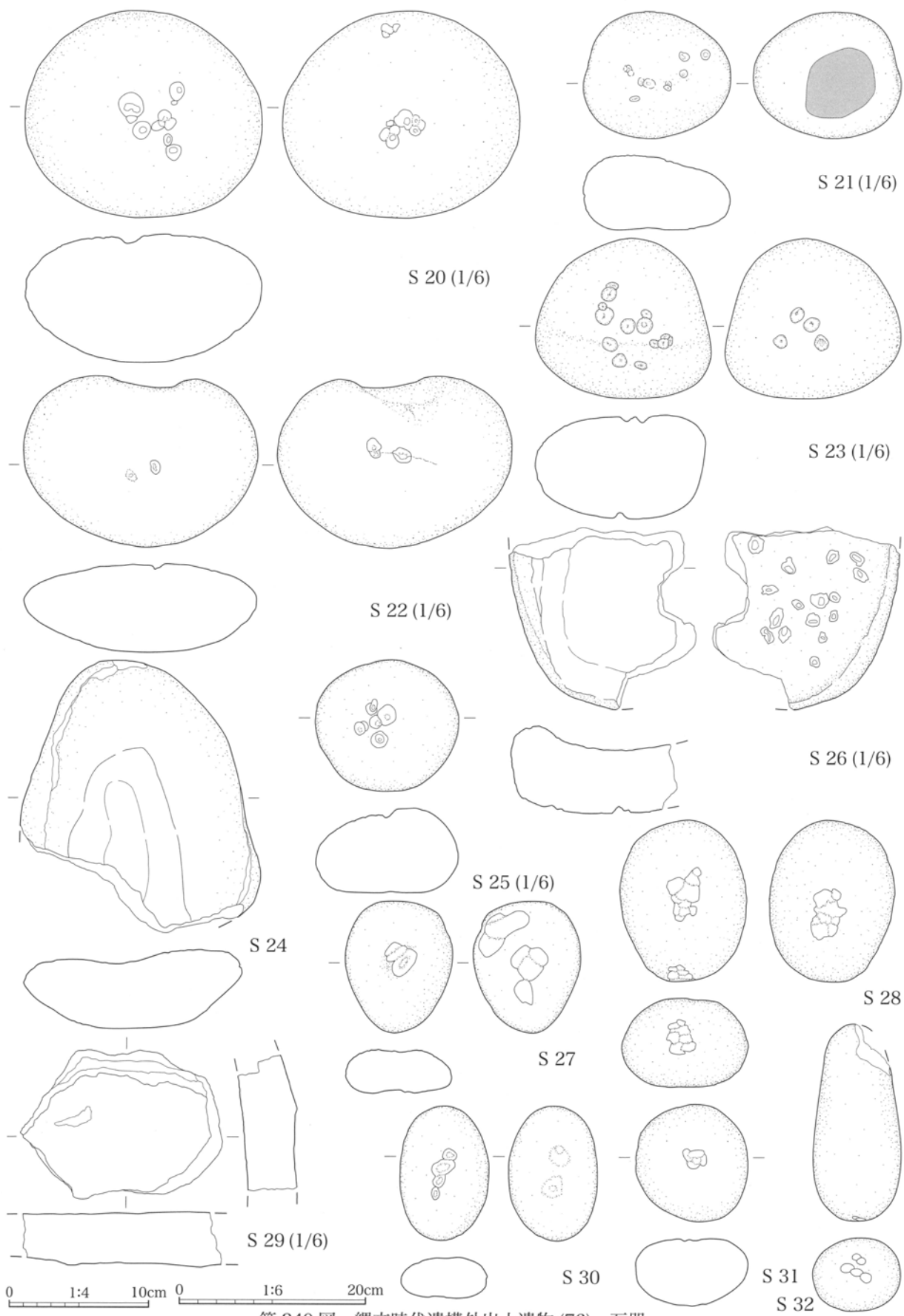
第 237 図 縄文時代遺構外出土遺物 (73) 把手類



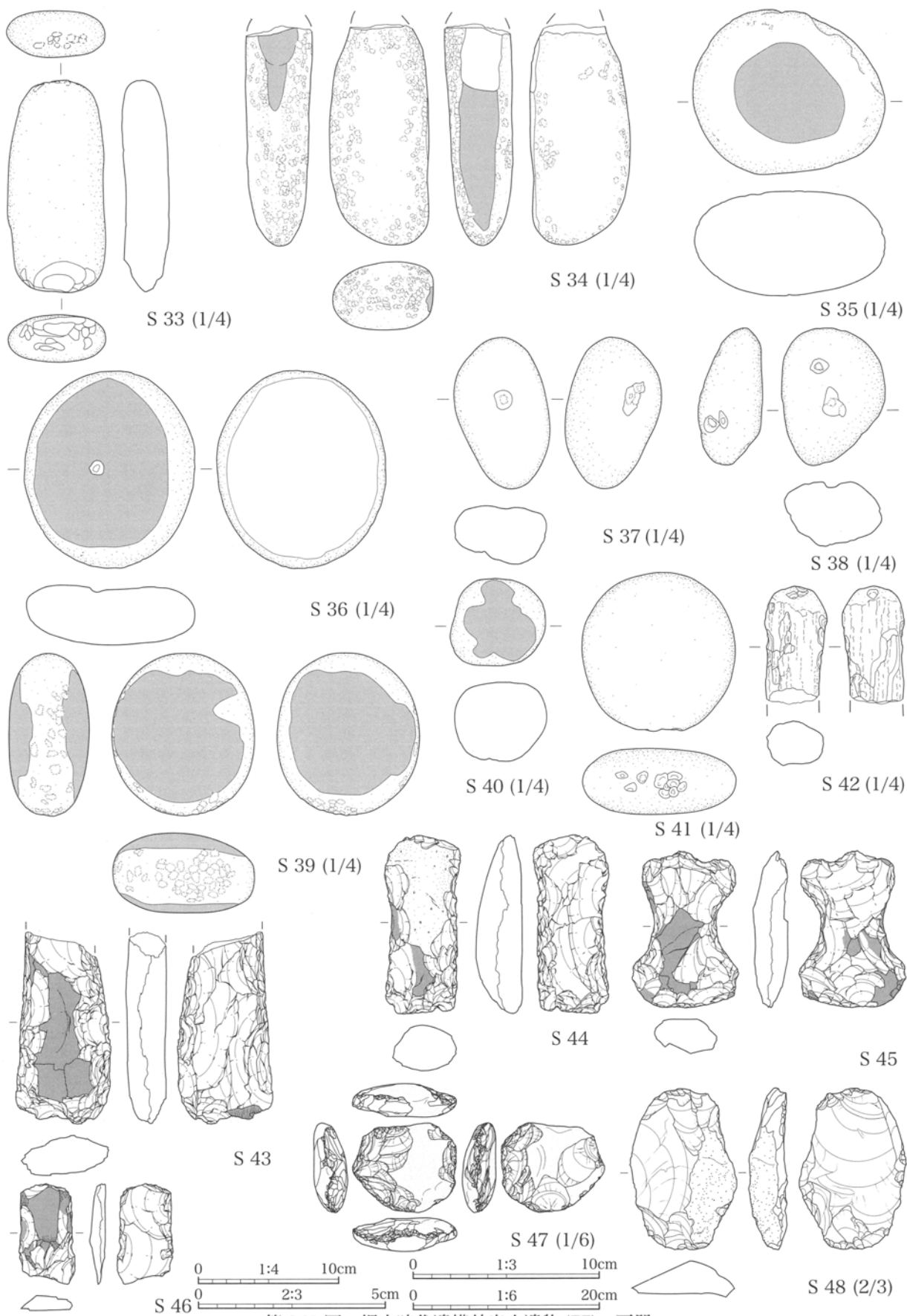
第 238 図 縄文時代遺構外出土遺物 (74) 土製品・土製円板



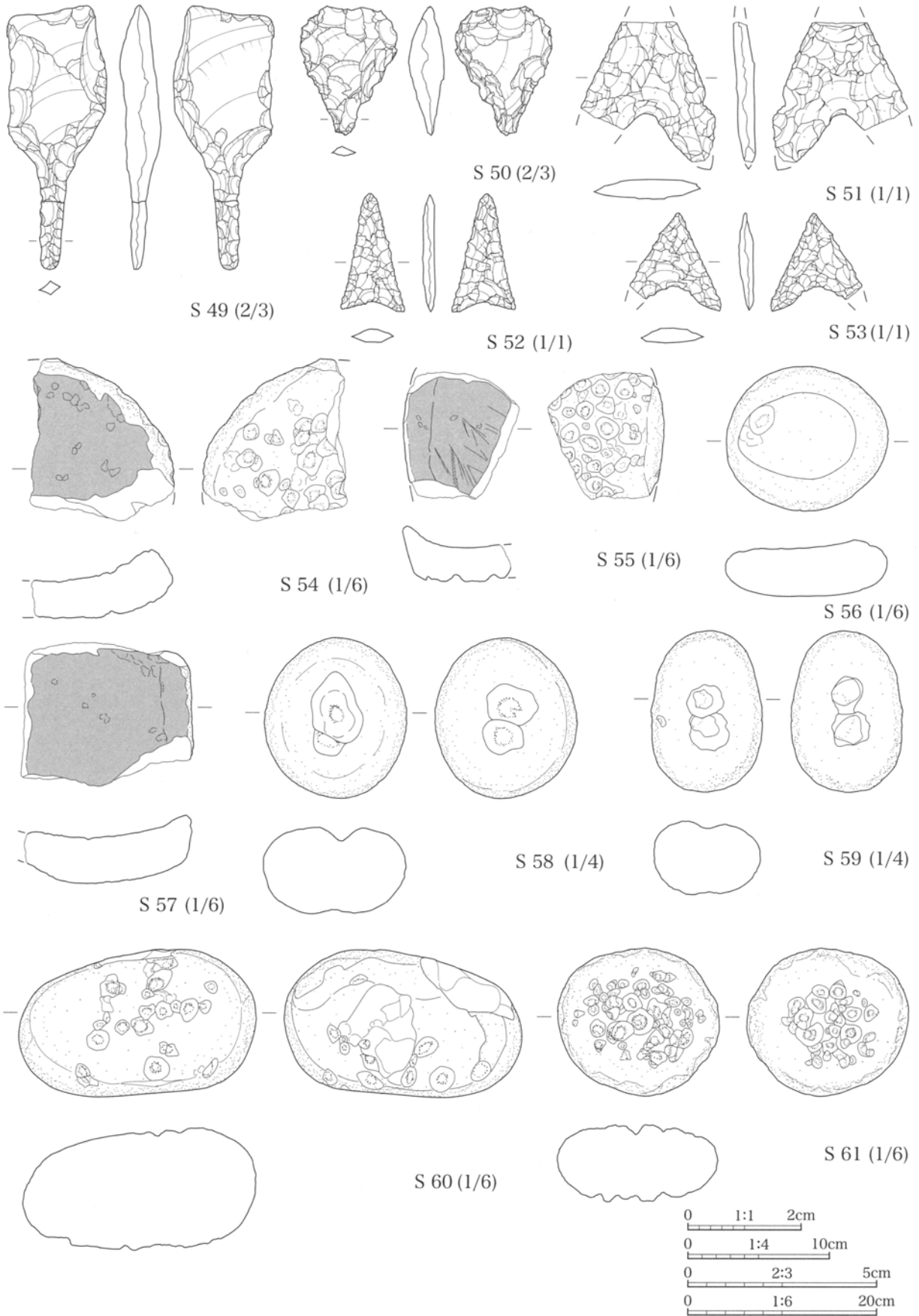
第 239 図 縄文時代遺構外出土遺物 (75) 石器



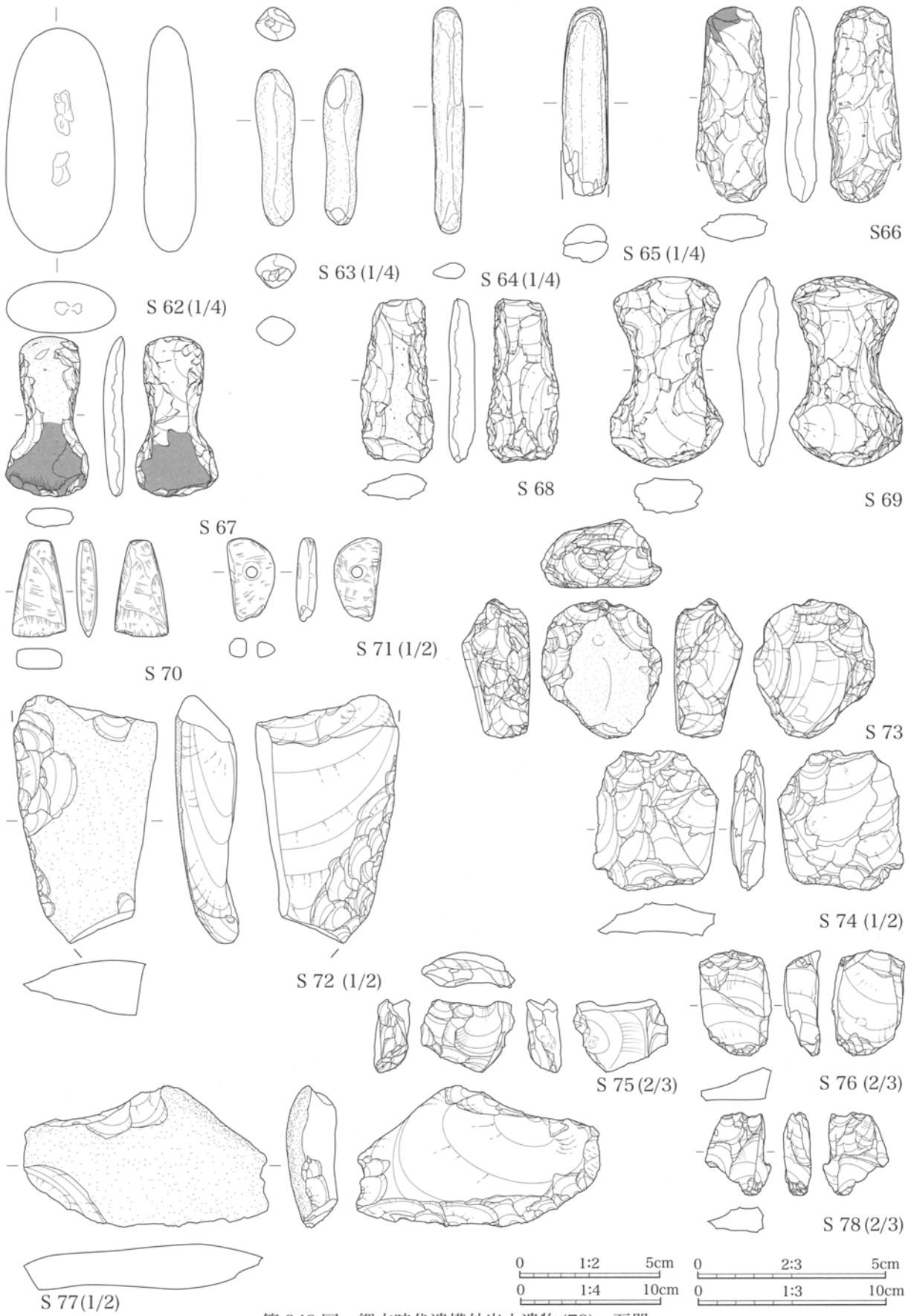
第 240 図 縄文時代遺構外出土遺物 (76) 石器



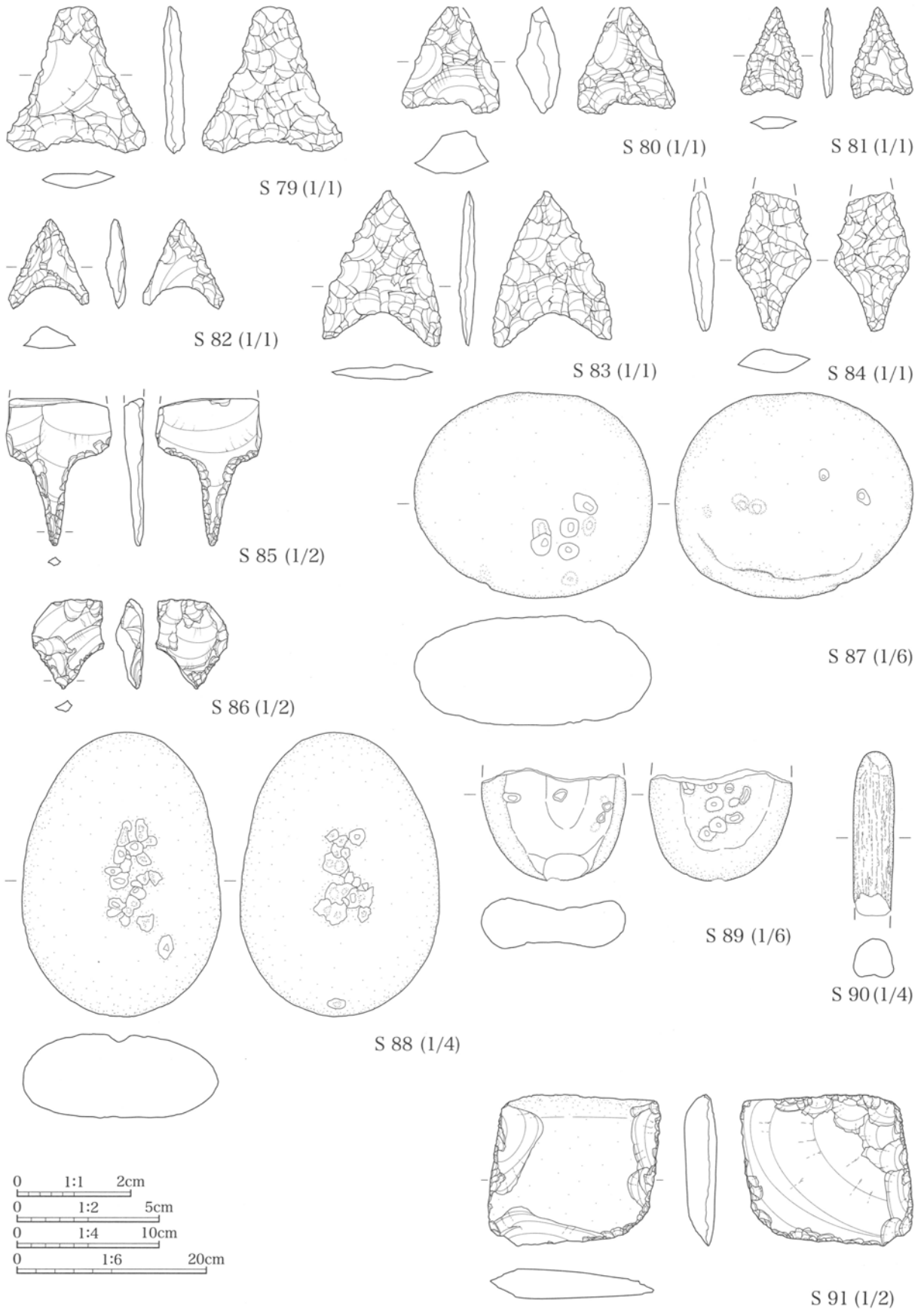
第 241 図 縄文時代遺構外出土遺物 (77) 石器



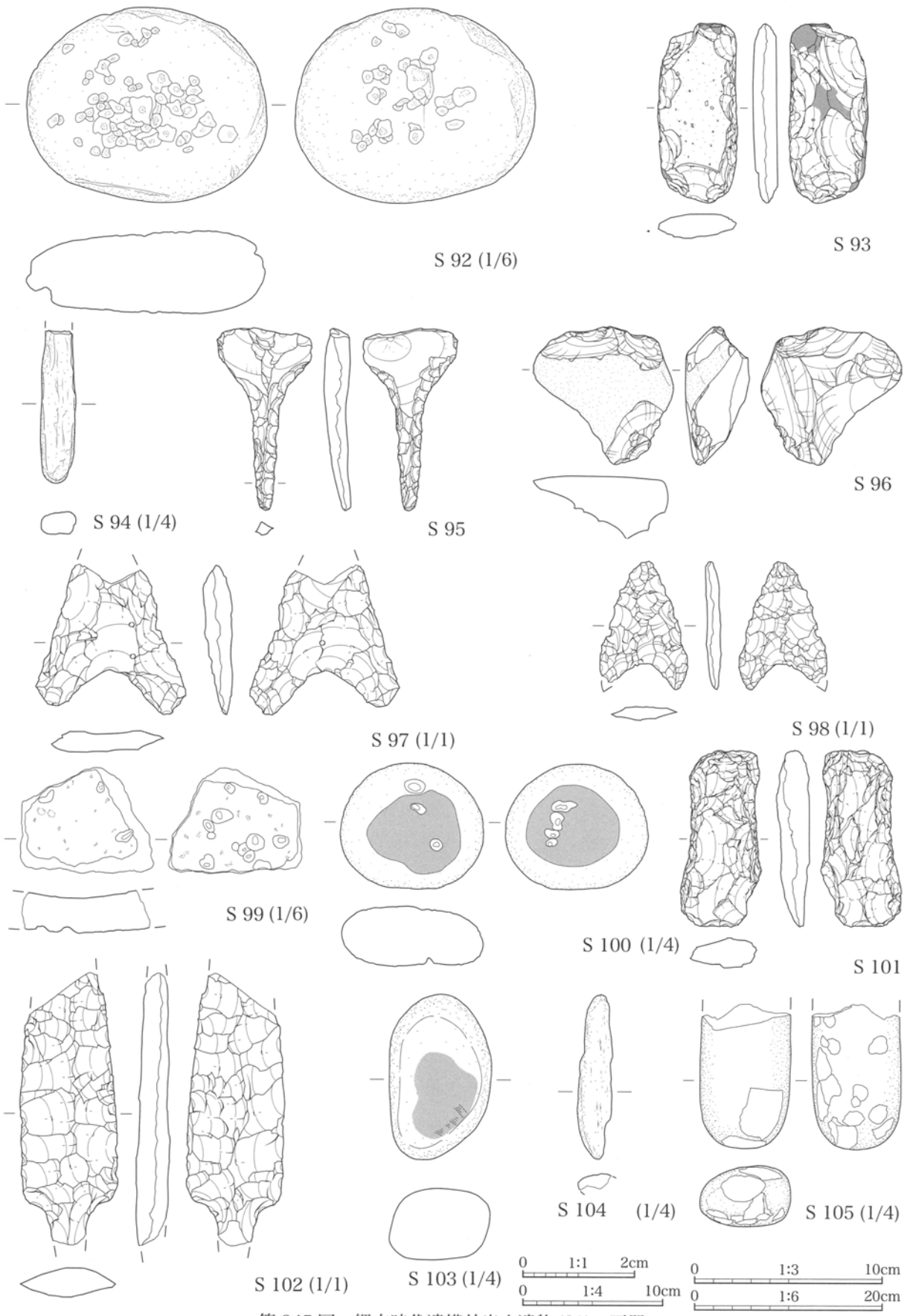
第 242 図 縄文時代遺構外出土遺物 (78) 石器



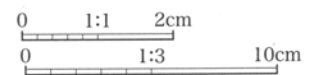
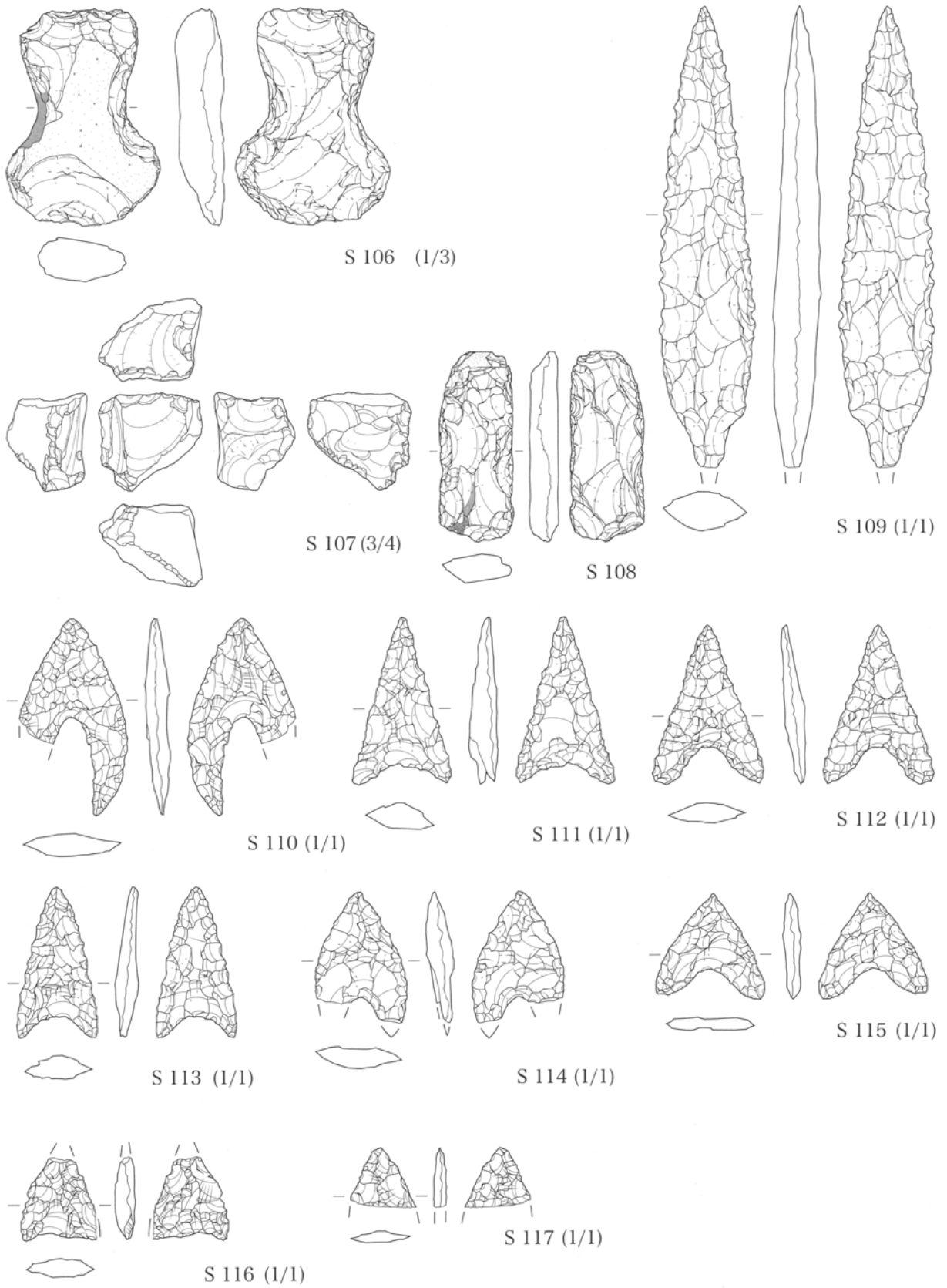
第 243 図 縄文時代遺構外出土遺物 (79) 石器



第 244 図 縄文時代遺構外出土遺物 (80) 石器



第 245 図 縄文時代遺構外出土遺物(81) 石器



第 246 図 縄文時代遺構外出土遺物 (82) 石器

第3項 古代

下田遺跡における古代の遺構は、地形的な条件から低地部分における水田や畠が主である。特に、I・I区の埋没河道内では良好な遺存状況を示す。しかし、全体的には現代の圃場整備による削平が著しく不明瞭な点が多い。東端部のV区の微高部では、製鉄関連遺物の出土があった他、小形な竪穴住居跡が1軒、大規模な用水路1条が検出された。

(1) 住居跡

V区3号住居跡 (第247図、PL39・40)

V区中央やや南寄りの、(946～949, -527～-529)グリッドに位置する。平面形は2.03m×1.92mの隅丸方形を呈する。壁は垂直気味に立ち上がり、深さは25cmである。

覆土は、レンズ状の堆積が認められる。

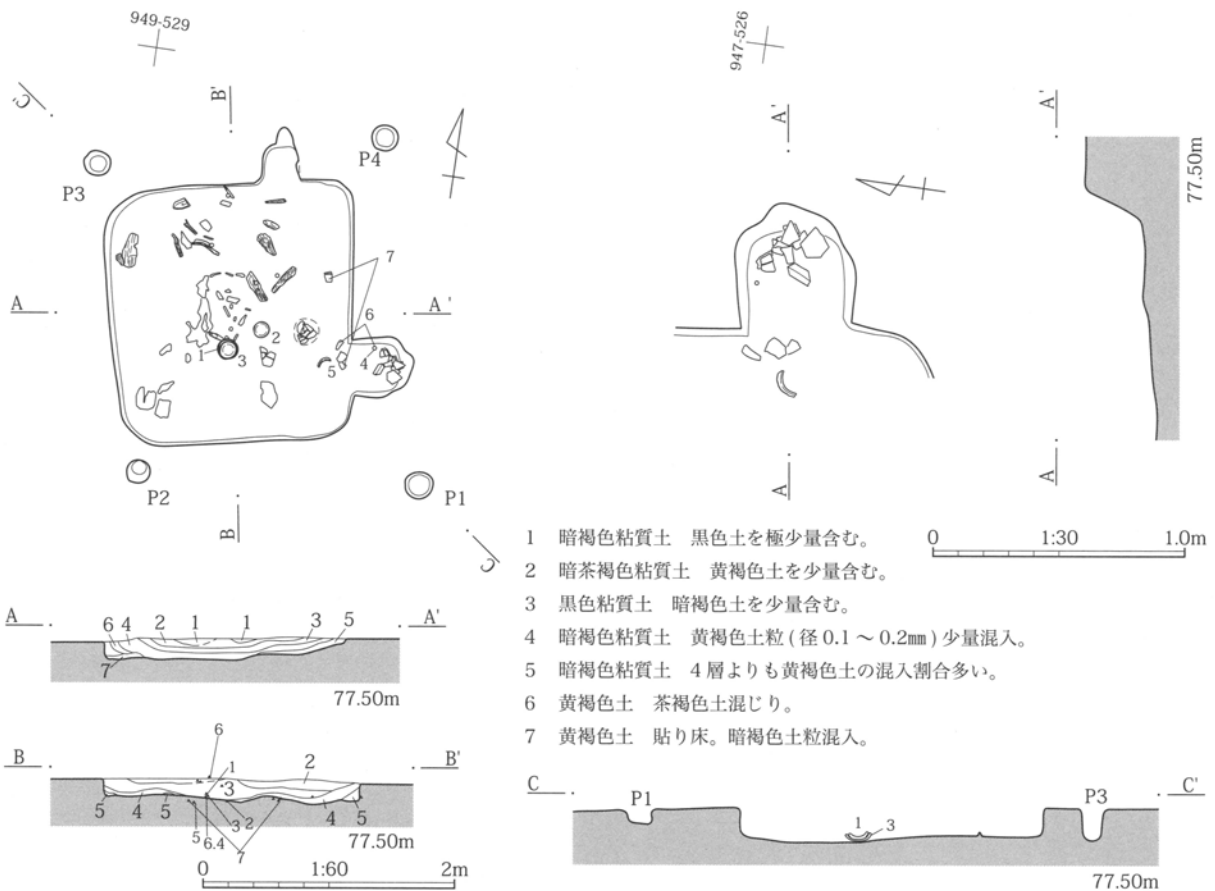
竈は造り変えが行われており、北壁の竈が古く、東壁の竈が新しい。東竈の燃焼部は幅48cmで、壁

から50cm張り出しているが、煙道は残存しない。覆土には被熱が顕著な天井材の大形ブロックが認められる。燃焼部の奥と焚き口部手前には土師器甕の破片が床面から浮いた状況で出土した。

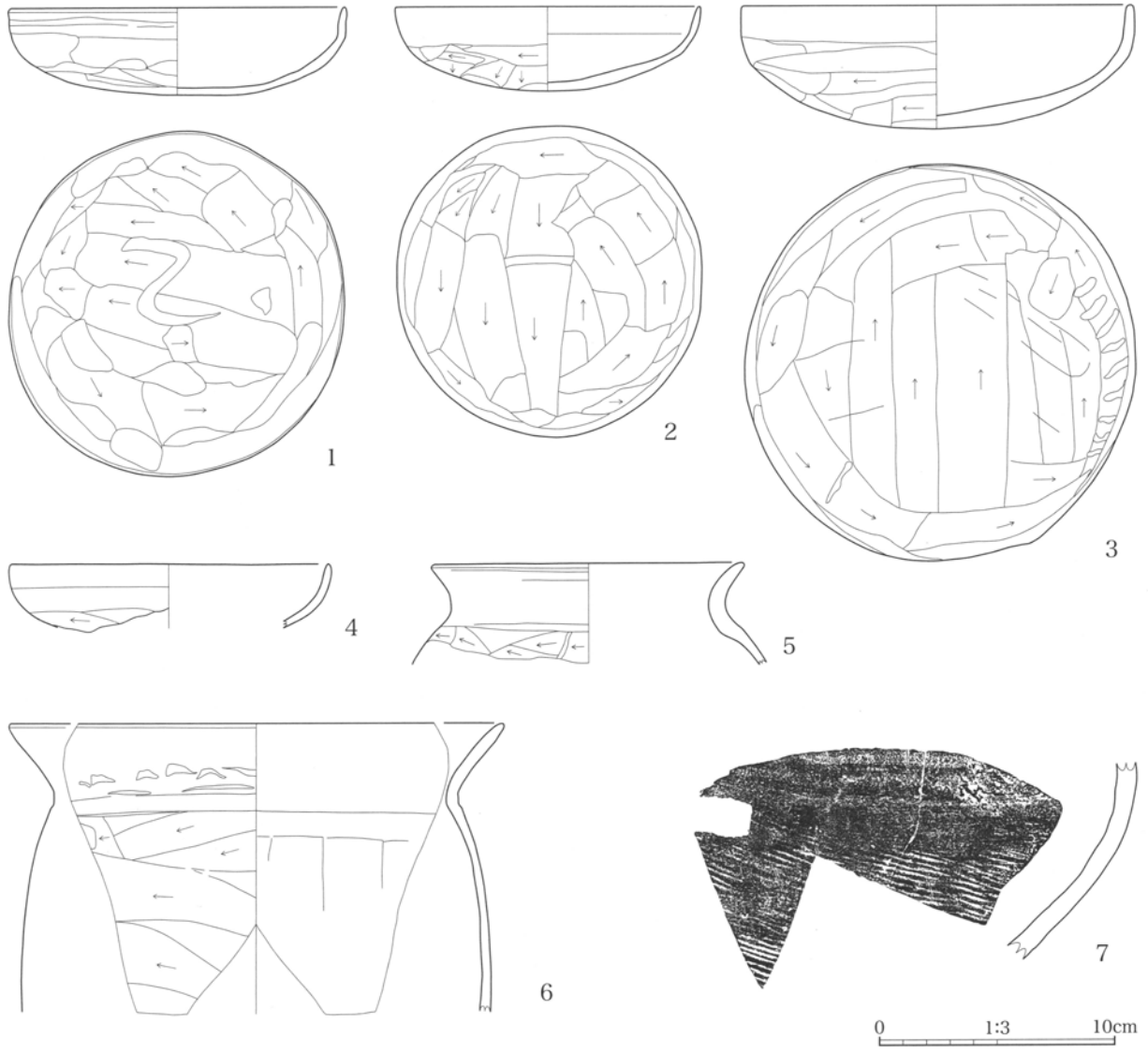
床面は平坦で、竪穴内部には柱穴や貯蔵穴は認められなかった。床面に密着する状況で、炭化材が出土した。竪穴の各コーナーの外部には、4基のピットが検出されており、本住居の上屋構造に関わる施設と考えられる。規模(径・深さ)は、以下の通りである。P1 (42×35cm・20cm)、P2 (68×57cm・26cm)、P3 (49cm・13cm)、P4 (62×52cm・28cm)。

床面中央部には、土師器坏が3点出土し、内2点は大小の個体が重ね合わせられた状況であった。住居の廃絶に関わり遺棄された可能性がある(第248図、PL175)。

本住居跡の時期は、出土した土器類から8世紀前半と位置づけられる。



第247図 V区3号住居跡



第 248 图 V 区 3 号住居跡出土遺物

(2) 鉄滓散布地

V区1号鉄滓散布地(第249～251図、PL106)

V区東部の(955～970, -475～-490)グリッドの範囲で多量の鉄滓等の小片と炭化物・焼土が混在して分布していた。約14.4m×8.4mほどの不整な長円形を呈する区域での密度が高く、下部に何らかの遺構の存在が想定された。散布地内には、近世以降の溝群が北から南、あるいは北東から南西方向に掘削されており攪乱が著しい。他に、周辺のグリッドからも少量ながら鉄滓の分布の広がりが見られた。

調査段階では、直径40cm前後の円形の焼土範囲が列状に並ぶことから、連房式の鍛冶遺構を含めた鍛冶関連遺構を想定して調査された。椀形鍛冶滓に形状が類する遺物が出土したことも判断材料であった。

しかし、整理段階で鉄滓を詳細に観察した結果、散布地内出土の鉄滓類には明確な鍛冶滓が含まれず、大部分が(製錬)製鉄工程に伴う鉄滓であることが判明した。写真・図面類の再検討の結果、鍛冶炉と考えられた焼土分布は地山が焼土化した状況ではなく、19(60)・17号溝内に流入した焼土であるとの結論に至った。

この鉄滓散布地内には、製鉄工程に伴う遺構は検出されなかった。また、出土した鉄滓がいずれも小破片であることから、周辺の製鉄遺構からの二次的な廃棄、もしくは傾斜上位の遺構からの流入遺物である可能性が高いと考えられる。

本散布地の形成時期は、古代にさかのぼることが層位的に確認できる。

当散布地周辺から出土した遺物の総点数は8,665点(55.3091kg)であり、その内、1号鉄滓散布地出土遺物は2,863点(18.509kg)である。また、鉄滓散布地を含むグリッド収納遺物は316点(25.99kg)である。また、近世以降の溝群や攪乱中からは5,486点(10.8101kg)出土したが、後世の攪乱中の遺物も基本的には、本来の散布地に帰属するものと考えられる。内訳は以下の通りである。

なお、他に2号鍛冶跡として調査した周辺の土壌の一部サンプルから4.321kgの砂鉄が採取されている。

総重量中の比率は、炉壁13.5%(8.607kg)、大口径羽口2.2%(1.4049kg)、炉内滓58.8%(37.4768kg)、マグネタイト系遺物1.32%(0.8428kg)、流動滓12.54%(7.9952kg)、流出孔滓0.52%(0.3317kg)である。その他、工具付着滓、粘土質溶解物、炉材石・被熱石、黒鉛化木炭、再結合滓、椀形鍛冶滓(?),種別を特定できない小鉄滓類、鉄製品、炭、土器、石等が出土した。

上記の内、実測図掲載遺物は165点であり、分析遺物は15点である(第255～260図、PL176～178)。

各遺物の概要は以下の通りである。

炉内滓の内、含鉄M(◎)が1点(4.3g)、含鉄H(○)が2点(103.3g)、含鉄錆化(△)530点(3.7416kg)とメタル度の高い滓はほとんど含まれない。

送風装置に関わる大口径羽口は小破片のみであるため、口径等は復元できなかった。外周部に白色粘土質の補修土を被せた破片や、砂鉄焼結が観察される破片も認められる。マグネタイト系遺物の表面にも砂鉄焼結が観察される。

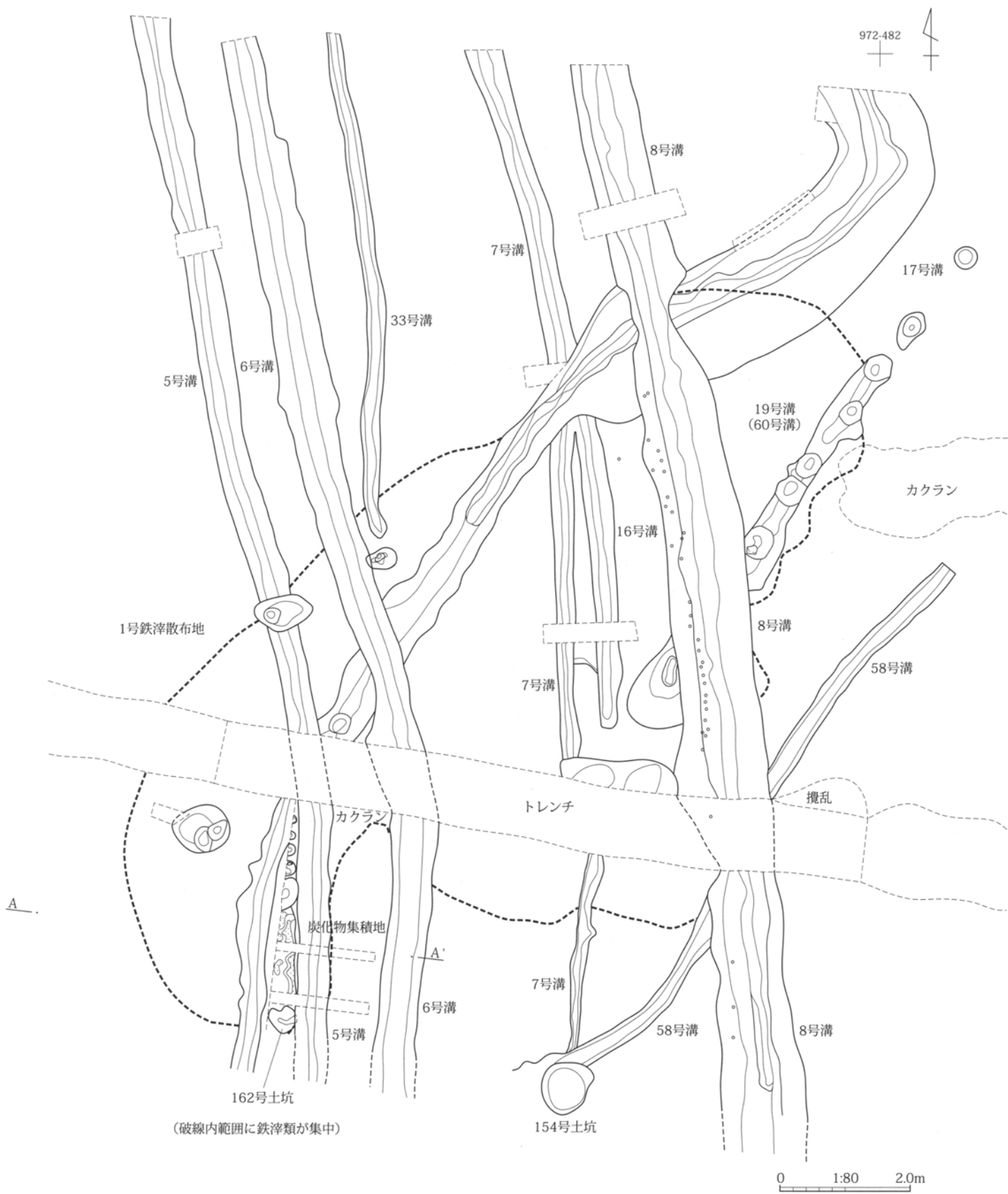
工具付着滓からは、残存部の内径の復元から直径1.7～2cm程度の丸棒状の工具が想定される。

炉壁は形状や表面の特徴から上段・中段・下段と大別され、さらにそれぞれが上半・下半とに分類される。

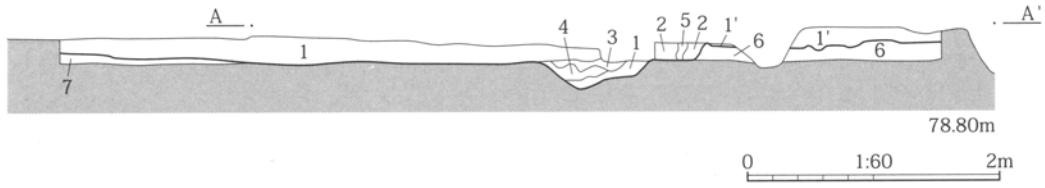
木炭は、同定の結果、クヌギ・コナラ属であることが判明した。

砂鉄の内、磁着するものは直径0.8mm未満が56.8g、0.8mm以上が156.8g、磁着しないもので直径0.8mm未満が381g、直径0.8mm以上が3478.8gである。ただし、現地でのサンプリング方法に起因して、地山中の砂鉄が大勢を占める可能性があり、必ずしも原料砂鉄を示す資料とは言えない。

土器は、土師器の小破片が主体であるが、先行する縄文土器小片や攪乱中の陶磁器類も含まれる。

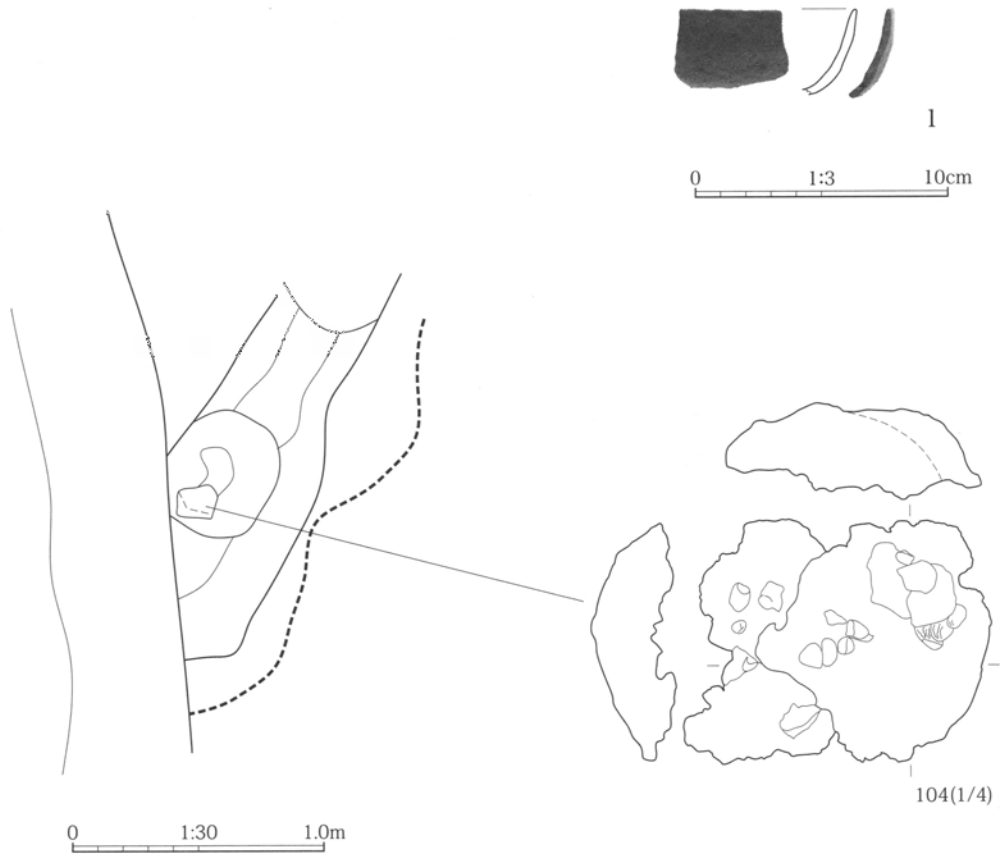


第 249 図 V区 1号鉄滓散布地 (1)



- 1 黒褐色土 上面に焼土粒を少量含む。As-C 軽石を含む。
- 1' 黄橙色土 As-C 軽石を含む。
- 2 褐色土 炭(径1cm)や焼土粒(径5mm)を均一に含む。
- 3 暗褐色土 粘質。中に砂層あり。
- 4 黄褐色土 粘質。ローム粒多少混入。
- 5 褐色土 2層より炭や焼土粒が多く混入。
- 6 黄褐色土 ソフトローム
- 7 暗黄褐色土 ハードローム

第250図 V区1号鉄滓散布地(2)



第251図 V区1号鉄滓散布地出土遺物、再結合滓出土状況

1号鉄滓散布地						
炉壁	大口径羽口	大口径羽口 (砂鉄焼結)	マグネタイト系遺物 (砂鉄焼結)	マグネタイト系遺物	炉壁 (補修)	粘土質溶解物 ガラス質薄、含鉄
上段上半 (被熱)	1, 2	18	30	36		H (○)
上段下半 (砂鉄焼結)	3, 4, 5	19, 20	31, 32	37, 38	42	45
中段上半 (発泡)	6, 7, 8	21, 22	33, 34	39, 40	炉壁 (含鉄) H (○) M (◎)	粘土質溶解物 ガラス質薄、含鉄
中段下半 (滓化)	9, 10, 11	23, 24	砂鉄焼結塊 28 分析資料No. 3	41	43	46
下段上半 (滓化強)	12, 13, 14		分析資料No. 4 工具付着滓	44	粘土質溶解物 (大口径羽口付き)	流出孔滓
下段下半 (滓付き)	15, 16, 17		35	47		
分析	1	1	1	1		
						流動滓
						48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63

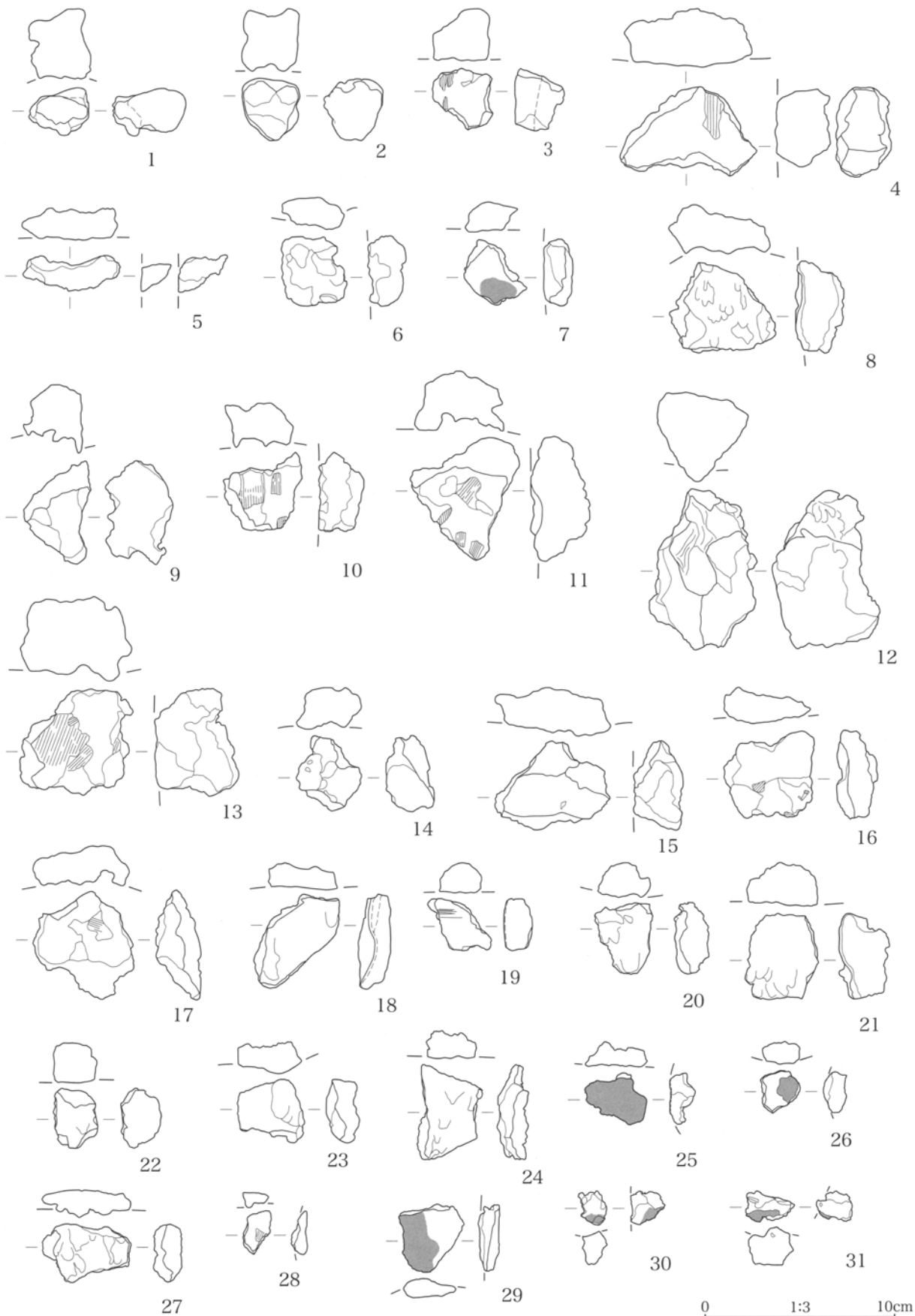
第 252 図 V区 1号鉄滓散布地出土製鉄関連遺物構成図 (1)

1号鉄滓散布地									
炉内滓 (炉壁付き)	炉内滓	炉内滓 (白色滓化)	炉内滓 (含鉄)		粘土質溶解物 ガラス質滓		碗型鍛冶滓 (中)?	碗形鍛冶滓 (小)?	再結合滓 (砂鉄付き)
			錆化 (△)	H (○)					
64 分析資料No 7	70	76	79	84	89	92	98	100	104 分析資料No 12
65	71		80	85		93			
66	72		81	86		94		101	
67	73	77				95			
68	74		82	87	M (◎)	96		102 分析資料No 10	
69	75	78	83	88		粘土質溶解物 ガラス質滓含鉄 H (○)		碗形鍛冶滓 (極小、含鉄) M (◎)	
1			91 分析資料No 8		1	97	99 分析資料No 9	103 分析資料No 11	105
									1
									被熱石

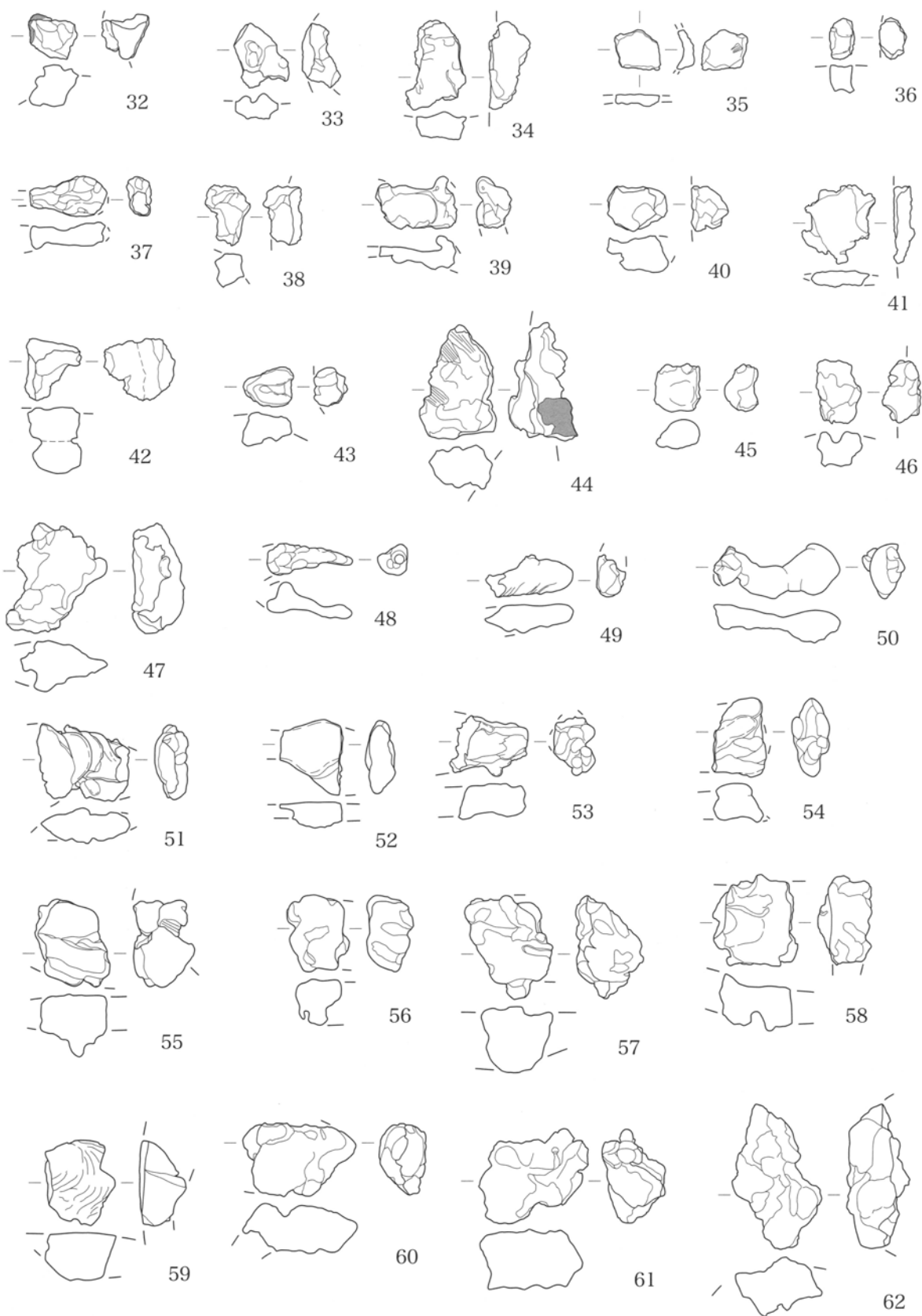
第 253 図 V区 1号鉄滓散布地出土製鉄関連遺物構成図 (2)

1号鉄滓散布地 攪乱一括									
	炉壁	大口径羽口	砂鉄(遺跡)	マグネタイト系遺物 (砂鉄焼結)	流動滓	炉内滓	炉内滓 (含鉄)	M (◎)	炉材石
上段上半 (被熱)	106, 107	115, 116	121 分析資料No.13	125 マグネタイト系遺物	130, 136	142, 143	149	156	162
上段下半 (砂鉄焼結)	108, 109	117	122	126 マグネタイト系遺物	131, 137	144	150	粘土質溶解物	黒鉛化木炭 H(O)
中段上半 (発泡)	110, 111	118, 119	123	127 工具付着滓	132, 138	145	H(O)	157	163 分析資料No.14
中段下半 (滓化)	112, 113	120		128 炉壁 (含鉄) H(O)	133, 139	炉内滓 (工具痕付き)	152	158	木炭 分析資料No.15-1
下段上半 (滓化強)					134, 140	146, 147	153	159	分析資料No.15-2 分析資料No.15-3 分析資料No.15-4
下段下半 (滓付き)	114		124		135, 141	炉内滓 (含鉄、砂鉄付き) 錆化(△)	154	160	分析資料No.15-5 164 鉄製品 (鍛造品)
分析			1			148	155	161	165
									2

第254図 V区1号鉄滓散布地出土製鉄関連遺物構成図(3)

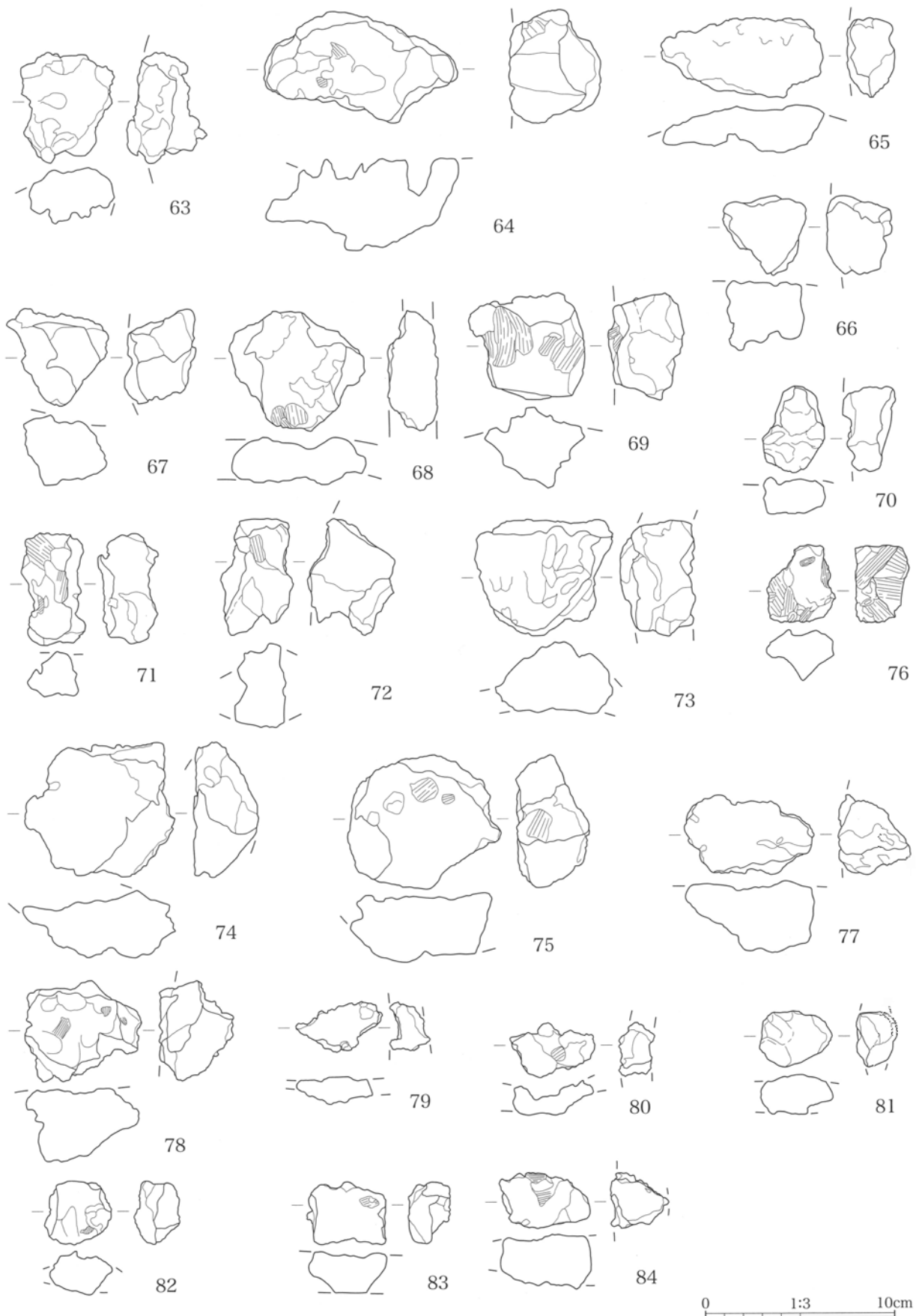


第255図 V区1号鉄滓散布地出土製鉄関連遺物(1)

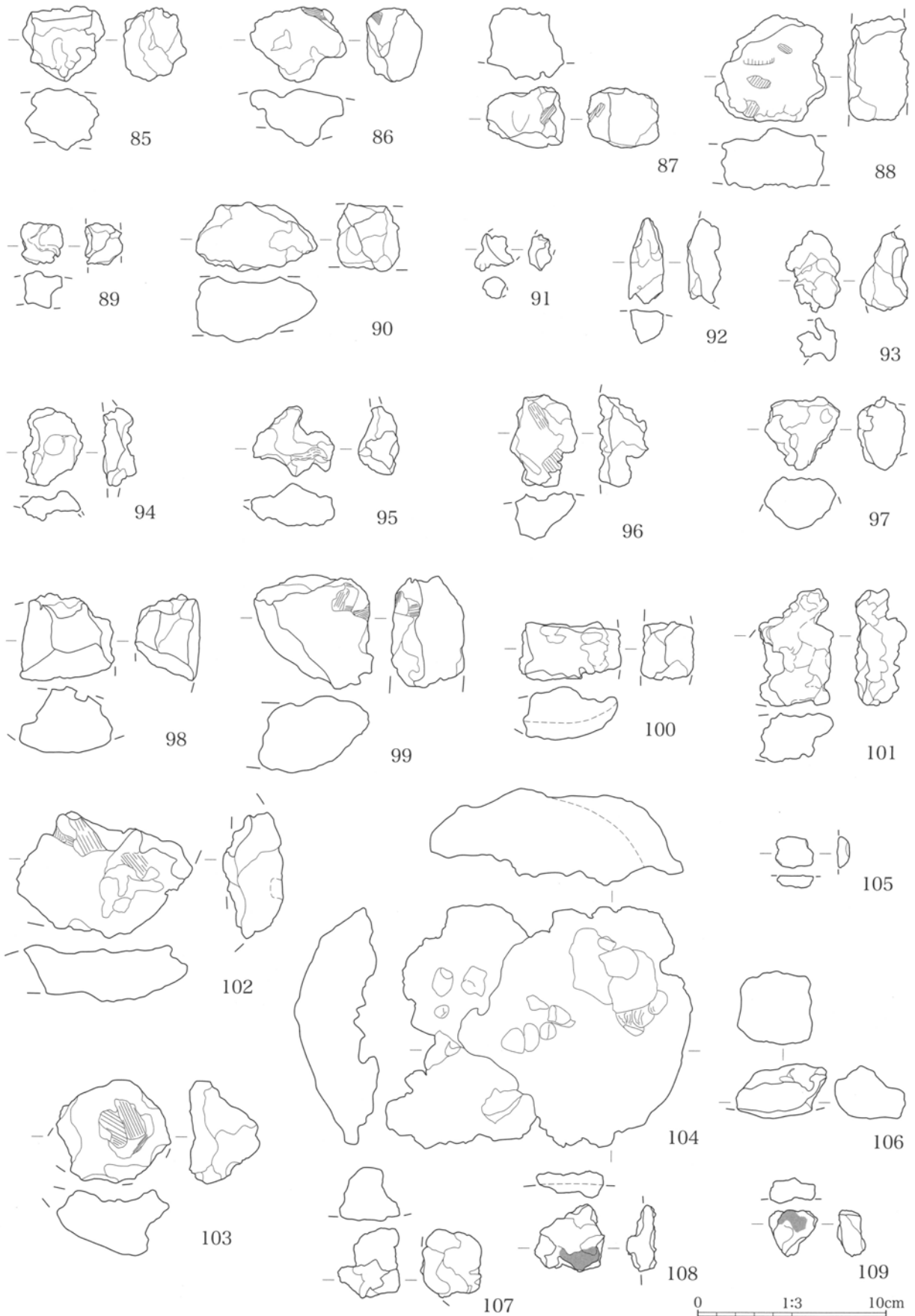


0 1:3 10cm

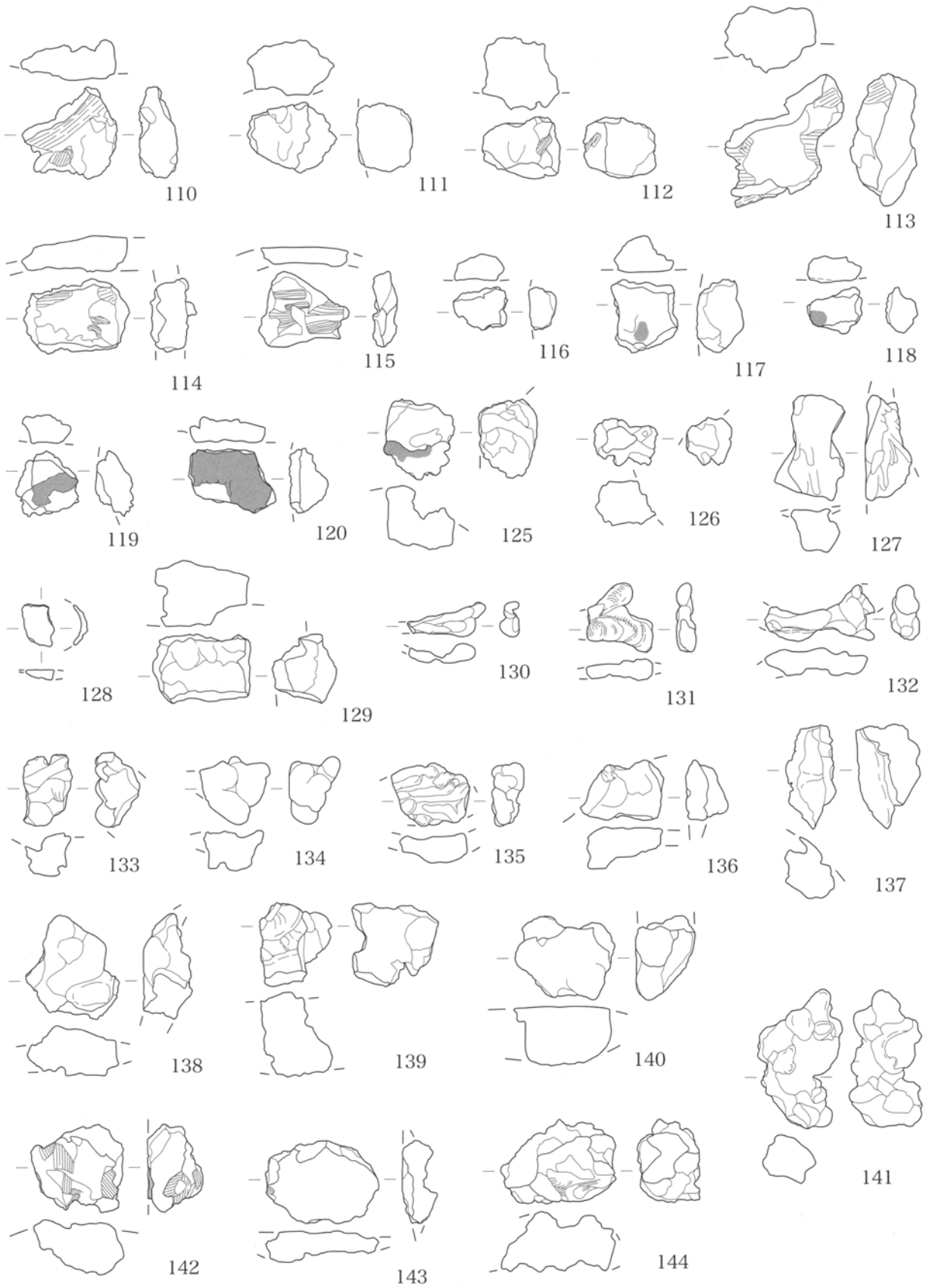
第 256 図 V区 1号鉄滓散布地出土製鉄関連遺物 (2)



第 257 図 V区 1号鉄滓散布地出土製鉄関連遺物 (3)

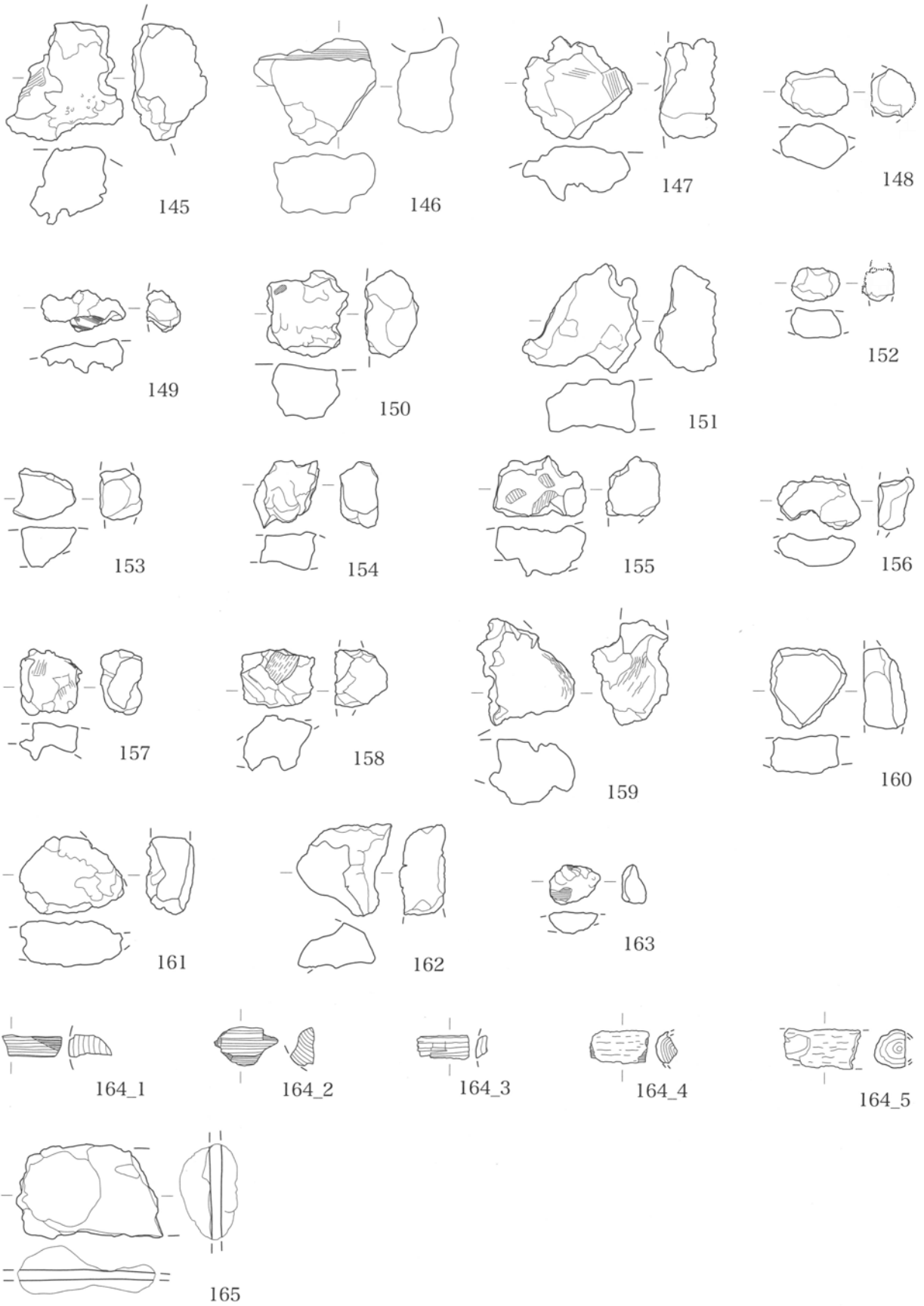


第 258 図 V区 1号鉄滓散布地出土製鉄関連遺物 (4)



0 1:3 10cm

第259图 V区1号鉄滓散布地出土製鉄関連遺物(5)



第260図 V区1号鉄滓散布地出土製鉄関連遺物(6)

表9 V区1号鉄滓散布地出土製鉄関連遺物観察表 (地区 A: V区1号鉄滓散布地、B: V区1号鉄滓散布地攪乱一括)

No	遺物名	地区	計測値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	備考	分析番号
			長さ	幅	厚さ					
1	炉壁 (上段上半、被熱)	A	2.3	3.1	3.7	19.5	1	なし	内面が被熱して、薄く発泡した炉壁片。左側部はひび割れからの発泡状態で、下面は粘土単位の接合部。胎土には僅かに滓片やスサを混じえる。	
2	炉壁 (上段上半、被熱)	A	3.2	3.1	3.2	21.6	1	なし	内面が灰褐色に被熱した炉壁片。上面を除く側面と裏面は破面となる。胎土の練りが甘いためか、小さなひび割れが内面寄りには多め。ひび割れの一部に砂鉄が焼結する。胎土中にはスコリアが目立ち、スサは内面寄りに集中する。	
3	炉壁 (上段下半、発泡)	A	3.1	3.0	2.7	16.5	1	なし	内面沿いが1.5cm前後の厚さに発泡した炉壁片。内面には浅い木炭痕が残る。側面は全面破面で、一部はひび割れからの被熱により滓化・発泡している。胎土はやや砂質で、短いスサが数多く混和されている。色調は灰色主体。	
4	炉壁 (上段下半、発泡)	A	4.1	6.8	3.0	44.9	1	なし	内面全体が厚く発泡した炉壁片。発泡部分の最大厚みは2cmにも達する。内面は全体に発泡しており、木炭痕が点在する。右寄りの壁表面には、微細な滓の垂れが始まっている。側面は全面破面。裏面には多数のスサが横方向主体に露出する。	
5	炉壁 (上段下半、発泡)	A	1.4	5.1	1.6	10.2	1	なし	内面が薄く滓化・発泡した炉壁片。表皮の一部は、紫紅色が強い。側面から裏面は全面破面。胎土はスサを多量に混じえたる粘土質。被熱状態は褐色から淡紫紅色。胎土自体は構成No.18～24の大口徑羽口に似る。	
6	炉壁 (中段、上半、砂鉄焼結)	A	3.6	3.3	1.9	18.1	2	なし	内面が滓化して、垂れが生じ始めた炉壁片。滓化した表皮は青灰色。胎土の練りが甘いためか、ひび割れも確認される。下面は水平に途切れ、粘土単位の接合部か。それ以外の側面から裏面は破面となる。胎土はスサを混じえたる粘土質。裏面の被熱はやや紫紅色気味。	
7	炉壁 (中段、上半、砂鉄焼結)	A	3.2	2.9	1.5	11.6	2	なし	内面が滓化して、薄い砂鉄焼結部を残す炉壁片。砂鉄焼結部の厚みは最大0.3cmほどである。側面から裏面は全面破面。炉壁内面沿いは下半部ほど発泡が強い。胎土には多量のスサを混じえる。スサの一部は灰褐色の灰化状態で残る。裏面の被熱は褐色。	
8	炉壁 (中段、上半、砂鉄焼結)	A	4.8	5.3	2.3	45.7	3	なし	内面が強く滓化して黒色ガラス化した炉壁片。垂れが目立ち、表皮の一部に石英質の半溶解物が点在する。側面から裏面は全面破面。裏面は横断面形が小さな波状で、スマキ痕の可能性も残る。胎土はスサや石英質の石粒に加えて、軽石を含む粘土質。大口徑羽口の先端部寄りの表皮片の可能性もあり。	
9	炉壁 (中段下半、滓化)	A	5.2	3.1	3.0	30.5	1	なし	全体が発泡した炉壁内面破片。内面は黒色ガラス化しており、上下に強い木炭痕が残る。胎土部分は褐色気味の発泡状態で、破面には中小の不規則な気孔が露出する。側面並びに裏面は全面破面。胎土の発泡状態は構成No.12、13と似る。	
10	炉壁 (中段下半、滓化)	A	3.3	4.1	2.2	25.4	1	なし	内面が滓化して木炭痕が目立つ炉壁片。滓化状態は黒色から褐色と幅を持つ。胎土はスサを混じえる砂質土。被熱が強く、胎土部分は灰色となる。	
11	炉壁 (中段下半、滓化)	A	6.2	5.4	2.7	73.8	1	なし	内面に厚く滓層が形成された炉壁片。滓層は結晶が発達し、木炭痕も目立つ。炉壁内面沿いは最大1.5cm程度が発泡する。側面は全面破面。裏面はひび割れの目立つ剥離面で、全体に皿状となる。ひび割れに沿って滓が貫入する。やや炉床の肩部沿いの炉壁片か。	
12	炉壁 (下段上半、滓化強)	A	8.5	5.6	5.3	136.0	2	なし	全体が分厚く発泡して内面が流れじわを持つ滓層に覆われた炉壁片。側面は全面破面で裏面は剥離面。内面は黒色ガラス質で垂れが激しい。発泡部分の最大厚みは5cm弱。下半部の裏面側は弧状の平面形で、掘り方に沿ったものか。	
13	炉壁 (下段上半、滓化強)	A	6.1	5.6	4.5	112.5	1	なし	分析資料No.1 分析資料詳細観察表参照。	No.1
14	炉壁 (下段上半、滓化強)	A	3.7	3.5	2.1	25.0	1	なし	内面が錆色をした小塊状の滓に覆われた炉壁片。滓層は気孔や小さな木炭痕を持ち、上半部ほど白くなっている。滓自体の風化のためか、こうした風化状態は構成No.11と15、16とも共通する。炉壁部分は僅かにスサ入りで、側面は全面破面。	
15	炉壁 (下段下半、滓付き)	A	4.3	6.1	2.7	53.3	1	なし	内面に1.5cm程の厚度で滓層が形成された炉壁片。側面は全面破面で滓層は風化が進んでいる。滓中の気孔はやや肥大気味。表面には木炭痕らしき窪みが残るが不明瞭。裏面に薄く残る炉壁土はややボンボンしており、粉殻痕を残す。炉壁としては、体部ではなく床面寄りか。	
16	炉壁 (下段下半、滓付き)	A	4.4	4.5	1.7	36.8	3	なし	内面に滓層が広がる炉壁片。上手側は発泡気味で、下手側は盛り上がった滓層となる。滓層には気孔や微細な木炭痕が残る。炉壁部分の側面は全面破面で裏面は剥離面の可能性あり。胎土はやや砂質土で構成No.15と近い。左側の裏面には滓層が突出する。	
17	炉壁 (下段下半、滓付き)	A	5.5	5.3	2.3	41.5	3	なし	全体に構成No.16と似た外観を持つ炉壁破片。内面は錆色に薄く滓化しており、中段部分で段をなしている。内面左端部は風化気味の滓層。炉壁部分の側面は破面主体で、裏面は剥離面となる。薄い炉壁土の各所に内面からの滓が貫入する。	
18	大口徑羽口	A	3.8	3.8	1.2	23.5	3	なし	外面が平滑な黒色ガラス質に滓化した大口徑羽口の外周部破片。側面は全面破面で、内面は剥離面となる。胎土は厚み方向で内外の2層化する。外側はスサを混じえたる白っぽい粘土質で、通常の大口徑羽口の胎土と共通する。内側は粉殻を多量に混じえたる胎土で、赤褐色に被熱している。本資料は外周部に白色粘土質の補修土を被せた大口徑羽口と推定される。	
19	大口徑羽口	A	2.0	2.5	1.5	9.2	1	なし	大口徑羽口の外周部小破片。外面はゆるやかな弧状の断面形を示し、灰白色に被熱しており、一部に発泡した滓が固着する。胎土は構成No.18と同様、内外の2層に分かれており、外周部沿いの0.4cm程の厚みがスサを混じえたる白色の粘土質、内面沿いには粉殻を混じえたる赤褐色の胎土が残される。大口徑羽口の基部寄りの破片か。	
20	大口徑羽口	A	3.0	3.7	1.8	13.7	3	なし	外面が流動状に滓化した大口徑羽口の外周部破片。外面のみ生きており、側面から内面は全面破面。外面は流動状で、左側中央部で右方向に向かう小単位の流動滓が突出する。流動滓の一部は結晶が発達して、砂鉄焼結塊様。胎土はスサや石英質の石粒を含む強い粘土質。粘土質のためかひび割れが発達している。内面側は被熱が弱く、やや酸化色。	
21	大口徑羽口	A	4.6	3.9	2.3	35.8	1	なし	分析資料No.2 分析資料詳細観察表参照。	No.2
22	大口徑羽口	A	2.3	3.0	2.1	14.5	2	なし	大口徑羽口の外周部小破片。外面は黒褐色に滓化している。側面から外面は全面破面。胎土はスサや石英質の石粒に加えて、灰白色のスコリアを含む粘土質。微細なひび割れも生じている。内面は明るい褐色で、表皮は欠落しているが、羽口の厚みのある程度反映している。現状で1.9cmを測る。	
23	大口徑羽口	A	3.4	3.0	1.6	16.1	2	なし	外面の右半分が強く滓化した大口徑羽口の外周部破片。側面4面と内面側が明瞭な破面となる。外面左側は表面の滓層が脱落して、密集した気孔が露出する。外面は短軸方向で弧状。胎土はスサや石英質の石粒を多量に混じえる粘土質。	

No	遺物名	地区	計測値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	備考	分析番号
			長さ	幅	厚さ					
24	大口径羽口	A	3.1	4.9	1.6	18.4	3	なし	外面が黒色ガラス質に強く滓化した大口径羽口。先端部寄りの外周部破片。側面4面と内面は全面破面。外面の滓表面の一部は光沢を持つ。強く滓化しているためか、石英質の石粒の部分が突出気味。胎土はスサや石粒を混じえる粘土質。羽口先端部の肩部沿いの破片か？	
25	大口径羽口 (砂鉄焼結)	A	3.2	2.6	1.4	7.9	3	なし	外面に0.7cm程の厚みに砂鉄が焼結した大口径羽口の外周部破片。砂鉄焼結部は羽口外周部に沿って弧状にとりまいている。側面から裏面に破面。砂鉄焼結部は還元が進み、溶着から一部は流動気味。羽口胎土はスサ入りの強い粘土質。	
26	大口径羽口 (砂鉄焼結)	A	2.0	2.1	1.2	4.2	2	なし	外面右側に1.2cm程の範囲で砂鉄が焼結した大口径羽口の外周部小破片。焼結した砂鉄の厚みは0.3cm前後。砂鉄粒子やや粗めで、結晶がきらきらと輝いている。粒径は0.12mm大から0.2mm大を測る。平均粒度は0.15mm大前後。羽口胎土はスサや石英質の石粒を含む粘土質。	
27	大口径羽口 (砂鉄焼結)	A	4.7	3.1	1.5	16.0	3	なし	外面に細いツララ状の垂れが始まっている大口径羽口の外周部破片。滓部は青黒く、部分的に砂鉄粒子の広がりか確認できる。各粒子はやや粗く光沢を持つ。羽口側面は全面破面、内側は破面と粘土単位の接合痕が混在する。羽口胎土はスサ入りの強い粘土質。構成Na 20に近い要素を残す。	
28	砂鉄焼結塊	A	2.3	1.5	0.8	2.4	4	なし	分析資料No.3 分析資料詳細観察表参照。	No.3
29	砂鉄焼結塊	A	3.3	3.3	1.0	15.4	4	なし	薄板状の砂鉄焼結塊。最大厚みは1.1cmを測る。表面はやや顆粒状で、中央部がやや盛り上がる。側面は比較的直線状の破面主体。裏面は炉壁表面又は羽口外面の剥離面。砂鉄自体の還元は進んでおり、個別の粒子を区別しにくい。構成Na 41と似た条件下で生成か。イガイガした表面感をもつマグネタイト系遺物の小片。最大厚みは1.9cm程。上面はやや波状で、側面はイガイガした破面からなる。結晶が発達して部分的に青光りしており、下半の側面を中心に砂鉄焼結部が残る。小範囲に残る下面の一部は剥離面か。	
30	マグネタイト系遺物 (砂鉄焼結)	A	1.3	1.8	1.6	5.2	3	なし	前者と似た外観を持つマグネタイト系遺物の小片。上面は小さな波状に滓化しており、粒状の突起が残る。側面は全面破面で右側部は直線状の滓部。残る3面には砂鉄粒子が確認される。破面の一部は焼結して青光りする。下面は半流動状で明瞭な破面とはならない。	
31	マグネタイト系遺物 (砂鉄焼結)	A	2.5	1.6	2.0	8.9	4	なし	左側部に砂鉄焼結部を残すマグネタイト系遺物の小片。上面から下手側の側面は半流動状で、それ以外の側面4面は破面となる。破面の半分以上に被熱した砂鉄が顔を出す。下面は炉壁表面からの剥離面で、かすかにスサ痕が認められる。表面にはやはり砂鉄が焼結する。色調は青黒く、破面の一部は青光りする。	
32	マグネタイト系遺物 (砂鉄焼結)	A	2.4	2.0	2.1	13.7	4	なし	表面が小さなツララ状に垂れの生じたマグネタイト系遺物小片。側面は不規則ながらシャープな破面が連続している。下面はやや凹凸の激しい炉壁土の剥離面。特に集中はしていないが、各所に砂鉄焼結部が散在する。破面左端部には、炉壁土に含まれていた石英質の石粒の半溶解物が認められる。横断面形がやや弧状で、大口径羽口の外周部で生成か。	
33	マグネタイト系遺物 (砂鉄焼結)	A	2.4	3.3	1.3	19.0	5	なし	分析資料No.4 分析資料詳細観察表参照。	No.4
34	マグネタイト系遺物 (砂鉄焼結)	A	4.5	3.0	1.4	31.7	5	なし	内面に樋状の平滑面を残す工具付着滓の小片。滓部の厚みは0.5cm程で、外面はごつごつした表面感を持ち、小さな窪みには木炭痕も確認できる。外面下半の1/3は一部が欠落しており、地面等に接した面も。破面には僅かに気孔を残す。工具自体は丸棒状で、直径は1.7cm強。構成Na 128の工具付着滓より本資料の方が厚い。	
35	工具付着滓	A	2.2	2.0	0.7	4.6	2	なし	上面が半流動状となり、右方向に流れ始めているマグネタイト系遺物の小片。滓の両側部は直線状の破面となる。下面は不規則な剥離面で、石英質の石粒が点在し、炉壁表面からの剥離物の証拠を残す。上手側の側部は砂鉄焼結様。	
36	マグネタイト系遺物	A	1.3	2.0	1.4	6.4	5	なし	0.5cm程の小単位の流動滓が右方向に重層したマグネタイト系遺物。上下面と短軸側の側面が生きており、長軸側の両面に小破面を残す。主破面は左側部で、右側部で終末する。下面にも流動単位は筋状に確認され、側面沿いに順次重層したことが読みとれる。滓は青黒く、磁着が強い。	
37	マグネタイト系遺物	A	3.9	2.0	1.1	13.1	6	なし	上手側の側部に構成Na 37と同様の細い重層単位を残すマグネタイト系遺物小片。上下面と上手側の側面は生きており、右左の側部と下手側は破面となる。基本的には右方向に向かい流動気味。下手側の側面には炉壁土由来の石英質の石粒が点在する。左右の破面には風化のためか、粗い結晶が露出する。大口径羽口と炉壁の隙間で形成された可能性大。	
38	マグネタイト系遺物	A	2.2	3.0	1.6	13.6	6	なし	上面は不規則な樋状で、下面が0.5cmほどの幅を持ち、重層したマグネタイト系遺物。上下面と上手側の側面のみが自然面、それ以外は小破面が連続する。破面の一部に大口径羽口由来の石英質の石粒が確認される。	
39	マグネタイト系遺物	A	4.0	2.6	1.5	14.6	5	なし	上面が小さな波状に滓化したマグネタイト系遺物破片。上面右上手には、大口径羽口由来の石英質の石粒が数多く突出する。側面は基本的には不規則な自然面、上面表皮寄りに小破面が一周する。下面は不正な碗形の剥離面。この部分は滓表皮が脱落し、大型の結晶が露出する。右側部の半分以上が結晶の露出部。	
40	マグネタイト系遺物	A	3.0	2.2	1.9	17.9	5	なし	扁平で錆色の強いマグネタイト系遺物破片。上面はゆるやかな丘状で、下面は0.5cm幅以下の小単位の流動滓が数多く重層する。上面は自然面、側面は不規則な破面となる。下面は炉壁表面からの剥離面。左側の側部には小単位の流動滓の端部が突出している。磁着が強く、炉内滓様の外観ながら、マグネタイト系遺物と判断できる。構成Na 29のような砂鉄焼結塊から発達したものか。下面に残るスジ状の痕跡はスサ痕である。	
41	マグネタイト系遺物	A	3.4	3.9	0.8	17.0	7	なし	発泡した粘土質の層が重層した補修炉壁片。上面は強い木炭痕を残す自然面。側面3面はシャープな破面。下面は発泡した炉壁土で、剥離面様の破面。炉壁土の土質が前後で違うためか、発泡しながらも両者は大きく異なる。中間層には黒色ガラス質滓が介在する。当初の壁面は、淡赤褐色に発泡し、補修土は灰白色に発泡している。補修羽口の可能性もあり。	
42	炉壁 (補修)	A	3.1	2.7	3.3	14.3	1	なし	内面にシワが生じているガラス質の炉壁片。側面から裏面は全面破面となり、木炭痕が散在する。外見上は粘土質溶解物に類似し、芯部に小範囲の含鉄部を持つ。ガラス質滓の下面には炉壁土由来の石英質の半溶解物が多数認められる。	
43	炉壁 (含鉄)	A	2.0	2.5	1.6	8.8	2	H(O)		

No	遺物名	地区	計測値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	備考	分析番号
			長さ	幅	厚さ					
44	粘土質溶解物 (大口徑羽口付き)	A	3.8	5.6	2.0	59.8	6	なし	裏面下端に大口徑羽口の先端部寄りの小片を残す粘土質溶解物。内面は1.5cm大を超える木炭痕が見られ、浮化している。裏面上半は0.5cm幅以下の細かい流動単位が複雑に重層している。表面の一部にかすかな工具痕らしき種々の窪みを残す。流動状の滓部はマグネタイト化しているため磁着が強い。また一部の隙間に砂鉄が焼結して粒状に発泡している。大口徑羽口側は外周部沿いで最大厚みは1.1cmを測る。胎土にはスサを混じえる。外周部は僅かに弧状で部位としては大口徑羽口の左側先端部寄り。	
45	粘土質溶解物 (含鉄)	A	2.2	2.3	1.4	10.0	3	H(○)	黒色ガラス質に浮化した粘土質溶解物の小片。表面はきれいな流動状で微細な流れじわが認められる。上下方向の端部は破面となる。破面は光沢を持つ黒色ガラス質。左上手側の肩部には黒鉛化木炭の小片が固着する。	
46	粘土質溶解物 (含鉄)	A	2.1	3.6	1.6	14.8	3	M(◎)	表面の凸凹の激しい粘土質溶解物の小片。内面の中央部には窪みがあり、左側部寄りには滓の小突起がある。側面から裏面は全面破面。全体がガラス質になっているが、光沢のあるガラス質と無光沢で炉壁土由来の石英質の半溶解物の残る部分の両者が認められる。表面の各所に2次元的酸化土砂あり。含鉄部は下半の志部。	
47	流出孔滓	A	4.5	5.5	2.5	70.1	5	なし	右方向に流動するやや扁平な流出孔滓の先端部破片。上面には流れじわが生じ、表面は部分的に濃い紫紅色。短軸方向の断面形は種状。上下面が生きており、左側部のみが破面。下面には多量の炉壁粉をかみ込む。	
48	流動滓	A	4.3	1.5	1.5	9.1	5	なし	幅0.5cm以下の細かい単位流動滓が重層してツララ状になった流動滓破片。表面は平滑で、それぞれの流動単位がかなり明瞭である。左側のみが破面。滓表皮が濃紫紅色でやや光沢あり、磁着は強く、マグネタイトぎみの炉内流動滓である。類似する滓は構成No.37、38、並びに44の一部である。	
49	流動滓	A	4.4	1.9	1.4	11.2	1	なし	最大幅1.8cm程のガス質の流動滓破片。左側部のみが破面となる。上面から側面はきれいな流動状で、下手側は流れじわが強い。上手側の左寄りには他の流動単位の脱落痕。下面は滓片や木炭痕を残す種状。	
50	流動滓	A	6.4	2.5	1.7	27.3	1	なし	右方向に緩やかなS字状にうねる流動滓破片。左側部のみが小破面となる。上面は平滑で、表皮の7割方が風化のためか剥離している。滓の縦断面形は扁平。下面は右方向に向かい波状に上し、その表面には炉壁粉の圧痕が連続する。	
51	流動滓	A	4.4	3.3	1.3	29.0	2	なし	右方向に向かい扁平に広がっている流動滓破片。上面と短軸方向の両側面が生きており、長軸の両端部は破面となる。下面は破面と自然面が混在する。上面は流れじわが強い。構成No.47の流出孔滓とやや似た横断面形を持つが、流動方向は異なる。	
52	流動滓	A	3.1	3.6	1.3	24.9	2	なし	流動性の良い滓が右方向に広がっている流動滓破片。扁平で短軸方向の断面形は浅い皿状。長軸の両端部は破面。皿状の下面は粉炭痕が残る。流出孔滓の可能性もあり。	
53	流動滓	A	3.5	2.7	1.6	24.3	1	なし	幅0.7cm以下の細かい流動単位が重層した流動滓破片。下面と下手側の側面が生きており、左側部が主破面となる。滓は微細な気孔を残し、やや粘土質のためか磁着度は極めて弱い。また破面の色調が褐色となっている点も粘土質の強さをうかがわせる。滓質こそマグネタイト化はしていないが、生成位置は大口徑羽口の周辺であろう。	
54	流動滓	A	3.8	2.6	1.7	27.8	4	なし	分析資料No.5 分析資料詳細観察表参照。	No.5
55	流動滓	A	3.3	4.1	3.1	59.6	3	なし	中小の流動単位が右方向に向かい重層した流動滓破片。上面と側面の一部が生きている。左右の側面が主破面。次々と上面に乗るような形で滓が重層しており、下面の滓には木炭痕がやや目立つ。全体に風化が進み、表皮の脱落部分は灰黒色となっている。	
56	流動滓	A	3.0	3.8	2.2	31.6	2	なし	破面や内部に木炭痕の目立つ流動滓破片。木炭痕は1.5cm前後。上下面と上手側の側面が生きており、左右の側面と下手側が破面となる。滓中には気孔や残す。構成No.55と同様、滓表面の風化が進み、部分的に灰黒色気味。	
57	流動滓	A	3.8	5.0	3.3	71.4	3	なし	滓の重層と木炭痕の目立つ流動滓破片。上下面と上手側の側面の一部が生きており、それ以外が破面となっている。滓質や木炭痕の大きさなどは構成No.55～56と似る。下面には灰色の炉壁粉が点々と固着する。流動滓の表皮の一部は紫紅色。	
58	流動滓	A	4.0	4.5	2.2	72.9	3	なし	上面が平滑で、僅かに流れじわを持つ流動滓破片。扁平な厚板状で、上下面と上手側の側面が生きている。表皮はくすんだ紫紅色。側面や下面には炉壁粉の圧痕が目立ち、下面側は灰色の炉壁粉を目立つてかみ込んでいる。一部、滓片や焼結砂鉄も確認される。	
59	流動滓	A	4.2	3.4	2.4	35.4	1	なし	分析資料No.6 分析資料詳細観察表参照。	No.6
60	流動滓	A	5.7	3.7	2.3	53.4	3	なし	半流動状でややガス質の流動滓破片。上手側の側面と左側部下端のみが破面となる。上面はガス圧により不規則に盛り上がり、一部が陥没している。下面は炉壁土または土砂の圧痕となる。滓の質感は構成No.47並びに62～63と似る。	
61	流動滓	A	5.2	4.0	2.9	55.3	4	なし	粘土質ぎみの流動滓破片。上面は半流動状で光沢を持ち、くすんだ紫紅色。下面はやや種状で、粘土質の滓の流動単位が重層ぎみ。大きな破面はなく全体が自然面化しているが、左側部は破面であった可能性が高い。表面や小破面にも炉壁土由来の石英質の石粒が目立つ。	
62	流動滓	A	4.2	6.6	2.7	79.5	4	なし	全体にイガイガした流動滓の先端部破片。上面の左手中央部のみがやや流動性が高く、それ以外には微細な凸凹が目立つ。主破面は左側のみ。下面は破面又は剥離面。炉外流出滓の端部片か。構成No.63と全体に似る。	
63	流動滓	A	4.4	5.8	2.8	91.8	4	なし	ゴツゴツした半流動状の流動滓破片。左側部と下面が破面となる。上面はやや扁平ながら小さな凸凹が目立ち、下面は接続する木炭痕が残されている。気孔は不規則。炉外流出滓の端部寄りの破片か。	
64	炉内滓 (炉壁付き)	A	10.3	5.1	4.7	260.1	5	なし	分析資料No.7 分析資料詳細観察表参照。	No.7
65	炉内滓 (炉壁付き)	A	8.5	4.1	2.3	69.0	5	なし	裏面に灰色の炉壁半分が薄く固着した炉内滓破片。左右方向に扁平で、下手側の側面のみが破面となる。上面上手寄りには半流動状の滓部で、下手寄りには結晶の発達した小破面が連続する。酸化土砂の表面には砂鉄が点々と固着する。裏面の炉壁半分は構成No.68と近い。	
66	炉内滓 (炉壁付き)	A	4.0	4.2	3.5	87.9	5	なし	約3cmの厚さを持つ破面に囲まれた炉内滓破片。上手側の側面に炉壁の半溶解物が固着する。滓は中小の気孔を僅かに残し、風化が極めて進んでいる。結晶は発達している。炉底塊の小割り破片か。	
67	炉内滓 (炉壁付き)	A	4.7	4.9	3.7	91.2	3	なし	下面に灰色の炉壁土を残す炉内滓破片。上面の一部のみが自然面で、シャープな破面が連続する点は構成No.66と基本的に同じ。滓は中小の気孔を残し破面は風化気味。炉壁土の一部は黒色ガラス質化している。	

No.	遺物名	地区	計測値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	備考	分析番号
			長さ	幅	厚さ					
68	炉内滓 (炉壁付き)	A	7.0	6.1	2.3	108.9	2	なし	内面に2cmほどの厚みを持つ滓部を残す炉内滓破片。下面には灰色の炉壁粉が面的に張り付いている。上面は波状で全体的に風化が進み、灰白色となっている。気孔は部位により粗密あり。結晶が発達していることから、炉壁炉底の破片と推定できる。	
69	炉内滓 (炉壁付き)	A	5.9	5.4	3.7	126.0	2	なし	右側部に炉壁部分を残す炉内滓破片。上面の右手より短軸側の両端部はシャープな破面となる。上面には3cm大を超える木炭痕が並び、滓は2.5cmほどの厚みを持つ。滓の結晶が発達気味で、灰白色に風化している。表面には黒色ガラス質滓が点在する。炉壁胎土は粉砕入りの砂質土。	
70	炉内滓	A	3.3	4.5	1.9	38.5	2	なし	裏面に灰色の炉壁土が薄く固着した炉内滓破片。側部は全面破面。表面は凸凹が激しく、上半部は炉壁土をかみ込んでいる。滓は中小の気孔を残し風化気味。炉床寄りの炉内滓破片か。	
71	炉内滓	A	3.0	5.9	2.2	51.8	3	なし	側面や内面に大型の木炭痕が目立つ典型的な炉内滓破片。自然面はほとんどなく、木炭痕か破面によって占められている。右側部の結晶が発達して光沢を持つ。表面の各所に錆色が目立つが二次的な酸化土砂。	
72	炉内滓	A	3.8	5.9	4.4	89.6	4	なし	破面に囲まれた不規則な形状の炉内滓破片。上面の一部のみ木炭痕の残る自然面。中小の気孔が目立ち、左側部の木炭痕は4cm大。上手側部の中央付近には砂鉄が焼結する。上面に残る表皮と全体感から、炉底塊の表皮破片と判断される。	
73	炉内滓	A	7.2	6.0	3.5	143.4	2	なし	ややガス質の炉内滓破片。上面と右側部が生きている。それ以外は全体が破面となる。滓はガス質で微細な気孔が内外面に目立つ。浅い木炭痕が各面に残される。下面中央部の結晶が発達する。	
74	炉内滓	A	8.0	6.9	3.5	241.3	5	なし	比重の高いやや緻密な炉内滓破片。上面右手肩部と下面上手側が生きており、それ以外はシャープな破面となっている。破面の結晶が発達してザラザラした表面感を持ち、部分的に光沢を持つ。下面は不規則な塊形で、小さな窪みや1cm以下の粘土質溶解物が点々と固着する。全体感はやや緻密な塊形に似るが、結晶の発達状態から見て炉内滓とした。構成No.75と極めて類似した外観を持つ。	
75	炉内滓	A	8.2	7.0	3.4	250.1	4	なし	上面の上手側から側面の半分以上が生きている炉内滓破片。結晶が発達し破面がシャープな点や、側面の一部に粘土質溶解物が固着する点などが構成No.74と共通する。全体感はやや緻密な塊形に似るが、結晶が発達していることから炉内滓とした。炉内滓とすれば構成No.74、75とも炉底塊の肩部片の可能性を持つ。	
76	炉内滓 (白色滓化)	A	3.6	4.0	2.4	30.7	2	なし	外面に3cm大を超える木炭痕が連続する炉内滓破片。滓は粘土質が強いので風化が進み、部分的に灰白色となっている。また木炭痕の一部には黒鉛化木炭が小範囲で遺存する。軽量で滓らしい部分が上手側肩部にのり。炉壁に極めて近い炉内滓である。	
77	炉内滓 (白色滓化)	A	6.7	4.1	3.7	97.8	2	なし	表面全体が灰色から灰白色に風化した炉内滓破片。下手側側部には一部炉壁土が依存する。上手のみ生きている。側部は全面破面。下面は炉壁土の剥離面。滓は中小の気孔が残り、粘土質の強い部分は風化がより進んでいる。滓質や類的には構成No.68～70と類似する。下面の下手側から上面肩部にかけて炉壁由来の粘土質溶解物の残る炉内滓破片。上面は波状の滓表面で、小さな瘤状の錆ぶくれが認められる。側部は基本的に破面となる。滓部は結晶が肥大して風化が進み灰白色になる。特に上手側の側部の風化が激しい。やや炉底部寄りの炉壁表面で生成か。	
78	炉内滓 (白色滓化)	A	6.1	4.9	3.7	102.6	4	なし	酸化土砂に囲まれた扁平な炉内滓破片。上面は右方向に伸びた棒状で、下手側の側部には木炭痕が残る。下面は剥離面の可能性あり。全体に微細な凹凸があり、一部に砂鉄焼結部が確認されることから、砂鉄焼結部から発達した含鉄の炉内滓と推定される。右半分の磁着が強く、砂鉄の影響が考えられる。	
79	炉内滓 (含鉄)	A	4.0	2.4	1.5	18.2	6	錆化 (△)	薄い酸化土砂に覆われているが、やや波状で磁着が強いので、マグネサイト気味の炉内滓と判断される。上面の中央部は大きく窪み、木炭痕と判断される。側面は破面で下面は炉壁表面からの剥離面。中核部に含鉄部は想定される。僅かに砂鉄の固着も確認できる。	
80	炉内滓 (含鉄)	A	4.4	2.7	1.3	20.7	6	錆化 (△)	厚い酸化土砂に覆われ塊状となった含鉄の炉内滓。酸化土砂の表面には砂鉄がキラキラと輝いている。上面は緩やかな波状。炉壁表面に沿って生成している可能性大。含鉄部は中核部。全体に錆化がやや激しい。	
81	炉内滓 (含鉄)	A	3.7	2.9	2.1	24.8	5	錆化 (△)	イガイガした密度の高い炉内滓破片。上面のみ生きており側面は全面破面。下面は炉壁表面からの剥離面で、一部に炉壁由来のガラス質滓が残る。滓化が進んでいるためか表面の磁着は弱い。砂鉄焼結部から発達か。含鉄部は中核部。	
82	炉内滓 (含鉄)	A	4.2	3.2	2.0	29.4	6	錆化 (△)	左右に浅い皿状の広がりを持つ炉内滓破片。上面はかすかに木炭痕を残す自然面。側部4面と下面の7割方が破面となる。下面中央部は小範囲の剥離面。含鉄部は左寄りの中核部。酸化土砂の中には砂鉄が点在する。	
83	炉内滓 (含鉄)	A	4.6	2.9	2.8	41.3	6	錆化 (△)	前者と基本的には似た厚みを持った炉内滓破片。上面は大きな波状で左上手側は黒色ガラス質滓となる。側面は不規則な凹凸を持つ破面。部分的に砂鉄焼結部あり。炉壁表面で生成された炉内滓破片。含鉄部は右寄りの中核部。	
84	炉内滓 (含鉄)	A	4.4	3.7	3.2	49.0	5	錆化 (△)	イガイガした質感を持つ含鉄の炉内滓破片。滓部主体ながら黒色ガラス質滓や炉壁の半溶解物をかみ込んでいる。上面のみが自然面で側部は全面破面。下面の中央部には小範囲で灰色の炉壁土が突出する。炉壁表面で生成された炉内滓か。	
85	炉内滓 (含鉄)	A	4.9	3.9	2.9	63.0	8	錆化 (△)	密度の高い炉内滓破片。上面は僅かに凹凸を持つ丘状の自然面。右側部にはやや大きめの木炭痕を残す。それ以外の側面は基本的には破面。裏面の中央部には木炭そのものをかみ込む。材は広葉樹材。滓は不規則な気孔を持つ。上面下端には僅かに垂れが認められるため炉壁表面の生成物か。含鉄部は中核部にやや広め。	
86	炉内滓 (含鉄)	A	4.3	3.4	3.4	87.7	6	錆化 (△)	僅かに垂れが認められる密度の高い炉内滓破片。側面は全面破面で、下面も破面の可能性あり。結晶が発達し、風化がやや進んでいるためか、滓がキラキラと輝いている。気孔は部位により密度が異なる。含鉄部は右下面寄りか。	
87	炉内滓 (含鉄)	A	5.9	5.6	3.0	126.6	4	錆化 (△)	裏面にスサ入りの炉壁土が広く固着したしっかりした炉内滓破片。2.5cm程の厚みを持ち、上面のみ生きている。側面は小破面が連続し全面破面となる。上面はやや波状で一部に垂れが生じている。1.7cm大の大口径羽口の一部も残る。上面下手側の肩部は酸化土砂が瘤状に突出し含鉄部を示す。酸化土砂の表面には小さな放射割れが生じている。炉壁表面に分厚く固着した状態で生成か。	

No	遺物名	地区	計測値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	備考	分析番号
			長さ	幅	厚さ					
89	炉内滓 (含鉄)	A	2.2	2.2	1.8	14.9	3	H(○)	イガイガした小塊状の含鉄の炉内滓。上面のみ生きており側面から下面は小破面が連続する。滓質は半流動状で、凹凸が連続する。含鉄部は下面に突出する小塊状の部分。砂鉄焼結部から発達か。	
90	炉内滓 (含鉄)	A	6.5	3.6	3.2	88.4	7	H(○)	酸化土砂に覆われた厚板状の含鉄の炉内滓破片。上面は大きな波状で側面は全面破面。下面には灰色に被熱した炉壁土がかすかに残り、滓表面が灰白色となっている。炉壁土の影響の強い滓の白色滓化の例の一つである。含鉄部は上面にそってやや広範囲。	
91	炉内滓 (含鉄)	A	2.0	1.5	1.1	4.3	4	M(◎)	分析資料No.8 分析資料詳細観察表参照。	Na.8
92	粘土質溶解物 (ガラス質滓)	A	1.8	4.5	1.7	13.3	3	なし	上下に長い炉壁の雰囲気を残す粘土質溶解物。上面はやや流動状で小さく垂れている。また結晶が発達してキラキラした表面感を持つ。色調は青黒色からくすんだ紫紅色。左右の側面が破面となり表皮治いは黒色ガラス質。他の部分は黒褐色の滓部となる。	
93	粘土質溶解物 (ガラス質滓)	A	2.9	4.2	1.7	17.1	2	なし	表面に1~2cmの木炭痕が目立つ粘土質溶解物の小片。黒色ガラス質で木炭に絡まったような形状を示す。滓は中小の気孔が乱雑に残り、炉壁土由来の石英質の石粒も確認される。構成No.94~97も黒色ガラス質の部分は共通する。	
94	粘土質溶解物 (ガラス質滓)	A	3.0	4.1	1.3	17.2	4	なし	下面が流動状に垂れている粘土質溶解物破片。上面のみ生きており側面は全面破面。上面表皮の一部は紫紅色。側面の破面には乱雑な気孔と炉壁土由来の石英質の石粒が点在する。上面に深い木炭痕が目立つ黒色ガラス質化した粘土質溶解物破片。側面に小破面を持ち、下面は炉壁らしき圧痕と小破面からなる。ガラス質滓は流れ下りながら1~2cm大の木炭により方向が変えられている。滓中に微細な含鉄部が散っているためか、酸化土砂部分がやや磁着する。	
95	粘土質溶解物 (ガラス質滓)	A	4.3	3.7	2.3	20.1	3	なし	側面から下面の半分以上が褐色に発泡した粘土質溶解物破片。上面は黒色ガラス質で木炭痕や結晶の発達した滓部が残る。下面上手側は炉壁土の圧痕か。色調や各部の様相は構成No.97と近い。	
97	粘土質溶解物 (ガラス質滓、含鉄)	A	3.7	3.7	2.7	31.1	2	H(○)	表面が黒色ガラス化して、側面から下面に褐色から黒褐色の発泡した滓部を残す粘土質溶解物破片。表面から下面に1cm大前後の木炭痕が数多く目立つ。上面の上手寄りに瘤状の酸化土砂があり、この部分が含鉄部となる。含鉄部以外は構成No.96と似る。	
98	椀形鍛冶滓 (中) ?	A	4.9	4.6	3.5	98.8	3	なし	平面、不整半円形をした椀形鍛冶滓の滓破片。上面と上手から右側面が生きており、左側面と下手側がシャープな破面となる。下面は椀形の傾斜面で灰色の炉床土らしき土が点々と固着している。肩部は1cm大以下の木炭痕が連続し、形状が乱れている。破面には中小の気孔が目立ち一部は横方向に広がっている。椀形鍛冶滓の1/4程度の破片の可能性あり。結晶の発達は通常の炉内滓に比べて低い。	
99	椀形鍛冶滓 (中) ?	A	5.9	5.8	3.5	198.6	4	なし	分析資料No.9 分析資料詳細観察表参照。	Na.9
100	椀形鍛冶滓 (小) ?	A	5.1	3.0	2.8	54.3	2	なし	下面に灰色の炉床土らしき部分を残す小型の椀形鍛冶滓破片。上面のみ生きており側面3面は直線状の破面となる。上面は不規則な窪みを持ち、その一部は木炭痕と推定される。結晶は発達済み。炉床土が残り、現状の厚みは0.7cm前後。炉床土はやや砂質ではっきりしたスサ痕はない。結晶の発達や横断面形は構成No.102(分析No.10)とやや似た部分を持つ。	
101	椀形鍛冶滓 (小) ?	A	3.9	6.2	2.6	69.9	6	なし	小型の椀形鍛冶滓の肩部様の滓片。上下面が生きており左側面が主破面となる。上面は僅かに木炭痕を持つが全体的には平坦で、肩部は微細な木炭痕によりやや乱れている。右側面から下面は1cm大以下の木炭痕が連続し、滓の突出部も点在する。左側面の中央部に残る窪みは木炭痕。上面の中央部に羽口先?由来の粘土質溶解物あり。滓質はやや密度が高く、見掛けのわりには比重が高い。小型の椀形鍛冶滓とすれば1/4程度の破片か。	
102	椀形鍛冶滓 (小) ?	A	9.2	5.7	2.7	158.9	4	なし	分析資料No.10 分析資料詳細観察表参照。	Na.10
103	椀形鍛冶滓 (極小、含鉄) ?	A	5.8	5.4	2.9	102.8	4	M(◎)	分析資料No.11 分析資料詳細観察表参照。	Na.11
104	再結合滓 (砂鉄付き)	A	15.0	12.5	4.8	1043.6	6	なし	分析資料No.12 分析資料詳細観察表参照。	Na.12
105	被熱石	A	2.0	1.7	0.7	2.9	1	なし	表面に薄く鉄滓が付着した被熱石の表面破片。上面は平坦で、1mm弱の厚みに滓が付着している。石材は2、3mm大の石英質の粒子が点在する硬質のもの。花崗岩系かもしれない。鍛冶系の金床石や製鉄系の小淵りを目的とした台石の可能性あり。	
106	炉壁 (上段下半、発泡)	B	2.7	4.2	3.8	24.4	1	なし	炉壁表面が2.5cm以上の厚みで発泡した炉壁片。上面は粘土単位の隙間から被熱したためか、滓化・発泡している。炉壁胎土はやや多めのスサを混じえる。スサは長短様々。	
107	炉壁 (上段下半、発泡)	B	3.5	3.2	2.8	20.3	1	なし	内面に滓が薄く固着し、約1.5cm程の厚みが発泡した炉壁片。内面の滓部には小さな垂れが生じ、一部が錆色となる。上面はほぼ平坦に途切れ、粘土単位の接合部か。胎土は粗くスサを混じえた砂質土。	
108	炉壁 (中段上半、砂鉄焼結)	B	3.5	3.6	1.4	12.2	3	なし	内面に最大0.8cmほどの厚みに砂鉄が焼結した炉壁片。砂鉄の焼結状態はまちまちで部分的に滓化しつつある。炉壁の平面形はほぼ直線状。砂鉄の粒度はやや粗く0.12~0.2mm大前後を測る。炉壁胎土はスサ入りの粘土質。僅かに初殻が混和されている可能性あり。色調は赤褐色。	
109	炉壁 (中段上半、砂鉄焼結)	B	2.5	2.6	1.2	4.8	2	なし	内面の中央部に砂鉄が焼結した炉壁表面の小破片。発泡した炉壁表面に砂鉄が焼結しており、浅い窪みは木炭痕。炉壁胎土はスサ入りの砂質土。	
110	炉壁 (中段下半、滓化)	B	4.9	5.0	2.0	27.4	2	なし	内面が黒色ガラス化して4.5cm大を超える大型の木炭混の残る炉壁片。側面全体と裏面が破面となる。胎土にはスサの混和が認められ、ひび割れがやや目立つ。一部のスサが灰化して残る。	
111	炉壁 (中段下半、滓化)	B	3.7	4.6	2.9	32.2	1	なし	内面が黒色ガラス化して中央部に垂れが連続する炉壁片。裏面は全面破面。胎土には初殻がやや多く混和されている。右側面の一部は酸化土砂に覆われているが、二次的なもの。前者とやや似た炉壁片。内面が黒色ガラス化して小さな垂れが生じている。側面から裏面は全面破面。右側面はひび割れから被熱したためか滓が貫入し、胎土もくすんだ赤褐色となる。右半分は胎土に混和されたスサが内外面方向に向いている。	
112	炉壁 (下段上半、滓化強)	B	3.2	4.2	3.7	39.2	1	なし	内面がやや激しく黒色ガラス化した炉壁片。気孔が乱雑で2cm大以下の木炭痕が連続する。外周部と裏面は全面破面。左側面の木炭痕の一部が白色滓化する。胎土はスサ入りの砂質土。	
113	炉壁 (下段上半、滓化強)	B	5.2	4.8	3.3	71.6	2	なし	内面がやや激しく黒色ガラス化した炉壁片。気孔が乱雑で2cm大以下の木炭痕が連続する。外周部と裏面は全面破面。左側面の木炭痕の一部が白色滓化する。胎土はスサ入りの砂質土。	

No.	遺物名	地区	計測値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	備考	分析番号
			長さ	幅	厚さ					
114	炉壁 (下段下半、滓付き)	B	3.8	5.4	1.8	40.9	3	なし	内面に最大1.8cmほどの滓層が形成された、滓付きの炉壁片。滓層には気孔が数多く残り、部分的に白色滓化している。表面には二次的に酸化土砂が厚い。外面には灰色の炉床土が面的に残る。炉壁炉底の破片か。	
115	大口径羽口	B	4.5	4.0	1.2	18.1	3	なし	内面にスマキ痕を残す大口径羽口の先端部破片。外面は0.7cmほどの厚みで黒色ガラス化している。スマキ痕は少なくとも3条連続し、それぞれ0.6cm前後の径を持つ物質。芯心間隔は0.9cm程度か。黒色ガラス質滓中には石英質の石粒の半溶解物が点在する。	
116	大口径羽口	B	2.8	2.2	1.3	6.6	1	なし	外面が被熱・硬化した大口径羽口の外周部破片。滓が表面にうっすらと固着している。胎土は粗い石英質の石粒とスサを僅かに含む粘土質。初殻の混和も確認される。被熱が弱いのは大口径羽口の基部側、あるいは表面をカバーする粘土が脱落したためか。	
117	大口径羽口	B	3.1	3.7	2.2	23.2	2	なし	表面の一部に結晶の発達した青黒い滓を残す大口径羽口の外周部破片。側部と内面側は全面破面。胎土は僅かにスサと初殻を混じえた強い粘土質。硬質で白っぽく被熱している。内面側は灰白色と淡い赤褐色の混合土を示す。	
118	大口径羽口 (砂鉄焼結)	B	2.8	2.3	1.5	7.4	2	なし	外面に0.2cm程の厚みで砂鉄が焼結した大口径羽口の外周部破片。砂鉄の粒度は0.14mmから0.22mm大。部分的に滓化が進んでいる場所もある。胎土は短いスサ入りの粘土質。	
119	大口径羽口 (砂鉄焼結)	B	3.1	3.3	1.9	11.9	3	なし	構成No.117とやや似た大口径羽口。外面に結晶の発達した焼結砂鉄に似た滓部を残す。結晶はキラキラと輝いており、部分的に磁着が強い。砂鉄粒子そのものも一部に確認される。内面には赤褐色の羽口粘土が薄く遺存しており、外周部の白色粘土と対照的である。白色粘土には、短いスサが多量に混和されている。	
120	大口径羽口 (砂鉄焼結)	B	4.2	3.1	1.3	21.9	2	なし	外面に厚く砂鉄が焼結して部分的にマグネタイト化している大口径羽口の外周部破片。砂鉄の焼結状態はまちまちで、粒径の区別できる部分と全く滓化している部分まで幅広い。外面中央部の下端は僅かに重れが生じている。胎土は1cm以下の石英質の石粒とスサや初殻を含む強い粘土質。粘土質のためかひび割れが目立つ。大口径羽口の左側部寄りの破片か。	
121	砂鉄 (自然)	B				188.7	5	なし	分析資料No.13 分析資料詳細観察表参照。	No.13
122	砂鉄 (自然)	B				106.5	5	なし	V区攪乱一括扱いの、2号鍛冶跡2号炉の滓混じりの土砂を水洗いして分離された砂鉄である。全体の砂鉄は106.5gを測る。観察用に20.0gを別途選択した。磁着の有無や混入物によりA～Cの3種に分離して記録する。A、全20.0gの内、黒褐色で磁着する砂鉄が18.5gを占め全体の91.6%にあたる。B、全20.0gの内、非磁着でやや褐色気味の砂鉄が1.2gを占め全体の5.9%にあたる。C、全20.0gの内、非磁着で砂鉄主体の部分が0.5gを占め全体の2.5%にあたる。Aは光沢のある自然砂鉄主体で粒度は最大0.5mm大～最小は0.02mm大と微細である。中心粒度は0.2mm大が目立つ。粒度の幅が極めて大きいのは自然砂鉄が主体であることを物語る。平均粒度をこえる大きさの砂鉄粒子はややくすんだ黒褐色で光沢を持たないが、被熱砂鉄かどうかは不明。Bは光沢のある砂鉄と無光沢の砂鉄粒子に加えて、角閃石などの半透明の有色からなる。砂鉄粒子で磁着しないものはチタン磁鉄鉱と推定される。Cは非磁着の砂鉄粒子に加えて石英質の石粒や褐色の滓粉全体の資料である。砂鉄粒子自体は1/3以下の比率で、滓粉は再結合滓気味となる。A～Cのいずれにも鍛冶系の微細遺物は含まれていない。	
123	砂鉄 (自然)	B				157.3	5	なし	V区攪乱一括扱いの、2号鍛冶跡2号炉の滓混じりの土砂を水洗いして分離された砂鉄である。全体の砂鉄は157.3gを測る。観察用に20.0gを別途選択した。磁着の有無や混入物によりA～Cの3種に分離して記録する。A、全20.0gの内、黒褐色で磁着する砂鉄が19.1gを占め全体の94%にあたる。B、全20.0gの内、非磁着でやや褐色気味の砂鉄が0.7gを占め全体の3.5%にあたる。C、全20.0gの内、非磁着で砂鉄主体の部分が0.5gを占め全体の2.5%にあたる。Aは光沢のある自然砂鉄主体で粒度は最大0.5mm大～最小は0.02mm大と微細である。中心粒度は0.2mm大が目立つ。粒度の幅が極めて大きいのは自然砂鉄が主体であることを物語る。平均粒度をこえる大きさの砂鉄粒子はややくすんだ黒褐色で光沢を持たないが、被熱砂鉄かどうかは不明。Bは光沢のある砂鉄と無光沢の砂鉄粒子に加えて、角閃石などの半透明の有色からなる。砂鉄粒子で磁着しないものはチタン磁鉄鉱と推定される。Cは非磁着の砂鉄粒子に加えて石英質の石粒や褐色の滓粉全体の資料である。砂鉄粒子自体は1/3以下の比率で、滓粉は再結合滓気味となる。A～Cのいずれにも鍛冶系の微細遺物は含まれていない。	
124	砂鉄 (自然)	B				203.1	5	なし	V区攪乱一括扱いの、2号鍛冶跡3号炉の滓混じりの土砂を水洗いして分離された砂鉄である。全体の砂鉄は203.1gを測る。観察用に20.0gを別途選択した。磁着の有無や混入物によりA～Cの3種に分離して記録する。A、全20.0gの内、黒褐色で磁着する砂鉄が18.9gを占め全体の93%にあたる。B、全20.0gの内、非磁着でやや褐色気味の砂鉄が0.7gを占め全体の3.5%にあたる。C、全20.0gの内、非磁着で砂鉄主体の部分が0.7gを占め全体の3.5%にあたる。Aは光沢のある自然砂鉄主体で粒度は最大0.5mm大～最小は0.01mm大と微細である。中心粒度は0.2mm大が目立つ。粒度の幅が極めて大きいのは自然砂鉄が主体であることを物語る。平均粒度をこえる大きさの砂鉄粒子はややくすんだ黒褐色で光沢を持たないが、被熱砂鉄かどうかは不明。Bは光沢のある砂鉄と無光沢の砂鉄粒子に加えて、角閃石などの半透明の有色からなる。砂鉄粒子で磁着しないものはチタン磁鉄鉱と推定される。Cは非磁着の砂鉄粒子に加えて石英質の石粒や褐色の滓粉全体の資料である。砂鉄粒子自体は1/3以下の比率で、滓粉は再結合滓気味となる。A～Cのいずれにも鍛冶系の微細遺物は含まれていない。	
125	マグネタイト系遺物 (砂鉄焼結)	B	3.5	3.9	3.1	69.5	6	なし	上半部に滓層がツララ状に垂れ、砂鉄焼結部が生成されているマグネタイト系遺物。基本的には上面のみ生きている。側部は全面破面。特に左側部は青光りして、磁着が強い。下面は炉壁又は大口径羽口の剥離面。上手側の側部下端に大口径羽口胎土に特有の石英質の石粒の半溶解物が並ぶため、後者の可能性が高い。砂鉄粒子は、0.12mm～0.2mm大。	
126	マグネタイト系遺物	B	3.2	2.4	2.3	28.4	5	なし	表面にツララ状の垂れが確認されるマグネタイト系遺物小片。側部と下面は破面主体。左側部の破面には大口径羽口由来の石英質の石粒の半溶解物が確認される。上面には部分的に1cm大の木炭痕が残る。下面の一部は青光りする。	

No	遺物名	地区	計測値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	備考	分析番号
			長さ	幅	厚さ					
127	マグネタイト系遺物	B	3.5	5.2	2.2	55.5	6	なし	上下面で質感の異なるマグネタイト系遺物の破片。上面は僅かに垂れが認められる平坦気味の面で、側面から下面は0.5cmほどの単位流動滓が柱状に重層する。側面の上半部と下端面全体が破面となる。上下方向にくぼんだ隙間で形成された形状で大口径羽口と炉壁との隙間が元位置か。	
128	工具付着滓	B	1.5	2.1	0.6	1.9	1	なし	内面に丸棒状の工具の残る薄手の工具付着滓。最大厚みは0.3mmを計る。右側部の一部が二重になっており、重層した工具付着滓とも言える。工具の直径は2mm大を超える丸棒状。外面は小さな垂れや木炭痕に加えて、錆ぶくれも確認される。構成No.35よりは薄手で、流動性がよい滓部である。工具の径も異なり、複数の丸棒状工具が使われていることが分かる。	
129	炉壁 (含鉄)	B	3.3	5.1	3.4	49.6	2	なし	内面が厚く黒色ガラス質化した炉壁片。滓の厚みは最大2.4mm近い。内面表皮は黒褐色からくすんだ紫紅色。内面下半は張り出すように厚みを増す。側面4面と裏面が破面となる。炉壁胎土は粗いスサを混じえる粘土質。	
130	流動滓	B	3.5	1.5	0.9	5.5	1	なし	径0.4cm以下の細長い流動滓が重層して弧状になった流動滓破片。右側の先端部は丸みを持って止まり、左側端部のみが小破面となる。滓表皮はややくすんだ紫紅色。下面は流動単位がスジ状に残り、やや平坦化している。表面には灰色の炉壁粉が点在する。	
131	流動滓	B	3.5	3.1	1.1	14.7	3	なし	右方向に向かい広がりがながら発達する流動滓破片。扁平で幅広く、表皮には強い流れジワが生じている。滓表皮は光沢を持ち紫紅色が強い。左右の両端部が小破片となる。下面には炉壁粉が点々と付着する。	
132	流動滓	B	5.4	2.8	1.3	22.8	2	なし	径0.5cm前後の流動単位が、ねじれるように重層して柱状となった流動滓破片。右側部は不規則ながら止まり、左側部から上手は破面となる。滓の風化が激しく、表皮の8割以上が脱落しており、一部に灰色の炉壁土が付着する。	
133	流動滓	B	2.6	3.6	2.1	23.6	2	なし	右方向に向かい幅1cm前後の流動滓が重層した流動滓破片。滓表皮は平滑で一部に流れジワが生じ、色調はくすんだ紫紅色。左右の側部や下面の4割ほどが破面となる。下面は木炭痕のためやや乱れている。また炉壁土由来のガラス質滓が小範囲に残る。	
134	流動滓	B	3.7	3.5	2.0	28.2	2	なし	径2cmを超える流動単位が斜め上方向から重層した流動滓破片。左側部のみが破面となる。上面の左側に炉壁土が固着し、滓としてはかなり風化気味。右側部は粉炭痕により止まっている。	
135	流動滓	B	3.9	3.2	1.3	30.9	2	なし	径0.5cm以下の細い流動単位が数多く重層した流動滓破片。全体に扁平さみで、左右の端部はシャープな破面となる。上面表皮は光沢を持ち淡い紫紅色。滓はガスがよく抜けてほぼ均質。	
136	流動滓	B	3.9	3.1	2.1	33.1	2	なし	右方向に向かい扁平に広がっている流動滓破片。上下面と側部の半分ほどが生きており、右側部と下手側が破面となる。上面は半流動状で僅かに凹凸を持つが、全体的には平滑。左下手側の側部に工具痕または木炭痕の窪みを持つ。下面は楯状で、灰色の炉壁粉や石粒をかみ込んでいる。気孔はまばらに残り流出孔滓の可能性もややあり。	
137	流動滓	B	2.5	5.3	2.9	37.9	2	なし	内部の気孔がやや発達した流動滓破片。右方向と上手側に向かう滓が上下で重層している。滓表皮は光沢を持つ。下面は短軸方向に楯状で木炭痕や炉壁片が点在する。ややガラス質の流動滓。	
138	流動滓	B	4.9	5.0	2.4	59.3	2	なし	下面や側面を中心に木炭痕が目立つ流動滓破片。構成No.137と同様内部の気孔がやや発達する。左側部と下手側が破面となる。粉炭の広がる上面で形成されている。滓表皮はくすんだ紫紅色で、炉外流出滓の可能性大。	
139	流動滓	B	3.8	4.3	4.4	71.0	2	なし	下面に灰色の炉壁粉が2枚に確認される重層した流動滓破片。上面には幅1cmを超える流動単位が明瞭に重層する。側面は気孔の粗い破面に覆われる。滓質は緻密。流出孔滓の可能性を残す。	
140	流動滓	B	5.1	4.2	3.1	79.5	3	なし	上面表皮が平滑で流動性の良い流動滓破片。上面から下手側の側部が生きており、残る側部3面が破面となる。下面は浅い楯状で表面には灰色の炉壁粉が固着する。滓質はややガス質で、上面寄りの気孔が大形化している。	
141	流動滓	B	4.3	7.1	2.1	125.6	2	なし	側面や下面に目立って薄片や炉壁粉をかみ込む流動滓破片。基本的には左から右に向かつて滓が広がっているが、上下方向や逆流するものがあり、複雑な形状となっている。滓質は緻密で、ガスはよく抜けている。下面には木炭痕も確認される。炉壁粉は赤褐色や灰色などまじまじの色調で、炉壁や薄片の堆積層で形成されたことを読みとれる。主破面は左側部上半。	
142	炉内滓	B	4.8	4.5	2.7	51.2	5	なし	各面に1~2cm大の木炭痕が目立つ炉内滓破片。上面のみ生きており、側面3面が破面となる。左側面から下面は炉壁粉の固着した剥離面。木炭痕は内部にも残されている。滓は気孔が微細で風化も進む。	
143	炉内滓	B	5.9	4.1	1.6	48.5	4	なし	上面にシャープな破面を持つ扁平な炉内滓破片。肩部から側面にかけても7割方が破面となる。下面は3.5cm大の木炭痕と剥離面が共存する。滓の結晶はやや発達しており、破面には光沢がある。炉底塊の下面に沿った部位か。	
144	炉内滓	B	6.0	4.3	3.1	71.9	2	なし	上面に半流動状の流れジワを残す粘土質の強い炉内滓破片。側面から下面は破面主体。側面の破面には炉壁溶解物が広く露出している。下面は2cm大前後の木炭痕が密集し凹凸が激しい。炉壁表面で形成された炉内滓であろう。	
145	炉内滓	B	5.9	5.7	3.7	101.0	4	なし	イガイガした表面感を持つ木炭痕が目立つ炉内滓破片。上面のみ生きており、側面から下面には小破面が連続する。上面はイガイガした流動性のある滓部で端部からは僅かに流動滓が分離し始めている。側面から下面は1cm大以下の木炭痕が乱雑に残り、滓は結晶が発達している。炉底塊の土皮付近で形成か。	
146	炉内滓 (工具痕付き)	B	3.2	2.7	1.5	13.3	2	なし	結晶が発達して風化の激しい炉内滓小片。上面のみが自然面で上手側の側部は左右方向にのびる工具痕または木炭痕。左右の側部は破面で下面は炉壁表面からの剥離面となる。一見、砂鉄焼結部の様にも見えるが結晶の風化による滓部。	
147	炉内滓 (工具痕付き)	B	5.7	5.1	2.9	81.9	4	なし	上面全体に微細な凹凸を持つ流動性の低い炉内滓破片。上面は丘状に盛り上がり、中央よりやや上手側に浅い楯状の工具痕らしき窪みを残す。側面から下面は全面破面。左下手側の側部には炉壁土が残る。滓は流動性が低いためか隙間が多く、下面の中央は深く窪んでいる。気孔は乱雑で数多い。	

No.	遺物名	地区	計測値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	備考	分析番号
			長さ	幅	厚さ					
148	炉内滓 (含鉄、砂鉄付き)	B	3.5	2.5	2.3	21.0	3	錆化 (△)	薄い酸化土砂に覆われた小塊状の含鉄の炉内滓破片。酸化土砂によりやや不明瞭ながら、側部は全面破面と推定される。上面は緩やかな波状の平坦面で下面はやや突出気味。含鉄部は中核部。表面の酸化土砂中には多量の砂鉄が確認される。砂鉄の粒径は0.12mm大～0.2mm大。	
149	炉内滓 (含鉄)	B	4.4	2.2	1.6	9.3	2	錆化 (△)	再結合滓ぎみの炉内滓小片。左側部の滓と右側の滓とは本来は分かれる。左側部の滓はやや黒色ガラス質で右側の滓は木炭痕を残すややイガイガした炉内滓破片。部分的に酸化土砂が強い。下面には木炭組織の残る木炭痕が残されている。外周部が薄く黒鉛化木炭化している。磁着はこの部分を中心に強い。	
150	炉内滓 (含鉄)	B	4.2	4.5	2.6	75.3	4	錆化 (△)	密度の高い破面に囲まれた炉内滓破片。下面の一部が剥離面と考えられる。他は小破面が連続する。滓は部分的に結晶が発達し、気孔もやや伸びている。気孔の方向から右側部が下面となる可能性も残る。含鉄部は上面寄りの中核部。酸化土砂の一部に砂鉄が焼結。上面と側面にシャープな破面を残す炉内滓破片。厚板状で左側部が上方に向かい突出する。下面は炉内滓表面からの剥離面。破面の結晶は大きく発達し、風化はしているがキラキラと輝く。上面下手側の肩部に酸化土砂が厚く、その中に3ヶ所ほど小さな突出部がある。この部分が含鉄部。炉壁塊下半の炉壁沿いで生成か。	
151	炉内滓 (含鉄)	B	5.4	5.5	2.7	105.4	5	錆化 (△)	放射割れが生じ黒錆も確認される炉内滓破片。側面4面は破面で上面のみが生きている。下面は砂鉄を含む酸化土砂が残り、本来は炉内滓の剥離面と推定される。左側部の滓は風化が進み灰白色。含鉄部は右側の中核部。	
152	炉内滓 (含鉄)	B	5.0	3.5	2.9	8.8	3	H(○)	砂鉄の付着が目立つ酸化土砂に覆われた炉内滓破片。上面は皿状に窪んだ自然面、下手側の側部は剥離面の可能性を残す。主破面は左側面と上手側の側部。滓は比較的緻密で風化がやや進んでいる。含鉄部は上面寄りの中核部。酸化土砂中の砂鉄の粒径は0.1～0.2mm大。大半が角張っており光沢を持つ。	
153	炉内滓 (含鉄)	B	2.9	2.5	2.1	26.6	3	H(○)	半流動状の質感を持つ炉内滓破片。上面と短軸方向の両側面が生きており、それ以外はシャープな破面となる。破面の結晶が発達しキラキラと輝く。結晶の発達状態から見て、炉内流動滓ともいえる。ややマグネタイト化しているためか、磁着度が高い。	
154	炉内滓 (含鉄)	B	3.1	3.2	2.0	37.0	6	H(○)	左側部に炉壁部分を残す粘土質の炉内滓破片。表面はやや流動気味で、上下面にも1cm大の木炭痕を残す。生きているのは上面の中央部のみで、それ以外は小破面が連続する。下面に残る木炭痕の表面は黒色ガラス質。含鉄部は上面中央部に突出する小範囲。	
155	炉内滓 (含鉄)	B	4.8	3.1	2.4	47.0	6	H(○)	黄褐色から濃茶褐色の酸化土砂に覆われた炉内滓小片。自然面は上手側の側部のみ。下面左側には小範囲で剥離面が残る。それ以外は破面が連続する。横断面は楕状で、上面が大きく窪む。滓質はやや緻密で、左側1/3の部分が含鉄部。	
156	炉内滓 (含鉄)	B	4.1	2.6	1.5	26.5	3	M(◎)	表面に流れジワを持つ粘土質溶解物破片。左右の両側部が主破面で、下面には大型の木炭痕が残る。滓中には炉壁土由来の石英質の石粒を含んでいる。破面と木炭痕に囲まれた粘土質溶解物。破面には炉壁土由来の石英質の石粒を含んでいる。	
157	粘土質溶解物	B	3.2	3.5	1.9	20.9	2	なし	破面と木炭痕に囲まれた粘土質溶解物破片。破面には炉壁土由来の石英質の石粒がかなり分散した状態で含まれている。木炭痕は1.5cm大を超える。粘土質が強いから木炭痕の一部は灰白色となる。	
158	粘土質溶解物	B	3.7	3.0	2.6	28.7	1	なし	粘土質溶解物の先端部破片。上下面と右側部の大半は生きている。上面から右側部にかけては流れじわが強い。左側部の破面には1.5cm大の木炭痕が連続する。滓質は黒色ガラス質で部分的に石英質の石粒が点在する。	
159	粘土質溶解物	B	4.5	5.6	3.3	70.4	2	なし	厚さ2cm程の椀形鍛冶滓の肩部様の破片。上下面と上手側の側部が生きており、左右の側部が破面となる。上面は皿状に窪み、下面は逆に突出する。肩部にはやや凹凸が生じている。破面の気孔は比較的少なく、下面寄りでは横方向に連なる。滓は風化がやや進む。下面は炉床土の剥離面の可能性大。小型の椀形鍛冶滓の1/4～1/5程度の破片か。	
160	椀形鍛冶滓 (小) ?	B	4.0	4.2	2.0	66.9	4	なし	上面がイガイガした質感を持つ椀形鍛冶滓様の破片。構成No.160と似た厚みを持つが質感はかなり異なる。本資料のほうが滓の流動性が低く、イガイガしており、肩部の発達が弱い。皿状の底面にはスサと初焼入りの炉床土又は炉壁土が薄く固着する。上手側の側部が一部平坦化しており、工具痕の可能性あり。滓質的には炉内滓的。	
161	椀形鍛冶滓 (小) ?	B	5.4	4.0	2.3	75.8	2	なし	被熱して表面の一部が滓化している炉材石破片。上下面の右寄りと右側部が薄く滓化しており、部分的に発泡してしまっている。石材そのものは砂岩。下面の一部は紫紅色が強い。右側部下端は滓が付着しているためか僅かに垂れが生じている。上手側の側部にはスサを混じえる灰色の炉壁土がやや遺存する。	
162	炉材石 (滓化)	B	4.3	4.7	2.2	42.7	2	なし	分析資料No.14 分析資料詳細観察表参照。	No.14
163	黒鉛化木炭	B	2.5	2.0	1.1	5.4	4	H(○)	分析資料No.15 分析資料詳細観察表参照。	No.15
164	木炭	B				-	-	なし		
165	鉄製品 (鍛造品)	B	7.2	4.9	0.6	92.8	3	錆化 (△)	幅4cm強、長さ7.2cmほどの薄板状の鉄製品破片。短軸側と左側部は直線状で右側部は斜めに途切れている。薄板状の鉄製品とまでは言えるが、刃部がはっきりしないため、鎌の可能性があるとのおきたい。重量があり、比較的健全そうに見えるが、既に錆化してしまっている。57 溝出土品で攪乱一括扱いでもあり、時期的にはやや新しい可能性が高い。	

(3) 水田・畠跡

本遺跡では、合計3面の水田跡が検出された。古い順に第1面水田～第3面水田とする。

古代に属する水田跡は2面確認された。下層の第1面は洪水層に被覆された面であり、畠もこの面に属する。上面の第2面は、As-B層の下面であるが、明瞭な畦畔は確認できなかった。第3面は、近世に属する水田の基盤である。

① 1面水田・畠

I・I区第1面水田(第261図、PL75～78)

調査区西端部は現早川に向かって緩やかに高まり、また東端部もII区側へ向かって高まっている。

水田はその中間にあたる南北に延びる低地帯において検出された。この低地帯は下部の埋没河道上に形成されている。

水田面は明黄褐色の洪水土層に覆われた状況で残存していた。低地帯の中央部にはN-3°-Wに貫くやや規模の大きな畦畔がある。調査区南端には南北の主畦畔に交差する畦畔が検出された。両者が基軸となる区画内を、小規模な畦畔により不定形に区画した水田が形成されている。調査段階では、水田面は埋没地形に合わせた浅い低地帯として窪んでいるが、上位土層の土圧による地形変形による影響が強い。南北方向の大畦畔の西側には、洪水層が15cmの厚さで堆積しており、水田面の遺存状況は良好である。検出された水田は12面以上と考えられ、面積を計測可能な区画の内、最大244.3㎡、最小79.0㎡である。水田面は全体的に小さな凹凸が認められた。畦畔の上面は後世の水田耕作による攪乱や、調査時の削平により明確ではないが、土層断面での観察によれば、大規模畦畔では高さ15cm、下端幅90cm、小規模畦畔では高さ8cm、下端幅72cmである。南北大畦畔の東側には、洪水層の堆積が認められない。上位の水田の耕作により攪拌された結果と考えられるが、その際にも大畦畔が継続的に使用されたものと考えられる。耕作土は、流水の影響を受けた状況で堆積した粘質土層である。

水口は、側道部の南北大規模畦畔南端で1ヶ所検

出された。水口の幅は27cmで西区画から東区画へ水を落とした状況であり、上位側には径1.27mの楕円形の窪みが認められる。また、本線部南北大畦畔に沿っては小規模な溝(39号溝)が検出された。

洪水砂直下の畦畔際からは、土師器坏が出土している。上面にはAs-B下面の水田耕作土があり、本水田面の埋没年代は土師器の年代と関連する可能性が大きい。

1区1号畠跡(第261・262図、PL75・79)

1区西端の微高部で検出された。明黄褐色洪水土に覆われた状態から近接する水田跡と同一面と考えられる。

17.2m×8.5mの範囲に、微高部の等高線に直交して14～16条のサク列が並ぶ。畝部分の上面は、上位からの攪乱を受け残存しない。サクは浅いU字形の断面形で、幅は20cm～55cm、深さは12cm前後、サクの心々距離は0.9cm～1.6cmを測る。地形に応じて、サクは緩やかに曲がっている。

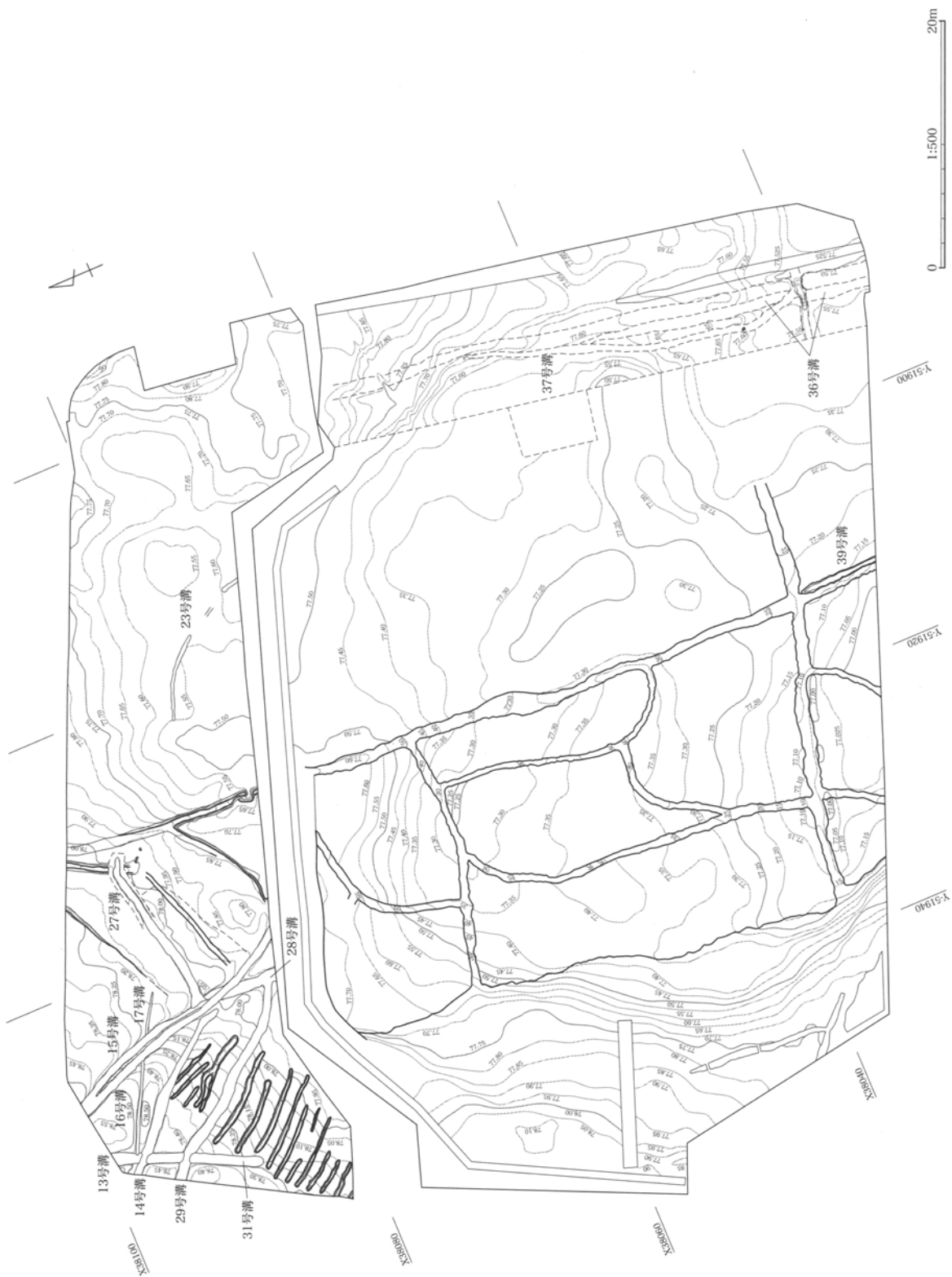
時期的には、1区第1面水田と同じ、9世紀前半代以降と考えられる。なお、自然科学分析を行ったが、栽培作物の特定には至らなかった。

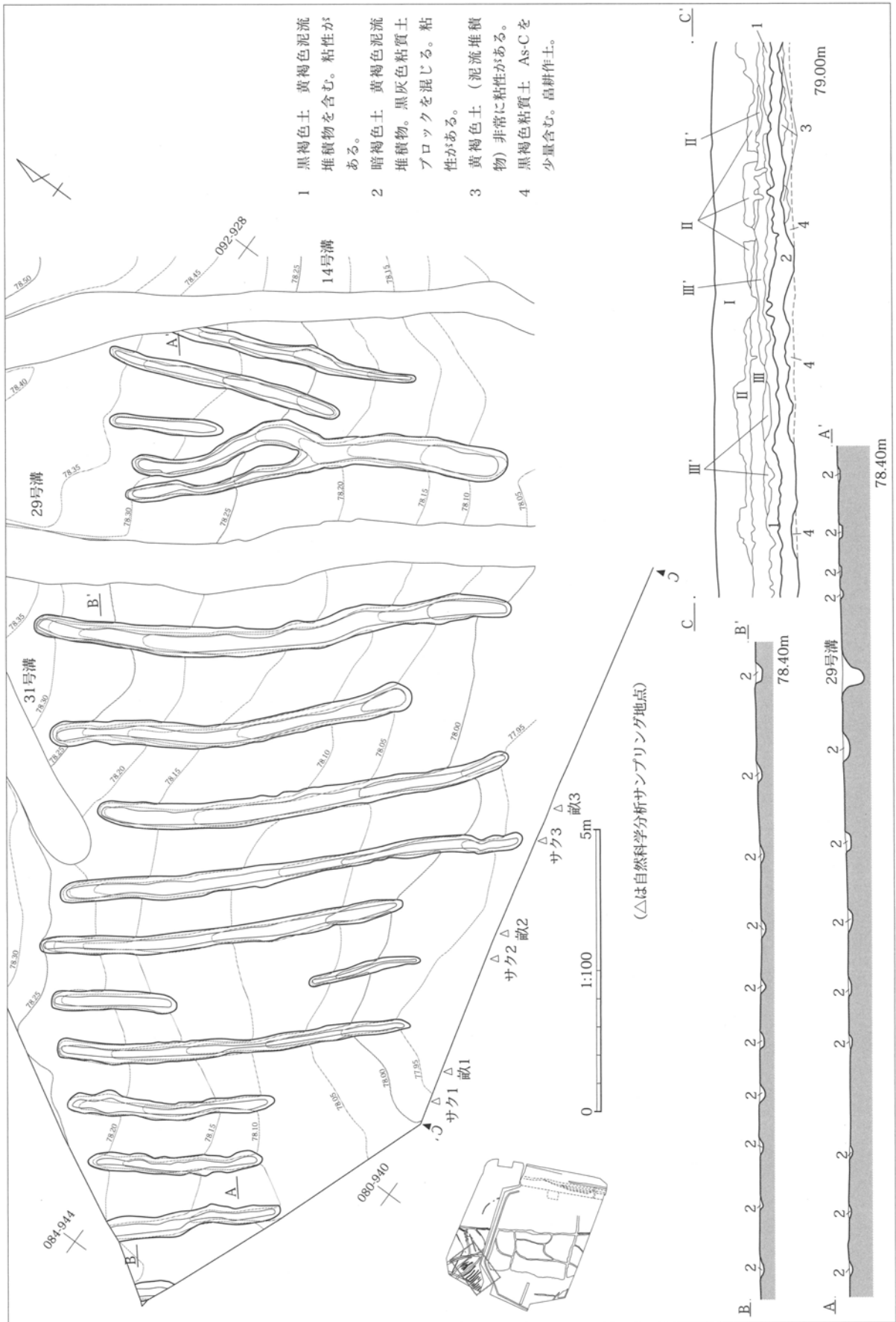
② 第2面水田(As-B層下面)

I・I区第2面水田(第266図、PL80・81)

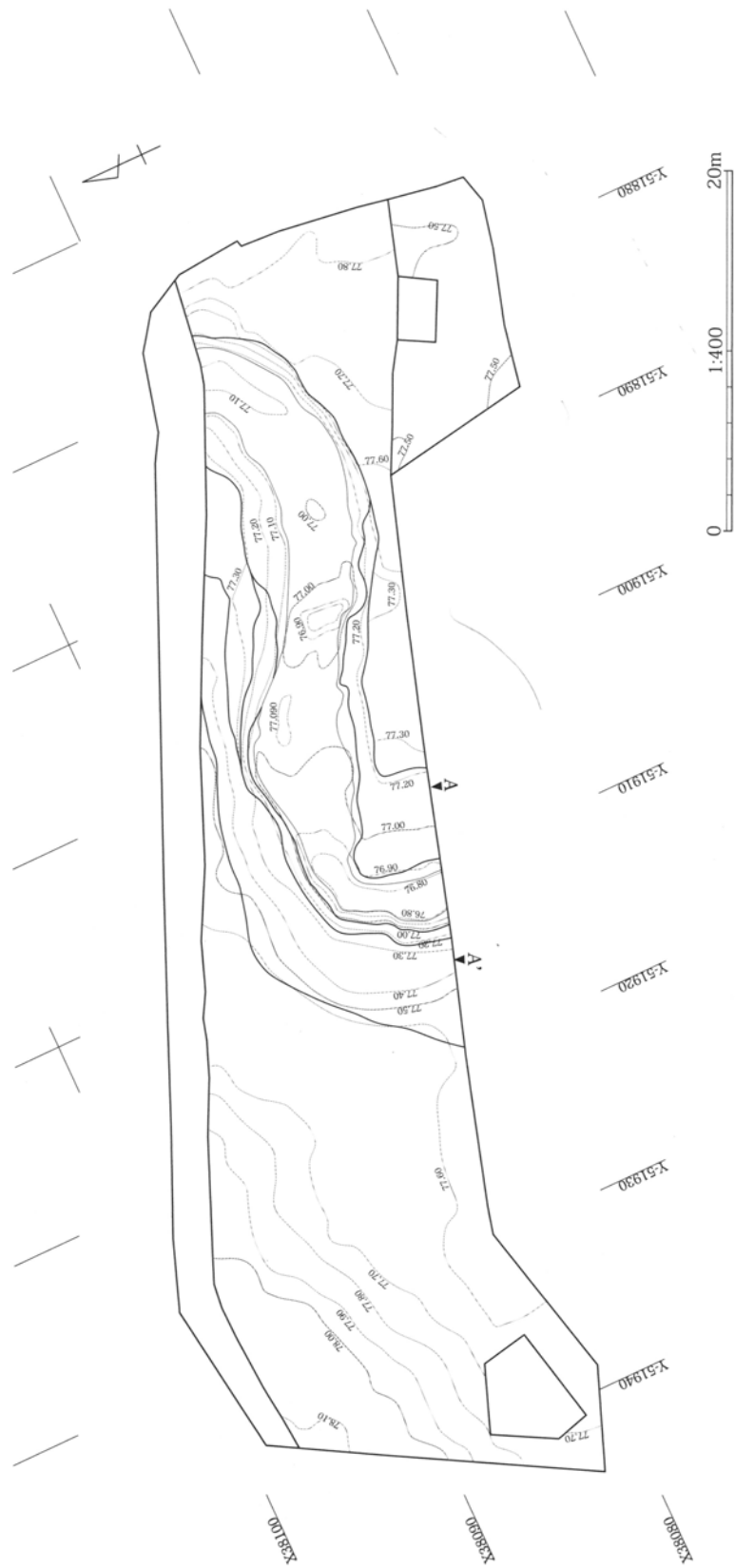
第1面水田の上位、As-B層に被覆された面である。下部の埋没河道上の低地帯を利用した状況だが、土圧による地形変形の影響もあり、明瞭な畦畔は確認されなかった。しかし、土層断面の観察から、第1面水田を攪拌する耕作の状況が確認されており、第1面水田以降、As-B層堆積までの間に、水田化されていたことが確認される。ただし、As-B層堆積段階での耕作の有無については不明である。

I・I区東端部では、南北方向に並列する浅い幅広の溝(25・26号溝)が確認された。低地帯と微高部との変換点にあたることから、中間部の大規模畦畔の両側部に設けられた水路の可能性がある。両側の水路を結ぶ水口状の地点がある。I区のAs-B

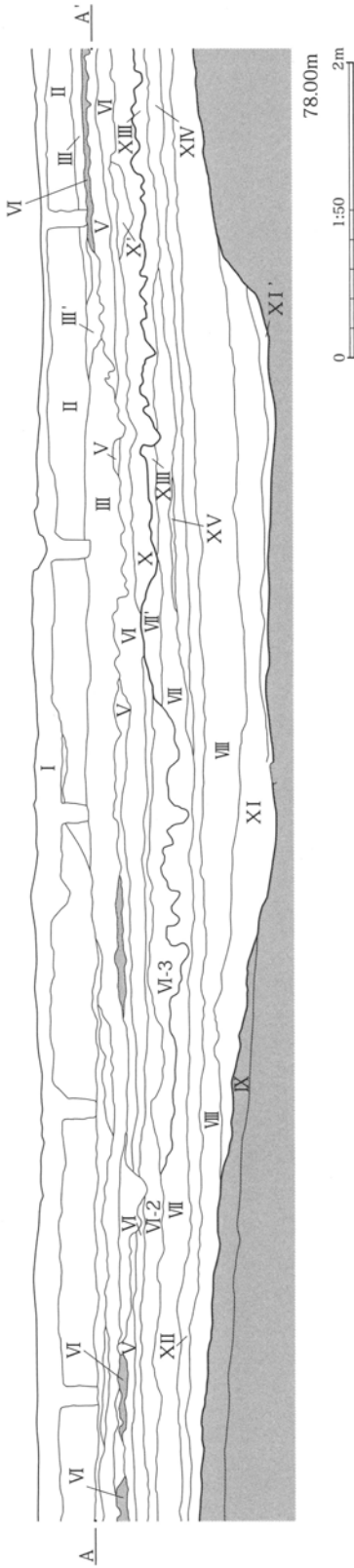




第262図 1区1号畠

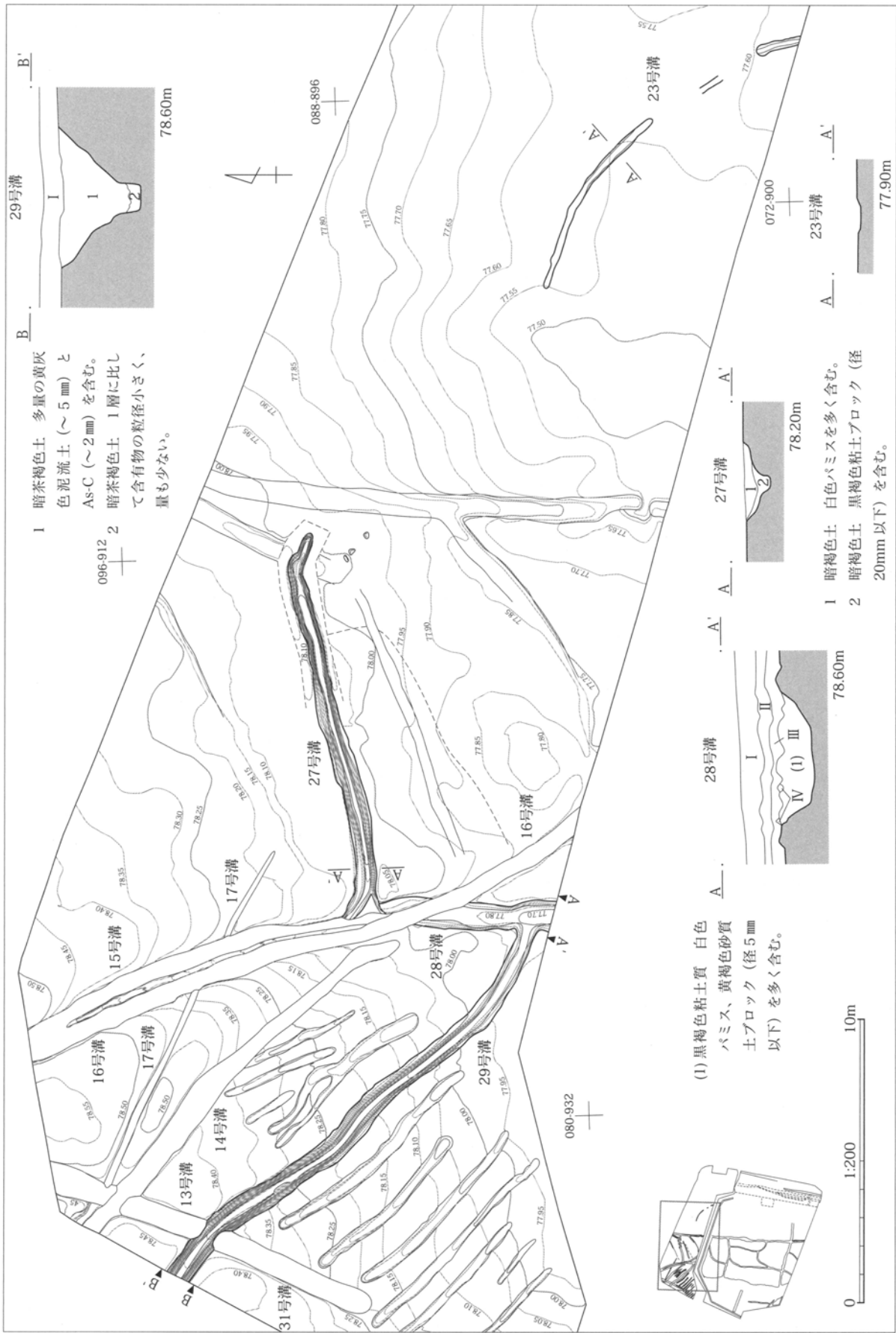


第 263 图 I 区 1 号河道 (1)



- | | | | | |
|------|---|------|--|-------------------------------|
| I | 表土 (圃場整備後の現耕作土)。 | IX | 明茶灰色粘質土 | 含有物ほとんど無し |
| II | 暗褐色土 As-B (~2mm) を多量含む。砂質茶褐色粒子 (1mm) を微量含む。しまつていいる。下部 10cm 前後に鉄分の沈着顕著。 | X | 灰黄色泥流土 | やや粗いシルト質 Hr-FP (~5mm) が少量含まれる |
| III | 暗褐色土 II 層に比して黒味がかかる。非常に多量の As-B (~2mm) と、茶褐色粒子 (~1mm) を微量含む As-B 降下後の復旧土。 | X' | X と VI の混層。 | |
| III' | 暗褐色砂質土 多量の As-B と As-B 層上部の黒色腐植土を混じる。 | XI | 黒灰色粘質土 | |
| IV | As-B | XI' | XI 層に小砂利が混じる。 | |
| V | 黒灰色粘質土 As-C (~2mm)、Hr-FP (6 層上部の腐食部分) (~5mm) を少量含む As-B 下の水田 (?) 耕土。 | XII | 黒色粘質土 As-C (~3mm) が非常に多量混じる | |
| VI | 灰褐色粘質土 (5 層に類す土質) As-C、Hr-FP の含有は 5 層よりやや多い部分的に下部洪水土を含む。 | XII' | 畦畔盛土 VII 層に比し As-C の含有が多く、より黒味がかかる | |
| VI-2 | 灰褐色粘質土 多量の黄褐色砂 (~2mm) を含む。特に上部に多い。 | XIII | 泥流下水田耕土 黒灰色粘質土 As-C (~2mm)、Hr-FP (~3mm) を含む、茶褐色粒子 (~1mm) を微量含む | |
| VI-3 | VI 層と灰黄色泥流土 (X 層) ブロックの混土。 | XIV | 黒褐色土 粘性やや弱く、ボソボソした感じ黄褐色砂を含む | |
| VII | 黒色粘質土 やや灰色がかかる。As-C (~2mm) を多量含む。 | XV | 黄褐色粗砂 | |
| VII' | 黒色粘質土 VII 層に比して含有物多く、粘性劣る。やや暗色。 | | | |
| VIII | 黒茶灰色粘質土 含粒物はほとんど無し | | | |

第 264 図 I 区 1 号河道 (2)



第265図 1区古代溝

層直下では、北東から南西方向に溝状の浅い窪み(40号溝)が確認された。踏み分け道の可能性もある。1区でも、同じ走行の30号溝が検出されたが、U字形の断面形を有する明瞭な溝である。

As-B層の堆積年代は、天仁元年(1108)に比定されている。

なお、27、29号溝は第1面以降に開削され、As-B層面に先行する。

II・2区 As-B層下面(第270図、PL81)

As-B層の堆積は、調査区西半部で確認されたが、現代の圃場整備に伴う上面からの攪乱が著しく水田耕作の痕跡は判然としない。しかし、1区に隣接する部分で検出されたAs-B層直下の1号溝は水路と考えられ、水田化されていた可能性を示す。

なお、調査区東半部の埋没河道内でもAs-B層の堆積があったが、下面は砂質土であり水田化されていなかった状況が確認された。

5号溝は、As-B層面に先行する遺構である。

III・3区 As-B層下面(第271図、PL82)

As-B層の堆積は、調査区中央部周辺で確認されたが、現代の圃場整備に伴う上面からの攪乱が著しく水田耕作の痕跡は判然としない。中央西寄りで南北と、東西方向の畦畔状のわずかな高まりがあり、水田化されていた可能性を示している。

なお、調査区西端部の埋没河道内でもAs-B層の堆積があったが、下面は砂質土であり水田化されていなかった状況が確認された。

溝群は、As-B層面に先行する遺構群である。

IV・4区 As-B層下面(第275図、PL82・83)

As-B層の堆積は、調査区中央部で確認されたが、現代の圃場整備に伴う上面からの攪乱が著しく水田耕作の痕跡は判然としない。IV区で検出された畦畔状の区画は、As-B層上からの耕作に伴うものである。

なお、水田区画下部で検出された溝群は、As-B層に先行する可能性が高い。

V・5区 As-B層下面(第279図、PL83)

調査区中央部には、幅30m前後の浅い谷地形が

形成されている。As-B層の堆積は、谷中央部では5~8cmに及ぶ。確認面は、土圧による地形変形もあり、一部で畦畔状のわずかな高まりを確認した以外は、水田耕作の痕跡は判然としない。

谷の西縁部には溝群がAs-B層の上下で重層的に検出されており、水田に関連する可能性が高い。調査区北側には、現在も湧水点があり、その水を効果的に利用したものと考えられる。

なお、自然科学分析の結果、東半部ではイネ属機動細胞珪酸体の数値が低い点は、不明瞭な畦畔と合わせて検討の余地を残す。

(4) 溝

V・5区谷地部西縁には大規模な溝(20号溝)が認められたが、北側に近接する湧水点からの水を下流域に配水するための基軸水路と考えられる(第280図、PL102・103、第10表)。

(5) 河道

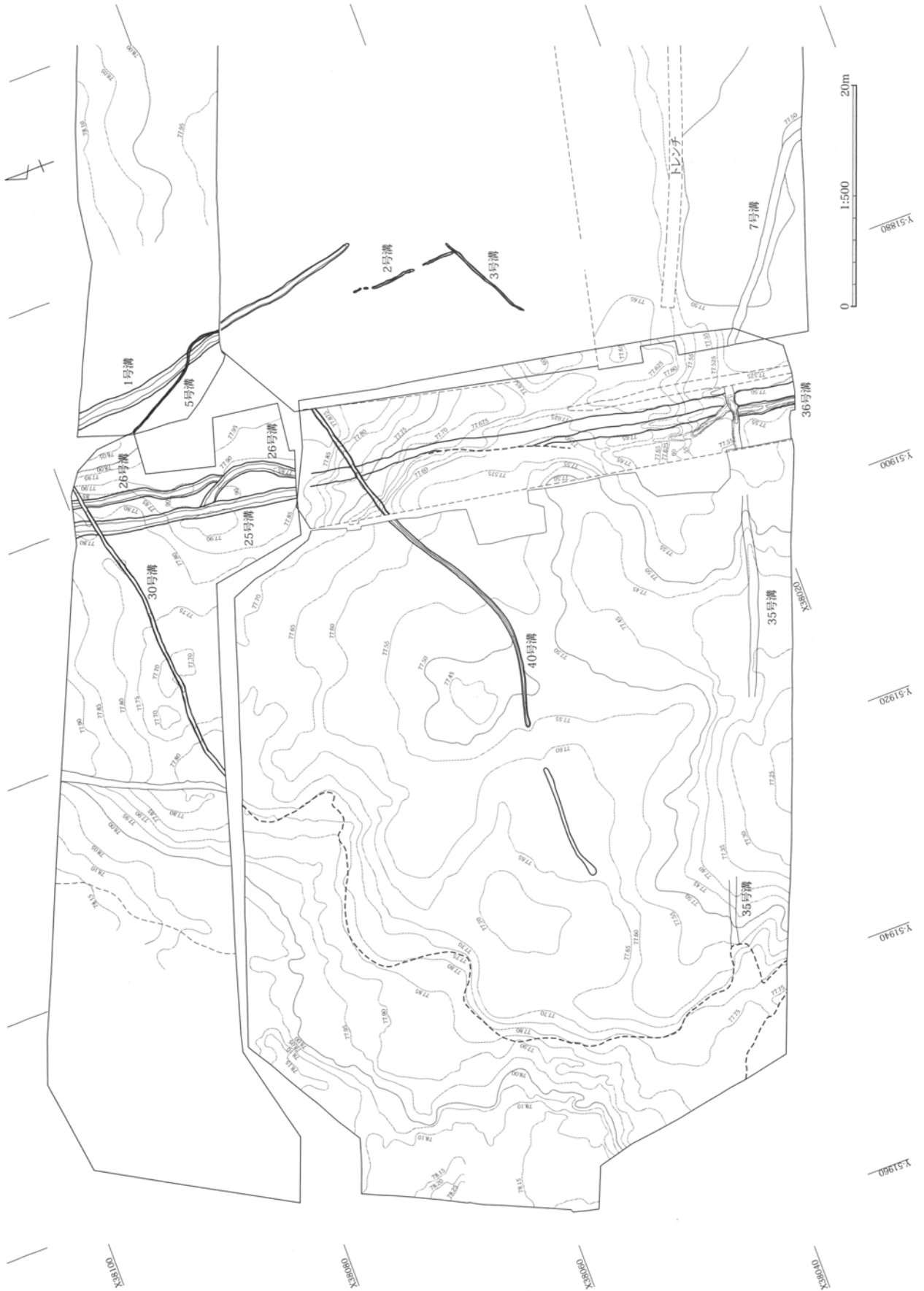
I・1区1号河道(第263・264図、PL85)

1区では北東→南西方向に約30m S字状に蛇行、1区では南方向へ約50m流れを変えている。長さ30m、幅7.5~14.5m、深さ0.65m、断面は緩やかなU字形を呈する。下層にはAs-C軽石の濃密な堆積層があることから、古墳時代以降の河道であることがわかる。上層には黄褐色洪水土(層厚15cm前後)に覆われた水田面があり、上面はAs-B層が堆積している。この間にも耕作の痕跡が認められる。

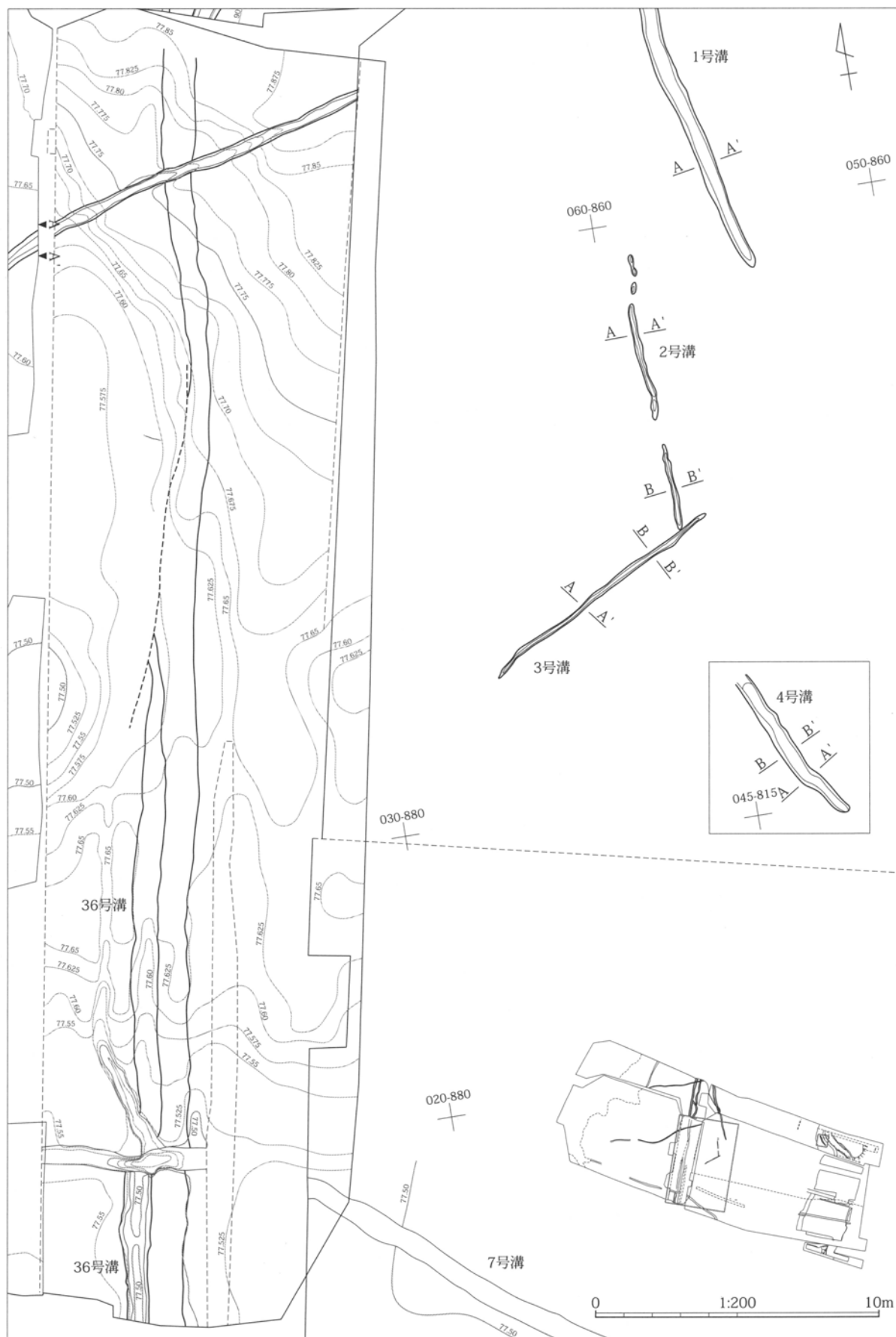
II・2区~III・3区1号河道(第306~308図、PL85~87)

河道は3区から2区にかけてクランク状に屈曲し、2区ではほぼ南方向へ流れを変える。II区では長さ41.9m、幅26m以上、深さ0.8m、断面は緩やかなU字形を呈する。河道は複数の流路が複雑に切り合う状況が認められる。

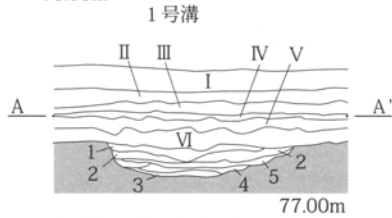
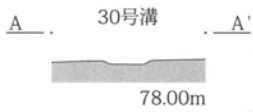
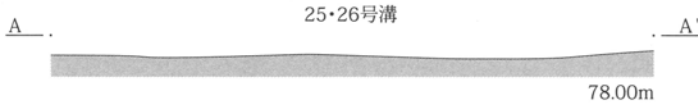
上記の河道は、古墳時代以降の流路の痕跡である状況を示すが、上限は縄文時代以前に遡ることは明らかである。河道が古代の時点で埋没、一部水田化されたことが調査で判明した。



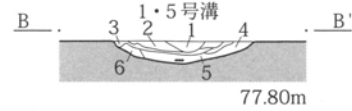
第 266 図 I・1区 As-B層下面全体図



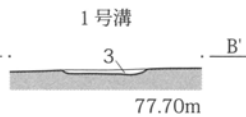
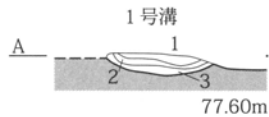
第 268 图 I·1区、II·2区古代沟(2)



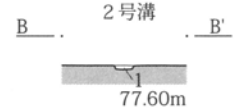
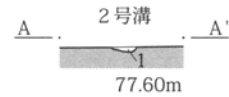
- 1 暗褐色土 砂粒を非常に多く含む。白色パミス少量含む。
- 2 黒褐色土 粘性有り。白色パミス、砂粒少量含む。
- 3 1層に類す。
- 4 2層に類す。
- 5 1層に類す。



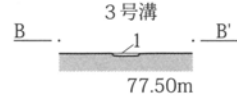
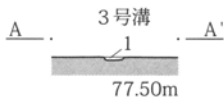
- 1 黒褐色砂質土 Hr-FP 軽石粒を多量含む。硬い。粘性なし。
- 2 黒褐色砂質土 Hr-FP 軽石粒を含む。やや軟らかい。粘性が弱い。
- 3 黒色粘質土 Hr-FP 軽石粒を微量含む。軟らかい。粘性なし。
- 4 黒褐色粘質土 Hr-FP 軽石粒を含む。褐色ロームブロックを多含する。やや軟らかい。やや粘性がある。
- 5 黒色粘質土 砂、土器片を多く含む。礫径3～10mmを含む。明黄褐色ローム粒を多量含む。ややしまる。粘性なし。
- 6 黒色土 灰白色砂を微量含む。やや軟らかい。やや粘性がある。



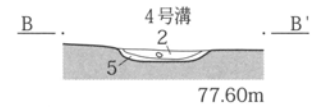
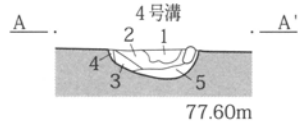
- 1 暗褐色砂質土 砂を主体とする層。黒色土粒、白色パミスを多く含む。
- 2 黒褐色土 粘性ある黒色土を主体とし、砂粒、白色パミス少量含む。
- 3 1層に同じ。



- 1 暗褐色砂質土 砂を主体とする層。黒色土粒、白色パミスを多く含む。



- 1 暗褐色土 白色パミスを多く含む。



- 1 暗褐色土 多量の焼土粒、小ブロック(～2mm)と炭化物(～3mm)、白色軽石(Hr-FP～3mm)を含む。
- 2 黒褐色土 多量の白色軽石(～3mm)を含む。炭化物粒、焼土粒を少量含む。
- 3 暗褐色土 含有物少なくやや砂質。
- 4 明褐色土 黄褐色砂質土を含む。
- 5 明褐色砂質土 焼土粒(～5mm)を含む。下面に灰層が薄く分布。

0 1:50 1m

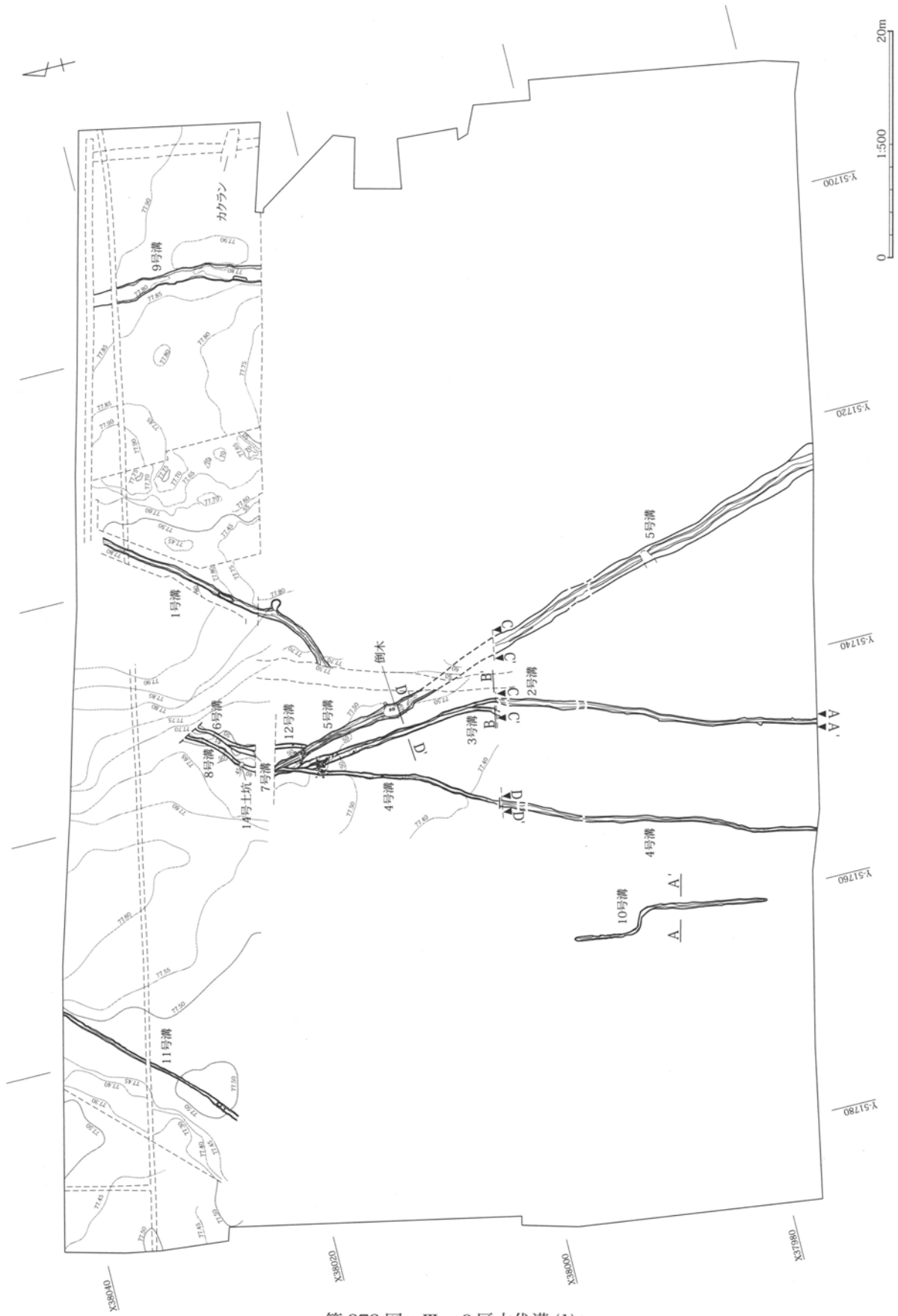
第 269 図 I・1区、II・2区古代溝(3)



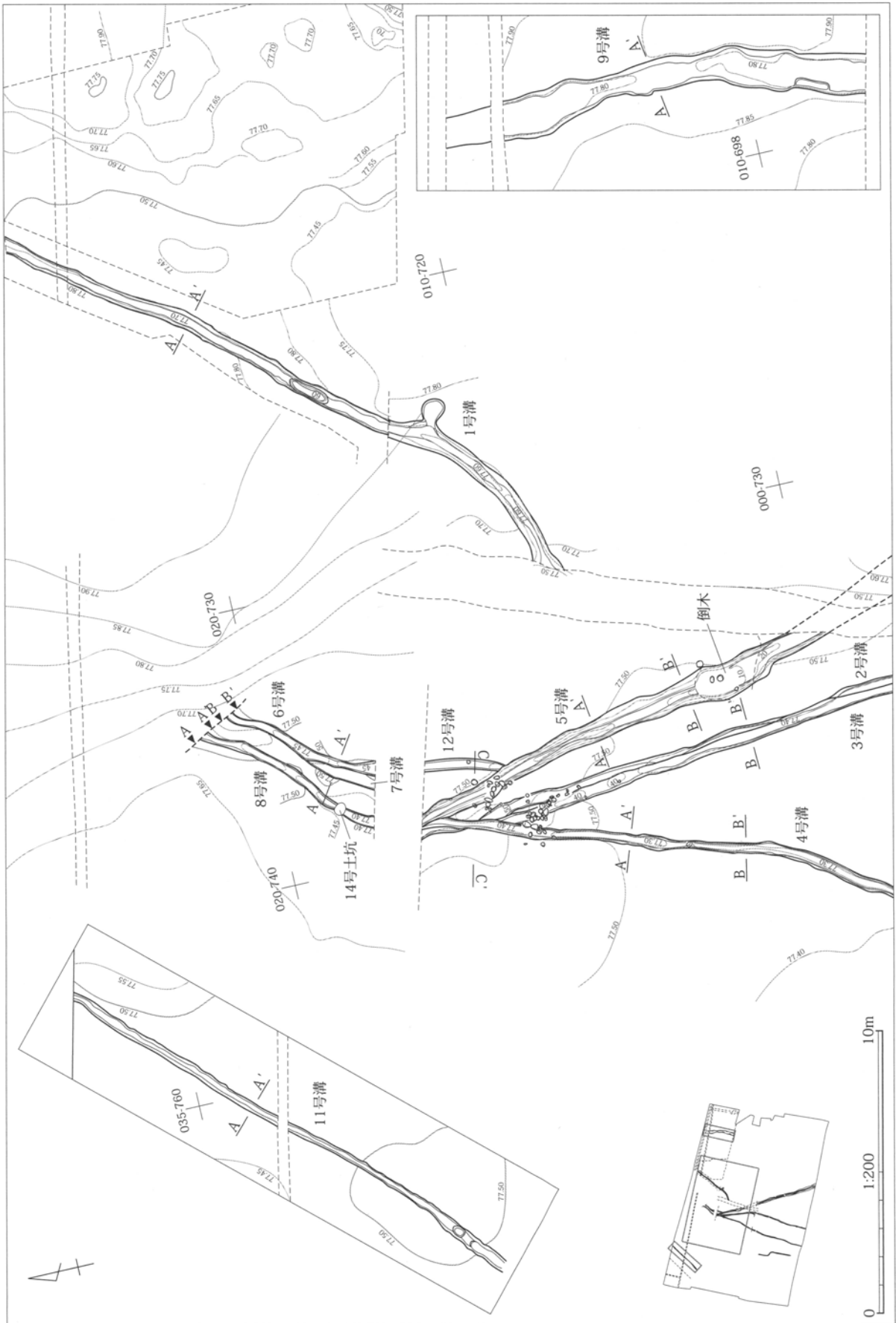
第 270 図 II・2区 As-B層下面全体図



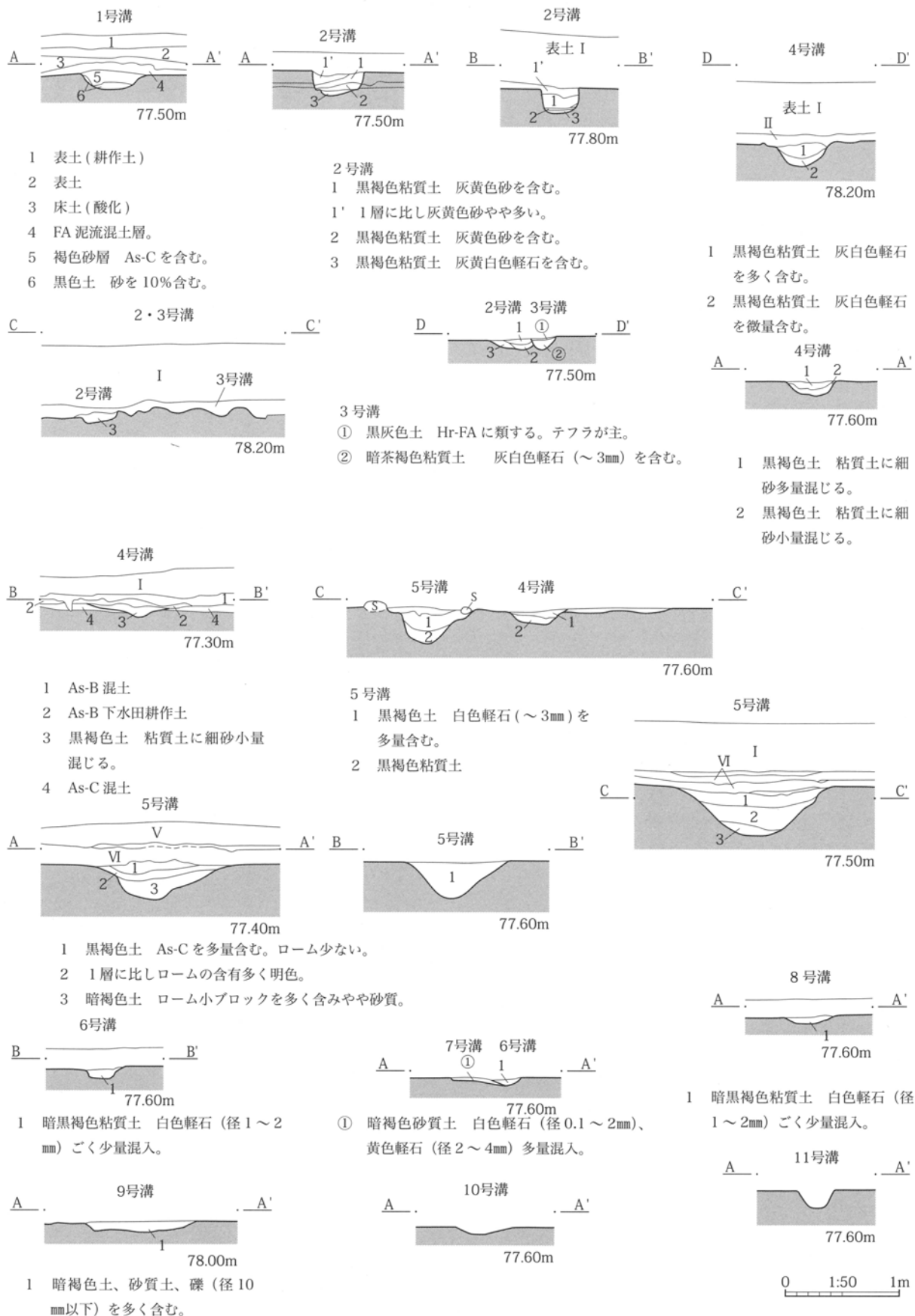
第 271 図 III・3 区 As-B 層下面全体図



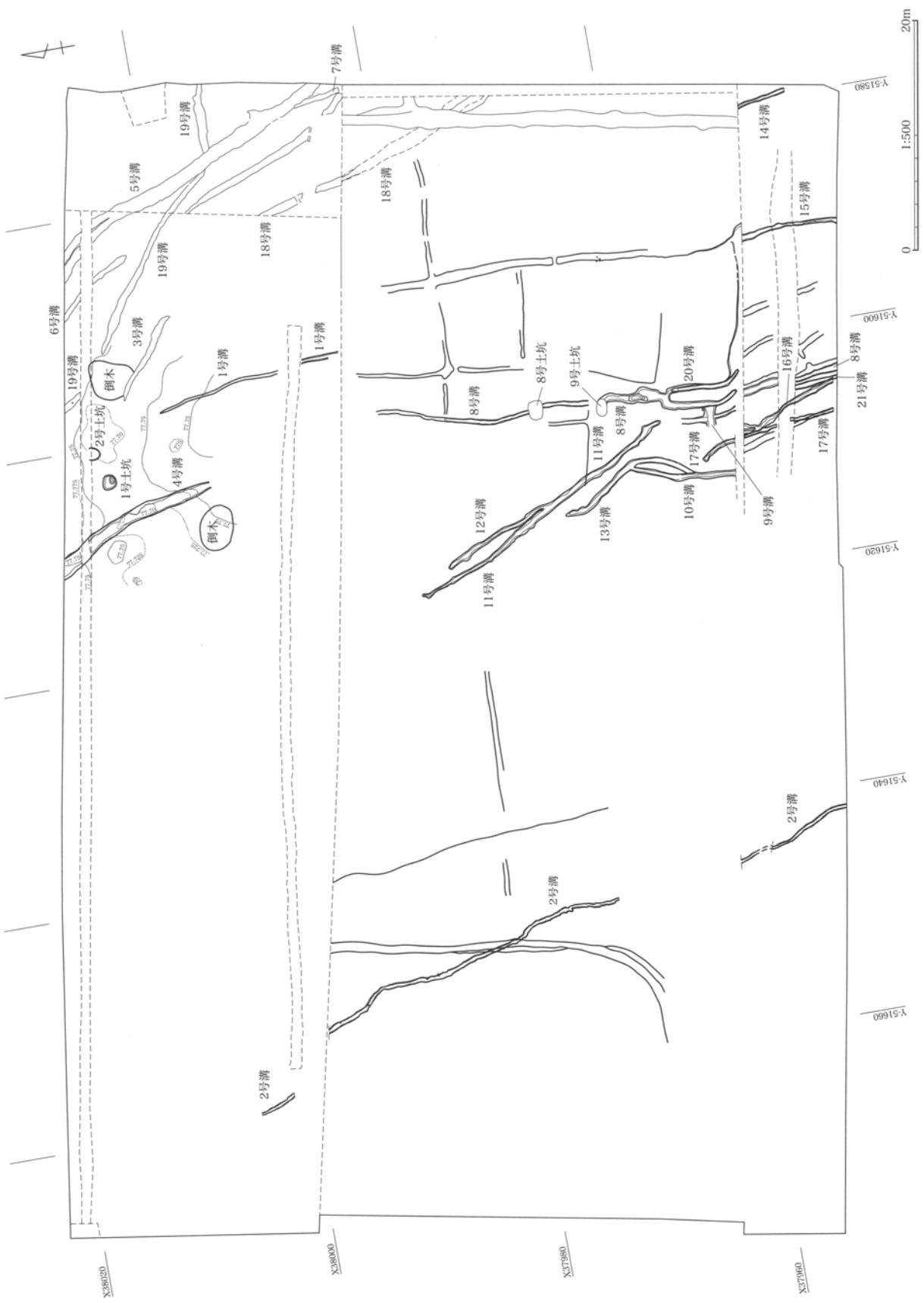
第 272 図 III・3区古代溝 (I)



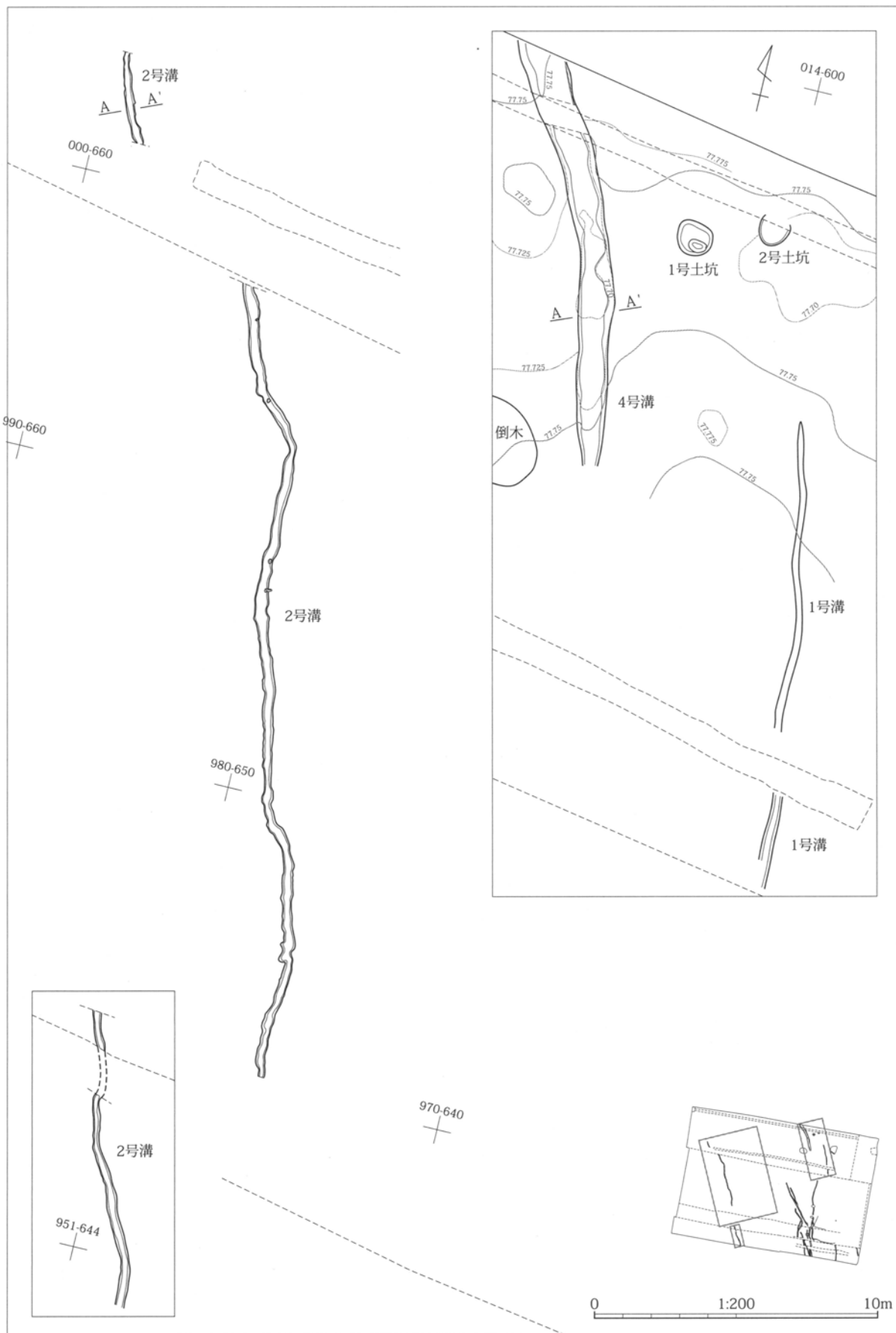
第 273 图 III·3 区古代沟 (2)



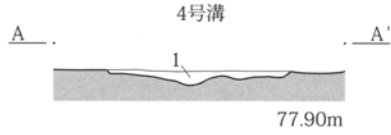
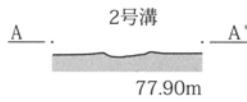
第274図 III・3区古代溝(3)



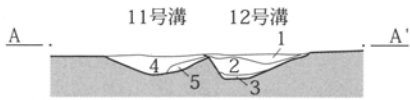
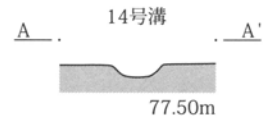
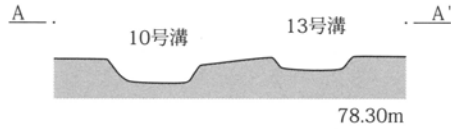
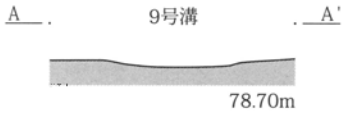
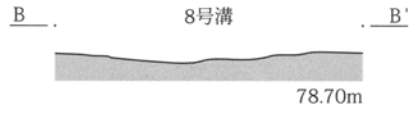
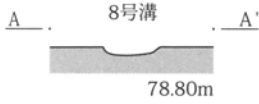
第 275 图 IV·4 区古代面全体图



第 276 图 IV·4 区古代沟 (1)



1 暗褐色粘質土 白色パミス (As-Cを主体とする) を少量含む。



11号溝
4 灰褐色土 砂質で黄褐色のブロック (径1mm程) を含む。

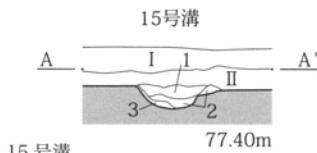
5 灰褐色土 灰褐色の粘質土 (地山)

12号溝

1 軽石を多く含む粘質土。

2 灰褐色土 やや砂質の層。

3 灰褐色土 径1~2mmの粒の砂層。

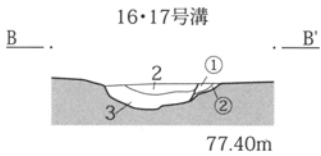
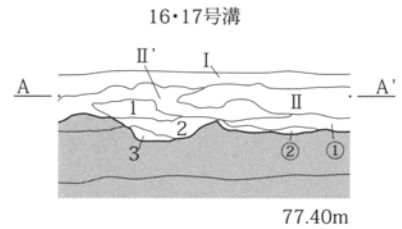


15号溝

1 灰褐色土 砂質で黄褐色のブロックを含む。

2 暗灰褐色土 1層より砂質で暗色。

3 暗灰褐色土 2層より含有物少ない。



16号溝

1 暗灰褐色土 砂質黄褐色を含む。

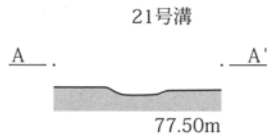
2 黒灰色土 やや砂質。

3 灰褐色土 砂質。

17号溝

① 黒灰色土 やや砂質。

② 灰褐色土 砂質。

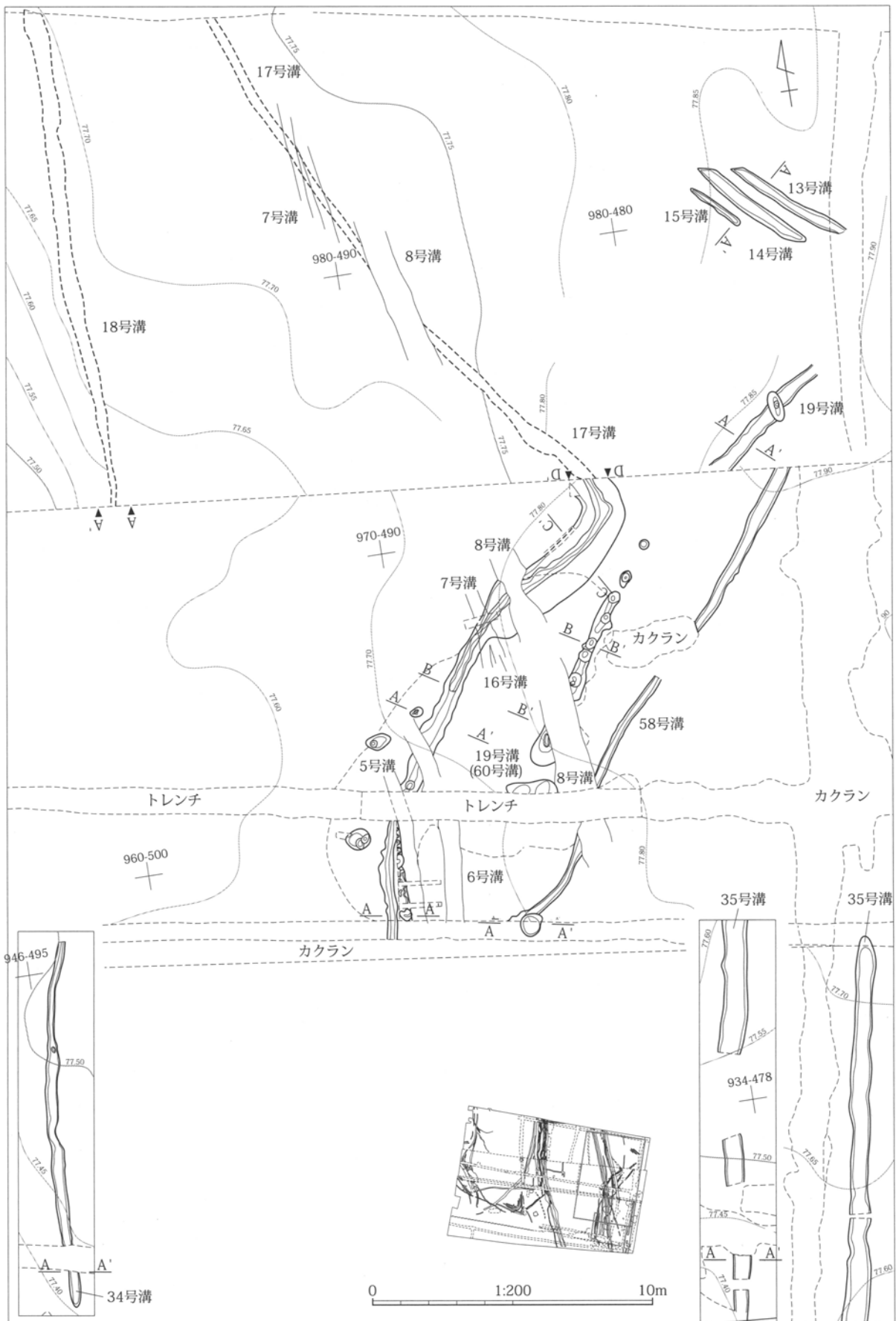


0 1:50 1m

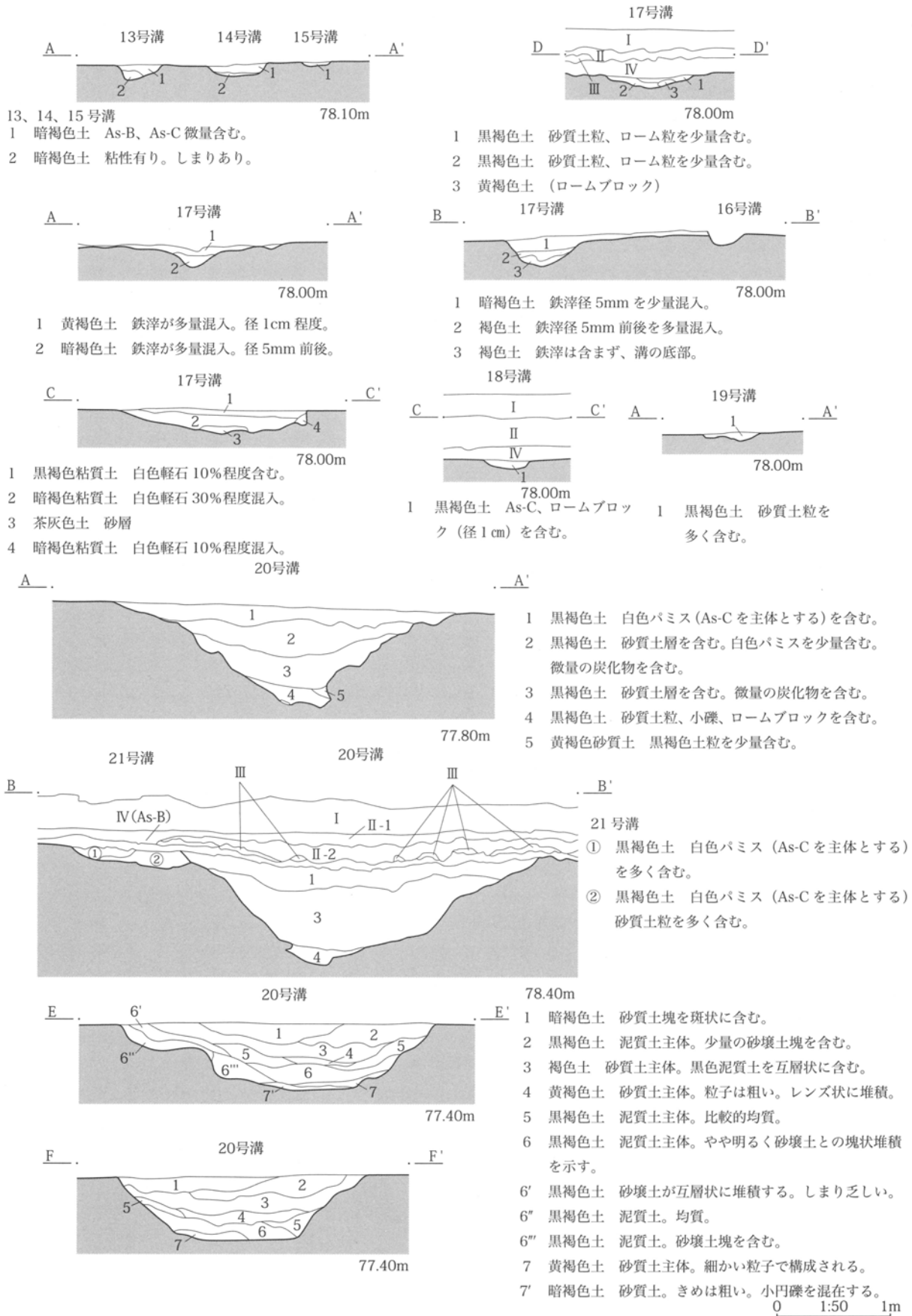
第 278 図 IV・4区古代溝(3)



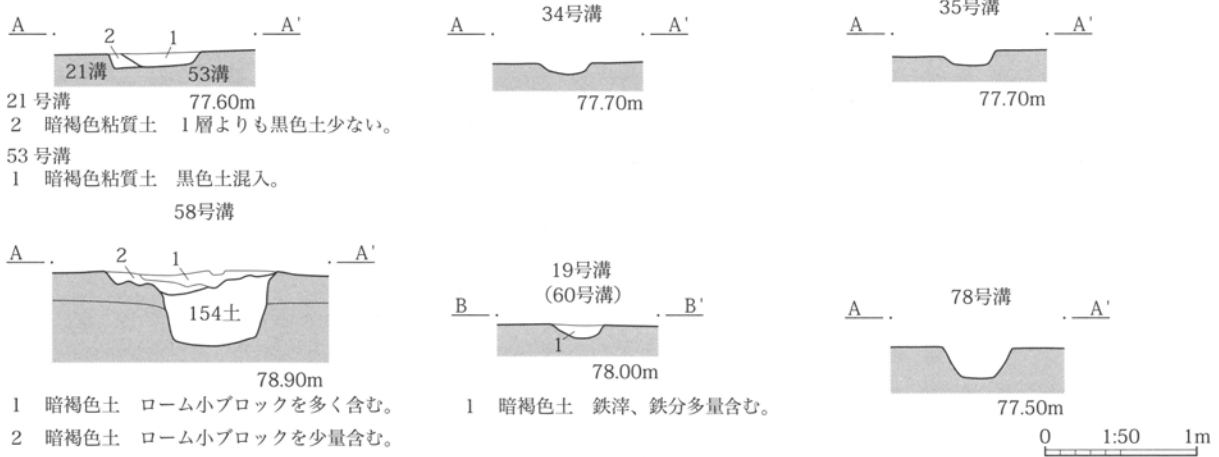
第 280 図 V・5 区古代溝 (1)



第 281 図 V・5区古代溝 (2)



第 282 図 V・5区古代溝 (3)



第 283 図 V・5区古代溝(4)

(6) 土坑

古代に属する可能性のある土坑は、4区で検出された1号土坑(第284図、PL59、第11表)以外は、明確でない。

4区1号土坑(第284図、PL59)

IV区の東側微高地の北西縁部(008,-603)グリッドに位置する。

直径1.22cmのやや不整な円形を呈し、深さは20cmである。覆土は、周辺の中近世の土坑とは異なる

As-C軽石を含む黒褐色土である。

底面付近から、土師器の小破片が出土した。

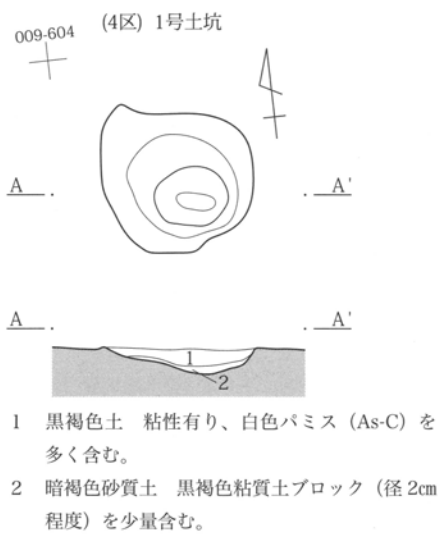
(7) 河道

下田遺跡西半部の低地帯を流れる河道は、古代の段階でほぼ埋没し、水田化した状況も部分的に確認されている。

I区34号溝(第286・287図、PL85)は、調査区南西隅で検出された。全体像は不明だが、河道に相当する規模を有する可能性がある(2号河道)。As-B軽石や砂が互層をなす埋没状況を示すことから、比較的短時間に埋没したものと考えられる。

溝(河道)は大間々扇状地桐原面と藪塚面の境界際の現早川の東に接する位置を流れる。

埋没時期が不明なため、中近世に掲載したが、古代にはこの位置に定着していた可能性が高い。

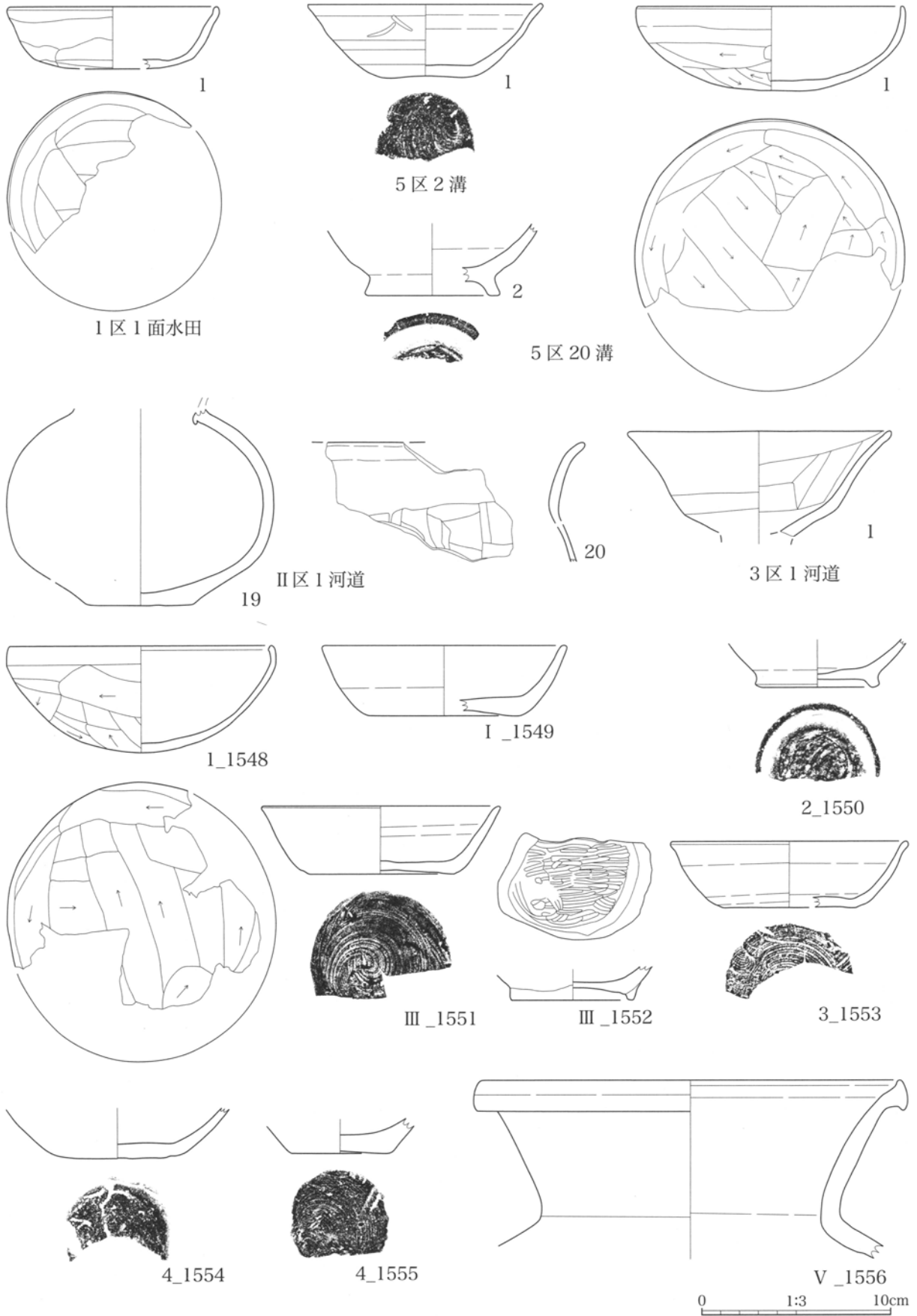


第 284 図 4区1号土坑

(8) 遺構外出土遺物

古代に属する遺構は、水田やこれに伴う溝を除くと、4・V区の微高部に散見される程度である。そのため、全体として遺物量は少ない。

掲載した土師器と須恵器を含め、出土遺物の残存状況は良くない。8世紀後半～9世紀代の遺物と、10世紀代の遺物が認められる。



第 285 図 古代出土遺物

第4項 中近世以降

(1) 水田跡

近世に属する水田跡は、I・I区で確認された。しかし、耕作面は現代に至る連続的な耕作の結果残存しない。この区域は、他の調査区に比較して低地部の高低差が大きいため残存したと考えられ、本来は他の調査区にもおよんだものと考えられる。

①第3面水田

I・I区第3面水田(第286図、PL84)

本調査区の東半部では南北および東西方向の溝群が検出されている。本水田の耕作面や耕作土の大部分は現代の圃場整備による削平を受け遺存していないが、溝群によって長方形に区画された水田面の存在が確認できる。調査区中央部の南北方向の溝群が、基軸となると考えられ、複数回の掘り直しの痕跡が認められる。3～5号溝は西から東へと掘り直されており、11・6・8・9号溝も含めた区画の変動が読み取れる。

区画の規模は、東西21～30m前後、南北21m前後となるが畦畔の区画と一致するかは不明である。

西側の12号・32号溝と、東側の37号溝の南北ラインも水田区画に伴うと考えられ、35号溝からII区7号溝の東西ラインも含めると、本面の水田はより広範に及ぶと想定される。1～3区(もしくは4区)を含めた、低地帯全体が継続的に水田化されていた可能性がある。

溝群の確認面は、水田の基盤に相当するが、この層位からは近世に帰属する遺物が出土した。本水田の時期の上限は不明であるが、地形的には古代以降継続的(断続的)に水田化されていたと考えられる。

水田耕作土中からは、中近世の陶磁器類が出土している(第309図、PL179)。

(2) 溝

各調査区において多数の溝が検出された(表10)。特に南北方向に形成された狭小で高低差の小さい谷地の縁辺には、繰り返し溝が掘り直された状況が認められた。各調査区の概要は以下の通りである。

I・I区では、近世水田の基盤で溝群が検出された(第287・288図)。南北の傾斜方向の溝とこれに直交する東西の溝の配置から、水田区画に関連することが想定される。II・2区ではI・I区側に連続する溝群が西端部で検出された(第289図)。近世水田関連の遺構と考えられる。IV・4区では、東端の微高部で近世以降と考えられる溝群が検出された(第293図)。V・5区では、ほぼ全域で多数の溝群が検出された(第295～299図)。中央の谷地部の縁辺の溝は北から南への傾斜に合わせた走行のものが主であるが、微高部では北西から南東方向のものが多数を占める。

(3) 土坑

中近世以降に属する土坑は、III～V区で少数検出された(第304～305図、PL59・60・70・72、表11)。V区152号土坑として調査した土坑は、64もしくは65号溝から連結する溜池状の大形土坑である。人為的に埋め戻された埋土中からは、近世末に属する陶磁器類が出土した。なお、下流方向への配水の状況は確認できなかった。

(4) 河道

II区1号河道の中央部の用水化した流路からは17世紀～19世紀に属する陶磁器類が出土した(第309図・PL179)。圃場整備直前の水路からは現代の道具類の混入が認められた。

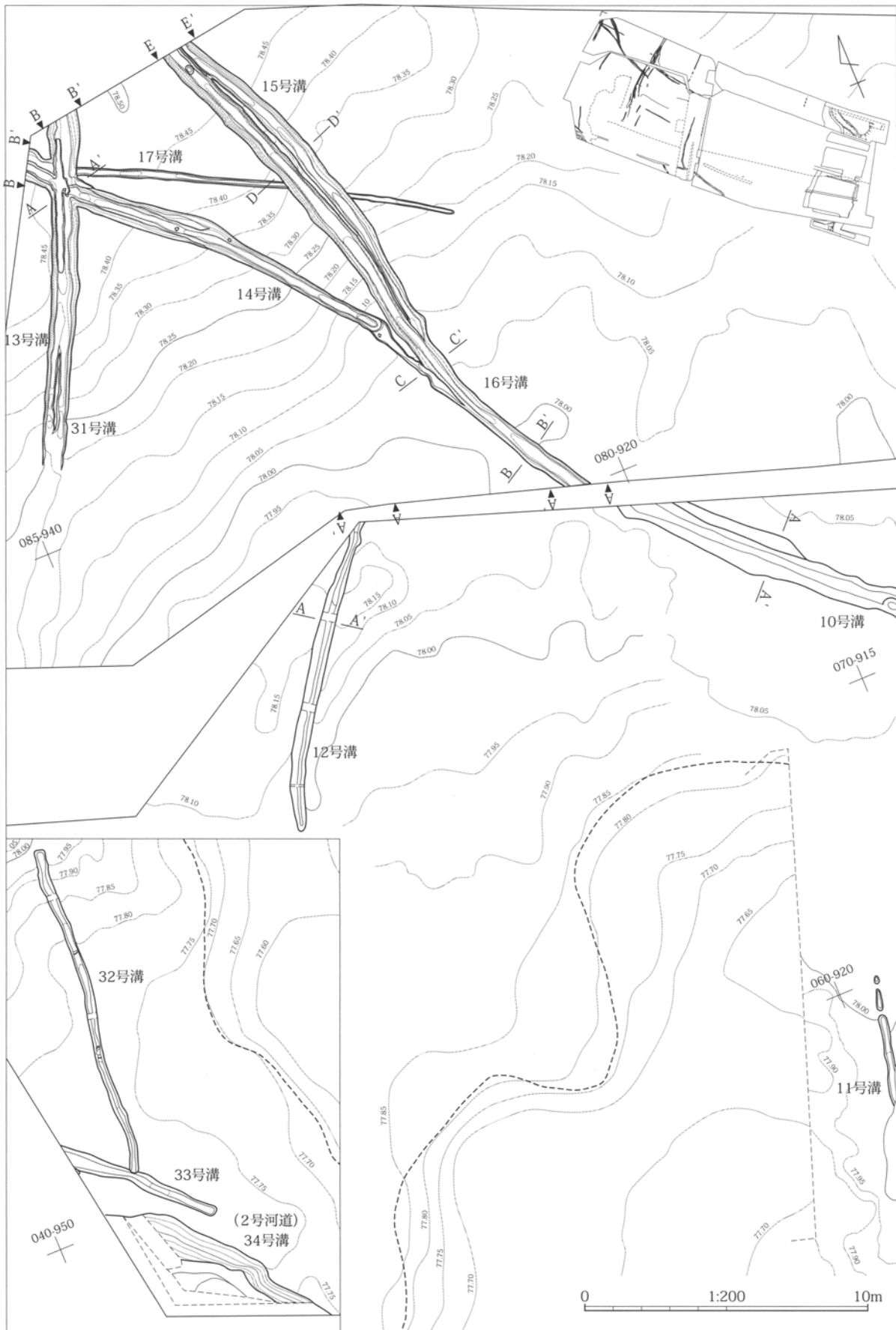
(5) 遺構外出土遺物

中近世に位置づけられる遺物は、各調査区から少数出土した(第309・310図、PL179・180)。

中世では、IV・4区を中心に中国・龍泉窯系の輸入陶器片が6点出土した。1566は龍泉窯系の青磁碗(13～15世紀)である。

近世では、肥前系の磁器や瀬戸美濃系の陶器類が出土した。

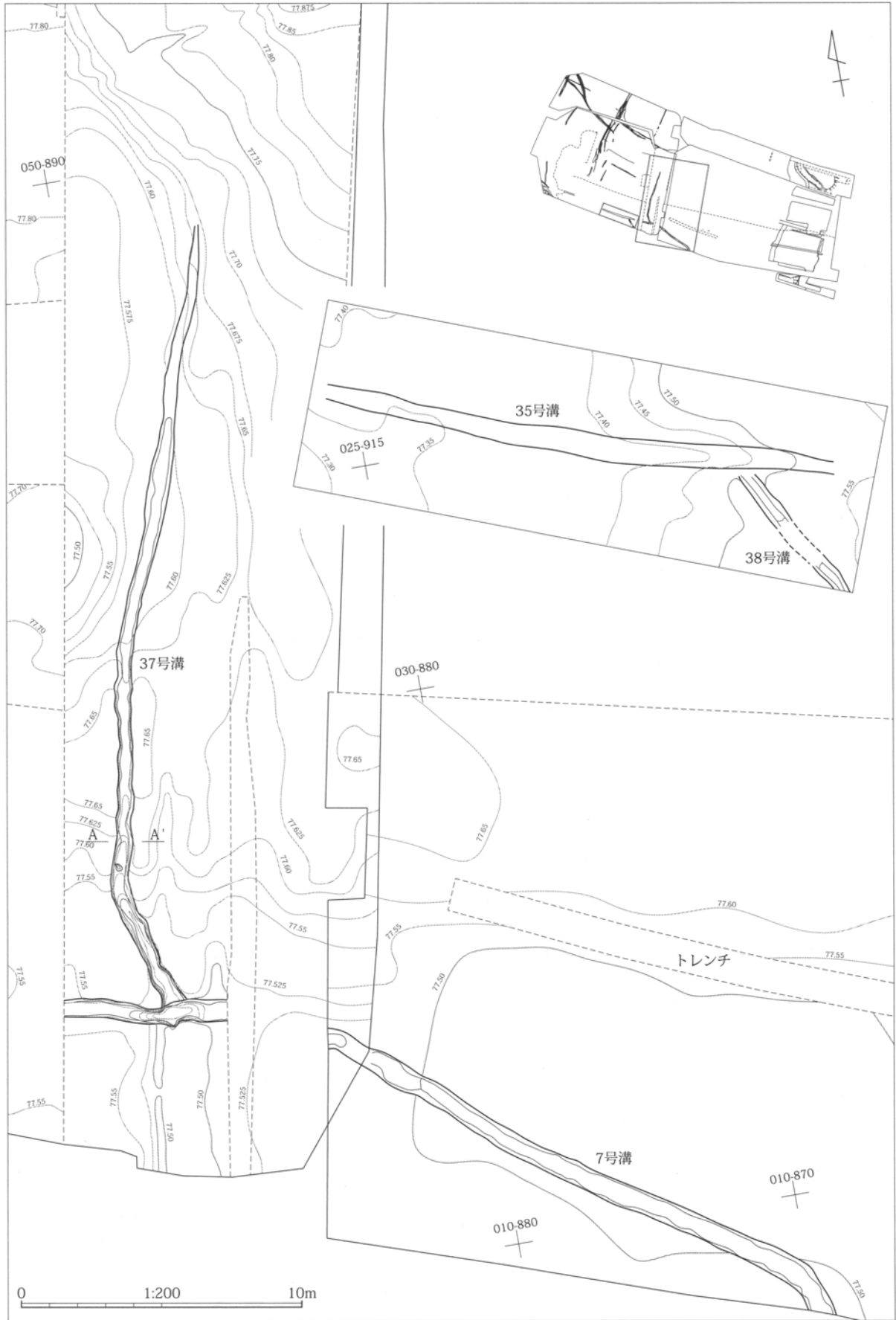
銭は、嘉佑通宝(北宋1056～1063)1枚、熙寧元宝(北宋1068)1枚、元豊通宝(北宋1078～1085)3枚、紹聖元宝(北宋1094～1097)1枚と、寛永通宝(1636～1869頃)6枚が出土した。北宋銭は国内の流通時期から本項で扱った。



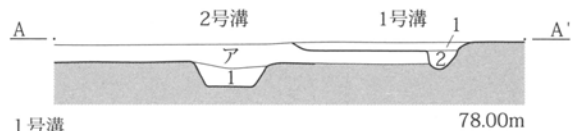
第 287 图 I · 1 区中近世溝 (1)



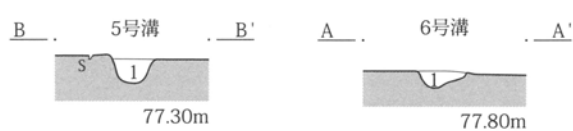
B.



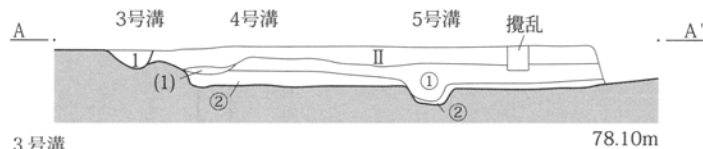
第 289 図 I・I 区 (3)、II 区中近世溝



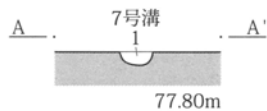
- 1号溝
 1 暗灰褐色砂質土 As-Bを含む。
 2 暗灰褐色砂質土 1層に比して暗く As-B(～2mm)を多く含む。
 2号溝
 1 暗茶灰褐色土 As-Bを含む。
 ア 暗灰褐色砂質土 1溝2層に比しやや暗色で As-Bの含有少ない。



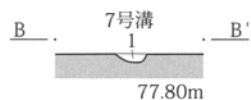
- I 暗茶灰褐色土 As-Bを含む。
 I 暗灰褐色砂質土 As-Bを含む。



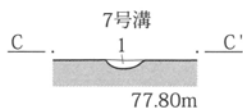
- 3号溝
 1 暗灰褐色土 砂質。As-B(～2mm)を多く含む(30%)。
 4号溝
 (1) 黄灰色粗砂を主体とする。
 5号溝
 ① 暗茶灰褐色土 As-Bを含む(～20%)
 ② 暗茶灰褐色土 As-Bと黒褐色粘質土(耕作土)ブロックの混土。



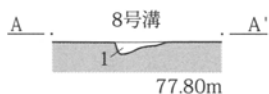
- I 暗灰褐色砂質土と黄橙色粗砂が混じる。少量の As-Bを含む。



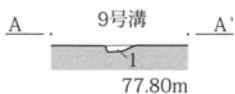
- I 暗灰褐色砂質土と黄橙色粗砂が混じる。少量の As-Bを含む。



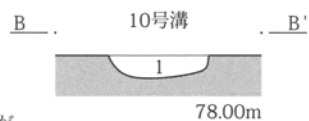
- I 暗灰褐色砂質土と黄橙色粗砂が混じる。少量の As-Bを含む。



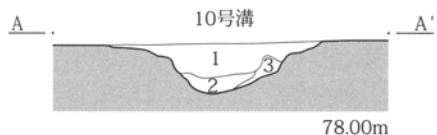
- I 暗灰褐色砂質土と黄橙色粗砂が混じる。少量の As-Bを含む。



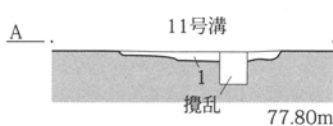
- I 暗灰褐色砂質土と黄橙色粗砂が混じる。少量の As-Bを含む。



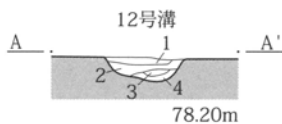
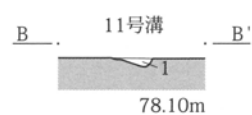
- I 暗茶褐色土 As-B(～2mm)を多量含む。



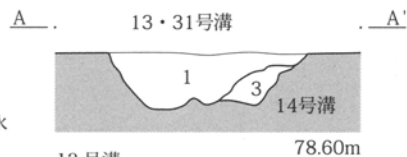
- 1 暗茶褐色土 As-B(～2mm)を多量(30%)含む。
 2 粗砂層 ラミナ。As-B主体か?
 3 黒褐色粘質土と灰褐色シルト質土の混層。



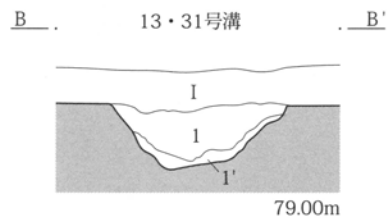
- I 灰褐色砂質土 粗砂に As-Bを少量含む。



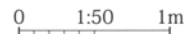
- 1 黒褐色砂壤土 第1面(近世水田床土)
 2 砂層
 3 暗褐色砂壤土層
 4 砂層



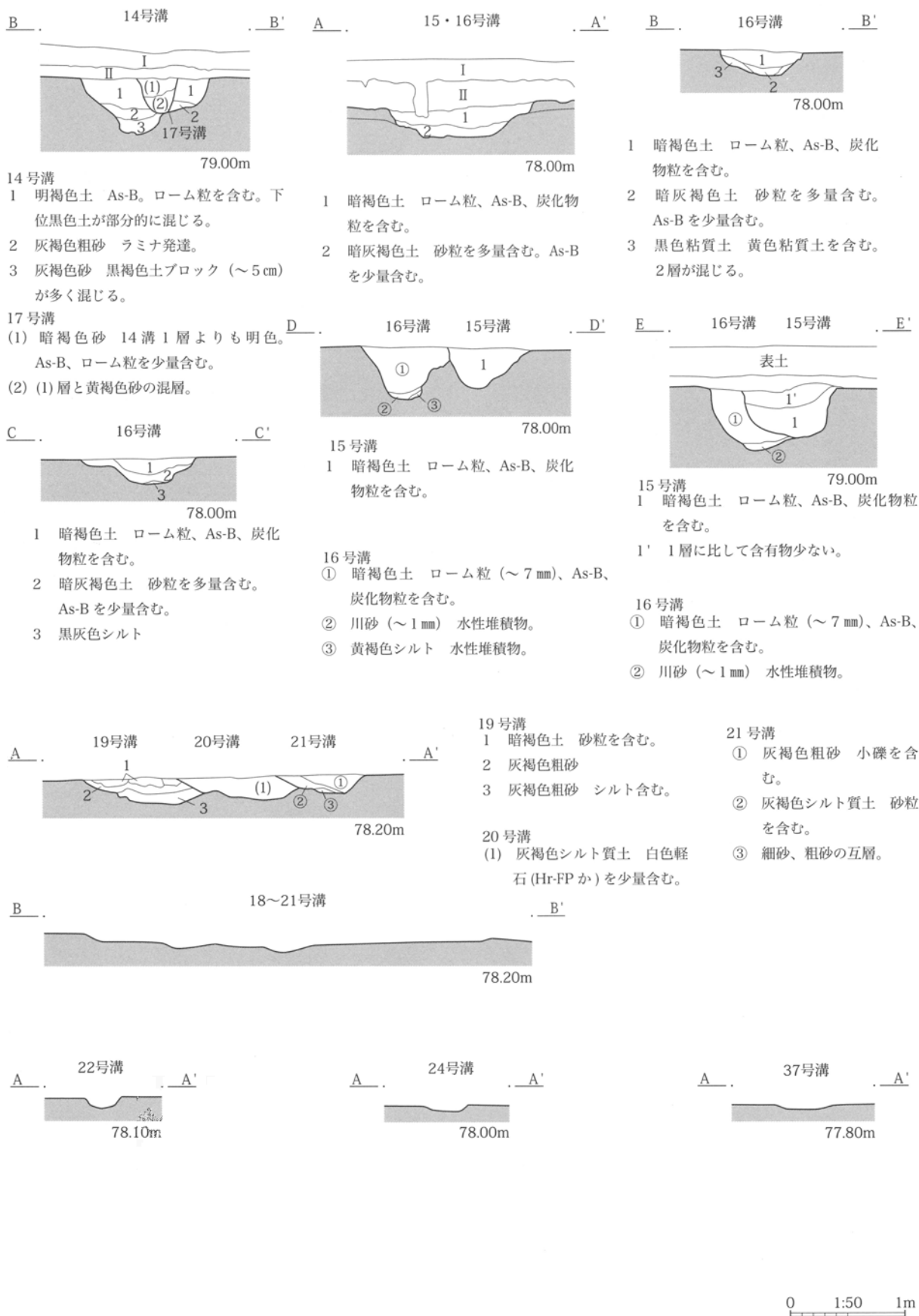
- 13号溝
 1 明褐色土 As-Bを多く含む。しまりは弱い。ローム粒少ない。
 14号溝
 3 灰褐色砂 黒褐色土ブロック(～5cm)が多く混じる。



- I 明褐色土 As-Bを多く含む。しまりは弱い。ローム粒少ない。
 I' 明褐色土 1層に類すが、下部の黒褐色土をブロック状に含む。



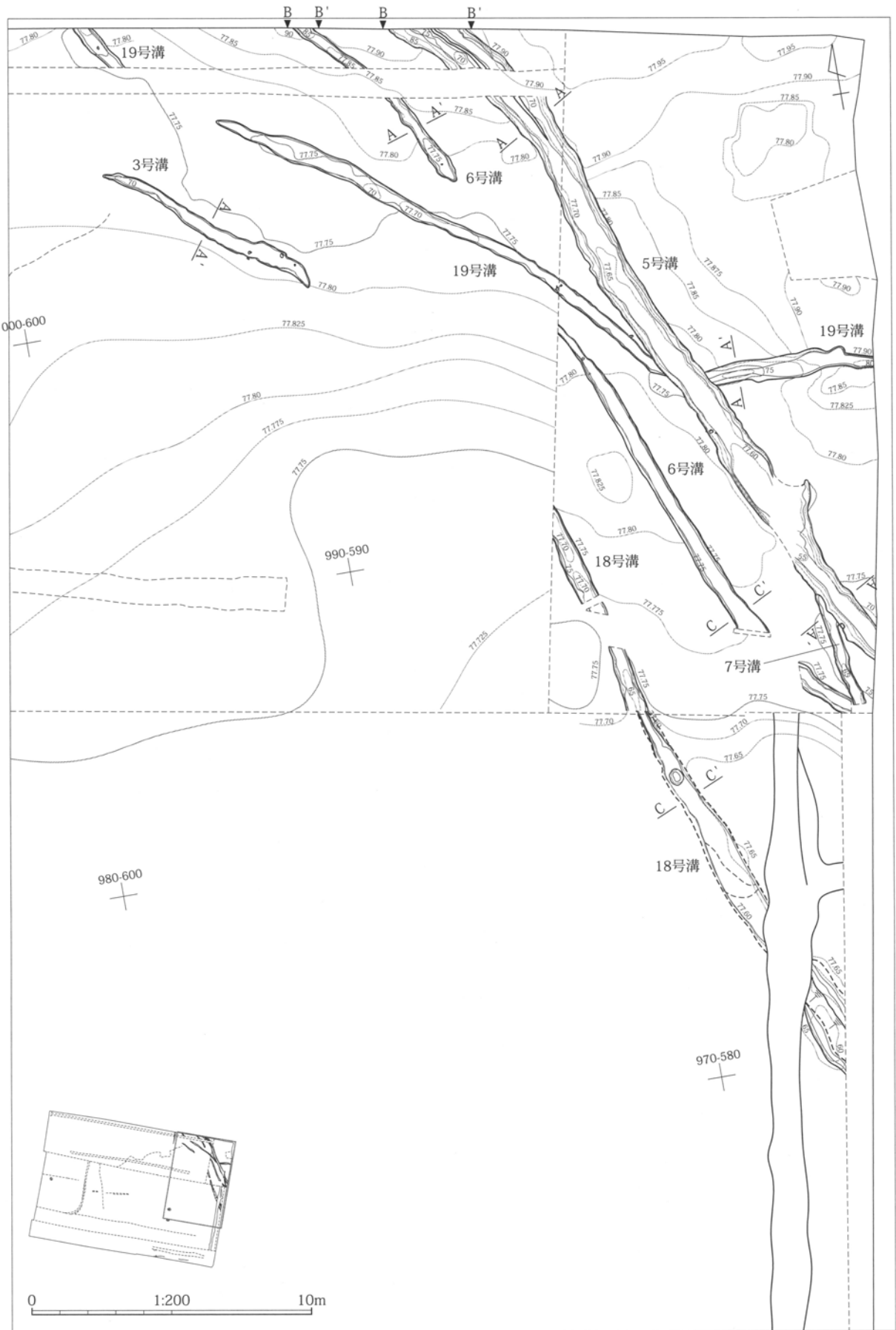
第290図 I・I区中近世溝(4)



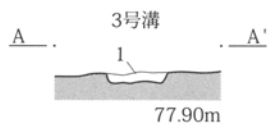
第 291 図 I・I 区中近世溝 (5)



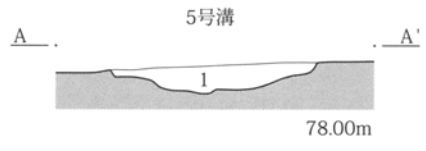
第 292 图 IV·4 区中近世面全体图



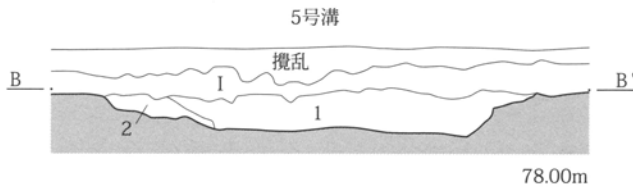
第 293 图 IV · 4 区中近世沟 (1)



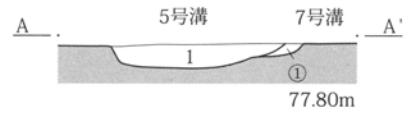
1 暗褐色土 白色パミス (As-Bを主体とし Hr-FPを含む。) とロームブロック (径5mm以下) を含む。



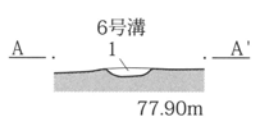
1 暗褐色土 白色パミス、ロームブロック (径5mm以下) を含む。



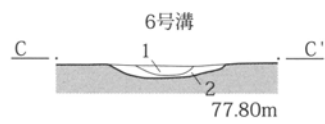
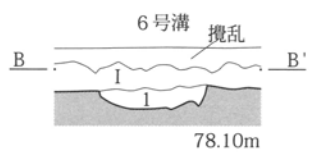
1 暗褐色土 白色パミス、ロームブロック (径5mm以下) を含む。
2 暗褐色土 ロームブロック (径10mm以下) を多く含む。



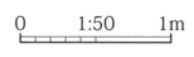
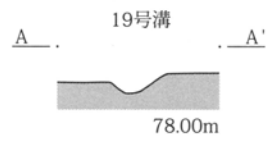
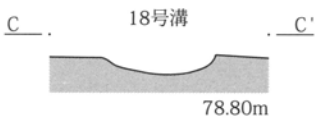
1 暗灰褐色土 粘性やや有り、締まりやや有り、ローム粒少量、細砂上層中心にやや多く含む。
① 暗褐色土 粘性有り、締まり有り、ロームブロック少量、As-C微量含む。



1 暗褐色土 白色パミス (As-Bを主体とする)、ロームブロック (径5mm以下) を少量含む。



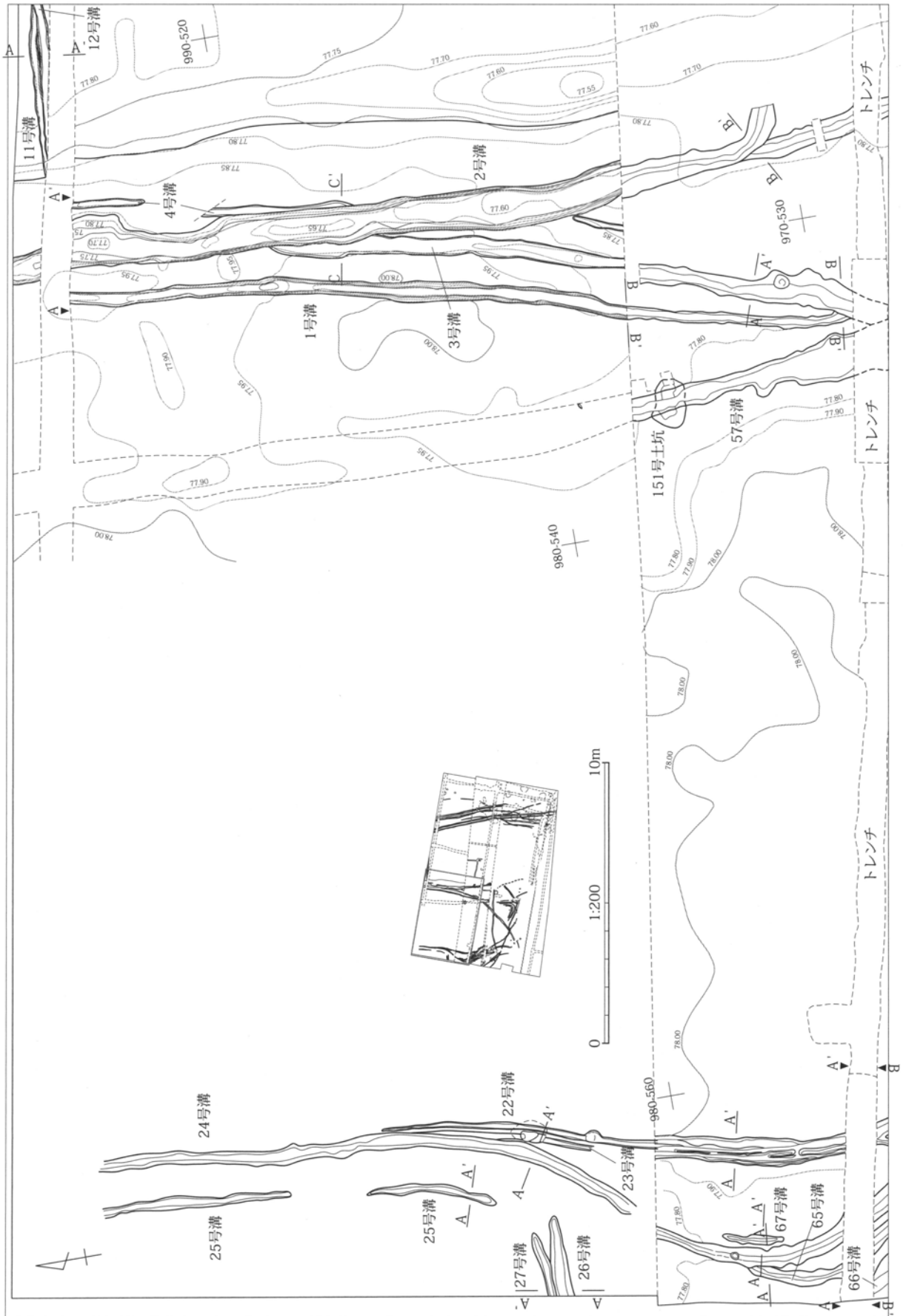
1 暗褐色土 ローム粒少量、As-C少量含む。
2 灰褐色土 細砂主体、As-C微量、As-Bやや多く含む。



第294図 IV・4区中近世溝(2)



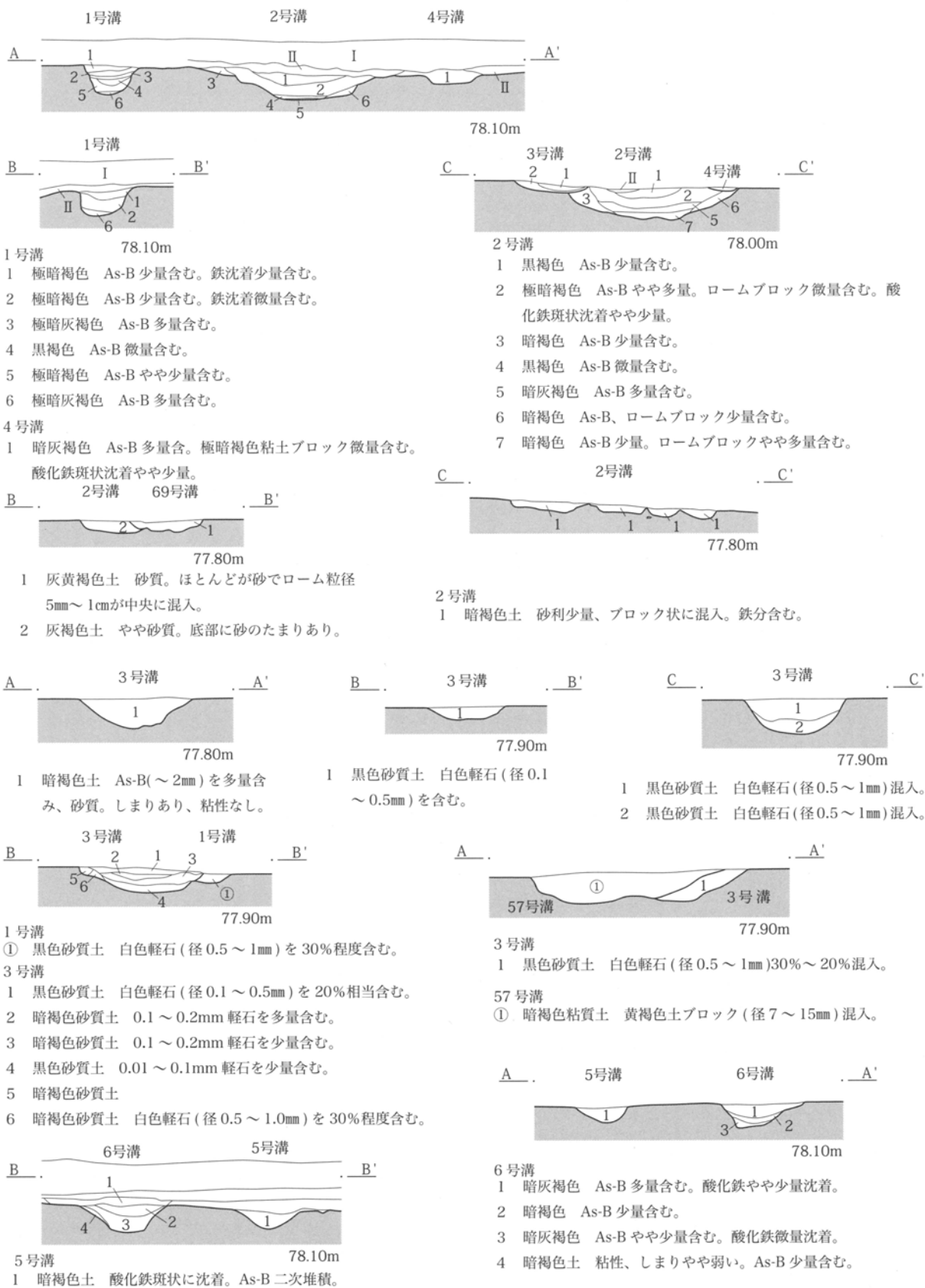
第 295 図 V・5 区中近世面全体図



第296図 V・5区中近世溝(1)

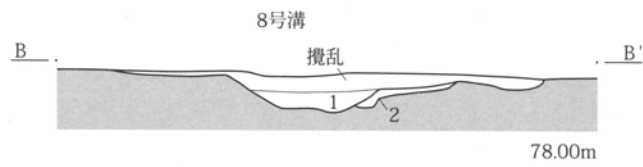
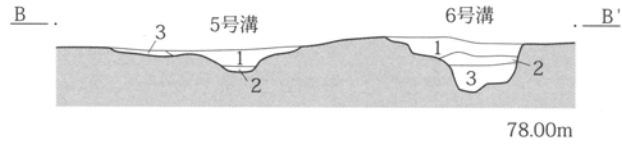
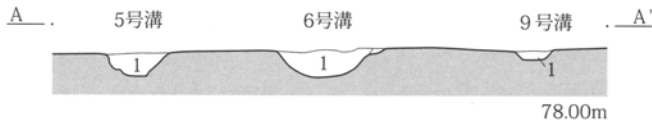


第 297 図 V・5 区中近世溝 (2)



0 1:50 1m

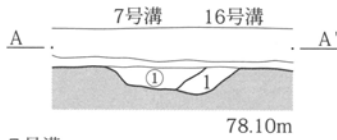
第300図 V・5区中近世溝(5)



5号溝
 1 暗褐色土 鉄滓を少量含む。径2mm~3cm程度。
 2 砂層
 3 1層と2層の混層。

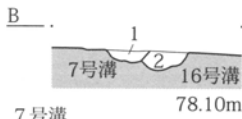
6号溝
 1 暗褐色土 鉄滓を少量含む。径2mm~3cm程度。
 2 暗褐色土 C黒に少量の鉄滓を含む。
 3 暗褐色土 B混土を主体に鉄滓を少量含む。

8号溝
 1 暗褐色土 As-Bを含む。
 2 暗褐色土 砂鉄を含む。

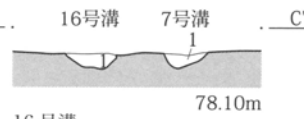


7号溝
 ① 暗褐色土 粘性やや弱し。縮まりやや弱し。As-B少量含む。

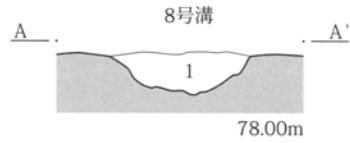
16号溝
 1 暗褐色土 粘性やや弱。縮まりやや弱。As-B少量含む。
 2 1層に比し含有物少ない。



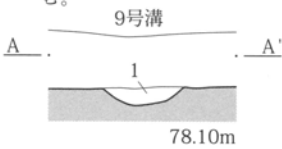
7号溝
 1 暗褐色土 B混土。ローム粒が多少混入。白色軽石(径1mm)を均一に含む。小鉄滓を少量含む。



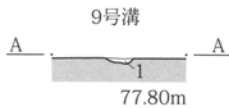
16号溝
 1 暗褐色土 B混土。
 17号溝
 1 暗褐色土 B混土。



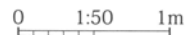
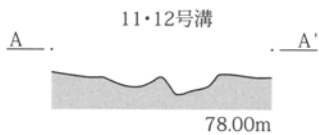
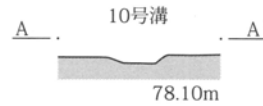
1 暗褐色土 B混土。



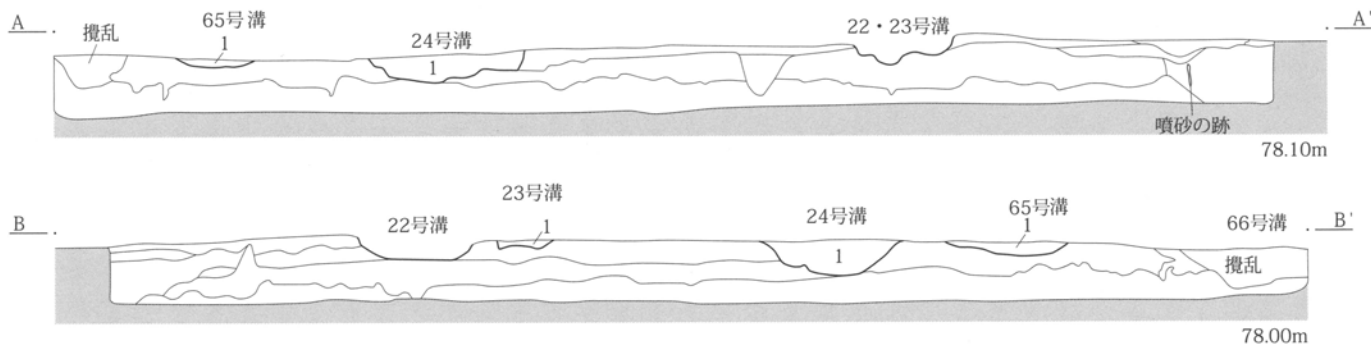
1 暗灰褐色 As-B多量含む。



1 暗褐色砂質土 白色軽石(径1~2mm)少量混入。

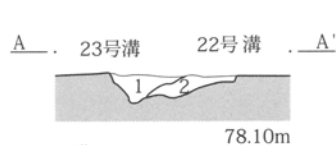


第301図 V・5区中近世溝(6)



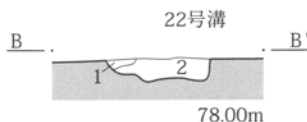
23・24・65号溝

1 暗褐色土 B混土。ローム粒少量含む。縄文包含層の上面、白色軽石径1mmを均一に含む。



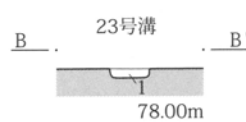
23号溝
1 暗褐色土 B混土。ローム土極少量混入。

22号溝
2 暗褐色土 B混土。1層より粘性あり。

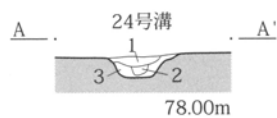


1 暗褐色土 白色軽石、ローム粒混入。縮まりあり。

2 暗褐色土 白色軽石少量含む。B混土も混入。



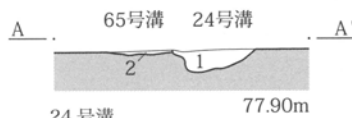
1 暗褐色土 B混土。



24号溝
1 暗褐色土 細粒砂少量。ローム粒、白色軽石粒微量含む。

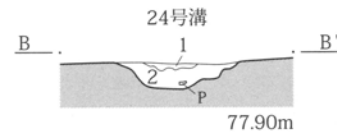
2 暗褐色土 ローム粒微量含む。

3 暗褐色土 ローム粒やや多量。細粒砂、白色軽石粒微量含む。



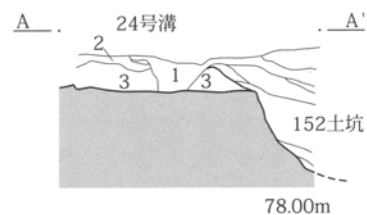
24号溝
1 暗褐色土 B混土。ロームブロック、ローム土含む。

65号溝
2 暗褐色土 B混土含む。1層よりやや粘性あり。



1 黄褐色土 暗褐色土ブロック混入。ローム土多量含む。

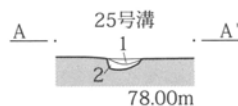
2 暗褐色土 B混土。ロームブロック極少量混入。



1 暗褐色土 A混土。A軽石径1mmが均一に混入している。

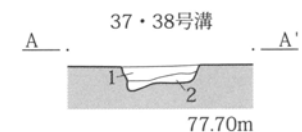
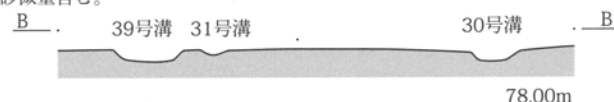
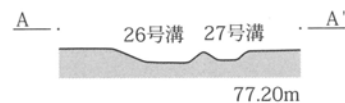
2 黄色土 ローム粒がほとんどで黒ボク土が少量混入。

3 暗褐色土 やや粘質。



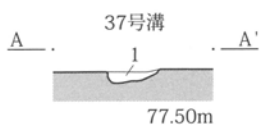
25号溝
1 暗褐色土 細粒砂、白色軽石粒微量含む。

2 暗褐色土 ローム粒少量。細粒砂微量含む。

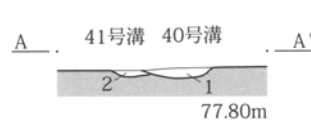


37号溝
1 暗褐色土 As-B軽石少量混じり。

38号溝
2 暗褐色土 As-B軽石を含む黒色土混じり。

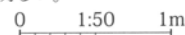


1 暗褐色粘質土 黒色土混入。

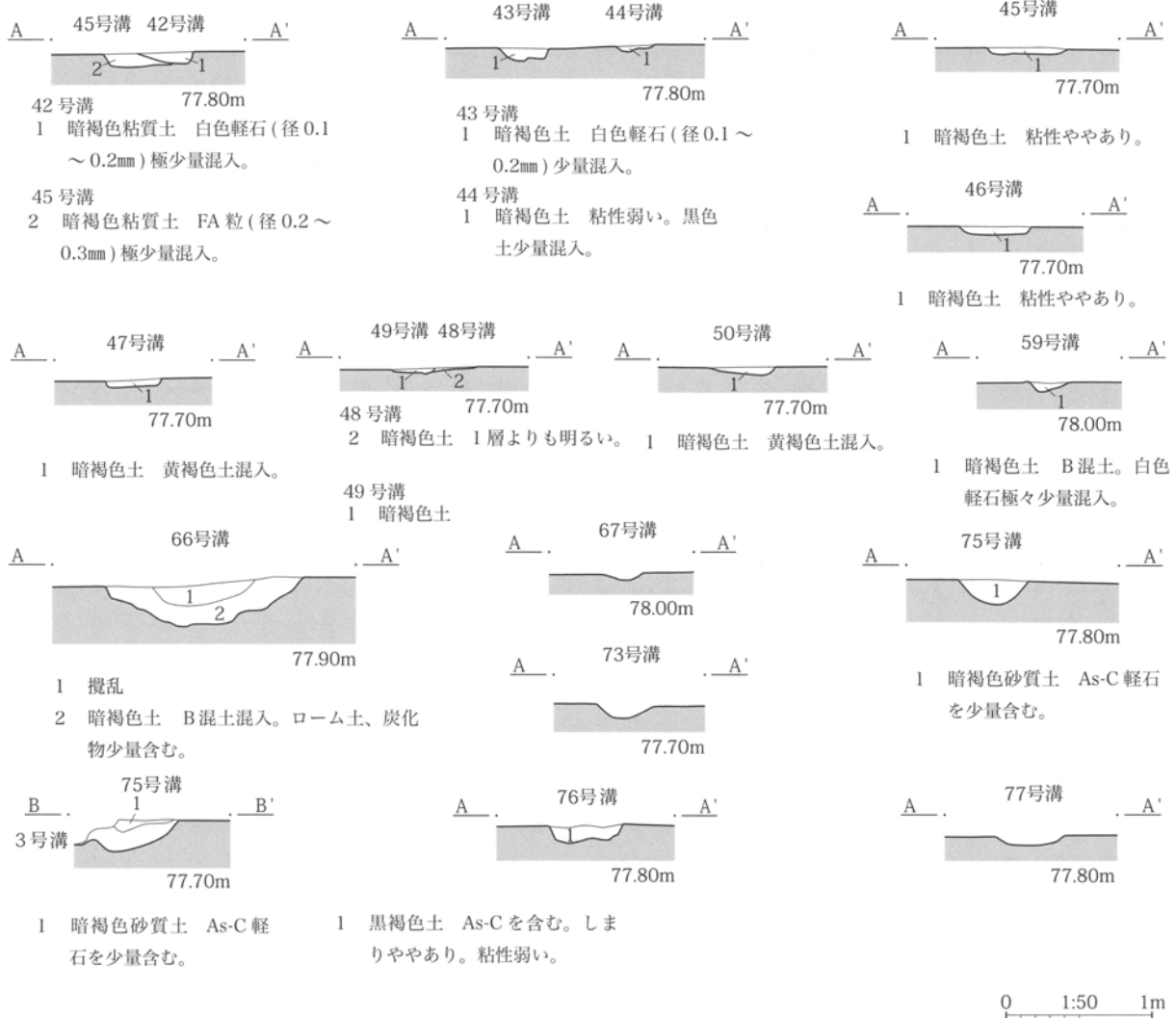


40号溝
1 暗褐色土 粘質なし。

41号溝
2 暗褐色土 1層よりも明るい。

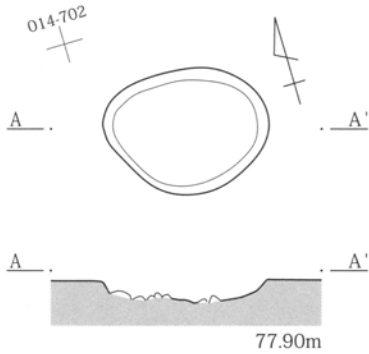


第302図 V・5区中近世溝(7)

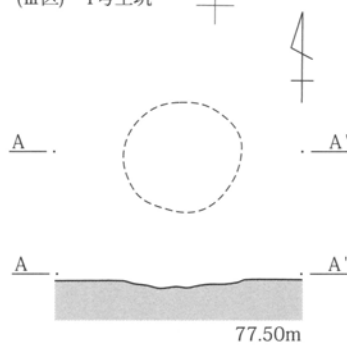


第 303 図 V・5区中近世溝(8)

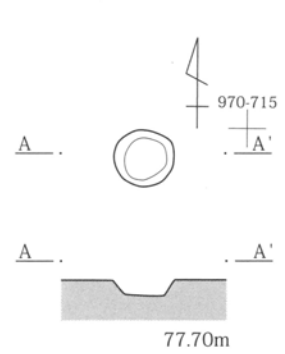
(3区) 14号土坑



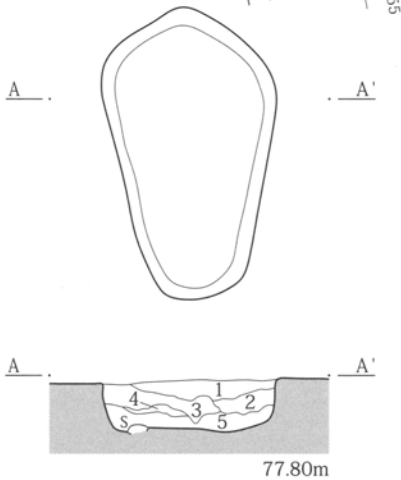
(III区) 1号土坑 003-740



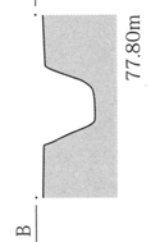
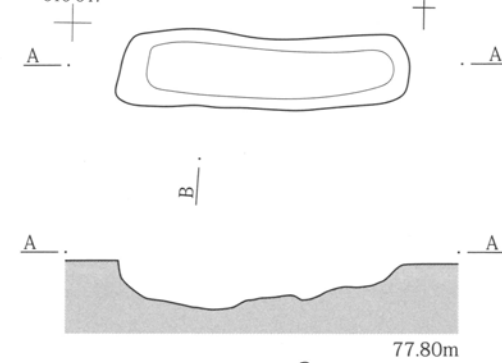
(III区) 17号土坑



(4区) 3号土坑

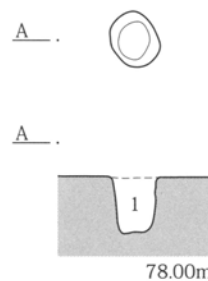


8号土坑 010-647

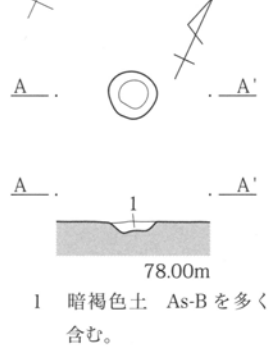


- 1 黒褐色粘質土 白色パミス (As-Bを主体とする) を多く含む、ロームブロックを少量含む。
- 2 暗褐色砂質土 As-B主体。黒褐色粘質土ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色粘質土 白色パミス (As-Bを主体)、黒褐色粘質土ブロック、ロームブロックを多く含む。
- 4 暗褐色砂質土 As-B主体。黒褐色粘質土ブロックを少量含む。
- 5 暗褐色粘質土 暗褐色砂質土粒を多く含む、ロームブロックを少量含む。

4号土坑 001-925

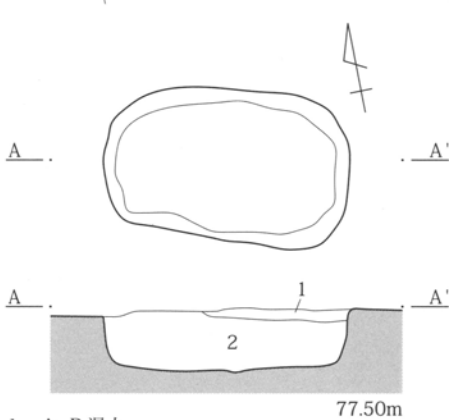


6号土坑 991-580

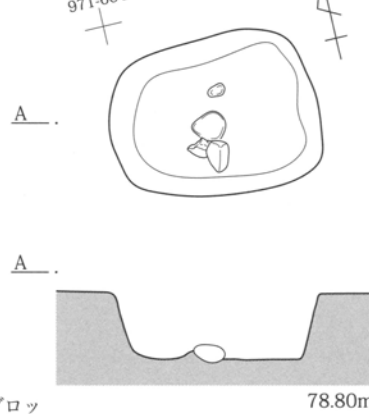


- 1 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。

(IV区) 9号土坑 953-636

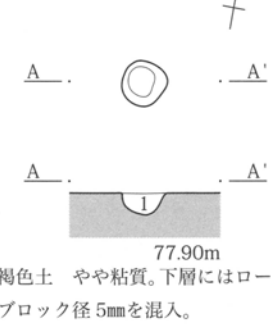


10号土坑 971-604

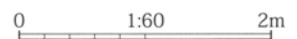


- 1 As-B混土。
- 2 As-B混土、As-C混土、黒褐色粘質土、水成ローム各ブロックの混土层。

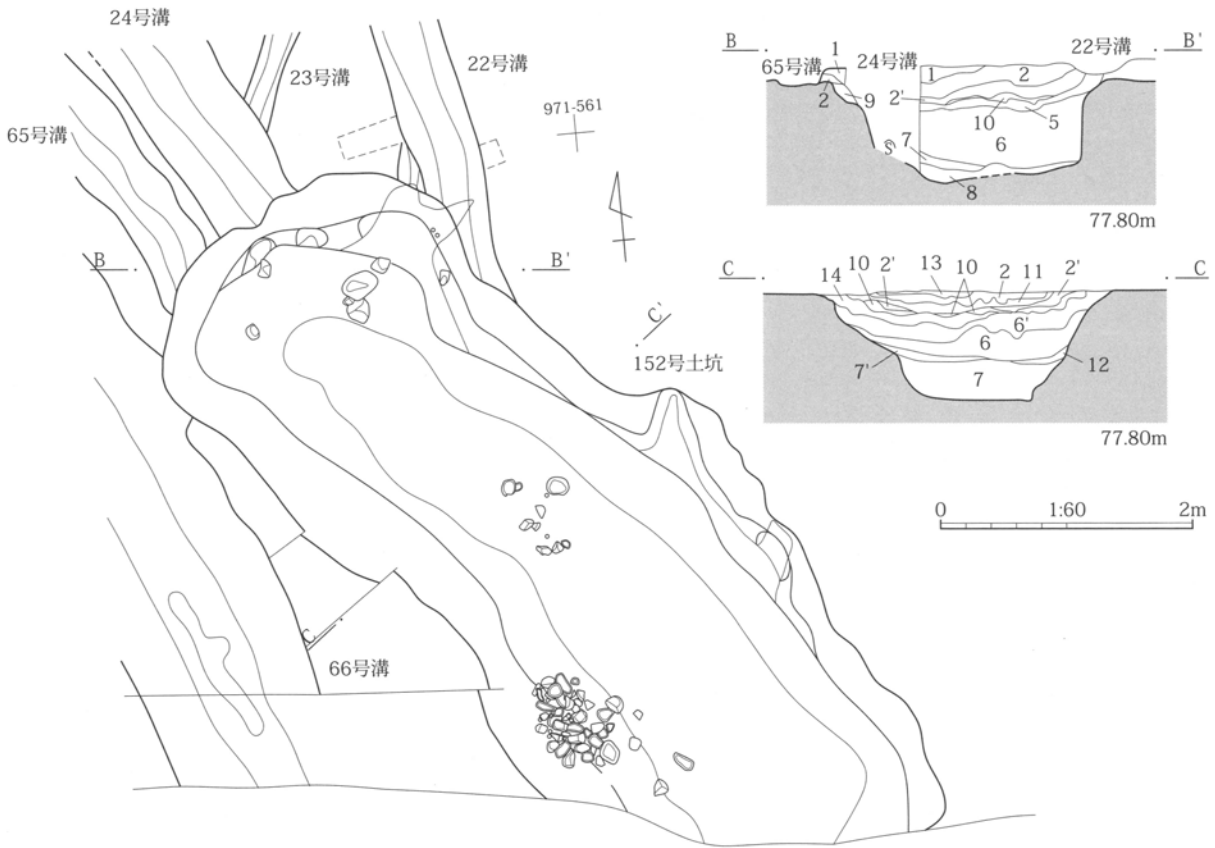
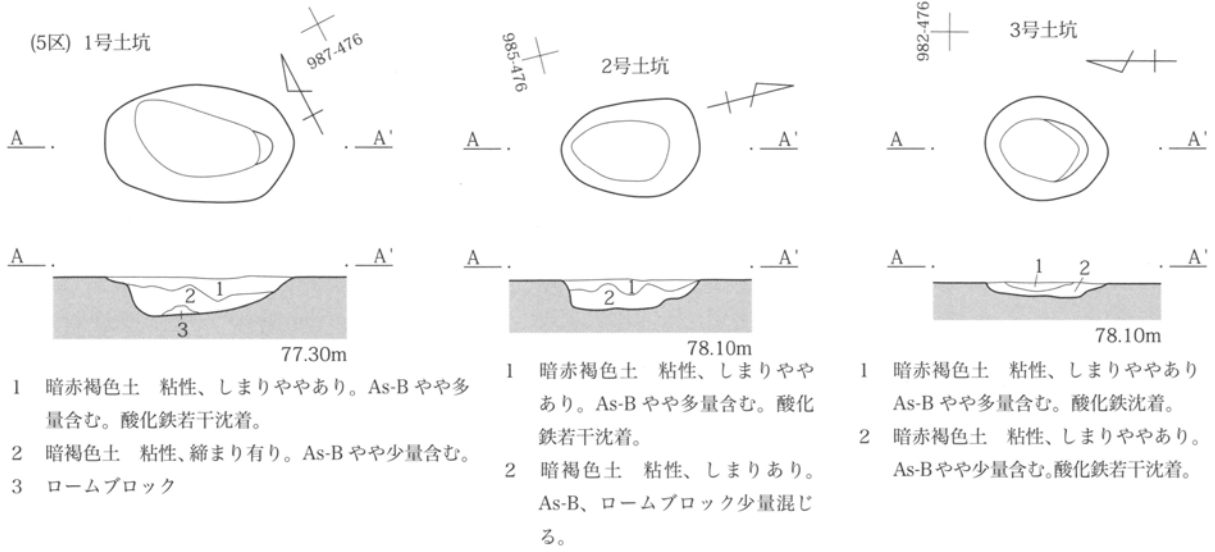
(V区) 180号土坑 977-545



- 1 暗褐色土 やや粘質。下層にはロームブロック径5mmを混入。



第304図 中近世土坑(1)

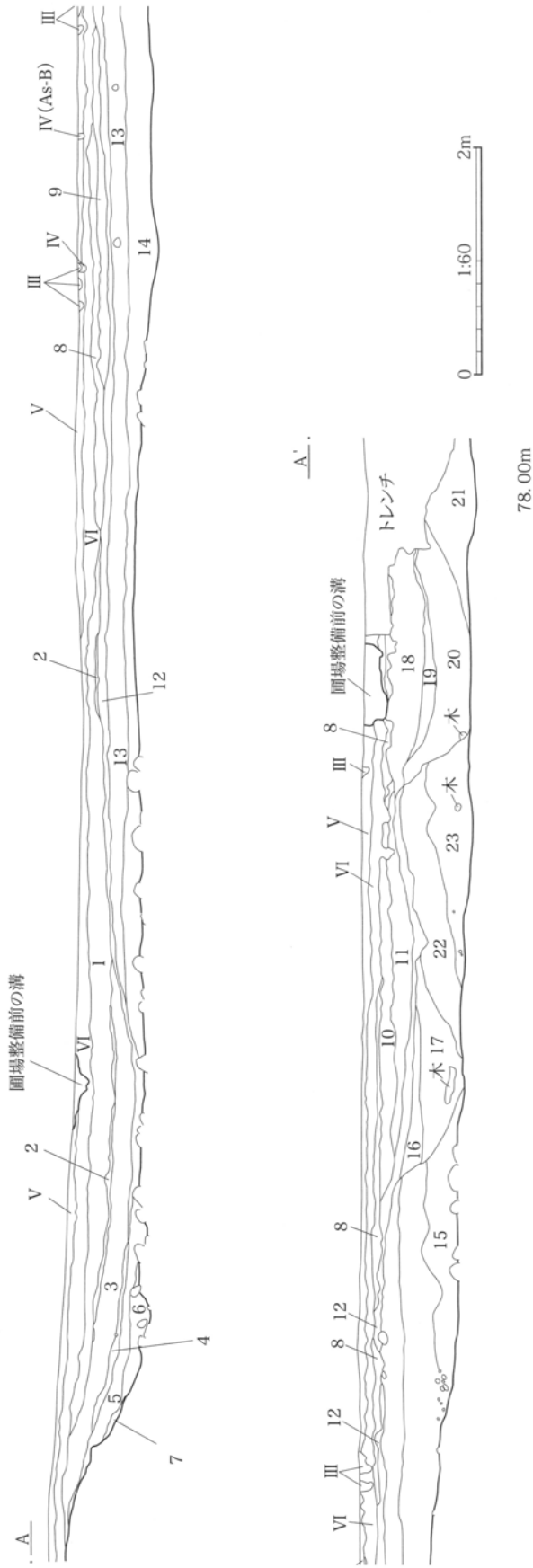


- 1 暗褐色土 鉄分の沈着が多い。As-A 軽石径 1mm が均一に混入している。
- 2 暗褐色土 1層よりは鉄分の沈着が少ない。As-A 軽石径 1mm が均質に混入している。
- 2' 2層に類するが、As-A 軽石の含有がより多い。
- 5 黒褐色土 砂粒を多く含む。
- 6 黒褐色土 砂質。ロームブロックを多量含む。
- 6' 6層より黒色土を多く含み、混入しているローム粒は径 5mm ~ 1cm 程度で均一に入っている。
- 7 黒褐色土 砂質。ロームブロックを多量含む。
- 7' 7層より黒色土を多く含み、ローム粒は少ない。
- 8 褐色土 粘質。水性ロームブロック多量に混入。
- 9 暗黄褐色土 ロームを均一に混入し、白色軽石少量混入。
- 10 白色軽石 (As-A 軽石と考えられる) の堆積した層。
- 11 暗褐色土 粘質。白色軽石を混入していない。粘土である。
- 12 黒褐色土 粘質。
- 13 11よりやや砂質。
- 14 灰褐色土 砂質。ローム粒、焼土径 2~5mm を均一に混入。砂も多く均一に入っている。

第 305 図 中近世土坑 (2)

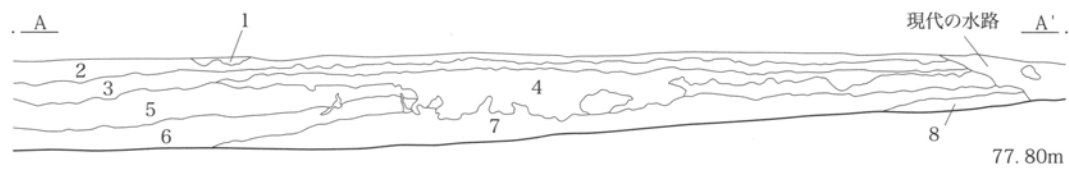
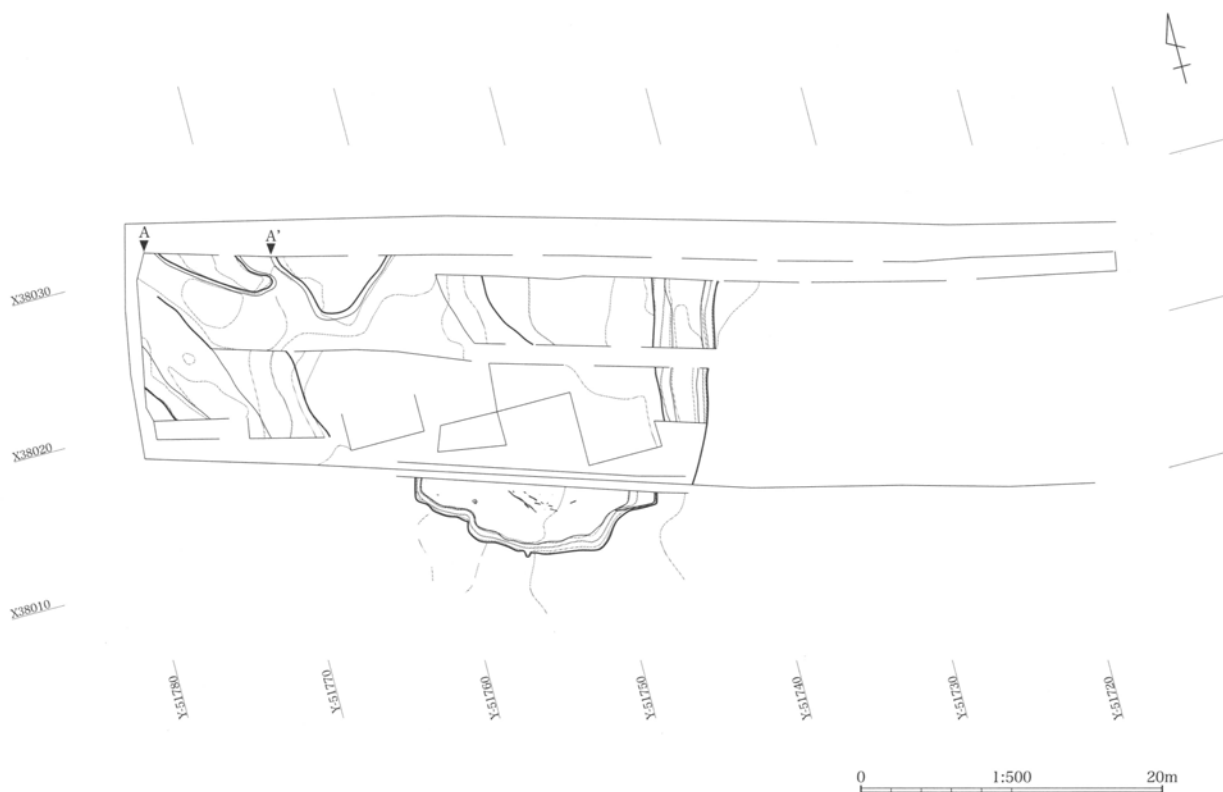


第306図 II・2区1号河道(I)

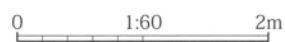


第307図 II・2区1号河道(2)

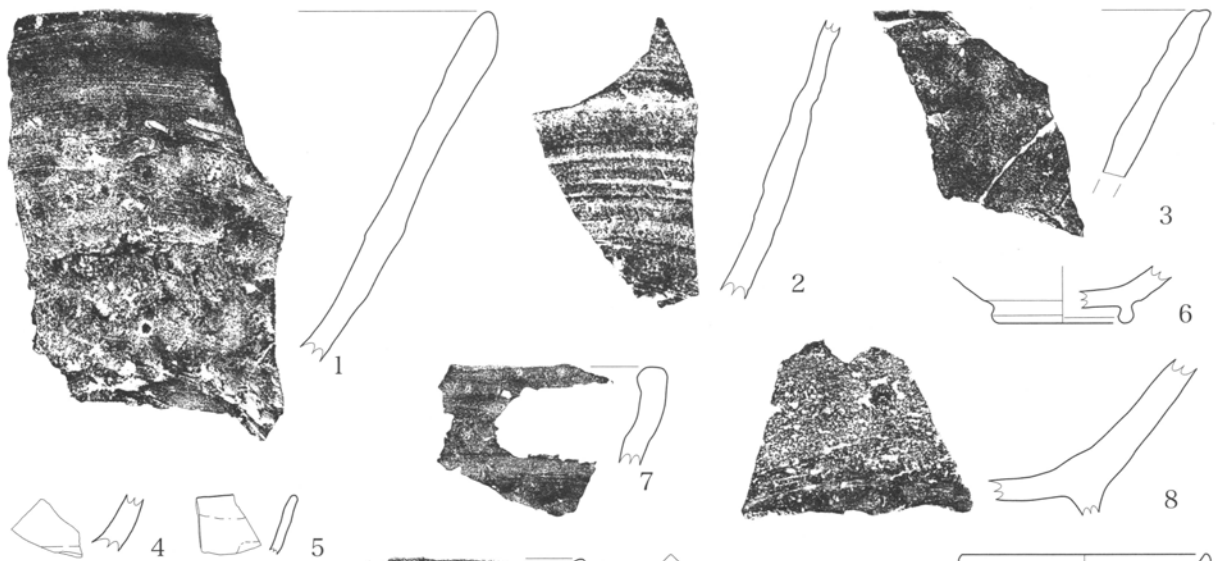
- III As-B混土(中世以降水田耕作土)
- IV As-B
- V 黒褐色粘質土 As-Cを少量含む。しまっている。
- VI 灰褐色粘質土 As-B下面の黒の下。As-C、Hr-FPを含む。
- 1 黒色粘質土 As-Cを含む。粘性強く弾力あり。
- 2 黄灰色粗砂 (1区のオレンジ洪水下の黄褐色砂に対応)
- 3 黒色粘質土 部分的にAs-Cを含むが全体に含有物少ない。
- 4 黒色土 As-Cと多量の川砂を含む。
- 5 黒灰色粘質土 含有物少ない。
- 6 黒灰褐色土 シルト質含有物少ない。
- 7 明褐色土 やや砂質。
- 8 1区における9世紀前半頃の水田を覆う黄灰色 洪水土と灰褐色土の混層。
- 9 黒色粘質土 As-Cを少量含む。
- 10 黒色粘質土 黄灰色粗砂をブロック状に混じる。(1区のオレンジ洪水下の黄灰色砂と黒色粘質土の混層)
- 11 黒色粘質土 植物遺存体を含む。
- 12 As-Cを多量に含む黒色土。
- 13 灰茶褐色シルト質土 小ぶし大の礫を部分的に含むが、全体に含有物は少ない。(植物腐植体を多く含む)
- 14 黄灰褐色シルト質土 下部は砂質。含有物少ない。(植物腐植体を含む)
- 15 黒灰色シルト質土 植物遺存体を含む。
- 16 黒灰色シルト質土
- 17 多量の粗砂～小石の層と黒灰色シルト質土が互層をなす。(ラミナ顕著)
- 18 黒色粘質土 植物遺存体多く含む。他含有物少ない。
- 19 粗砂主体。黒灰色シルト質土とのラミナ。
- 20 黒灰色シルト質土 暗茶褐色シルトと細砂の互層をなす。
- 21 黒色シルト質土と細砂～粗砂のラミナ発達。
- 22 黒灰色シルト質土 植物遺存体を含む。部分的にラミナ発達。
- 23 上半部は黒灰色シルト質土と細砂の互層。下半部は黒灰色シルト質土と粗砂、小礫の互層。



- 1 As-B
- 2 黒色粘質土 V層に対応するが粘性は比して弱い。
- 3 灰褐色粘質土
- 4 黄褐色砂 シルト質土。
- 5 黒色粘質土 含有物はほとんど含まれない。
- 6 川砂と黒色粘質土のラミナ発達。
- 7 上層に比べ砂の多いラミナの発達。
- 8 暗黄灰色砂質土



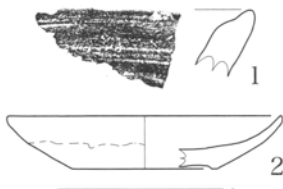
第 308 図 III・3区河道



I 区 3 面水田



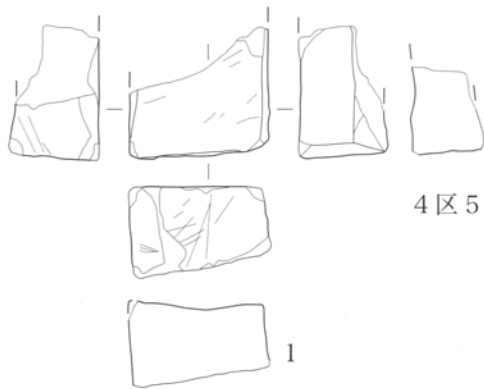
I 区 13 溝



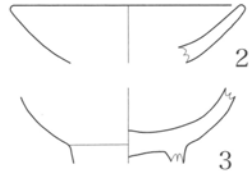
II 区 1 溝



III 区 4 溝



4 区 5 溝

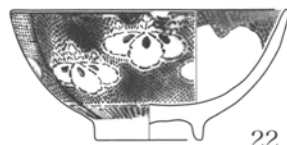
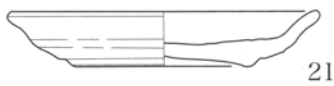
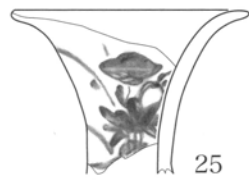
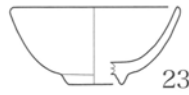
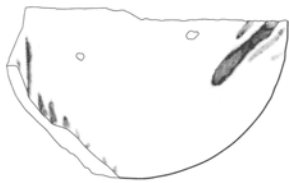


V 区 57 溝

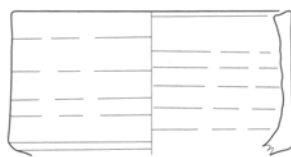
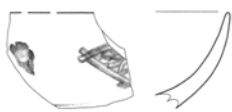


V 区 66 溝

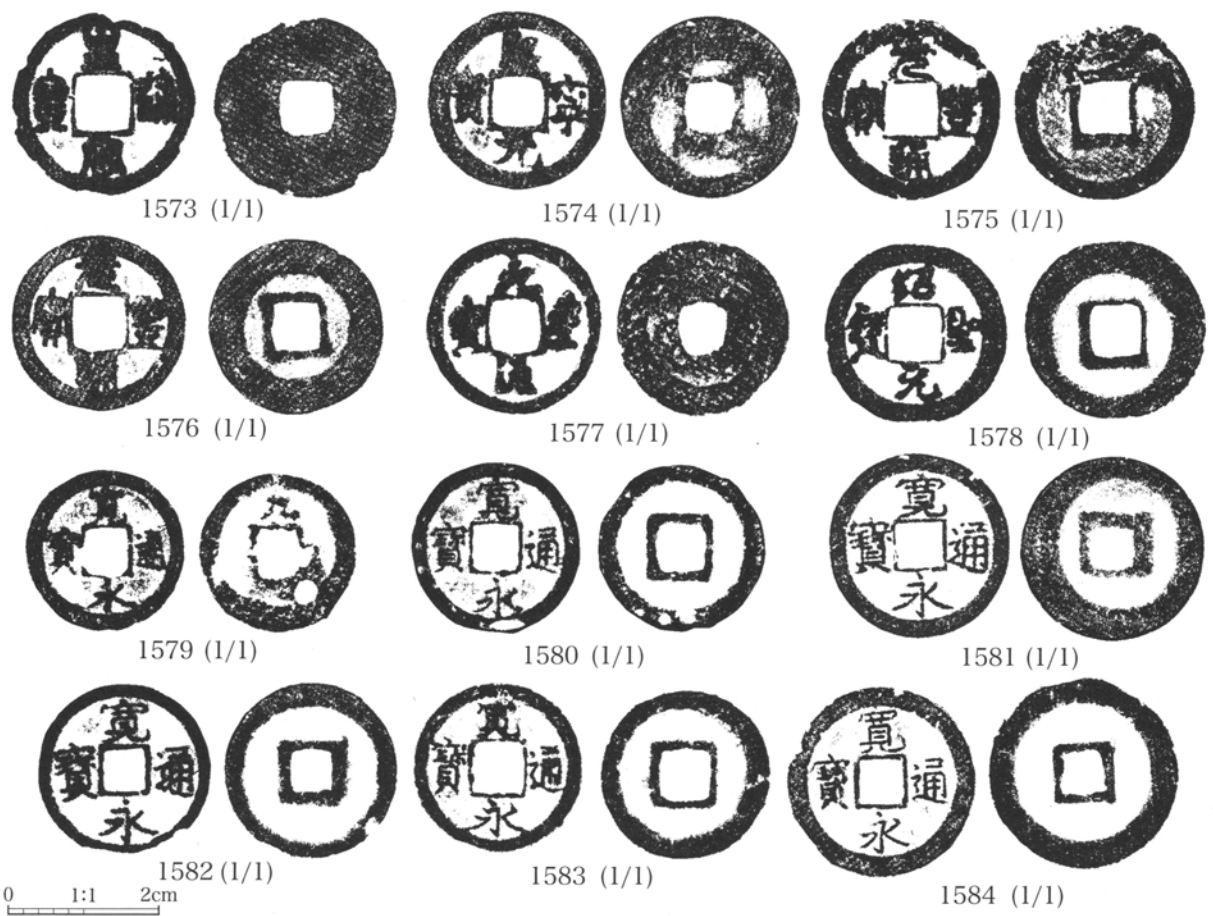
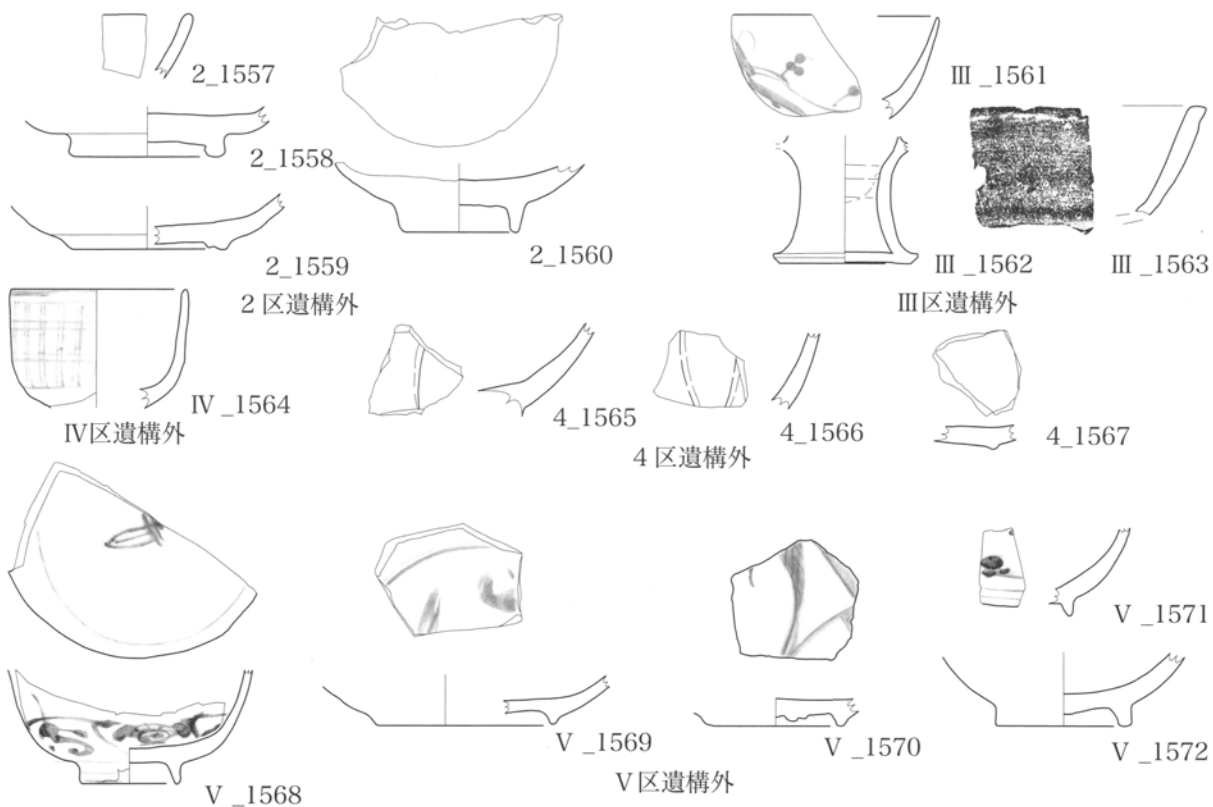
II 区 1 河道



V 区 152 土坑



0 1:3 10cm



第 310 図 中近世出土遺物 (2)

表 10 下田遺跡溝一覧表

溝No.	位置	長さ	幅	深さ	走行	重複/備考	(末尾の近=近世、古=古代)
I-01	(065,-890)~(072,-902)	15.03	0.48	0.18	N-122°-E	2溝→1溝掘り直し / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
I-02	(065,-893)~(073,-905)	14.81	0.49	0.15	N-124°-E	2溝→1溝掘り直し / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
I-03	(047,-921)~(075,-910)	29.47	0.75	0.12	N-158°-W	4溝→3溝掘り直し / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
I-04	(057,-917)~(073,-911)	16.59	0.53	0.12	N-159°-W	4溝→3溝掘り直し / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
I-05	(058,-915)~(074,-909)	16.76	0.41	0.18	N-158°-W	4溝→3溝掘り直し / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
I-06	(069,-910)~(073,-907)	5.06	0.41	0.10	N-146°-E	6溝→3~5溝か / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
I-07	(045,-898)~(052,-911)	14.92	0.46	0.10	N-119°-W	6溝→3~5溝か / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
I-08	(060,-916)~(054,-914)	4.38	0.48	0.14	N-150°-W	/ 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
I-09	(043,-917)~(048,-914)	6.42	0.46	0.04	N-152°-W	なし / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
I-10	(068,-910)~(078,-920)	14.52	1.14	0.32	N-137°-E	10溝→3~5溝か / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
I-11	(073,-935)~(082,-929)	14.76	0.42	0.06	N-163°-W	/ 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
I-12	(073,-935)~(082,-929)	11.03	0.59	0.14	N-146°-W	/ 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
I-13	(088,-928)~(099,-923)	12.10	1.10	0.41	N-156°-W	31溝→13溝掘り直し、14溝→13溝 /	近
I-14	(086,-915)~(097,-925)	14.90	1.00	0.30	N-139°-E	14溝→13・31・16溝、10溝に連続か	近
I-15	(087,-914)~(099,-918)	13.50	0.60	0.21	N-163°-E	16溝→15溝掘り直し、10溝に連続か	近
I-16	(080,-911)~(099,-919)	20.80	0.75	0.55	N-158°-E	16溝→15溝掘り直し	近
I-17	(090,-912)~(098,-925)	14.85	0.25	0.25	N-120°-E	13溝→17溝	近
I-18	(076,-909)~(082,-906)	6.83	0.93	0.15	N-153°-W	18溝→19溝 / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
I-19	(076,-908)~(089,-901)	15.32	0.79	0.15	N-150°-W	20溝→18溝→19溝 / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
I-20	(076,-908)~(083,-904)	8.50	0.67	0.20	N-154°-W	19溝→20溝→21溝 / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
I-21	(076,-907)~(089,-900)	15.12	0.99	0.25	N-153°-W	18溝→19溝→20溝→21溝 / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
I-22	(066,-888)~(080,-882)	15.50	0.40	0.10	N-155°-W	/ 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
I-23	(072,-894)~(081,-903)	12.82	0.36	0.04	N-138°-E	第1面と第2面水田の中間に位置する	古
I-24	(060,-916)~(054,-914)	3.32	0.38	0.08	N-123°-E	2溝へ連続か / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
I-25	(060,-884)~(080,-880)	20.56	1.30	0.06	N-168°-W	36溝へ連続か / As-B層で埋没	古
I-26	(060,-883)~(080,-878)	20.57	1.03	0.07	N-160°-W	25溝に並行後重複、一部連結 / As-B層で埋没	古
I-27	(087,-914)~(089,-901)	13.60	0.85	0.44	N-96°-W	28溝へ連続 / 第1面と第2面水田の中間に位置する	古
I-28	(081,-915)~(087,-914)	6.10	0.95	0.23	N-176°-W	27・29溝が合流 / 第1面と第2面水田の中間に位置する	古
I-29	(082,-915)~(094,-927)	17.30	0.95	0.45	N-136°-E	28溝へ連続、1畠を切る / 第1面と第2面水田の中間に位置する	古
I-30	(075,-905)~(079,-876)	29.71	0.40	0.04	N-97°-E	As-B層下面の微弱な溝(踏み分け道か)、40溝に類する	古
I-31	(065,-890)~(072,-932)	/	/	/	N-152°-E	13溝と重複(先行か) /	近
I-32	(041,-947)~(053,-945)	11.61	0.63	/	N-174°-E	/ 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
I-33	(039,-944)~(043,-949)	5.50	0.69	/	N-130°-E	/ 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
I-34	(035,-943)~(039,-947)	5.27	1.05	/	N-135°-E	大規模な河道(用水か)、人為的か、As-B層の二次堆積層主体	近
I-35	(020,-889)~(037,-936)	51.22	0.78	/	N-112°-E	II区7溝へ連続 / 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
I-36	(015,-892)~(039,-888)	23.71	1.09	/	N-168°-W	25・26溝の延長部 / As-B層で埋没	古
I-37	(020,-891)~(048,-885)	28.48	0.75	/	N-163°-W	/ 第3面水田に伴う区画・配水溝の基部	近
I-38	(018,-899)~(022,-902)	5.49	0.67	/	N-152°-E	37溝と連続か /	近
I-39	(023,-913)~(030,-913)	6.64	0.70	/	N-0°-E	/ 第1面水田畔際の微弱な溝	古
I-40	(056,-879)~(047,-925)	39.2	0.11	0.05	N-/°-E	As-B層下面の微弱な溝(踏み分け道か)、30溝に類する	古
II-01	(048,-865)~(076,-871)	28.82	1.39	0.27	N-169°-E	I区と連続 / As-B層堆積時には半ばまで埋没	古
II-02	(039,-869)~(049,-869)	9.67	0.21	0.03	N-179°-E	2区5溝に連続か /	古
II-03	(035,-876)~(039,-868)	9.23	0.27	0.02	N-118°-W	2溝に連続 /	古
II-04	(044,-811)~(049,-814)	5.99	0.65	0.15	N-151°-W	43住炉を切る / 微高部東端部を南流	古
II-05	(061,-867)~(072,-873)	12.03	0.25	0.10	N-152°-E	2溝に連続に連続の可能性あり /	古
II-07	(006,-870)~(018,-885)	20.49	0.90	/	N-129°-W	I区35号溝へ連続 / 近世水田に伴う区画・配水溝の基部	近
III-01	(009,-731)~(025,-716)	23.19	0.90	0.20	N-125°-W	/ 東微高部西縁部を斜行	古
III-02	(967,-746)~(013,-739)	46.21	0.75	0.20	N-162°-W	2溝→3溝 / 東微高部西縁部を南流	古
III-03	(995,-739)~(015,-739)	20.46	0.39	0.15	N-176°-E	3溝→2溝 / 東微高部西縁部を南流	古
III-04	(970,-756)~(015,-739)	47.00	0.61	0.25	N-161°-W	/ 東微高部西縁部を南流	古
III-05	(962,-724)~(015,-739)	48.43	2.00	0.42	N-165°-E	III区北端で2~4溝と合流 / 東微高部西縁部を南流	古
III-06	(016,-737)~(021,-734)	5.51	0.50	0.08	N-145°-W	7溝と分岐、12溝へ連続か	古
III-07	(016,-737)~(019,-736)	2.60	0.43	0.06	N-148°-W	6溝と分岐	古
III-08	(017,-738)~(022,-734)	6.77	0.40	0.09	N-140°-W	2~5溝へ連続か	古
III-09	(006,-696)~(019,-695)	13.04	1.58	0.13	N-173°-W	/ 東微高部を南流	古
III-10	(976,-761)~(993,-760)	17.04	0.51	/	N-178°-W	/ 中央部でクランク状に屈曲	古
III-11	(026,-768)~(038,-755)	17.92	0.41	0.16	N-135°-W	/ 西低地部を斜行	古
III-12	(012,-738)~(014,-737)	2.81	0.40	0.03	N-148°-W	6号溝の連続か	古
IV-01	(986,-595)~(003,-598)	16.47	0.42	/	N-172°-E	/ 中央谷地部、東寄りを南流	近
IV-02	(949,-642)~(004,-660)	41.54	0.34	1.50	N-160°-E	/ 中央谷地部西縁を南流、断片的に検出	近

溝No	位置	長さ	幅	深さ	走行	重複/備考	(末尾の近=近世、古=古代)
IV-03	(000,-590)~(005,-596)	8.25	0.68	0.09	N-128°-E	/北東微高部縁辺に沿って斜行	近
IV-04	(000,-605)~(013,-610)	14.69	1.43	0.10	N-160°-E	/中央谷地部、東寄り南流	近
IV-05	(984,-572)~(009,-584)	26.73	1.56	0.25	N-155°-E	7・19溝と重複/北東微高部縁辺に沿って斜行	近
IV-06	(982,-573)~(009,-588)	31.30	0.74	0.09	N-145°-E	南端で7溝と重複/北東微高部縁辺に沿って斜行	近
IV-07	(982,-573)~(986,-574)	3.67	0.50	0.10	N-171°-E	5・6溝と重複/北東微高部縁辺に沿って斜行	近
IV-08	(943,-604)~(978,-603)	34.51	1.41	0.05	N-178°-W	南部で20溝と分岐/中央谷地部水田と重複し南流	近
IV-09	(955,-607)~(955,-606)	1.73	0.98	0.04	N-152°-W	8・11溝と重複	近
IV-10	(954,-612)~(962,-610)	9.14	0.57	/	N-168°-W	13溝と分岐/中央谷地部水田と重複し南流	近
IV-11	(960,-606)~(982,-618)	25.51	0.79	0.12	N-154°-E	9・12溝と重複/谷地中央部を地形に沿って斜行	近
IV-12	(971,-612)~(980,-615)	9.82	0.71	0.15	N-157°-E	11溝と重複	近
IV-13	(958,-611)~(969,-613)	12.81	0.61	/	N-153°-E	10溝と重複	近
IV-14	(944,-580)~(948,-580)	4.36	0.40	0.13	N-170°-E	/谷地南東部を斜行	近
IV-15	(944,-605)~(950,-592)	8.36	0.60	0.18	N-179°-E	中央谷地部水田と重複し南流	近
IV-16	(944,-605)~(952,-608)	8.96	0.64	0.20	N-161°-E	17・21溝、水田と重複	近
IV-17	(944,-608)~(956,-610)	11.46	0.41	0.18	N-173°-E	21溝、水田と重複	近
IV-18	(971,-575)~(990,-583)	21.01	1.55	0.12	N-159°-E	/北東微高部縁辺に沿って斜行	近
IV-19	(994,-570)~(011,-596)	31.66	0.83	0.11	N-131°-W	5溝と重複/北東微高部縁辺に沿って斜行後、東へ屈曲	近
IV-20	(952,-603)~(959,-604)	6.61	0.56	/	N-174°-E	8溝と分岐、水田と重複/中央谷地部を南流	近
IV-21	(944,-605)~(947,-605)	3.81	0.52	0.05	N-175°-E	16溝、水田と重複	近
V-01	(996,-528)~(769,-533)	27.81	0.20	0.78	N-167°-W	3溝と並走し南端で重複/中央谷地西縁部を南流	近
V-02	(998,-527)~(961,-525)	36.88	0.25	1.92	N-178°-E	3・4溝と重複/中央谷地西縁部を南流	近
V-03	(988,-527)~(949,-555)	50.74	0.28	1.35	N-145°-W	2・57溝と重複/中央谷地を南流後、南西部へ方向を変える	近
V-04	(995,-524)~(976,-529)	19.73	0.04	0.26	N-167°-W	2溝と重複並走/中央谷地西縁部を南流	近
V-05	(986,-494)~(928,-488)	65.50	0.20	0.59	N-167°-E	7溝と重複/中央谷地東縁部を南流、6~8・16溝掘り直し	近
V-06	(986,-493)~(926,-486)	67.20	0.25	0.91	N-167°-E	7溝と重複、/中央谷地東縁部を南流、5・7・8・16溝掘り直し	近
V-07	(985,-490)~(935,-491)	57.00	0.10	1.36	N- 0°-E	16溝と重複並走/中央谷地東縁部を南流、一部に礫の集中あり	近
V-08	(985,-490)~(952,-483)	39.90	0.20	1.03	N-170°-E	中央谷地東縁部に繰り返し掘り直された溝の一	近
V-09	(978,-490)~(976,-490)	44.00	0.10	0.55	N-169°-E	6溝と重複/中央谷地東縁部を南流	近
V-10	(983,-485)~(975,-485)	16.50	0.04	0.31	N- 0°-E	谷地から微高部への移行部を南流、中央部は遺存せず	近
V-11	(995,-518)~(996,-523)	5.47	0.06	0.34	N- 95°-E	12溝と重複並走/中央谷地部を東西に横断する	近
V-12	(995,-512)~(996,-522)	11.53	0.13	0.41	N- 94°-E	11溝と重複並走/中央谷地部を東西に横断する	近
V-13	(977,-468)~(974,-471)	4.40	0.11	0.50	N-139°-W	調査区北東隅で14・15溝と並走	古
V-14	(976,-468)~(973,-471)	4.39	0.15	0.50	N-135°-W	調査区北東隅で13・15溝と並走	古
V-15	(974,-469)~(972,-471)	2.10	0.07	0.25	N-135°-W	調査区北東隅で13・14溝と並走	古
V-16	(966,-486)~(961,-486)	30.70	0.10	0.21	N-175°-E	7溝と重複並走/中央谷地部を南流	近
V-17	(989,-492)~(934,-496)	63.50	0.26	0.84	N-150°-E	中央谷地の東縁を北東方向から屈曲後南流、鉄滓散布地を攪乱	古
V-18	(990,-499)~(973,-499)	17.78	0.05	0.77	N- 0°-E	中央谷地内を南流	古
V-19	(974,-474)~(961,-485)	17.40	0.07	0.78	N-136°-W	東微高部から南西方向へ、鉄滓散布地を攪乱	古
V-20	(997,-522)~(929,-512)	67.54	1.10	3.74	N-177°-W	53・78溝が合流/中央谷地西縁部を南流、堰止遺構を伴う	古
V-21	(997,-524)~(956,-524)	38.90	0.14	1.23	N-177°-E	53溝に合流/中央谷地西縁部を南流	古
V-22	(990,-559)~(970,-561)	20.61	0.16	0.52	N-173°-W	23→22溝/西端の微高部縁辺、47~49溝へ続く可能性あり	近
V-23	(989,-560)~(971,-563)	16.04	0.05	0.69	N-167°-W	23→22溝/西端の微高部縁辺、47~49溝へ続く可能性あり	近
V-24	(000,-558)~(970,-563)	30.18	0.16	0.77	N-162°-W	152土坑へ連結、23・65溝と重複、65溝と分岐	近
V-25	(000,-560)~(986,-562)	13.89	0.06	0.48	N-172°-W	西端の微高部、27溝へ続くか	近
V-26	(985,-564)~(985,-566)	2.92	0.06	0.60	N- 90°-W	27→26溝	近
V-27	(985,-564)~(985,-566)	2.43	0.03	0.35	N- 97°-W	27→26溝、25号溝と連結か	近
V-30	(954,-491)~(935,-493)	24.10	0.05	1.10	N-174°-W	39溝と重複分岐/中央谷地東縁部を南流	近
V-31	(955,-493)~(939,-495)	16.59	0.04	0.22	N-174°-W	39溝と重複/中央谷地東縁部を南流	近
V-35	(953,-475)~(926,-479)	27.46	0.05	0.91	N-170°-W	東端微高部縁辺を南流	古
V-37	(962,-570)~(948,-544)	30.05	0.20	0.49	N-120°-E	西微高部を東西に画する、重複多数	近
V-38	(966,-569)~(952,-562)	15.62	0.13	0.42	N-154°-E	37溝と重複/西微高部縁辺に位置	近
V-39	(956,-491)~(940,-495)	17.10	0.10	0.52	N-163°-W	30・31溝と重複/中央谷地東縁部を南流	近
V-40	(958,-535)~(948,-536)	10.86	0.05	0.36	N-176°-W	西微高部南東端を南北・東西に屈曲して区画する溝群の一	近
V-41	(956,-534)~(948,-535)	9.12	0.03	0.31	N-174°-W	西微高部南東端を南北・東西に屈曲して区画する溝群の一	近
V-42	(957,-536)~(949,-539)	10.87	0.05	0.41	N- 96°-E	西微高部南東端を南北・東西に屈曲して区画する溝群の一	近
V-43	(955,-536)~(952,-547)	13.34	0.02	0.53	N-110°-E	西微高部南東端を南北・東西に屈曲して区画する溝群の一	近
V-44	(954,-537)~(952,-543)	9.40	0.02	0.41	N-109°-E	西微高部南東端を南北・東西に屈曲して区画する溝群の一	近
V-45	(954,-526)~(951,-543)	20.52	0.30	0.86	N-116°-E	西微高部南東端を南北・東西に屈曲して区画する溝群の一	近
V-46	(948,-539)~(946,-534)	5.68	0.05	0.78	N-108°-E	西微高部南東端を南北・東西に屈曲して区画する溝群の一	近
V-47	(963,-561)~(951,-551)	15.68	0.04	0.67	N-141°-E	西微高部を東西方向に画する溝	近
V-48	(963,-560)~(952,-559)	12.51	0.01	0.48	N-171°-E	49溝と重複/西微高部縁辺を南流	近

溝No	位置	長さ	幅	深さ	走行	重複/備考	(末尾の近=近世、古=古代)
V-49	(963,-561)~(960,-559)	13.09	0.01	0.47	N-171°E	48溝と重複 / 西微高部縁辺を南流	近
V-50	(962,-566)~(957,-562)	6.80	0.05	0.48	N-142°E	37溝と重複	近
V-53	(957,-523)~(949,-533)	12.72	0.10	0.56	N-128°W	21溝と重複、20溝に連結か	古
V-57	(999,-534)~(962,-534)	37.00	0.26	1.62	N- 0°E	西微高部を南北に貫く、覆土最上層は現代の堆積物	近
V-58	(970,-475)~(956,-487)	9.28	0.13	0.28	N-141°W	東微高部から中央谷地へ、一部鉄滓散布地を攪乱	古
V-59	(966,-529)~(945,-523)	22.50	0.05	0.33	N-165°E	西微高部東縁を南流	近
V-65	(978,-566)~(970,-564)	8.70	0.12	0.55	N-166°W	24溝と重複、152土坑へ、47~49溝へ続くか	近
V-66	(974,-568)~(960,-562)	15.11	0.28	1.56	N-157°E	西微高部西縁26・65溝と並走	近
V-67	(979,-565)~(977,-565)	2.16	不明	0.33	N-167°W	24溝屈曲部で並走する一部確認、掘り直しか	近
V-69	(976,-527)~(970,-525)	6.96	0.10	1.02	N-173°E	2溝から分岐する溝か	近
V-73	(964,-560)~(963,-562)	2.04	不明	0.62	N- 98°E	47・66溝と重複	近
V-75	(951,-550)~(947,-539)	12.47	0.16	0.57	N-116°E	3・37・47溝と重複 / 西微高部を東西に画する、中央部で屈曲	近
V-76	(960,-528)~(959,-560)	31.90	0.10	0.82	N- 92°E	3・47~49溝と重複 / 西微高部を東西に横断	近
V-77	(948,-532)~(942,-530)	6.49	0.10	0.50	N-155°E	西微高部南東部を南流	近
V-78	(951,-520)~(929,-516)	22.71	0.22	0.49	N-170°E	20溝から分岐か / 中央谷地西縁を南流	古

表 11 下田遺跡土坑一覽表 (()は推定値)

区	No	位置	形状	規模 (cm)			時期
				長径	短径	深度	
I	001	065,-903	円形	50	-	21	縄文
I	002	065,-902	長円形	75	55	19	縄文
I	003	063,-893	長円形	85	37	27	縄文
I	004	066,-896	円形	40	-	45	縄文
I	005	064,-897	長円形	84	37	22	縄文
I	006	065,-896	長円形	80	70	24	縄文
I	007	066,-895	長円形	79	60	36	縄文
I	008	061,-895	長円形	105	55	32	縄文
I	009	061,-894	長円形	58	不明	21	縄文
I	010	063,-895	不整長円形	430	80	29	縄文
I	011	064,-899	長円形	205	182	29	縄文
I	012	046,-899	円形	49	-	10	縄文
I	013	046,-892	長円形	52	36	26	縄文
I	036	054,-885	円形	80	72	28	縄文
I	037	051,-884	円形	58	54	15	縄文
I	038	051,-882	長円形	60	47	17	縄文
I	039	050,-883	円形	75	70	17	縄文
I	040	050,-881	長円形	81	72	15	縄文
I	041	050,-881	円形	50	48	16	縄文
I	042	050,-882	長円形	(77)	59	21	縄文
I	043	049,-882	長円形	67	58	20	縄文
I	044	049,-880	円形	124	116	16	縄文
I	045	049,-880	長円形か	(99)	(66)	34	縄文
I	046	048,-880	円形か	97	-	21	縄文
I	047	049,-882	円形	42	40	15	縄文
I	048	048,-881	円形	70	68	23	縄文
I	049	048,-881	長円形	78	64	20	縄文
I	050	047,-880	長円形	87	(55)	16	縄文
I	051	047,-880	長円形	82	71	22	縄文
I	052	047,-882	円形	50	-	16	縄文
I	053	046,-882	長円形	80	62	20	縄文
I	054	046,-882	長円形	98	89	24	縄文
I	055	045,-882	長円形	(65)	60	24	縄文
I	056	043,-883	長円形	132	95	27	縄文
I	057	043,-886	長円形	172	148	42	縄文
I	095	047,-882	長円形	150	133	12	縄文
I	120	063,-879	円形	45	-	14	縄文
I	121	061,-879	長円形	50	40	24	縄文
I	122	071,-876	長円形	121	100	36	縄文
I	123	070,-883	長円形	150	133	95	縄文
I	124	066,-875	長円形	45	35	8	縄文
I	125	068,-876	円形	61	-	26	縄文
I	126	067,-877	長円形	80	58	14	縄文
I	127	066,-878	円形	72	-	14	縄文
I	128	062,-883	長円形	116	86	13	縄文
I	129	068,-882	円形	115	-	66	縄文
I	130	065,-882	円形	116	-	80	縄文
I	131	066,-883	長円形	135	126	84	縄文
II	001	049,-873	円形	68	-	15	縄文
II	325	056,-862	長円形	63	57	27	縄文
II	326	059,-866	円形	45	-	17	縄文
II	327	058,-866	長円形	65	47	14	縄文
II	328	058,-863	不整長円形	52	(41)	43	縄文
II	329	058,-864	長円形	56	46	12	縄文
II	330	058,-864	長円形	52	36	14	縄文
II	331	055,-866	円形	60	-	19	縄文
II	332	055,-860	円形	49	-	28	縄文
II	333	059,-865	不整長円形	140	65	36	縄文
II	334	056,-865	円形	70	-	14	縄文
II	335	055,-869	円形?	65	(35)	35	縄文
II	336	055,-869	円形?	(45)	58	29	縄文
II	337	057,-857	円形か	60	-	22	縄文
II	338	057,-856	不明	50	76	32	縄文
II	340	055,-867	長円形	126	90	47	縄文
II	341	055,-856	円形	73	-	25	縄文
II	342	056,-857	長円形?	(76)	(65)	20	縄文
II	343	055,-857	長円形	154	146	23	縄文
II	344	057,-860	円形	130	-	19	縄文
II	345	058,-863	不整長円形?	54	(32)	37	縄文
II	346	054,-856	円形	76	-	25	縄文
II	347	053,-857	円形	50	-	23	縄文
II	348	054,-857	円形	54	-	22	縄文
II	349	054,-858	円形	90	-	30	縄文
II	350	052,-854	円形	60	-	37	縄文
II	351	056,-854	長円形?	(50)	75	25	縄文
II	352	055,-850	長円形	100	90	20	縄文
II	353	053,-849	長円形	88	68	36	縄文
II	354	048,-845	円形	70	-	39	縄文
II	355	058,-875	円形か	152	不明	21	縄文
II	375	057,-860	円形	80	-	12	縄文
II	376	058,-865	長円形	100	90	28	縄文
II	377	058,-864	円形	50	46	27	縄文
II	378	057,-863	長円形	33	26	13	縄文
II	379	057,-862	長円形	68	59	20	縄文
II	380	057,-861	円形	36	-	16	縄文

(()は推定値)

区	No.	位置	形状	規模 (cm)			時期	区	No.	位置	形状	規模 (cm)			時期
				長径	短径	深度						長径	短径	深度	
II	381	058,-861	長円形	50	41	27	縄文	2	773	065,-849	円形	48	-	20	縄文
II	382	056,-860	長円形	170	130	33	縄文	2	774	065,-851	円形	33	-	12	縄文
II	383	055,-868	長円形	108	80	18	縄文	2	775	064,-847	長円形	114	100	35	縄文
II	384	055,-868	円形	49	43	14	縄文	2	777	061,-847	長円形	65	51	68	縄文
II	391	058,-866	長円形	52	40	16	縄文	2	778	058,-857	不整円形	79	74	41	縄文
II	392	055,-859	長円形か	(90)	67	23	縄文	2	780	059,-857	長円形	44	36	22	縄文
II	393	055,-859	長円形	100	63	21	縄文	2	781	059,-856	長円形	44	34	15	縄文
II	394	056,-857	円形	45	-	19	縄文	2	782	058,-855	円形	36	-	14	縄文
II	395	057,-858	長円形	30	25	20	縄文	2	784	057,-855	不明	233	不明	35	縄文
II	398	058,-859	長円形	83	75	25	縄文	2	785	060,-855	長円形	103	75	15	縄文
II	399	041,-815	長円形	58	47	32	縄文	2	786	059,-855	長円形	55	49	15	縄文
II	406	042,-819	円形	105	-	46	縄文	2	787	059,-855	円形	60	-	17	縄文
II	436	049,-835	長円形	59	53	14	縄文	2	788	059,-850	長円形	(148)	140	20	縄文
II	437	051,-842	長円形	94	80	11	縄文	2	789	060,-849	長円形	48	42	12	縄文
II	438	052,-846	長円形	131	102	19	縄文	2	790	059,-858	円形か	60	不明	14	縄文
II	439	052,-845	長円形	31	21	19	縄文	2	791	063,-855	円形	47	43	16	縄文
II	442	048,-849	不整長円形	72	60	46	縄文	2	792	062,-854	円形	28	-	10	縄文
II	443	048,-849	不整長円形	(51)	64	21	縄文	2	793	062,-855	円形	41	39	16	縄文
II	444	050,-848	長円形	96	89	25	縄文	2	794	062,-856	長円形	62	48	23	縄文
II	445	050,-847	長円形か	(107)	109	28	縄文	2	795	068,-857	円形か	109	不明	31	縄文
II	446	050,-846	長円形か	130	不明	21	縄文	2	796	065,-858	円形	115	-	37	縄文
II	447	050,-846	長円形か	(54)	55	16	縄文	2	797	059,-848	長円形	124	104	35	縄文
II	448	050,-845	長円形か	47	52	18	縄文	2	798	066,-848	長円形	66	58	29	縄文
II	449	049,-848	円形	22	20	25	縄文	2	799	068,-852	円形	25	-	19	縄文
II	450	051,-847	長円形	59	43	25	縄文	2	800	064,-854	長円形	51	35	21	縄文
II	460	049,851	不明	不明	90	18	縄文	2	801	062,-856	長円形	39	35	16	縄文
II	461	049,-851	円形か	124	不明	28	縄文	2	802	060,-855	円形	41	-	19	縄文
II	462	050,-851	長円形か	不明	132	26	縄文	2	803	062,-832	長円形か	107	不明	32	縄文
II	463	051,-851	長円形	135	117	32	縄文	2	804	051,-824	円形	77	-	46	縄文
II	464	052,-851	長円形	108	85	16	縄文	2	805	059,-859	長円形	33	27	14	縄文
II	465	048,-852	円形か	117	(96)	14	縄文	2	806	059,-859	長円形	52	46	12	縄文
II	469	051,-850	長円形	130	102	18	縄文	2	807	060,-858	長円形	56	40	10	縄文
II	477	049,-854	長円形	(205)	160	30	縄文	2	808	058,-858	円形か	29	不明	26	縄文
II	478	050,-853	長円形か	不明	165	32	縄文	2	809	061,-858	長円形	32	28	14	縄文
II	479	051,-853	長円形	140	(95)	34	縄文	2	810	063,-858	円形	35	-	13	縄文
II	494	053,-878	不明	(22)	(7)	33	縄文	2	811	064,-858	円形	53	-	20	縄文
II	495	055,-877	不明	(130)	(30)	26	縄文	2	812	067,-861	円形	54	-	18	縄文
II	536	051,-880	長円形	43	35	43	縄文	2	813	068,-860	円形	47	-	14	縄文
2	750	054,-847	円形か	175	-	70	縄文	2	814	068,-863	円形	70	-	12	縄文
2	752	063,-851	円形	62	55	12	縄文	2	815	058,-840	長円形か	(38)	55	20	縄文
2	753	066,-850	長円形	74	48	14	縄文	2	816	042,-812	長円形	108	98	25	縄文
2	754	063,-854	不整円形	73	66	96	縄文	2	818	052,-826	円形	44	-	40	縄文
2	755	058,-856	円形	83	67	19	縄文	2	819	059,-833	長円形	82	70	17	縄文
2	756	059,-855	円形	124	103	17	縄文	2	820	062,-832	長円形か	31	不明	22	縄文
2	757	060,-854	円形	56	46	13	縄文	2	821	067,-859	長円形	65	50	22	縄文
2	758	059,-854	円形	40	34	12	縄文	2	822	065,-867	長円形	76	-	25	縄文
2	759	060,-853	長円形	90	35	19	縄文	2	823	054,-834	長円形	51	43	20	縄文
2	760	062,-856	不整円形	52	40	30	縄文	2	824	053,-836	長円形	55	50	12	縄文
2	761	065,-854	不整長円形	312	220	25	縄文	2	825	066,-868	長円形	70	65	26	縄文
2	762	066,-855	円形か	63	-	15	縄文	2	826	064,-860	長円形	71	56	17	縄文
2	763	066,-853	円形	63	(55)	52	縄文	2	828	065,-859	長円形	42	38	13	縄文
2	764	066,-854	円形	35	30	10	縄文	2	829	065,-867	長円形	53	-	19	縄文
2	765	064,-851	円形	37	35	18	縄文	2	830	065,-866	長円形	80	71	31	縄文
2	767	066,-853	不整長円形	120	-	25	縄文	2	831	064,-871	円形	37	-	13	縄文
2	768	064,-851	円形	87	85	25	縄文	2	832	062,-860	円形	47	-	29	縄文
2	769	068,-850	不整長円形	85	55	30	縄文	2	833	063,-859	円形	34	-	13	縄文
2	770	068,-855	円形	122	-	35	縄文	2	834	065,-858	長円形	52	47	31	縄文
2	771	063,-856	長円形	100	75	24	縄文	2	835	066,-867	長円形	65	-	15	縄文
2	772	063,-857	円形	55	-	29	縄文	2	836	065,-867	不明	51	-	14	縄文

(()は推定値)

区	No	位置	形状	規模 (cm)			時期
				長径	短径	深度	
2	837	066,868	円形	57	-	18	縄文
2	838	067,866	長円形	47	43	15	縄文
2	839	069,872	円形	35	-	13	縄文
2	840	060,860	長円形	70	55	18	縄文
2	841	060,860	円形か	50	不明	13	縄文
2	842	074,872	長円形	45	38	13	縄文
2	843	069,868	長円形	56	51	20	縄文
2	844	068,863	長円形	42	35	23	縄文
2	845	051,834	長円形	88	48	21	縄文
2	846	051,836	円形	36	-	8	縄文
2	849	062,866	長円形	79	64	23	縄文
2	851	063,864	長円形	82	69	34	縄文
Ⅲ	001	002,740	円形	74	-	17	縄文
Ⅲ	002	002,740	円形	110	-	12	縄文
Ⅲ	003	090,728	円形	49	-	50	縄文
3	004	007,687	長円形	63	52	16	縄文
3	005	013,706	長円形	93	75	38	縄文
3	006	021,709	円形	43	-	44	縄文
3	007	021,708	長円形	60	46	47	縄文
3	008	020,706	長円形	89	73	50	縄文
3	009	022,706	長円形	84	53	42	縄文
3	010	019,705	円形	73	-	33	縄文
3	011	019,709	長円形	53	45	49	縄文
3	012	020,707	長円形	74	55	59	縄文
3	013	019,706	長円形	134	88	72	縄文
3	014	013,701	長円形	131	100	16	近世
3	015	015,727	長円形	105	72	22	縄文
3	016	021,740	長円形	146	115	30	縄文
Ⅲ	017	969,715	円形	47	-	13	近世
3	018	024,756	長円形	100	80	18	縄文
3	019	026,746	長円形	52	40	14	縄文
3	020	017,746	円形	80	-	29	縄文
4	001	008,603	長円形	128	95	18	古代
4	002	009,600	円形か	106	-	13	縄文
4	003	010,654	長円形	230	92	41	近世
4	004	001,576	円形	45	-	47	近世
4	005	003,576	長円形	30	24	28	縄文
4	006	990,579	円形	40	-	8	近世
4	008	009,645	長方形	230	55	43	近世
Ⅳ	009	951,635	隅丸長方形	195	120	49	近世
Ⅳ	010	969,602	隅丸長方形	165	125	52	近世
5	001	986,477	長円形	150	93	32	近世
5	002	985,475	長円形	107	75	29	近世
5	003	981,476	長円形	100	70	15	近世
5	004	984,469	円形	65	-	34	縄文
5	005	985,471	不整長円形	135	44	29	縄文
5	006	973,475	長円形	110	52	45	縄文
5	008	981,555	不整長円形	76	57	81	縄文
5	009	982,558	長円形	77	65	87	縄文
5	010	982,559	円形	37	35	23	縄文
5	011	982,559	円形	50	45	31	縄文
5	012	981,547	長円形	92	80	20	縄文
5	013	980,542	円形	54	-	28	縄文
5	014	979,542	不整円形	41	34	23	縄文
5	015	979,541	円形	47	-	18	縄文
5	016	979,539	円形	60	-	30	縄文
5	017	981,541	長円形	43	36	20	縄文
5	018	984,553	長円形	140	88	33	縄文
5	019	982,539	長円形	38	29	21	縄文

区	No	位置	形状	規模 (cm)			時期
				長径	短径	深度	
5	020	992,555	長円形	122	62	20	縄文
5	021	995,554	円形	32	-	28	縄文
5	022	995,548	長円形	45	38	12	縄文
5	023	995,541	円形	50	-	14	縄文
5	024	995,538	長円形	68	56	20	縄文
5	025	998,543	円形か	-	208	0	縄文
5	028	984,546	長円形	78	66	25	縄文
5	032	983,563	長円形	95	60	37	縄文
5	033	986,540	不整長円形	48	31	32	縄文
5	034	987,540	長円形	95	85	35	縄文
5	035	986,562	長円形	40	29	21	縄文
5	038	997,552	円形	40	-	45	縄文
5	039	997,550	長円形	48	35	32	縄文
5	042	993,553	円形	24	-	30	縄文
5	045	990,558	長円形	43	29	21	縄文
5	048	988,552	不整長円形	52	39	35	縄文
5	049	987,552	不整円形	48	-	32	縄文
5	050	985,552	不整円形	36	29	35	縄文
5	051	985,552	長円形	31	24	30	縄文
5	052	992,547	円形	45	-	16	縄文
5	053	993,548	円形か	31	(15)	23	縄文
5	054	994,546	円形	35	33	26	縄文
5	055	994,545	円形	26	-	15	縄文
5	056	996,546	円形	33	28	25	縄文
5	057	997,545	不明	31	(12)	不明	縄文
5	058	994,542	円形	28	-	25	縄文
5	059	994,542	長円形	23	18	22	縄文
5	060	991,544	長円形	40	30	16	縄文
5	061	990,544	円形	36	-	52	縄文
5	062	989,543	隅丸長方形	90	35	37	縄文
5	063	989,544	長円形	42	29	33	縄文
5	064	977,534	長円形か	107	(34)	16	縄文
5	065	990,545	不明	21	(12)	30	縄文
5	066	989,545	円形	29	-	32	縄文
5	067	989,546	長円形	42	36	53	縄文
5	068	986,545	円形	36	-	34	縄文
5	069	982,547	不整円形	56	55	23	縄文
5	070	983,543	不整円形	56	-	21	縄文
5	071	984,543	円形	32	-	48	縄文
5	072	985,542	円形	29	-	19	縄文
5	073	989,540	長円形	72	69	18	縄文
5	074	988,538	円形	37	-	28	縄文
5	075	985,536	長円形	165	66	23	縄文
5	076	986,533	長円形	72	49	25	縄文
5	077	994,532	不整長円形か	44	20	37	縄文
5	078	991,536	円形	30	-	35	縄文
5	079	987,545	長円形	43	35	68	縄文
5	080	988,545	円形	41	35	74	縄文
5	081	983,537	長円形か	(22)	25	不明	縄文
5	082	983,539	円形	47	44	-	縄文
5	083	980,542	不整長円形	120	100	20	縄文
5	084	981,544	長円形	24	18	19	縄文
5	085	999,553	円形	55	-	34	縄文
5	086	983,548	円形	28	-	23	縄文
5	087	992,449	円形	25	-	14	縄文
5	088	991,449	円形	23	-	18	縄文
5	089	986,543	長円形	55	43	16	縄文
5	090	988,538	長円形か	(22)	22	31	縄文
5	092	988,535	長円形	47	34	32	縄文

(()は推定値)

区	No	位置	形状	規模 (cm)			時期
				長径	短径	深度	
5	093	987,-535	円形	29	-	38	縄文
5	094	987,-543	長円形	37	28	17	縄文
5	095	986,-545	長円形	47	34	40	縄文
5	096	985,-541	不整長円形	48	41	54	縄文
5	097	983,-545	長円形	47	25	20	縄文
5	098	990,-558	長円形か	95	(56)	47	縄文
5	099	981,-554	不整長円形	64	44	55	縄文
5	100	980,-552	円形	(109)	108	37	縄文
5	101	980,-555	長円形	148	84	21	縄文
5	102	982,-554	不整円形か	30	(18)	26	縄文
5	103	982,-554	長円形	29	19	18	縄文
5	104	982,-554	不整円形	36	-	17	縄文
5	105	982,-556	不明	(40)	(17)	19	縄文
5	106	982,-553	円形	34	31	13	縄文
5	107	980,-557	不整長円形	70	37	35	縄文
5	108	982,-560	長円形	69	33	22	縄文
5	109	984,-560	不整円形	38	33	15	縄文
5	110	985,-554	長円形	37	25	16	縄文
5	111	983,-551	円形	36	32	16	縄文
5	112	982,-550	不明	不明	26	不明	縄文
5	113	981,-551	長円形	43	36	59	縄文
5	114	981,-553	長円形	43	31	25	縄文
5	115	980,-554	円形	26	-	20	縄文
5	116	980,-553	長円形	35	29	20	縄文
5	117	979,-553	不明	46	(15)	39	縄文
5	118	979,-553	円形	24	-	24	縄文
5	119	980,-556	不整円形	83	(50)	61	縄文
5	120	979,-551	円形	40	34	57	縄文
5	121	990,-556	長円形	30	21	13	縄文
5	122	991,-556	長円形	38	27	15	縄文
5	123	990,-559	円形	41	-	19	縄文
5	124	994,-556	長円形	33	22	10	縄文
V	126	938,-523	長円形	50	40	12	縄文
V	127	938,-524	長円形	39	28	20	縄文
V	128	933,-521	円形	40	38	23	縄文
V	129	950,-537	長円形	44	33	18	縄文
V	130	943,-543	長円形	77	63	20	縄文
V	131	943,-539	隅丸方形	41	39	15	縄文
V	132	950,-545	長円形	46	28	69	縄文
V	133	949,-546	長円形	64	52	26	縄文
V	134	945,-548	円形	37	-	13	縄文
V	135	943,-550	長円形	47	32	24	縄文
V	136	939,-553	長円形	53	32	37	縄文
V	137	940,-555	長円形	51	39	42	縄文
V	139	960,-548	長円形	62	49	12	縄文
V	140	960,-549	長円形	100	88	20	縄文
V	141	958,-549	長円形	71	57	16	縄文
V	142	957,-556	長円形	47	30	19	縄文
V	143	960,-558	長円形	46	40	11	縄文
V	144	959,-559	円形	27	25	25	縄文
V	145	956,-558	長円形	63	51	22	縄文
V	146	957,-558	円形	75	72	34	縄文
V	147	958,-548	円形	52	48	34	縄文
V	148	950,-551	長円形	46	33	19	縄文
V	149	950,-563	長円形	168	107	72	縄文
V	150	951,-549	円形か	46	不明	25	縄文
V	151	975,-535	長円形	172	102	29	縄文
V	152	977,-561	不整長円形	(650)	247	98	近世
V	153	970,-534	不整長円形	178	130	42	縄文
V	154	956,-486	長円形	85	75	49	縄文
V	155	961,-489	不明	55	不明	18	縄文
V	156	961,-486	不明	(42)	不明	19	縄文
V	157	958,-488	円形?	71	-	29	縄文
V	158	956,-484	長円形	47	40	9	縄文
V	159	959,-485	長円形か	64	不明	9	縄文
V	160	960,-490	不明	(55)	不明	18	縄文
V	161	964,-486	長円形か	13	不明	9	縄文
V	162	957,-491	不整円形	43	-	21	縄文
V	163	970,-564	長円形か	(97)	70	23	縄文
V	164	969,-564	長円形か	(87)	77	19	縄文
V	165	975,-564	円形	103	97	44	縄文
V	166	976,-559	長円形	62	50	18	縄文
V	167	979,-555	長円形	50	45	20	縄文
V	168	979,-553	不整長円形	55	42	69	縄文
V	169	980,-559	円形か	52	不明	13	縄文
V	170	976,-556	円形	37	-	18	縄文
V	171	977,-555	円形	41	-	17	縄文
V	172	977,-555	長円形	70	62	24	縄文
V	173	977,-553	長円形	52	46	19	縄文
V	175	975,-554	円形	40	-	13	縄文
V	176	976,-553	長円形	28	25	22	縄文
V	177	971,-555	円形	42	40	18	縄文
V	178	970,-554	長円形	67	47	25	縄文
V	179	970,-552	長円形	(31)	32	29	縄文
V	180	975,-545	円形	35	-	14	古代
V	181	976,-548	長円形	38	29	14	縄文
V	182	967,-549	長円形	38	30	16	縄文
V	183	971,-541	円形	32	30	11	縄文
V	184	971,-539	不整長円形	30	18	10	縄文
V	185	969,-550	長円形	63	50	27	縄文
V	186	967,-551	長円形	49	40	29	縄文
V	187	964,-549	長円形	39	31	30	縄文
V	188	965,-547	円形	30	28	17	縄文
V	189	965,-546	円形	42	-	20	縄文
V	190	974,-537	長円形	30	25	36	縄文
V	191	970,-533	円形	32	27	10	縄文
V	192	975,-526	長円形	28	24	14	縄文
V	193	969,-537	円形?	52	47	19	縄文
V	194	963,-532	円形	50	47	19	縄文
V	195	974,-564	円形	47	39	30	縄文
V	197	972,-560	長円形	102	89	22	縄文
V	198	972,-557	長円形	82	75	43	縄文
V	199	957,-473	円形	31	-	19	縄文
V	200	965,-478	長円形	88	56	39	縄文
V	201	968,-471	長円形	40	32	18	縄文
V	202	970,-552	長円形	52	47	31	縄文
V	203	969,-554	長円形	34	30	8	縄文
V	204	972,-554	長円形	33	27	29	縄文
V	205	973,-554	長円形	28	24	32	縄文
V	206	973,-556	長円形	33	25	22	縄文
V	207	972,-556	円形	31	28	24	縄文
V	208	969,-556	円形	33	30	19	縄文
V	209	975,-554	円形	27	25	42	縄文
V	211	973,-558	長円形	32	23	34	縄文
V	212	969,-541	円形	61	58	49	縄文
V	214	974,-562	長円形	30	24	52	縄文
V	215	973,-564	不整長円形	25	21	32	縄文
V	217	974,-563	長円形	30	24	40	縄文
V	220	938,-523	長円形	51	38	15	縄文
V	221	938,-524	長円形	40	28	15	縄文
V	222	933,-521	円形	40	37	23	縄文

表 12 下田遺跡遺物観察表 縄文土器

(口=口縁部、胴=胴部、底=底部、輝・角=輝石・角閃石、白粒=白色粒)

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
I-10住	1	深鉢	口～頸	灰褐	輝・角、小石	口縁部隆帯文、区画内縄文。頸部無文。胴部縄文、波状隆起線文。(口41.4)	E I
I-10住	2	-	口	暗赤褐	輝・角、小石	隆帯・沈線による区画。一部瘤状に隆起。区画内刺突、縄文。(口22.2)	E I
I-10住	3	-	口	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	沈線で刻みを入れた橋状突起。	E I
I-10住	4	深鉢	上半	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口縁部隆帯区画、沈線文、区画内縄文。頸部無文。胴部縄文、沈線文。	E I
I-10住	5	-	口	鈍橙～暗灰	褐色粒、輝・角、小石	隆帯・沈線による文様、区画。渦巻文、区画内沈線。	E I
I-10住	6	-	口～頸	鈍橙	輝・角、小石	口縁部隆帯・沈線区画、区画内縄文。頸部無文。	E I
I-10住	7	-	口	鈍赤褐・黒褐	白粒、金雲母、輝・角	隆帯で施文、区画。区画内縄文。	E I
I-10住	8	-	口	暗灰黄・灰黄	白粒、輝・角、小石	沈線楕円区画、区画内沈線。沈線渦巻文部突出。	E I
I-10住	9	-	胴	暗灰	白粒、輝・角、小石	上から平行隆帯、沈線波状文、縄文。	E I
I-10住	10	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	垂下隆線2条、蛇行隆線1条、充填縄文。	E I
I-10住	11	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	縄文、垂下沈線1条、蛇行沈線1条。内面黒色。	E I
I-10住	12	-	胴	灰黄褐	白粒、輝・角	破片上部無文。縄文、蛇行沈線。	堀2
I-10住	13	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	縄文、2条一組沈線鋸歯文。	E I
I-10住	14	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	縄文、垂下沈線。	E I古
I-10住	15	-	胴	灰黄褐	白粒、輝・角	R L縄文。最上位は横位沈線、その下に平行する弧状沈線文。	E I
I-10住	16	-	胴	灰黄褐	白粒、輝・角	R L縦位縄文。	E I
I-10住	17	-	胴	暗褐	白粒、金雲母、輝・角	平行隆帯文、沈線。	E I
I-10住	18	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	3単位の縦位条線波状文を密に施す。内面赤褐色。19と同一個体か。	E I
I-10住	19	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	18と同一個体と思われる。最下部外面も一部赤褐色。	E I
I-10住	20	-	底	橙	白粒、輝・角	平底、平行沈線。	E I
I-10住	21	-	底	鈍橙	白粒、輝・角	平底、無文。	E I
I-10住	22	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	無文。口唇部肥厚、稜有り。	E I
I-10住	23	-	口	赤褐	白粒、金雲母、輝・角	無文。内面赤黒色。内外面とも強い研磨。	E I
I-10住	24	-	口	鈍赤褐	金雲母	波状口縁、隆帯文区画。区画内は篋状工具での刺突文。区画外に縄文。	阿玉IV
I-10住	25	-	口	鈍橙	輝・角、小石	波状口縁頂部沈線文、刺突文。以下横位沈線、隆帯。	称
I-10住	26	-	胴	浅黄橙	白粒、小石	横位平行隆帯より上は無文。下は縄文、隆帯2条。	E I
I-10住	27	-	下半	淡橙	白粒、小石	捺糸文、隆帯文。平底、網代痕。(底11.0)	E I
I-10住	28	-	脚部	鈍赤褐	白粒、輝・角、小石	器台脚部。破片左上部に径1.5cm程の穿孔痕。	E I
II-8住	1	深鉢	口～胴	灰～橙	輝・角、小石	口縁部隆帯区画、渦巻文。区画内縄文。胴部沈線「∩」字状文、区画内縄文。(口42.0)	E II
II-8住	2	深鉢	胴	橙	白粒、輝・角、小石	横位・縦位平行沈線、L R磨消縄文。	E II
II-8住	3	深鉢	口～胴	灰～橙	輝・角、小石	口縁部隆帯区画、区画内縄文。胴部平行沈線垂下、縄文部と無文部の交互構成。(口34.3)	E II
II-8住	4	深鉢	底欠	浅黄橙	白粒、輝・角	4単位突起。口縁部隆帯区画、渦巻文。口縁部区画内および胴部条線文。(口22.2)	E II
II-8住	5	深鉢	上半	淡橙	輝・角、小石	沈線文、間に円形刺突。充填条線。(口30.4)	E II
II-8住	6	深鉢	口～胴	淡橙	輝・角	口縁部、括れ部横位沈線。胴部沈線文。全体に充填縄文。(口23.8)	E II
II-8住	7	深鉢	口	淡橙	輝・角、小石	口縁部沈線波状文。胴部横位沈線。(口17.6)	E II
II-8住	8	深鉢	胴	橙	白粒、輝・角	平行沈線、縄文。	E II
II-8住	9	-	口	橙	輝・角、小石	口縁部隆帯、沈線で区画、区画内沈線。胴部縄文。	E II
II-8住	10	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	隆帯・沈線で区画、渦巻文。区画内縄文。	E II
II-8住	11	-	口	黒褐	輝・角	隆帯・沈線で区画、区画内縄文。	E II
II-8住	12	-	口	灰黄褐	白粒、輝・角	波状口縁。隆帯区画、渦巻文。区画内縄文。口唇部上面に沈線。	E II
II-8住	13	-	口	橙	輝・角、金雲母(少)	波状口縁。隆帯区画、渦巻文。区画内縄文。	E II
II-8住	14	-	口	橙	輝・角、小石	隆帯・沈線で区画。区画内縄文。	E II
II-8住	15	-	口	浅黄橙	白粒、小石	太沈線、R L磨消縄文。	E II
II-8住	16	-	口	淡黄	白粒、輝・角	隆帯、沈線で区画。区画内縄文。	E II
II-8住	17	-	口	鈍赤褐	白粒、輝・角	口縁部2段円形刺突列。胴部沈線文、充填縄文。	E II

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
II-8住	18	-	口	鈍赤褐	白粒、輝・角	波状口縁、口唇部円形刺突列。胴部平行沈線、充填縄文。	E II
II-8住	19	-	口	灰黄	白粒、輝・角	沈線、充填縄文。	E II
II-8住	20	-	口	灰黄褐	白粒、輝・角	波状口縁、隆帯文、縄文。	E II
II-8住	21	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	隆帯・沈線で区画、区画内縄文。	E II
II-8住	22	-	口	鈍橙	輝・角	縄文、沈線文。最上位沈線間は、交互刺突列。	E II
II-8住	23	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	口唇部に刻み状の刺突。RL横位縄文。	E II
II-8住	24	-	口	灰黄褐	白粒、輝・角	縄文、横位沈線。	E II
II-8住	25	-	口	橙	輝・角、小石	口唇部肥厚。横位隆帯、沈線。隆帯上と胴部にRL充填縄文。	E II
II-8住	26	-	口	灰黄褐	白粒、輝・角	2単位の細沈線の集合で、流水文を描く。	E II
II-8住	27	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	隆帯文、縄文。	E II
II-8住	28	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	縄文地文。隆線蛇行。	E II
II-8住	29	-	胴	淡橙	白粒、小石	平行隆線垂下、縄文。	E II
II-8住	30	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	破片上部は隆帯区画文の痕跡。沈線、複節充填縄文。	E II
II-8住	31	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線「H」字状文か。RL重点縄文。内面は明橙色。	E II
II-8住	32	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	平行沈線が垂下。	E II
II-8住	33	-	胴	橙	白粒、輝・角	平行沈線垂下、縄文。	E II
II-8住	34	-	胴	橙	白粒、輝・角	沈線文、磨消縄文。内面平滑。	堀1
II-8住	35	-	胴	暗赤褐	輝・角、小石	平行沈線区画文、縄文。	堀1?
II-8住	36	-	底	灰黄	白粒、輝・角	平底、沈線多数。(底6.2)	E II
II-8住	37	-	底	灰黄	輝・角	平底、平行沈線が垂下。充填縄文。(底6.8)	E II
II-8住	38	-	底	淡橙	白粒、輝・角	平底、縄文。(底8.6)	E II
II-8住	39	-	底	灰黄	白粒、輝・角	平底、無文。	E II
II-8住	40	-	口	鈍い褐	白粒、小石	無文。	E II
II-8住	41	-	口	暗灰褐		無文。16と同一個体と思われる。	E II
II-8住	42	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	無文。口唇部内側に強く突出。内外面、上面研磨。	E II
II-8住	43	-	口	淡い橙	白色粒、小石	口唇部に刺突、沈線。	E II
II-8住	44	-	口	暗灰褐	輝・角、小石	無文。19と同一個体と思われる。	E II
II-8住	45	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	無文、口縁部肥厚。	E II
II-8住	46	-	口	灰褐	白粒、輝・角	口唇部やや内側に突出、外側稜有り。縄文。	E II
II-8住	47	-	脚部?	浅黄橙	白粒、輝・角	ほぼ垂直に立ち上がり、上部やや開く。付け根に隆帯、正面と両側面に沈線。器形不明。	E II
2-11住	1	-	口	赤褐	輝・角	平縁、隆帯。橋状突起。(口24.0)	E I
2-11住	2	-	口	鈍橙	輝・角	隆太・沈線文。区画内縄文。	E I
2-11住	3	-	口	暗赤褐	白粒、輝・角、小石	隆帯・沈線による口縁部区画、渦巻文。胴部縄文。	E I
2-11住	4	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	燃糸文。内面黒色、煤付着。	E I
2-11住	5	-	胴	鈍橙	白粒、石英、小石	燃糸文。内面煤付着。	E I
2-11住	6	-	口	赤褐	白粒、輝・角	緩やかな波状口縁、口唇部上面に沈線。外面無文。	E I
2-11住	7	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	口唇部内湾、稜有り。無文。	堀2
2-11住	8	-	胴	灰褐	輝・角	沈線文、刺突文。	称?
2-11住	9	-	口	鈍橙	輝・角、小石	口唇部やや内側に突出。沈線。	称
2-11住	10	-	口	黒褐	白粒、輝・角、小石	口唇部内外面に沈線。胴部沈線文、充填縄文。(口14.2)	堀2
2-11住	11	-	口~胴	橙	輝・角、小石	沈線幾何学文。縄文部と無文部の交互構成。	堀2
2-11住	12	-	胴	浅黄橙	石英、輝・角、小石	沈線幾何学文。縄文部と無文部の交互構成。	堀2
2-11住	13	-	底	浅黄橙	輝・角、小石	平底、無文。底面に網代痕あり。(底10.8)	堀2
2-11住	14	-	口	灰黄	輝・角	口唇部内側に沈線。外面一部縄文。	E I
2-11住	15	-	口	黒褐	輝・角	沈線文。	堀2
2-11住	16	-	口	黒褐	輝・角	口唇部内側に突出。縄文。	堀2
2-11住	17	-	胴	灰黄	輝・角	縄文、沈線文。	前期
II-13住	1	深鉢	口~胴	灰黄	白粒、輝・角、小石	胴部平行隆帯波状文、隆帯間無文。充填縄文。(口37.0)	称
II-13住	2	深鉢	下半	淡橙	輝・角、小石	平底、縄文。(底8.0)	E?
II-13住	3	-	胴	灰黄	輝・角	微隆起線文、充填縄文。	称
II-13住	4	-	胴	灰黄	輝・角	微隆起線文。	称
II-13住	5	-	胴	浅黄橙	輝・角	微隆起線文、一部縄文。煤付着。	称
II-13住	6	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。	称
II-13住	7	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。	称

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
II-13住	8	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	条線地文、隆帯文。	称
II-13住	9	-	底	淡橙	輝・角	平底。沈線、縄文。	称
II-13住	10	-	胴	灰黄	輝・角	沈線渦巻文、充填縄文。	称
II-13住	11	-	底	淡い橙	小石	平底、無文。	称
II-13住	12	-	底	淡橙	白粒、石英、小石	平底、無文。	称
II-13住	13	-	底	橙	小石	平底、無文。端部突出。	称
II-13住	14	-	胴	暗灰	輝・角、小石	小円形貼付文、沈線文。	
II-13住	15	-	胴	灰黄褐	白粒、輝・角	刻みを入れた隆帯垂下。沈線文、充填縄文。	称
II-13住	16	-	突起	鈍橙	輝・角	側面に貫通孔。上面、側面に刺突・沈線。煤付着。	称
II-13住	17	注口	注口部	灰白	白粒、輝・角	無文。先細り。	称
II-14住	1	深鉢	底欠	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口縁部隆帯区画、渦巻文。橋状突起有り。括れ部に隆帯。頸部、胴部RL縄文。(口19.6)	E II
II-14住	2	-	胴	黒褐	輝・角、小石	隆帯連弧状文。	E II
II-14住	3	-	胴	黒褐	輝・角、小石	燃糸文。	E II
II-14住	4	-	胴	灰褐	白粒、輝・角	細かな縄文。	E II
II-14住	5	-	胴	鈍橙	石英、小石	沈線文。	E II
II-14住	6	-	胴	灰褐	白粒、輝・角	沈線、縄文。	堀2
II-14住	7	-	胴	灰褐	白粒、輝・角	斜条線文。	E II
2-34住	1	-	口~胴	鈍赤褐	白粒、小石	隆帯・沈線による区画、渦巻文。区画内縄文。突起部欠損。胴部無文。	E I 新
2-34住	2	深鉢	底欠	淡橙	輝・角	口縁部隆帯区画、渦巻文、区画内沈線。頸部無文。胴部縄文地文、沈線文。(口22.2)	E I
2-34住	3	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	隆帯文、磨消縄文。	E I
2-34住	4	-	口~胴	鈍橙	白粒、輝・角	口縁部横位沈線2条。胴部縦位沈線3条。充填縄文。	E I 新
2-34住	5	-	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	隆帯による区画、文様。LR充填縄文。	E I 新
2-34住	6	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	隆帯による区画、文様。RL充填縄文。	E I 新
2-34住	7	-	口	鈍橙	輝・角	隆帯・沈線による区画、刺突文。区画内磨消縄文。	E I 新
2-34住	8	-	口	黒褐	白粒、輝・角	波状口縁。隆帯・沈線による区画、文様。区画内縄文。	E I 新
2-34住	9	-	口	浅黄橙	輝・角、小石	隆帯・沈線による区画、瘤条突起。区画内沈線。	E I 新
2-34住	10	-	胴	黒褐	白色・赤褐色粒、黒雲母	隆帯・沈線による区画、文様。区画内縄文。	E I 新
2-34住	11	-	口	灰黄	白粒、輝・角	隆帯・沈線による区画、突起部に渦巻文。区画内縄文。	E I 新
2-34住	12	-	突起	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線を施す橋状把手。区画内縄文。把手上部に突起物の基部。	E I 新
2-34住	13	-	口	灰黄	白粒、輝・角	隆帯・沈線による区画、文様。区画内縄文。	E I 新
2-34住	14	-	口	灰黄	輝・角	隆帯区画文様。RL縄文。	E I 新
2-34住	15	-	突起	鈍赤褐	白粒、小石	隆帯区画、縄文。	E I 新
2-34住	16	-	口	浅黄橙	輝・角	沈線文。充填縄文。	E I 新
2-34住	17	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	縄文。原体押圧による小波状文、隆線大波状文。18と同一個体と思われる。	E I 新
2-34住	18	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	縄文。原体押圧による小波状文、隆線大波状文。17と同一個体と思われる。	E I 新
2-34住	19	-	底	灰黄	白粒、輝・角	平底。沈線文、充填縄文。(底8.8)	E I 新
2-34住	20	-	底	赤褐	赤色粒、輝・角、小石	平底。沈線文、磨消縄文。	E I 新
2-34住	21	-	底	赤褐	白粒、小石	平底、無文。(底9.6)	E I 新
2-34住	22	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角	平底、縄文。(底6.6)	E I 新
2-35住	1	-	口~胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部横位隆帯、胴部縄文。	称
2-35住	2	-	口~胴	暗灰	白粒、輝・角	口唇部内屈、波頂部に沈線渦巻文。胴部は刺突文を挟む沈線文。(口22.0)	称
2-35住	3	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	波状口縁、隆帯。	称
2-35住	4	-	口	鈍黄橙	輝・角	口唇部尖る。沈線区画内刺突列。(口22.7)	称
2-35住	5	-	胴	暗灰黄	輝・角、小石	沈線文、区画内刺突列。	称
2-35住	6	-	胴	淡橙	輝・角	平行沈線区画内刺突列。	称
2-35住	7	-	胴	淡橙	輝・角、小石	沈線渦巻文、充填縄文。	称
2-35住	8	-	胴	灰黄	輝・角	横位鎖状隆帯。条線文。9・10と同一個体と思われる。	称
2-35住	9	-	胴	暗灰黄	輝・角	条線文。8、10と同一個体と思われる。	称
2-35住	10	-	胴	灰黄	輝・角	条線文。8・9と同一個体と思われる。	称

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
2-35住	11	-	口~胴	暗灰黄	輝・角、小石	口縁部鎖状隆帯。胴部沈線幾何学文、縄文部と無文部の交互構成。(口34.8)	堀2
2-35住	12	-	口	灰黄	輝・角	口縁部内側に沈線、外側鎖状隆帯2条。胴部沈線文、区画内縄文。	堀2
2-35住	13	-	注口部	淡橙	黒雲母、小石	付け根に沈線文。	堀2
2-35住	14	-	底	灰黄	輝・角、小石	平底、無文。端部突出。	称
2-36住	1	深鉢	上半	浅黄橙	白粒、輝・角	口縁部隆帯・沈線区画、区画内縄文。胴部平行沈線垂下、磨消縄文。	E III
2-36住	2	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	波状口縁。沈線文、磨消縄文。	E III
2-36住	3	-	口	浅黄橙	輝・角、小石	隆帯・沈線による区画、区画内縄文。胴部沈線、縄文。	E III
2-36住	4	-	口	鈍赤褐	白粒、小石	沈線、区画内縄文。	E III
2-36住	5	-	胴	灰黄	白粒、輝・角、小石	隆線文、上位2条、下位1条。充填縄文。	E III
2-36住	6	-	胴	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	横位隆帯、太沈線。充填縄文。	E III
2-36住	7	-	胴	浅黄橙	輝・角	平行沈線、縄文。	E III
2-36住	8	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	横位隆帯、平行沈線懸垂文。充填縄文。	E III
2-36住	9	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。	E III
2-36住	10	-	胴	浅黄橙	輝・角	平行沈線懸垂文。磨消縄文。	E III
2-36住	11	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角、小石	平行沈線懸垂文。R L磨消縄文。	E III
2-36住	12	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	平行沈線懸垂文、充填縄文。縦位蛇行沈線。	E III
2-36住	13	-	胴	鈍赤褐	白粒、輝・角、小石	沈線、縄文。	E III
2-36住	14	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	弧状の平行隆帯、その両側に沈線文。	E III
2-36住	15	-	胴	灰黄	輝・角、小石	縦位条線。	E III
2-36住	16	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。	E III
2-36住	17	-	胴	鈍赤褐	白粒、輝・角、小石	上部に横位隆帯、以下縦位条線文。	E III
2-36住	18	-	口	赤褐	白粒、輝・角	外面は無文。口唇部上面に沈線。	中期後
2-36住	19	-	口	赤褐	白粒	口唇部肥厚、無文。	中期後
2-36住	20	-	胴	灰褐	白粒、小石	縦位条線、横位沈線波状文。	E III
2-36住	21	-	底	橙	白粒、輝・角、小石	平底、R L縄文。内面黒色。	E III
2-36住	22	-	口~胴	灰黄	白粒、輝・角、小石	波状口縁、沈線。R L縄文。	E IV
2-36住	23	器台	完形	灰黄	白粒、輝・角	透かし孔7穴。沈線蔵手状文。全面研磨。(口12.2、底18.8、高11.1)	E III
2-36住	24	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角	平底、無文。(底9.0)	E III
2-36住	25	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文。	称
2-36住	26	-	胴	浅黄橙	輝・角	細い沈線と二重の太い沈線文。	称?
2-36住	27	-	口	浅黄橙	輝・角	沈線文、刺突文。	称
2-36住	28	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	無文。煤付着。	称?
2-36住	29	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	垂直あるいは波状の条線文。	堀1
2-36住	30	-	胴	浅黄橙	白粒、小石	隆帯、突起。胴部は弧状、縦位の櫛描文。	堀1
2-36住	31	-	底	黒	白粒、輝・角	表面煤付着。	後期
2-36住	32	-	胴	浅黄橙	輝・角	縄文。	堀1
2-36住	33	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	縄文。	堀1
2-36住	34	-	底	灰黄	白粒、輝・角	平底、縦位集合沈線。(底7.5)	堀1
2-36住	35	-	底	鈍橙	白粒、輝・角	平底、無文。(底16.0)	後期
2-36住	36	-	底	鈍橙	白粒、輝・角	端部直角。表面よく研磨。底面に網状痕あり。(底7.1)	後期
2-36住	37	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角	平底、無文。(底5.2)	後期
2-36住	38	-	底	浅黄橙	白粒、小石	上げ底、無文。(底6.0)	後期
2-36住	39	-	口~胴	暗灰褐	白粒、輝・角	波状口縁、内側沈線。横位沈線、充填縄文、区切り文。	B I
2-37住	1	-	突起	鈍橙	白粒、小石	波頂部外面がとぐろ状に隆起。	
2-37住	2	-	口	橙	赤色粒、輝・角	波状口縁、隆帯、沈線、刺突列。	堀
2-38住	1	深鉢	口~胴	淡橙	輝・角、小石	口縁部隆帯区画、渦巻文。区画内沈線文。胴部3本沈線垂下、充填縄文。(口22.8)	E II
2-38住	2	-	口~胴	灰褐	赤色粒、輝・角	口縁部隆帯・沈線区画。胴部沈線垂下。充填縄文。(口33.0)	E II
2-38住	3	-	口	淡橙	白粒、輝・角	口縁部沈線区画、沈線文、渦巻文。胴部磨消縄文、沈線文。	E II
2-38住	4	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	隆帯文、縄文。	E II
2-38住	5	-	口	黒褐	白粒、輝・角	口縁部平行沈線、円形刺突列。胴部縄文。	E II
2-38住	6	-	口	灰白	輝・角、小石	隆帯区画、渦巻文。区画内縄文。	E II
2-38住	7	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	隆帯区画。区画内沈線縁取り、磨消縄文。	E II
2-38住	8	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線区画、平行沈線。R L磨消縄文。	E II

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
2-38住	9	-	口~胴	浅黄橙	輝・角	波状口縁、隆帯・沈線区画。胴部平行沈線垂下。 L R磨消縄文。	E II
2-38住	10	-	口	鈍褐	輝・角	口縁部横位沈線区画、胴部平行沈線懸垂文、 充填縄文。	E II
2-38住	11	-	口	鈍赤褐	白粒、小石	平行沈線、磨消縄文。	E II
2-38住	12	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	平行垂下沈線、半截竹菅の縦位波状文。13と 同一個体の可能性高い。	E II
2-38住	13	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	破片上部に隆帯弧状文。縄文地文に半截竹菅 で縦位波状文。12と同一個体か。	E II
2-38住	14	-	胴	黒褐	白粒、輝・角	平行沈線「J」字状文。磨消縄文。	E II
2-38住	15	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	平行垂下沈線、無節充填縄文。17と同一個体 か。	E II
2-38住	16	-	胴	浅黄橙	白粒、小石	平行垂下沈線、充填縄文。	E II
2-38住	17	-	底付近	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	平行垂下沈線、無節充填縄文。15と同一個体 か。	E II
2-38住	18	-	底	淡橙	輝・角、小石	平底、無文。(底6.4)	E II
2-38住	19	-	口	灰黄	白粒、輝・角	無文。非常に緩やかな波状口縁。	E II
2-38住	20	-	口	黒褐	白粒、輝・角	無文。口唇部稜有り。	E II
2-38住	21	-	脚部	鈍黄橙	白粒、輝・角	無文。破片右上部、左上部に透かし孔有り。	E II
2-38住	22	-	胴	鈍橙	輝・角	二重沈線の楕円形区画。磨消縄文。上部に煤 付着。	E II
2-38住	23	-	胴	鈍橙	輝・角	条線地文、沈線文。	E II
2-39住	1	-	口~胴	暗褐	白粒、輝・角、小石	無文。口縁部大きく開く。(口23.6)	E II
2-39住	2	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	縄文、沈線文。	E II
2-39住	3	-	口	暗褐	輝・角、小石	隆帯区画、渦巻文。区画内縄文。	E II
2-39住	4	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、羽状縄文。	E II
2-39住	5	-	口	橙	赤色粒、小石	隆帯の両脇沈線。胴部縄文。	E II
2-39住	6	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部太沈線。胴部僅かに細沈線の痕跡有り。	E II
2-39住	7	-	突起	鈍橙	輝・角、小石	捻転状突起。口唇部沈線。	E II
2-39住	8	-	胴	灰黄	赤色粒、輝・角	沈線区画、区画内縄文。	E II
2-39住	9	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	無文。	E II
2-39住	10	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	平行沈線、縄文部と無文部の交互構成。	E II
2-39住	11	-	胴	暗灰褐	白粒、輝・角	無文。	E II
2-39住	12	-	底	橙	白粒、輝・角	平底、無文。底面に網代痕あり。	E II
2-39住	13	-	底	赤褐	輝・角、小石	平底、縄文。底面に網代痕あり。(底8.1)	E II
2-40住	1	深鉢	胴	暗褐	輝・角、小石	平行沈線、R L充填縄文。	E II
2-41住	1	-	底	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	平底、無文。(底7.2)	称
2-41住	2	-	口	橙	白粒、輝・角	緩やかな波状口縁。沈線文。	称
2-41住	3	-	口	鈍黄橙	輝・角	波頂部内向きに環状貼付文。外面は沈線文、 刺突文。	称
2-41住	4	-	口	暗灰	輝・角	沈線。	称
2-41住	5	-	口	橙	輝・角	波状口縁頂部に刺突。外面は無文。	称
2-41住	6	-	口	黒褐	白粒、輝・角	沈線文。	称
2-41住	7	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線、条線。	称
2-41住	8	-	胴	淡橙	輝・角、小石	条線文。	称
2-41住	9	-	胴	淡橙	赤色粒、輝・角	条線文。	称
2-41住	10	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線間に沈線波線。	称
2-41住	11	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線文、刺突文。	称
2-41住	12	-	胴	暗褐	輝・角	沈線文、刺突文。	称
2-41住	13	-	胴	鈍橙	輝・角	沈線文。	称
2-41住	14	-	胴	灰黄	輝・角	沈線文、刺突文。	称
2-41住	15	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線文。	称
2-41住	16	-	胴	黄橙	赤色粒、輝・角	僅かに沈線の痕跡有り。	称
2-41住	17	-	底	浅黄橙	輝・角	平底、無文。(底7.7)	称
2-41住	18	-	口	灰	白粒、輝・角、小石	横位沈線間に円形刺突、斜め刺突。	称
2-41住	19	-	口	鈍橙	赤色粒、輝・角	隆線、沈線。	称
2-42住	1	-	口	淡橙	白粒、輝・角、小石	隆帯文、沈線文、充填縄文。(口36.5)	E I
2-42住	2	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	捺糸文。口縁部沈線1条、胴部沈線文。	E I
2-42住	3	-	突起	暗赤褐	褐色粒、小石	突起の正面左側のみ沈線、凹み。口縁部は沈 線文の下に刻みを入れた隆帯。胴部は条線文。 沈線を施す橋状突起。側面の沈線は口唇部に 繋がる。胴部は縄文。	E I
2-42住	4	深鉢	口	暗褐	輝・角、小石	沈線を施す橋状突起。側面の沈線は口唇部に 繋がる。胴部は縄文。	E I
2-42住	5	-	口	黒褐	白粒、輝・角	捺糸文。口縁部沈線2条。	E I
2-42住	6	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	捺糸文、沈線。	E I

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
2-42住	7	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角	隆帯区画、区画内沈線。	E I
2-42住	8	深鉢	胴下半	淡橙	白粒、輝・角、小石	節の細かい縦位捺糸文。平底。(底7.4)	E I
2-42住	9	-	底	淡橙～黒灰	黒雲母、輝・角、小石	平底、縄文。	E I
2-43住	1	深鉢	胴	橙	白粒、輝・角、小石	微隆帯による区画、文様。充填縄文。	E I
2-43住	2	-	口～胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口縁部稜の下に刺突列。胴部は隆帯文、充填縄文。	E I
2-43住	3	-	口	暗赤褐	輝・角、小石	隆帯渦巻文。	E I
2-43住	4	-	口	暗赤褐	白粒、輝・角、小石	二重の隆線で楕円形区画。	E I
2-43住	5	-	口	明赤褐	輝・角、小石	2条の刺突文入り隆帯で半円状に区画。区画内は沈線で縁取り、無文。	E I
2-43住	6	-	胴	橙	輝・角、小石	「∞」字形の鱗状突起。側面に沈線。	E I
2-43住	7	-	口	暗赤褐	金雲母、小石	波頂部から隆帯垂下。内外面に横位隆帯。	E I
2-43住	8	-	胴	赤褐	輝・角、小石	括れ部平行隆帯。上部は平行沈線弧状文、下部は隆帯連弧文。	E I
2-43住	9	-	胴	橙	石英、小石	隆帯、沈線、縄文。	E I
2-43住	10	-	胴	鈍赤褐	黒雲母、輝・角、小石	横位隆帯、二重隆線文、磨消縄文。	E I
2-43住	11	-	胴	橙	小石	刻みを持つ隆帯文。区画内は沈線。	E I
2-43住	12	-	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	横位隆帯、沈線文。	E I
2-43住	13	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	破片中央に隆帯、左右に沈線、刺突文。	E I
2-43住	14	-	胴	橙	白粒、輝・角、小石	括れ部沈線入り隆帯。上下に縄文。	E I
2-43住	15	-	胴	鈍赤褐	黒雲母、小石	隆帯、沈線、縄文。	E I
2-43住	16	-	胴	鈍橙	石英、小石	2条の横位隆帯、以下は沈線文、縄文。	E I
2-43住	17	-	口	灰黄	白粒、輝・角、小石	口唇部稜有り。隆帯波状文。	E I
2-43住	18	-	口	明赤褐	白粒、輝・角、小石	口縁部に太く浅い沈線。以下縄文。口唇部内屈。	E I
2-43住	19	-	口	鈍赤褐	輝・角、小石	無文。内外面とも稜が目立つ。	E I
2-43住	20	-	口	浅黄橙	輝・角	無文。口唇部内側に突出。	E I
2-43住	21	-	底	橙	輝・角、小石	平底、縄文。内面黒色。(底8.7)	E IV
2-43住	22	-	口	浅黄橙	輝・角、小石	間隔を空けて2条の横位沈線。	後期
2-43住	23	-	胴	灰黄	白粒、輝・角、小石	横位二重沈線、8の字状突起、胴部二重沈線懸垂、沈線間に刻み状の刺突。	後期
2-43住	24	-	底	鈍橙	白粒、輝・角、小石	平底、無文。端部やや突出。底面に網代痕あり。(底9.8)	後期
2-43住	25	-	底	鈍橙	白粒、輝・角、小石	平底、無文。端部やや突出。底面に網代痕あり。(底11.3)	後期
IV-1住	1	深鉢	上半	灰白	白粒、輝・角、小石	隆帯文、縄文。(口45.8)	E IV
IV-1住	2	-	口	黒褐	白粒、輝・角	隆帯、円形状区画内に縄文。	E IV
IV-1住	3-1	-	口	暗灰黄	白粒、輝・角、小石	波状口縁。平行隆線文、隆線両脇強い撫で。充填縄文。	E IV
IV-1住	3-2	-	口～胴	暗灰黄	白粒、輝・角、小石	隆線による渦巻文。	E IV
IV-1住	4	-	口～胴	淡橙	白粒、石英、輝・角	隆線文。充填縄文。	E IV
IV-1住	5	深鉢	上半	灰黄	白粒、輝・角	橋状把手有り。口縁部隆帯。胴部沈線文、充填縄文。1/3残存。(口29.4)	E IV
IV-1住	6	深鉢	上半	鈍橙	白粒、小石	大小橋状突起1対。口縁部隆帯。胴部沈線文、縄文。(口29.0)	E IV
IV-1住	7	深鉢	上半	淡橙	白粒、輝・角	縄文。(口42.4)	E IV
IV-1住	8	深鉢	上半	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口縁部隆帯、以下縄文。(口32.0)	E IV
IV-1住	9	-	把手	淡橙	白粒、赤色粒、輝・角	橋状把手の一部が欠落。	E IV
IV-1住	10	-	口	灰褐	白粒、輝・角	L R横位縄文。	E IV
IV-1住	11	-	口	灰黄	白粒、輝・角	口唇部肥厚。沈線「∩」字状文、L R充填縄文。(口29.2)	E IV
IV-1住	12	-	口	灰黄～黒	白粒、輝・角、小石	口縁部横位隆線の上に突起。胴部沈線。縄文部、無文部交互構成。	E IV
IV-1住	13	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	隆帯、縄文。	E IV
IV-1住	14	-	口	灰黄	白粒、石英、小石	波状口縁、波頂部は盛り上がる突起。沈線文、縄文。	E IV
IV-1住	15	-	胴	浅黄橙・黒	白粒、輝・角	沈線、区画内R L充填縄文。2帯構成。	E IV
IV-1住	16	-	胴	浅黄橙	輝・角、石英	沈線、縄文。	E IV
IV-1住	17	-	胴	鈍い橙	白粒、小石	疎らな条線文。	E IV
IV-1住	18	-	胴	鈍い橙	白粒、輝・角、小石	縄文。	E IV
IV-1住	19	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	縄文。	E IV
IV-1住	20	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線、充填縄文。	E IV
IV-1住	21	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	隆線2条、縄文。	E IV
IV-1住	22	-	底	橙	白粒、輝・角、石英	やや上げ底、無文。(底5.7)	E IV

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
IV-1 住	23	-	底	淡橙	輝・角	平底、無文。(底 6.5)	E IV
5-1 住	1	-	口~胴	暗灰黄	白粒、輝・角	口唇部に太沈線。胴部は平行隆線、充填縄文。(口 25.0)	E IV
5-1 住	2	-	口~胴	暗灰黄	白粒、輝・角	口唇部に太沈線。胴部は平行隆線、充填縄文。(口 21.7)	E IV
5-1 住	3	-	口~胴	暗灰黄	白粒、輝・角	小波状口縁。沈線文、充填縄文。(口 25.2)	E IV
5-1 住	4	-	口~胴	暗灰黄	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。(口 38.6)	E IV
5-1 住	5	深鉢	口~胴	浅黄橙	輝・角、小石	隆帯渦巻文、充填縄文。(口 36.6)	E IV
5-1 住	6	深鉢	口~胴	浅黄橙	輝・角、小石	隆帯渦巻文、充填縄文。(口 42.5)	E IV
5-1 住	7	-	下半	淡橙	白粒、輝・角	平行隆線、充填縄文。やや丸みを持つ平底。(底 8.0)	E IV
5-1 住	8	深鉢	口~胴	浅黄橙	白粒、輝・角	口縁部沈線。胴部縄文。	E IV
5-1 住	9	-	口	橙	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。(口 51.6)	E IV
5-1 住	10	注口付壺	口~胴 1/3 残存	赤褐	白粒、黒雲母、小石	瓢形。口縁部有孔鑄付。口縁部と括れ部にそれぞれ把手 1 対または 3 カ所か。上半部隆線 6 単位波状文、下半部隆線 3 単位渦巻文か。注口内径 1.6cm。(口 8.3)	E IV
5-1 住	11	鑄付	口~胴	赤褐	白粒、輝・角	口縁の外側に鑄が巡る。胴部は隆線で曲線的な文様。(口 18.8)	E IV
5-1 住	12	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	緩やかな波状口縁。隆帯で楕円形に区画された内側に縄文。	E IV
5-1 住	13	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部無文。横位隆帯下に L R 地文、隆帯懸垂。	E IV
5-1 住	14	-	口	浅黄橙	石英、輝・角、小石	口縁部肥厚、無文。横位隆帯下に縄文、隆帯懸垂。	E IV
5-1 住	15	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	L R 縄文。口縁に凹線 2 条。隆帯「n」字状文、両脇沈線。	E IV
5-1 住	16	-	口	橙	白粒、黒雲母、輝・角	口唇部稜有り。沈線。胴部は 2 条一組で波状文、磨消縄文。	E IV
5-1 住	17	-	口	浅黄橙	輝・角、小石	沈線。胴部は 2 条一組で渦巻文、R L 充填縄文。	E IV
5-1 住	18	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線。胴部は 2 条一組で波状文。L R 地文、磨消縄文。	E IV
5-1 住	19	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	波状口縁、刺突文。波頂部外側は小突起状、内側はやや突出し、肥厚。胴部は R L 地文、磨消縄文。2 条一組の沈線渦巻文か。	E IV
5-1 住	20	-	口	黒灰	白粒、輝・角	口縁部に刺突文。胴部は沈線文、磨消縄文。	E IV
5-1 住	21	-	口	鈍赤褐	黒雲母、輝・角	波状口縁、刺突文。胴部は沈線、充填縄文。	E IV
5-1 住	22	-	口	橙	白粒、黒雲母、輝・角	口縁部刺突文。胴部は沈線。	E IV
5-1 住	23	-	口	灰黄	白粒、黒雲母、輝・角	L R 羽状縄文。沈線「n」字状文、磨消縄文。	E IV
5-1 住	24	-	口~胴	灰黄	白粒、輝・角、小石	口唇部内側に突出。沈線で「n」字状文。磨消縄文。	E IV
5-1 住	25	-	口	暗灰黄	白粒、輝・角	口唇部内側にやや突出。沈線、L R 羽状縄文。	E IV
5-1 住	26	-	口	灰黄	白粒、輝・角	波状口縁、沈線。R L 羽状縄文。	E IV
5-1 住	27	-	口	橙	輝・角、小石	緩やかな波状口縁か。口唇部肥厚。沈線、羽状縄文。	E IV
5-1 住	28	-	突起	暗灰黄	白粒、輝・角	円筒形。R L 地文、沈線区画。	E IV
5-1 住	29	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口縁部無文、やや肥厚。4~5 条単位の条線文。	E IV
5-1 住	30	-	口	暗灰黄	白粒、輝・角、小石	口縁部肥厚、沈線。胴部には細い沈線。	E IV
5-1 住	31	-	突起	淡橙	輝・角、小石	上部太沈線渦巻文。正面沈線区画、区画内縄文。	E IV
5-1 住	32	-	胴	鈍橙	白粒、黒雲母、輝・角	L R 縄文。横位隆帯の下半は縄文、上半は撫で。	E IV
5-1 住	33	-	口	明赤褐	白粒、輝・角	無文。内面、外面とも研磨。内面黒褐色。	E IV
5-1 住	34	-	胴	浅黄橙	白粒、黒雲母、小石	平行沈線が垂下。R L 地文、磨消縄文。	E IV
5-1 住	35	-	胴	灰黄	白粒、石英、輝・角	平行沈線の「n」字状文、L R 充填縄文。	E IV
5-1 住	36	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	R L 縄文。平行沈線、磨消縄文。破片両端にも沈線。	E IV
5-1 住	37	-	胴	橙	白粒、輝・角	沈線文。L R 地文、磨消縄文。	E IV
5-1 住	38	-	胴	明赤褐	黒雲母、輝・角、小石	L R 縄文。沈線、磨消縄文。	E IV
5-1 住	39	-	胴	灰黄	白粒、黒雲母、輝・角	沈線文。R L 充填縄文。	E IV
5-1 住	40	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線「u」字、「n」字状文。R L 磨消縄文。	E IV
5-1 住	41	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線波状文か。区画内に充填縄文。	E IV
5-1 住	42	-	胴	鈍橙	黒雲母、輝・角	4~5 条単位の条線文の末端部分。	E IV
5-1 住	43	-	胴	灰黄	黒雲母、小石	縦位、やや斜位に重複する集合沈線文。	E IV

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
5-1 住	44	-	胴	橙	白粒、輝・角、石英	沈線「H」字状文か。RL充填縄文。	EIV
5-1 住	45	-	底	淡橙	輝・角、小石	上げ底、無文。	EIV
5-1 住	46	-	底	暗灰黄	白粒、黒雲母、輝・角	平底。LR縄文。内面丸底、縦位撫で。	EIV
5-1 住	47	深鉢	胴下半	橙	白色粒、輝石・角閃石、小石	平底、条線文。(底 8.0)	EIV
5-1 住	48	-	底	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	底面やや丸み。無文、縦位削り。(底 7.8)	EIV
5-1 住	49	-	底	橙	白粒、黒雲母、小石	上げ底、沈線 2 条。内面黒褐色。(底 6.5)	EIV
5-1 住	50	-	底	鈍橙	白粒、黒雲母	平底、無文。(底 6.6)	EIV
5-1 住	51	土製品	3/4	鈍い黄橙	赤色粒、小石	三画柱状土製品。長方形面は 3 面とも縄文後、沈線渦巻文。長軸方向に径 6mm の孔が貫通。断面は隅丸の正三角形。(長 9.3、高 5.7、幅 5.6)	EIV
5-1 住	52	-	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	縦位の山形押型文。	早期
5-1 住	53	土製品	完形	鈍橙	白粒、輝・角、小石	三画柱状土製品。全面無文。断面はほぼ正三角形で、各辺はやや内湾する。中心を長軸方向に孔が貫通する。(長 10.4、高 6.9、幅 7.6)	EIV
5-2 住	1	鉢	2/3 残	赤褐	白色粒、輝石・角閃石、小石	口縁部に横位沈線。胴部縄文。底部無文、平底。(口 18.6、高 18.0、底 6.2)	EIV
5-2 住	2	深鉢	胴下半	淡橙	輝・角、小石	沈線「n」字状文、区画内磨消縄文。	EIV
5-2 住	3	-	口	鈍橙	白粒、石英、輝・角	口縁部隆帯。胴部沈線。RL充填縄文。	EIV
5-2 住	4	-	口	灰白	白粒、輝・角	波状口縁、太い沈線。隆帯文。内面黒色。	EIV
5-2 住	5	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	隆起線文、RL充填縄文。	EIV
5-2 住	6	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口縁肥厚。隆起線文、RL充填縄文。	EIV
5-2 住	7	-	口	暗灰黄	白粒、石英、小石	波状口縁。隆帯区画。口唇部稜有り。	EIV
5-2 住	8	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	隆線文、充填縄文。	EIV
5-2 住	9	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角、小石	隆起線文の 2 帯構成か。磨消縄文。	EIV
5-2 住	10	-	胴	浅黄橙	白粒、赤褐色粒、輝・角	横位隆帯。RL縄文。沈線文、磨消縄文。	EIV
5-2 住	11	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	微隆帯懸垂文。RL縄文施文部と磨消縄文部の交互構成。	EIV
5-2 住	12	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	平行する 2 条の微隆線。LR充填縄文と無文部の交互構成。	EIV
5-2 住	13	-	口	赤褐	白粒、輝・角、小石	沈線波状文か。磨消縄文。RL羽状縄文。	EIV
5-2 住	14	-	口	淡橙	白粒、輝・角、小石	口縁部沈線。体部沈線波状文か。磨消縄文。RL羽状縄文。	EIV
5-2 住	15	-	口	暗灰黄	白粒、輝・角	波状口縁。LR斜位縄文。平行沈線文、磨消縄文。	EIV
5-2 住	16	-	胴	浅黄橙	白粒、石英、小石	沈線波状文、充填縄文。無文部磨き。	EIV
5-2 住	17	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	太く浅い沈線文。磨消縄文。	EIV
5-2 住	18	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、2 帯構成。RL充填縄文。	EIV
5-2 住	19	-	胴	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	沈線、縄文。煤付着。内面磨き。	EIV
5-2 住	20	-	口	暗灰黄	白粒、輝・角	口唇部稜有り。幅広い浅い沈線文、充填縄文。煤付着。	EIV
5-2 住	21	-	口	浅黄橙	白粒、石英、輝・角	緩い波状口縁。沈線、羽状縄文。	EIV
5-2 住	22	-	口	赤褐	白粒、輝・角、小石	波状口縁、口縁部肥厚。体部沈線、磨消縄文。	EIV
5-2 住	23	-	口	浅黄橙	輝・角	波状口縁、沈線の下に、羽縄文。	EIV
5-2 住	24	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	波状口縁、せり上がる突起。口唇部と胴部に沈線文、縄文。	EIV
5-2 住	25	-	口	鈍橙	輝・角	波状口縁、波頂部は盛り上がる突起。沈線文、磨消縄文。	EIV
5-2 住	26	-	口	灰	白粒、輝・角	口唇部肥厚。口縁の一部が特に盛り上がる突起。沈線文、縄文。	EIV
5-2 住	27	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	波状口縁。沈線文、磨消縄文。	EIV
5-2 住	28	-	胴	灰褐	白粒、輝・角	沈線文、RL縦位磨消縄文。	EIV
5-2 住	29	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文、磨消縄文。	EIV
5-2 住	30	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	RL縦位縄文。	EIV
5-2 住	31	-	底	橙	白粒、輝・角	上げ底、無文。外面縦位削り。内面は黒色、平滑な撫で。(底 5.1)	EIV
5-2 住	32	-	底	浅黄橙	白粒、黒雲母、輝・角	上げ底、無文。端部突出。内外面とも縦位削り、磨き。(底 7.6)	EIV
5-2 住	33	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	平底、無文。外面縦位削り。内面は横位撫で。(底 6.0)	EIV
5-2 住	34	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	平底、無文。	EIV

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
5-2 住	35	-	底	灰黄	白粒、輝・角	無文。端部やや突出、底面丸み。内面縦位削り。 (底 9.2)	E IV
5-2 住	36	-	把手	淡橙	白粒、小石	無文の橋状突起、上部欠落。胴部は縄文。	E IV
5-2 住	37	-	把手	鈍橙	白粒、赤色粒	橋状把手の一部。中央が凹む。	E IV
5-2 住	38	-	口	浅黄橙	輝・角	無文。内面赤褐色。横位削り、撫で。	堀 1
5-2 住	39	深鉢	底	鈍橙	白粒、輝・角	やや丸みを持つ平底、縄文。(底 10.0)	E IV
4-1 配石	1	-	口	暗灰	白粒、輝・角、小石	隆帯・沈線による区画、文様。区画内縄文。	E III
4-1 配石	2	-	胴	灰白	赤色粒、輝・角、小石	刺突文、隆帯文、縄文。	E III
4-1 配石	3	-	胴	淡橙	石英、輝・角、小石	微かに沈線、微かに縄文。	E III
4-1 配石	4	-	胴	灰白	白粒、輝・角、小石	平行沈線、縄文。	E III
4-1 配石	5	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角	やや丸み帯びる平底。無文。(底 8.5)	E III
2-20 埋甕	1	深鉢	上半部	鈍橙	輝・角	緩やかな波状口縁、突起 1 カ所。沈線文。(口 28.6)	称
2-20 埋甕	2	-	口	灰褐	白粒、輝・角	条線文。20 埋甕 3 と同一個体と思われる。	堀 1
2-20 埋甕	3	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	条線文。20 埋甕 2 と同一個体と思われる。	堀 1
2-20 埋甕	4	-	胴	灰褐	白粒、輝・角	沈線文。	堀 1
2-20 埋甕	5	-	底	鈍黄橙	白粒、輝・角	平底、無文。(底 8.0)	堀 1
2-21 埋甕	1	深鉢	完形	淡橙～暗褐	白粒、輝・角	小突起 1、「8」字状貼付文 2。胴部上半に 2 単位の抽象的文様。下半は無文。底面に網代痕。内面は煤が付着し黒色。磨き顕著。口唇部内面に沈線。(口 12.3、底 8.3、高 14.9)	堀 2
Ⅲ-1 埋甕	1	-	胴下半	淡橙～黒褐	白粒、輝・角、小石	破片上部に沈線文が僅かに見える。(底 6.4)	堀 1 古
Ⅲ-2 埋甕	1	-	底部	明褐灰	白粒、輝・角	平底、無文。(底 12.0)	
Ⅲ-3 埋甕	1	-	胴下半	灰白	輝・角、小石	無文。(底 7.3)	
Ⅲ-土集	1	-	口	浅黄橙	白粒、小石	波頂部の上面および外面に沈線文。口唇部に刺突・沈線。胴部無文。(口 38.5)	堀 1
Ⅲ-土集	2	-	口	浅黄橙	輝・角	口唇部刺突、沈線。	堀 1 新
Ⅲ-土集	3	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	口唇部刺突、沈線。	堀 1 新
Ⅲ-土集	4	-	胴	鈍褐	白粒、輝・角、小石	3 単位縦位沈線、2 単位細沈線弧状文。	堀 1
Ⅲ-土集	5	浅鉢	口～底	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口唇部沈線。平底、無文。1/4 残。(口 13.4、高 5.2、底 6.2)	堀 1 新
Ⅲ-土集	6	-	底	浅黄橙	石英、輝・角、小石	平底、無文。(底 7.6)	堀 1 新
Ⅳ-1 土集	1	深鉢	上半部	橙	白粒、輝・角、小石	口縁部太沈線、微隆起線。胴部縄文。	-
Ⅳ-1 土集	2	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	縄文。	
Ⅳ-1 土集	3	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	隆線 2 条、縄文。	
Ⅳ-1 土集	4	-	底	鈍橙	白粒、小石	無文。端部角張る。	
I -6 土	1	-	胴	橙～黒	白粒、小石	無文。煤付着。	堀
I -46 土	1	-	口～底	鈍橙	白粒、石英	口唇部沈線、刺突。口縁部横位 2 条沈線。口唇刺突から間に刺突が入る 2 条の沈線が垂下。	堀 1
I -46 土	2	-	胴	鈍橙	白粒、石英	無文。46 土 1、3 と同一個体と思われる。	堀 1
I -46 土	3	-	胴	鈍橙	白粒、石英	刺突入り沈線 3 条が垂下、横位沈線 2 条。46 土 1、2 と同一個体と思われる。	堀 1
I -47 土	1	注口	注口部	鈍橙～暗褐	白粒、輝・角	基部から完形。無文。	堀 1
I -55 土	1	-	胴	淡橙～暗褐	白粒、輝・角、小石	口縁部付近は横位沈線。頸部を横位沈線で区画し、胴部は 3 条 1 組の垂下沈線。充填縄文。	E II
I -56 土	1	-	胴	橙	輝・角、小石	沈線文、縄文。	E II
I -57 土	1	-	口	赤	白粒、赤色粒、小石	口唇部肥厚、稜有り。	E I～II
I -57 土	2	-	胴	淡橙	赤色粒、小石	沈線文、条線。刺突列。	E I～II
I -57 土	3	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	隆帯。	E II
1-123 土	1	深鉢	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	波状口縁。縦横の隆帯文、交点に環状貼付文。2 と同一個体と思われる。	堀 1
1-123 土	2	深鉢	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	波状口縁。縦横の隆帯文、交点に環状貼付文。1 と同一個体と思われる。	堀 1
1-123 土	3	深鉢	上半部	灰褐～橙	白粒、赤色粒、輝・角	縦位条線文。(口 21.5、底 8.5、高 15.8)	堀 1
1-123 土	4	-	口	灰黄	白粒、輝・角	波状口縁。口唇部肥厚、刺突 3 カ所。	堀 1
1-123 土	5	-	胴下半	灰黄褐	白粒、輝・角	微かに縦位沈線。	堀 1
1-123 土	6	-	胴	鈍黄橙	石英、輝・角、小石	無文。	堀 1
1-123 土	7	-	胴	灰黄褐	輝・角	沈線文、刺突文。	堀 1
1-123 土	8	-	胴	鈍黄橙	石英、輝・角、小石	沈線文。	堀 1
1-123 土	9	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文。	堀 1
1-123 土	10	-	胴	鈍橙	褐色粒、輝・角、小石	沈線文、刺突文。	堀 1

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
1-123 土	11	-	胴	鈍橙	褐色粒、輝・角、小石	沈線文、刺突文。	堀 1
1-123 土	12	-	胴	灰黄褐	白粒、小石	沈線文。	堀 1
1-123 土	13	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文。	堀 1
1-123 土	14	-	底	橙	輝・角	平底、無文。	堀 1
1-123 土	15	注口	注口部	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	無文。	堀 1
1-123 土	16	鉢	1/4 残	灰褐～橙	白粒、輝・角、小石	無文。平底。(口 27.8)	堀 1
1-123 土	17	-	上半部	鈍黄橙	白粒、輝・角	口唇部内側に突出、沈線文。縄文部と無文部の交互構成。内面は橙。	称
1-129 土	1	-	口	灰褐	白粒、輝・角	沈線文。	称
1-130 土	1	-	口	灰白	輝・角	上部が欠落した突起の基部か。両側からの隆起に沿って沈線。	堀 1
1-130 土	2	-	上半部	灰黄褐	白粒、輝・角	口縁に沿って横位太沈線。胴部沈線文、刺突文。(口 20.0)	堀 1 古
1-130 土	3	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	刺突を入れた隆帯。	堀 1
1-130 土	4	-	胴	黒褐	白粒、輝・角	沈線文。	堀 1 古
1-130 土	5	-	胴	灰白	輝・角、小石	沈線文。	堀 1
1-130 土	6	-	胴	橙	白粒、小石	無文。	堀 1
1-131 土	1	-	胴	淡赤橙	白粒、小石	無文。被熱による発砲、ひび割れ有り。2 と同一個体と思われる。	堀 1 ?
1-131 土	2	-	胴	淡赤橙	白粒、小石	無文。被熱による発砲、ひび割れ有り。1 と同一個体と思われる。	堀 1 ?
1-131 土	3	-	胴	暗灰	白粒、輝・角	細い沈線文。	堀 1
1-131 土	4	-	胴	橙	白粒、赤色粒	沈線文。充填縄文部と無文部の交互構成。	称
1-131 土	5	-	胴	灰白	白粒、石英	沈線文、刺突文。	称
1-131 土	6	-	底	灰黄	白粒、輝・角	やや上げ底、無文。	堀
II -1 土	1	深鉢	底欠	淡橙	輝・角	口縁部横位沈線、胴部沈線文。(口 34.5)	称新
II -328 土	1	-	胴	灰白	輝・角、小石	平行沈線、充填縄文。	E III
II -328 土	2	-	胴	橙	輝・角、小石	擦糸文。	E I
II -328 土	3	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線文。	称
II -331 土	1	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、擦糸文か。	E III
II -334 土	1	-	胴	橙	赤色粒、輝・角、小石	縄文後、沈線文。	E II
II -338 土	1	-	胴	鈍橙	金雲母、小石	爪形文。隆帯文。	阿玉 1 b
II -338 土	2	-	胴	暗灰	輝・角	沈線文、充填縄文。	堀 1 新
II -340 土	1	-	口	浅黄橙	白粒、小石	口唇部外側角に沈線。	
II -340 土	2	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	縄文後、沈線文。	E II
II -340 土	3	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	条線文。	E III
II -343 土	1	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	微隆帯と沈線で区画、区画内縄文。	E III
II -344 土	1	-	口	鈍橙	白粒、小石	口唇部肥厚。口縁部無文。胴部は縦位、横位の隆線で区画、区画内縄文。	E III
II -344 土	2	-	胴	赤褐	石英、輝・角、小石	縄文。	E III
II -344 土	3	-	胴	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	縄文後、縦位隆帯 2 条。	E II 新
II -344 土	4	-	胴	灰	白粒、小石	沈線、R L 充填縄文。	E III
II -344 土	5	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	縄文。	堀 1
II -344 土	6	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	平行沈線、充填縄文。	E III
II -346 土	1	-	口～胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。	称
II -346 土	2	-	胴	橙	白粒、小石	縄文後、沈線文。	E II
II -346 土	3	-	胴	灰白	白粒	沈線文、縄文。	E II
II -348 土	1	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	太沈線、縄文。	E III
II -349 土	1	-	口	赤褐	白粒、小石	縄文後、沈線文。	E II
II -351 土	1	-	胴	淡橙	白粒	刻みを入れた隆線で区画、区画内沈線。	E I 新
II -352 土	1	-	突起	暗赤褐	白粒、小石	上面、内面と両側面に開口する。下からも突き上げられ僅かに貫通する。	堀 1 ?
II -352 土	2	-	口	灰白	白粒、輝・角	口唇部刺突、沈線。波頂部下より刻みを入れた隆帯が垂下。胴部沈線文、縄文。	堀 1
II -353 土	1	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	隆帯、縄文。	E II
II -355 土	1	-	胴	浅黄橙	褐色粒、輝・角	縄文。	E II
II -355 土	2	-	胴	黒	白粒	隆線、縄文。	E IV
II -375 土	1	-	胴	橙	赤色粒、小石	沈線文。	称新～堀 1 古
II -376 土	1	-	口	灰白	輝・角	隆帯・沈線区画、区画内縄文。	E III
II -376 土	2	-	胴	灰白	輝・角、小石	条線文。	E II
II -378 土	1	-	胴	橙	白粒、小石	縄文後、沈線文。	E II

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
II -379 土	1	-	底	灰白	輝・角	平底、無文。	中期?
II -382 土	1	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	隆線2条。	E III
II -382 土	2	-	口	浅黄橙	白粒、小石	口唇部肥厚。口縁部太沈線。	E III~IV
II -382 土	3	-	胴	橙	輝・角	沈線文、縄文。	E III
II -383 土	1	-	口	灰褐	白粒、輝・角、粗砂	隆帯区画、区画内沈線。	E II
II -391 土	1	深鉢	口~胴	淡橙~黒褐	白粒、輝・角、小石	口縁部横位沈線。胴部櫛描文。(口28.6)	堀1
II -391 土	2	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	E IV
II -391 土	3	-	胴	灰褐	白粒、輝・角、小石	平行沈線、縄文。	E III
II -448 土	1	-	胴	暗褐	小石。	沈線文。	堀1
II -464 土	1	-	胴	暗褐	白粒、輝・角	縄文。	E II
II -465 土	1	-	口	暗褐	白粒、輝・角、小石	縄文後、隆帯・沈線による区画。	E I 新
2-750 土	1	-	胴	橙	白粒、小石	隆帯による区画、文様。	E II
2-750 土	2	-	口	鈍橙	輝・角、小石	口縁部沈線。胴部条線後、沈線文。	E II
2-750 土	3	-	胴	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	縄文後縄目押圧、隆帯貼付。	E II
2-750 土	4	-	底	赤	白粒、小石	平底、縄文。	E II
2-752 土	1	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線、刺突。	称
2-753 土	1	-	胴	灰白	白粒、輝・角	沈線	称
2-754 土	1	-	胴	灰黄褐	白粒	縄文後、沈線。	E II
2-754 土	2	-	胴	鈍橙	白粒、小石	沈線文、縄文。	称
2-754 土	3	-	胴	灰褐	白粒、輝・角	沈線文、微かに縄文。	堀2
2-755 土	1	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	縄文後、沈線。	E II
2-756 土	1	-	口	橙	赤色粒、石英、輝・角	無文。	E II~III
2-756 土	2	-	口	暗灰褐	白粒、輝・角	口唇部肥厚、無文。内面黒色。	E II~III
2-761 土	1	-	口~胴	黒褐	褐色粒、石英、小石	口縁部につまみ状突起。胴部沈線文、刺突文。	称
2-761 土	2	-	口~胴	灰黄褐	白粒、輝・角	口唇部やや内屈。胴部沈線文、縄文。	称
2-761 土	3	-	口~胴	黒褐	輝・角	口唇部内屈、刺突と連係する沈線。頸部無文、括れ部に沈線。	称
2-761 土	4	-	口	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	波状口縁、口唇部内屈。外面沈線文。	称
2-761 土	5	-	胴	灰黄褐	白粒、輝・角	沈線文、雨垂れ状刺突文。	称
2-761 土	6	-	底	黒褐	白粒、小石	平底、沈線文。(底3.8)	称
2-761 土	7	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	沈線文。	称
2-761 土	8	-	胴	灰黄褐~黒	白粒、小石	条線文。	堀1
2-761 土	9	-	胴	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	条線文。	堀1
2-761 土	10	-	胴	暗赤褐	白粒、赤色粒、輝・角	条線文。761 土6と同一個体と思われる。	堀1
2-761 土	11	-	胴	暗赤褐	白粒、赤色粒、輝・角	条線文。761 土7と同一個体と思われる。	堀1
2-761 土	12	-	下半	鈍橙	白粒、輝・角、小石	やや上げ底、縄文。(底9.6)	堀1
2-761 土	13	-	底	灰白	輝・角	平底、無文。(底9.0)	堀1?
2-768 土	1	-	口	浅黄橙	白粒、小石	波頂部に「8」字状貼付文。口縁部2条沈線間に刺突列。	称
2-768 土	2	-	胴	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	沈線文。	堀1
2-769 土	1	-	底	淡橙	白粒、輝・角、小石	無文。	中期?
2-771 土	1	-	口	灰白	白粒、輝・角、小石	無文。	E II
2-771 土	2	-	胴	橙	白粒、小石	縄文を施す隆帯、と、それに沿う沈線。	E II
2-772 土	1	-	胴	暗赤褐	白粒、石英	縄文。	E II
2-772 土	2	-	胴	鈍橙	白粒	沈線文。	E III
2-774 土	1	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	条線後、隆帯2条。	E II
2-775 土	1	-	口	鈍褐	白粒、輝・角、小石	沈線、刺突。	E I
2-775 土	2	-	胴	赤褐	小石。	擦糸文後、隆帯文。	E I
2-775 土	3	-	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	条線文。	E I
2-775 土	4	-	胴	橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	E I
2-777 土	1	-	胴	暗灰	輝・角、小石	隆帯文、縄文。	E II
2-777 土	2	-	胴	浅黄橙	石英、輝・角	沈線文、条線文。	E II
2-778 土	1	-	口~胴	淡橙~暗褐	白粒、輝・角、小石	波状口縁、波頂部に刺突。胴部は沈線「R」字状文。(口18.1)	堀1古
2-778 土	2	-	底	灰白	輝・角	平底、無文。(底10.3)	堀1
2-784 土	1	-	胴	淡橙	赤色粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。	E III
2-785 土	1	-	胴	灰黄褐	金雲母、小石	爪形文。	阿玉 I b~II
2-788 土	2	-	口	灰黄	白粒、輝・角、小石	隆帯区画、区画内沈線。	E III
2-788 土	3	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線、充填縄文。	E II
2-788 土	4	-	口	鈍橙	石英、小石	無文。	堀1
2-789 土	1	-	胴	橙	白粒、赤色粒、小石	R L横位状文。	E III

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
2-789 土	2	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	縦位沈線、充填縄文部と無文部の交互構成。	E III
2-796 土	1	-	胴	黒	白粒、輝・角	平行沈線。	称
2-796 土	2	-	胴	灰	輝・角	沈線。	称
2-796 土	3	-	胴	灰白	白粒、輝・角	沈線文、刺突文。	称
2-798 土	1	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	縄文後、隆帯2条。	E II
2-803 土	1	-	口	灰白	輝・角	波頂部下に刺突文。口唇部に沈線。胴部無文。	堀 I
2-803 土	2	-	胴	暗赤褐	白粒、輝・角、小石	隆帯の間に弧状沈線文。下は縄文。	E II
2-803 土	3	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	縦位条線文。	E III
2-803 土	4	-	胴	灰白	白粒、輝・角	4単位の条線文。	堀 I
2-806 土	1	-	口	鈍黄橙	褐色粒、輝・角	円形刺突、隆帯区画、区画内沈線。	称?
2-807 土	1	-	口	橙	白粒、赤色粒、小石	隆帯渦巻文。その下に刻みを入れた大きな隆帯。	E I
2-808 土	1	-	口	鈍赤褐	白粒	沈線を入れた隆帯区画、区画内縄文。	E II
2-815 土	1	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	蕨手状隆帯に刺突文。	称
2-819 土	1	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	縄文。	堀 I?
2-822 土	1	-	口	黒褐	輝・角、小石	無文。	堀 I?
2-826 土	1	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線、縄文。	堀 I
2-829 土	1	-	胴	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	沈線文、刺突文。	称新
2-831 土	1	-	胴	橙	輝・角、小石	条線文。	E III
2-831 土	2	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文。	E III
2-834 土	1	-	口	灰黄	輝・角	沈線、刺突。	阿玉
2-840 土	1	-	口	灰褐	白粒、輝・角	沈線文。	E II
2-843 土	1	-	胴	鈍黄橙	白粒、小石	沈線文、縄文。	E II
2-844 土	1	-	底	鈍橙	白粒、小石	沈線文。	E II
2-845 土	1	-	底	橙	褐色粒、輝・角	平底、無文。	後期
2-845 土	2	-	口	鈍橙	輝・角、小石	口唇部やや肥厚。口縁部沈線。	称
2-849 土	1	-	胴	黒	赤色粒、輝・角、小石	沈線文。849 土 3 と同一個体と思われる。	堀 I
2-849 土	2	-	胴	橙	褐色粒、小石	沈線文。	堀 I
2-849 土	3	-	胴	灰黄褐	白粒、輝・角	縄文後、沈線文。	堀 I
2-849 土	4	-	胴	鈍橙～黒	赤色粒、輝・角、小石	沈線文。849 土 2 と同一個体と思われる。	堀 I
2-851 土	1	深鉢	口～胴	橙～暗褐	輝・角、小石	沈線文、刺突列文。(口 25.1)	称
2-851 土	2	深鉢	上半	暗灰黄	輝・角	1カ所突起。口唇部稜有り、一部沈線。胴部沈線文。(口 14.2)	称
2-851 土	3	-	底	鈍橙	白粒、輝・角	平底、無文。底面に網代痕あり。(底 7.1)	称
3-4 土	1	深鉢	口～胴	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	口縁部に突起。	
3-10 土	1	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文。	称?
3-15 土	1	壺?	口～胴	鈍橙	輝・角、小石	口縁部は横位隆線。胴部は微隆起線の渦巻文。(口 13.7)	
5-25 土	1	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口唇部肥厚、無文帯。隆線文、充填縄文。	E III
5-25 土	2	-	口	黒褐	白粒、輝・角	波状口縁か。沈線、充填縄文。口唇部に稜線。	E III
5-25 土	3	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	隆線による「U」字状文、充填縄文。	E III
5-25 土	4	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	隆線文、充填縄文。	E III
5-25 土	5	-	胴	浅黄橙	白粒、黒雲母、輝・角	4～5条単位の条線。	E III
5-25 土	6	-	底	浅黄橙	輝・角、小石	無文。	E III?
5-25 土	7	-	底	灰黄	白粒、黒雲母、輝・角	縦位削り、無文。稜は摩耗。内面は横位撫で。(底 7.1)	E III
5-27 土	1	-	胴	灰黄	白粒、黒雲母、輝・角	隆帯。縄文部と磨消部の交互構成か。2 と同一個体と思われる。	E III
5-27 土	2	-	胴	灰黄	白粒、黒雲母、輝・角	縄文部は R L 横位施文。1 と同一個体と思われる。	E III
5-33 土	1	-	胴	黒	白粒、輝・角	単節 R L 縄文。	称?
5-34 土	1	-	胴	鈍褐	白粒、輝・角、小石	沈線、L R 磨消縄文。	称
5-34 土	2	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線による「V」字、「n」字の2帯構成。充填縄文。	称
5-67 土	1	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線、R L 充填縄文。	E III
5-68 土	1	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	R L 縄文。微隆帯の両脇は丁寧な撫でられる。	E III
5-68 土	2	-	胴	暗灰	黒雲母、輝・角	3条程度の櫛歯状工具を用いた条線。	E III
5-73 土	1	-	口	黄橙	白粒、黒雲母、輝・角	波状口縁、橋状突起。沈線、磨消縄文。	E IV～ 称
5-100 土	1	-	胴	浅黄橙	黒雲母、輝・角	沈線による横長の区画。磨消縄文。	E III
5-100 土	2	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	微隆起線、磨消縄文。内面一部黒色。3 と同一個体か。	E III
5-100 土	3	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	微隆起線、両脇は丁寧な撫で。磨消縄文。内面黒色。	E III

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
5-100 土	4	-	胴	暗灰	白粒、黒雲母、輝・角	沈線、R L 磨消縄文。	E IV ~ 称
5-100 土	5	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	微隆起線による2帯構成の文様。磨消縄文。	E IV
V-146 土	1	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文。充填縄文部と無文部の交互構成。	E III
V-146 土	2	-	胴	淡橙	石英、輝・角	沈線文。充填縄文。3と同一個体と思われる。	E III
V-146 土	3	-	胴	淡橙	石英、輝・角	沈線文。充填縄文。2と同一個体と思われる。	E III
V-146 土	4	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文。充填縄文。	E III
V-179 土	1	-	底	橙	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。平底。内面は黒褐色。(底6.6)	E III
V-199 土	1	-	注口部	灰	白粒、輝・角	無文。先細り。煤付着。	
I -G	1	-	口	暗灰褐	金雲母、小石	沈線文、連続刺突文。	阿玉 II
I -G	2	-	口	赤褐	輝・角、小石	無文。口唇部上面および内面研磨。	阿玉 II 併
I -G	3	-	胴	暗灰黄	金雲母、小石	隆線文、細沈線文。	阿玉 II 併
I -G	4	-	口	鈍橙	金雲母	隆帯区画、区画内沈線。充填縄文。	阿玉 IV
I -G	5	-	口~胴	橙	白粒、輝・角、小石	口縁部沈線文、刺突文。胴部燃糸文。	E I
I -G	6	-	口~頸	鈍黄橙	輝・角、小石	口縁部は隆帯と沈線が入り交じる文様構成。頸部は無文。	E I ?
I -G	7	-	口	赤褐	輝・角、小石	沈線渦巻文等を施す環状貼付文。口縁部は沈線文、胴部は燃糸文か。	E I
I -G	8	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	隆帯区画、渦巻文。区画内沈線。内面黒色。	E I 新
I -G	9	-	突起	灰黄褐	白粒	上面に沈線渦巻文。正面にも隆帯・沈線で渦巻文、区画文。区画内縄文。	E I
I -G	10	-	胴	橙	赤色粒、輝・角	燃糸文地文。沈線文。	E I
I -G	11	-	胴	橙	輝・角、小石	燃糸文。	E I ~ II
I -G	12	-	胴	橙	輝・角、小石	燃糸文。	E I ~ II
I -G	13	-	胴	赤褐	小石	縄文、隆帯貼付。破片下部に横位沈線。	E I ~ II
I -G	14	-	口	灰褐	白粒、輝・角	隆帯・平行沈線下刺突文列。	E II
I -G	15	-	口	暗灰褐	白粒、輝・角	隆帯・平行沈線下刺突文列。	E II
I -G	16	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線文。	E II
I -G	17	-	胴	暗灰黄	輝・角	隆帯文。	E II
I -G	18	-	胴	橙	赤色粒、輝・角、小石	刻みを入れた隆帯文。間を沈線で埋める。	E II
I -G	19	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	条線地文、隆線文。内面黒色。	E II
I -G	20	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線文、燃糸文。	E II
I -G	21	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	縄文、沈線文。	E II
I -G	22	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	条線文、沈線文。	E II
I -G	23	-	口	淡橙	白粒、輝・角	隆帯区画、瘤状突起。沈線渦巻文、刺突列。	E II
I -G	24	-	胴	鈍黄橙	輝・角	隆帯文、縄文。	E II
I -G	25	-	口	灰褐	白粒、輝・角	波状口縁。条線地文、沈線文。	E II
I -G	26	-	胴	鈍橙~黒褐	白粒、輝・角、金雲母	条線文。沈線文、刺突文。	E II
I -G	27	-	底	鈍橙	輝・角	平底、無文。	E II ~ III
I -G	28	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	波頂部に渦巻文、刺突文。充填縄文。	E III
I -G	29	-	口	橙	白粒、赤色粒、小石	隆帯区画・沈線文。区画内充填縄文。	E III
I -G	30	-	口	暗灰黄	輝・角	突起部内面太沈線。口縁部隆帯、沈線区画。区画内縄文。	E III
I -G	31	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線区画、充填縄文。	E III
I -G	32	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口縁部沈線、刺突文。以下平行沈線、磨消縄文。	E III
I -G	33	-	口	浅黄橙	輝・角	隆帯・沈線区画。区画内磨消縄文。	E III
I -G	34	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	E III
I -G	35	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	口唇部稜有り。条線文、沈線。	E III
I -G	36	-	胴	鈍黄橙	赤色粒、輝・角	沈線区画、刺突文。区画内縄文。蕨手状沈線文。	E III
I -G	37	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	沈線区画、隆帯渦巻文。充填縄文。	E III
I -G	38	-	胴	鈍橙	輝・角	隆帯・沈線下縄文。	E III
I -G	39	-	胴	暗灰	白粒、輝・角	微隆線、充填縄文。	E III
I -G	40	-	胴	鈍橙	輝・角	隆帯文、充填縄文。	E III
I -G	41	-	胴	鈍橙	白粒、石英、小石	平行沈線、R L 充填縄文。	E III
I -G	42	-	胴	鈍橙	白粒、石英、小石	平行沈線、R L 充填縄文。	E III
I -G	43	-	胴	灰黄	輝・角、小石	平行沈線、充填縄文。	E III
I -G	44	-	胴	黒灰	白粒、輝・角、小石	沈線、R L 充填縄文。	E III

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
I-G	45	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	平行沈線、縄文。	E III
I-G	46	-	胴	黒褐	輝・角	沈線文、充填縄文。	E III
I-G	47	-	胴	浅黄橙	白粒、黒雲母	平行沈線、磨消縄文。	E III
I-G	48	-	胴	淡橙	輝・角	沈線、充填縄文。	E III
I-G	49	-	底	橙	白粒、輝・角	やや丸みを帯びた平底、無文。(底 6.6)	E III~IV
I-G	50	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	条線文、沈線文。	E III
I-G	51	-	口	橙	赤色粒、小石	口縁部横位隆線。胴部平行弧状隆線文。充填縄文。	E IV
I-G	52	-	口	淡橙	石英、輝・角	口縁部無文帯。横位隆線の一部に瘤状の突起。隆線下は縄文。	E IV
I-G	53	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文、充填縄文。	E IV
I-G	54	-	口	浅黄橙	輝・角	隆帯文、縄文。	E IV
I-G	55	-	口	浅黄橙~黒	白粒、輝・角	口唇部やや内側に突出、無文。内面黒色。	称
I-G	56	-	底	橙	白粒、輝・角	やや上げ底、縄文。(底 9.8)	中期後
I-G	57	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角	やや上げ底、無文。(底 8.6)	中期後
I-G	58	-	底	浅黄橙	輝・角、小石	平底、無文。(底 7.2)	E IV~称
I-G	59	-	底	鈍橙	白粒、小石	無文。	E IV~称
I-G	60	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	隆線垂下。	E IV~称
I-G	61	-	口	淡橙	輝・角	口縁部無文帯。横位隆線の一部に瘤状の突起。隆線下は条線文。	称
I-G	62	-	口	暗灰褐	輝・角、小石	微隆線。	E IV~称
I-G	63	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文、刺突文。	称
I-G	64	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線間刺突。	称
I-G	65	-	口	浅黄橙	輝・角	口唇部尖る。沈線文。	称
I-G	66	-	口	浅黄橙	輝・角	口唇部尖る。沈線文。	称
I-G	67	-	口	浅黄橙	輝・角	波状口縁、口唇部内側突出。外面沈線、縄文。	称
I-G	68	-	口	浅黄橙	輝・角	沈線、沈線波線。	称
I-G	69	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、刺突文。	称
I-G	70	-	口	灰黄褐	輝・角	口唇部やや肥厚。沈線間2段刺突。71と同一個体と思われる。	称
I-G	71	-	口	黄褐	輝・角	口唇部やや肥厚。沈線間2段刺突。胴部沈線垂下、縄文。70と同一個体か。	称
I-G	72	-	口	灰褐	輝・角	口唇部稜有り。無文。	称
I-G	73	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	口唇部やや内屈。沈線文、沈線間縄文。	称
I-G	74	-	口	橙	白粒、輝・角	口唇部内屈。括れ部に沈線。	称?
I-G	75	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	円形隆帯文、沈線、刺突。	称
I-G	76	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口縁部内屈。微かに沈線文。	称
I-G	77	-	口	黒褐	輝・角	口唇部やや内屈。沈線文、縄文部と無文部の交互構成。	称
I-G	78	-	口	浅黄橙	輝・角	沈線区画文、区画内刺突。	称
I-G	79	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	円形隆帯文、沈線、刺突。75と同一個体か。	称
I-G	80	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	沈線間3段刺突。	称
I-G	81	-	突起	浅黄橙	輝・角	外面無文。内面に2つの円形刺突。	称
I-G	82	-	口	灰褐	輝・角	波頂部上面に穿孔、口唇部は刺突・沈線。胴部沈線文。	称
I-G	83	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文、刺突文。	称新
I-G	84	-	口	淡橙	赤色粒、輝・角、石英	沈線文、刺突文。	称新
I-G	85	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線弧線文。	称
I-G	86	-	胴	黒褐	輝・角	沈線文。充填縄文。	称
I-G	87	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	沈線文。縄文部と無文部の交互構成。	称
I-G	88	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線文、充填縄文。	称
I-G	89	-	胴	鈍橙	石英、輝・角、小石	沈線文、刺突文。	称
I-G	90	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角	沈線間刺突。	称
I-G	91	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線間刺突。	称
I-G	92	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角	沈線文、刺突文。	称
I-G	93	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線文。一部煤付着。	称
I-G	94	-	胴	灰黄	輝・角	横位、縦位、「八」形沈線文。	称
I-G	95	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線文。	称
I-G	96	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文。	称

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
I -G	97	-	胴	浅黄橙	輝・角、黒雲母、小石	沈線「J」字状文。	称
I -G	98	-	胴	灰黄	輝・角、小石	沈線文、条線。	称
I -G	99	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角	沈線弧線文。	称
I -G	100	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角	沈線文。	称
I -G	101	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線文。	称新
I -G	102	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線波状文か。一部煤付着。	称新
I -G	103	注口	把手	暗褐	輝・角、小石	刺突、沈線を施した橋状把手。注口部分は完形。胴部は刻みを入れた隆帯文。	称
I -G	104	-	底	鈍橙	白粒、輝・角、粗砂	平底、無文。(底 7.5)	称~堀 1古
I -G	105	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	平底、無文。(底 9.6)	称~堀 1
I -G	106	-	口	灰黄	輝・角、小石	口縁部内屈、稜有り。沈線文。	堀1古
I -G	107	-	口	淡橙	輝・角	沈線文。110と同一個体か。	堀1古
I -G	108	-	胴	灰黄	輝・角、小石	沈線文。	堀1古
I -G	109	-	胴	灰黄	輝・角、小石	一部に条線文。	堀1古
I -G	110	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線文。107と同一個体か。	堀1古
I -G	111	-	胴	浅黄橙	赤色粒、輝・角	小突起貼付。沈線渦巻文、縄文。	堀1古
I -G	112	-	口	鈍橙	輝・角、小石	沈線文。「8」字状?貼付文の痕跡有り。	堀1古
I -G	113	-	胴	鈍橙	輝・角	微隆帯区画、区画内研磨。円形刺突。	堀1古
I -G	114	-	口	灰黄	輝・角	沈線文。	堀1
I -G	115	-	口	浅黄橙	赤色粒、輝・角	口唇部に沈線。	堀1
I -G	116	-	口	灰黄	白粒、輝・角、小石	口唇部に沈線。118と同一個体と思われる。	堀1
I -G	117	-	口	浅黄橙	輝・角	沈線。	堀1
I -G	118	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	口唇部に沈線。116と同一個体と思われる。	堀1
I -G	119	-	口	黒褐	白粒、黒雲母、小石	縄文。沈線文。	堀1
I -G	120	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口縁部沈線。	堀1
I -G	121	-	口	灰黄	輝・角	口縁部太沈線、胴部縄文。	堀1
I -G	122	-	口	暗褐	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	堀1
I -G	123	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	波状口縁。縄文地文、沈線文、刺突文。	堀1
I -G	124	-	口	橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、縄文。	堀1
I -G	125	-	突起~胴	灰白	白粒、輝・角	捻った粘土紐をブリッジ状に貼付した突起。口縁部刺突・沈線。胴部縄文後、隆線文。	堀1
I -G	126	-	口	灰黄	輝・角	波状口縁。沈線文、磨消縄文。	堀1
I -G	127	-	口	鈍黄橙	赤色粒、輝・角	沈線文。	堀1
I -G	128	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	口唇部肥厚、円形刺突列。	堀1
I -G	129	-	口	鈍橙	輝・角、小石	口縁部に3点刺突、沈線。	堀1
I -G	130	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	口唇部稜有り。括れ部に沈線。	堀1
I -G	131	-	口	鈍橙	白粒、小石	口唇部刺突文。胴部沈線文。	堀1
I -G	132	-	口	黄褐	石英、輝・角、小石	横位沈線、縦位条線文。	堀1
I -G	133	-	口	灰褐	白粒、輝・角一	口縁内屈、口唇上部に沈線。	堀1
I -G	134	-	口	鈍黄橙	輝・角	口縁部内屈。「8」字状貼付文2列。	堀1
I -G	135	-	口	灰褐	白粒、輝・角	無文。	堀1
I -G	136	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線弧線文、刺突文。	堀1?
I -G	137	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	強い横撫で。	堀1
I -G	138	-	胴	橙	白粒、石英、小石	刺突を入れた隆帯が垂下。沈線で模様を描出。	堀1
I -G	139	深鉢	下半分	灰白	白粒、輝・角	沈線文、微かに縄文。(底 14.4)	堀1
I -G	140	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	8字状貼付文から隆線が垂下。横に沈線2条。	堀1?
I -G	141	-	胴	鈍黄橙	輝・角、黒雲母、小石	括れ部以下は沈線文。上部は刺突を入れた隆帯文。	堀1
I -G	142	-	口~胴	灰黄	白粒、輝・角、小石	「V」字状隆線文、貼付文。沈線文。	堀1
I -G	143	深鉢	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	4本沈線での横位区画、縦位弧線文。縄文。	堀1
I -G	144	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	「8」字状貼付文。沈線文。	堀1
I -G	145	-	胴	浅黄橙~黒褐	白粒、輝・角、小石	沈線文。	堀1
I -G	146	-	胴	灰黄	白粒、輝・角、小石	「8」字状貼付文。沈線文。	堀1
I -G	147	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。微かに縄文らしき痕跡見られる。	堀1
I -G	148	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	「8」字状貼付文。沈線文、充填縄文。	堀1
I -G	149	-	胴	灰黄	白粒、輝・角、	沈線文、刺突文。縄文。	堀1
I -G	150	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文。126、114と同一個体か。	堀1
I -G	151	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角	微かに条線文。	堀1
I -G	152	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	縄文、沈線。	堀1
I -G	153	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	集合沈線。	堀1
I -G	154	-	胴	灰黄	輝・角	条線文。	堀1
I -G	155	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。	堀1

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
I-G	156	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	条線文。	堀1
I-G	157	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文。	堀1
I-G	158	-	口	暗褐	白粒、輝・角	沈線文。充填縄文。	堀1
I-G	159	-	底	浅黄橙	輝・角、小石	平底、無文。底面に網代痕あり。(底7.0)	堀1
I-G	160	-	底	鈍橙	輝・角、小石	平底、条線。底面研磨。(底7.0)	堀1
I-G	161	-	口	橙	白粒、小石	沈線幾何学文。縄文部と無文部の交互構成。	堀2
I-G	162	-	口～胴	灰褐	輝・角、小石	波状口縁、横位に沈線、微隆帯、沈線2条。「8」 字状貼付文から微隆帯が真下と弧状に、瘤状 小突起から平行沈線波状文も垂下。	堀2?
I-G	163	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文、縄文部と無文部の交互構成。	堀2
I-G	164	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	沈線幾何学文、充填縄文。	堀2
I-G	165	-	口	暗灰黄	輝・角	沈線幾何学文、充填縄文。	堀2
I-G	166	-	口	黒褐	輝・角	口唇部内側沈線。細沈線文、縄文部と無文部 の交互構成。	堀2
I-G	167	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	口唇部内屈、上面に円形刺突列。補修孔有り。	堀2
I-G	168	-	胴	灰黄	輝・角	細沈線幾何学文。縄文。	堀2
I-G	169	-	胴	暗灰褐	白粒、輝・角	沈線文。微かに縄文らしき痕跡見られる。	堀2
I-G	170	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	刺突を入れた隆帯。鎖状隆帯。縦位隆帯。	堀
I-G	171	-	胴	鈍橙	白粒、小石	擦糸文地文。沈線文。	E I
I-G	172	-	胴	赤褐	白粒、小石	刺突列のある隆帯文、沈線文。	E I
I-G	173	-	胴	黒	白粒、輝・角	刺突列。沈線区画、区画内沈線。	E II
I-G	174	-	底	鈍橙	白粒、輝・角、小石	平底。平行隆帯、沈線、磨消縄文。	E II
I-G	175	-	胴	赤褐	白粒、輝・角	擦糸文。	E I
I-G	176	-	口	灰黄	輝・角	波頂部内側太沈線。隆帯・沈線による渦巻文、 充填縄文。	E III
I-G	177	-	口	灰黄	輝・角	波頂部内側太沈線。隆帯・沈線による渦巻文、 充填縄文。	E III
I-G	178	-	口	淡橙	輝・角、小石	縄文、沈線区画。	E III
I-G	179	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角	縦位沈線、充填縄文。その後蔵手状沈線文。	E III
I-G	180	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線区画、充填縄文。蔵手状沈線文。	E III
I-G	181	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角	縦位沈線、充填縄文。その後蔵手状沈線文。	E III
I-G	182	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	垂直沈線、充填縄文。波状沈線。	E III
I-G	183	-	胴	黒褐	白粒、輝・角	沈線、充填縄文。	E III
I-G	184	-	胴	灰黄	輝・角	微隆起線、条線。	E III
I-G	185	-	胴	鈍黄橙	輝・角	隆帯文、充填縄文。	E III
I-G	186	-	胴	黒褐	白粒、輝・角	隆線文、充填縄文。	E IV
I-G	187	-	胴	黒	白粒、輝・角	上微隆帯、下沈線。充填縄文。	E IV
I-G	188	-	底	灰黄	輝・角	平底、無文。	E IV～ 称?
I-G	189	-	口～胴	灰黄	輝・角	隆起線文、凹みのある円形貼付文。縄文。	E IV～ 称
I-G	190	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	横位、縦位隆帯文。	E IV～ 称
I-G	191	-	口	鈍橙	輝・角、小石	沈線文、刺突文。	称
I-G	192	-	突起	浅黄橙	小石	頂部内向きに環状貼付文。頂部から刺突を入 れた隆帯が垂下、両側に沈線文、刺突文、縄文。	称
I-G	193	-	胴	黒	石英、輝・角	沈線文、充填縄文。	E IV～ 称
I-G	194	-	口	灰黄	石英、輝・角、小石	口唇部肥厚。沈線文、縄文。	称
I-G	195	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口唇部稜有り。沈線文、縄文。	称
I-G	196	-	口	暗褐	輝・角	口唇部内屈。沈線文、充填縄文。	称
I-G	197	-	口	灰褐	白粒、輝・角	沈線文、刺突文。	称
I-G	198	-	口	灰黄	輝・角	沈線文、刺突文。	称
I-G	199	-	口	橙	橙色粒、輝・角	沈線文。	称
I-G	200	-	突起	暗灰黄	白粒、輝・角	突起部先端は破損。口唇部内屈。沈線文。	称
I-G	201	-	突起	暗灰褐	白粒、輝・角	波状口縁、口唇部内屈。波頂部突起に穿孔。 外面沈線文、刺突文。	称
I-G	202	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	称
I-G	203	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	称
I-G	204	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	称
I-G	205	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。充填縄文部と無文部の交互構成。	称
I-G	206	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角	沈線文、刺突文。	称
I-G	207	-	胴	灰黄	白粒、輝・角、小石	沈線文、刺突文。	称
I-G	208	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。	称

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
1-G	209	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文、刺突文。	称
1-G	210	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文、刺突文。	称
1-G	211	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文。	称
1-G	212	-	胴	暗灰黄	輝・角	沈線文、刺突文。	称
1-G	213	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線文、刺突文。	称
1-G	214	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、刺突文。	称
1-G	215	-	胴	灰黄	白粒、黒粒、小石	沈線文。	称
1-G	216	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線文、刺突文。	称
1-G	217	-	胴	橙	赤色粒、輝・角、小石	沈線文。	称
1-G	218	-	胴	暗灰黄	輝・角	沈線文。	称
1-G	219	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文。	称
1-G	220	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線文。	称
1-G	221	-	口	鈍黄橙～暗灰	輝・角、小石	隆帯区画、中央に円。刺突文、沈線文。	称
1-G	222	-	底	鈍黄橙	白粒、輝・角	平底。刻みを入れた隆帯文。	称?
1-G	223	-	口～胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	刺突・沈線を施す2段の橋状把手。胴部は沈線文。	称
1-G	224	-	口	灰黄	金雲母、輝・角、小石	沈線文。	称新
1-G	225	-	口	灰褐	輝・角	口唇部稜有り。沈線文。	称新
1-G	226	-	胴	暗灰褐	輝・角、小石	沈線文。	称新
1-G	227	-	口	鈍黄橙	輝・角	沈線文。	堀1古
1-G	228	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。	堀1古
1-G	229	-	口～胴	暗灰黄	白粒、輝・角、小石	無文。(口29.6)	堀1古
1-G	230	-	口	灰黄	輝・角	沈線文、充填縄文。	堀1
1-G	231	-	口	淡橙	輝・角、小石	沈線、充填縄文。	堀1
1-G	232	-	口	浅黄橙	輝・角	沈線、条線。	堀1
1-G	233	-	把手	灰黄	石英、輝・角	把手部双頂、横から刺突。口唇部幅広、沈線。胴部は隆帯文。	堀1
1-G	234	-	口	鈍橙	輝・角	口唇部内屈。沈線文。	堀1
1-G	235	-	口	浅黄橙	輝・角	口縁部やや肥厚。沈線、条線。(口13.5)	堀1
1-G	236	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部に円形刺突。沈線で区画。	堀1
1-G	237	-	口	暗赤褐	白粒、輝・角	波頂部下に刺突、沈線文。頸部に隆帯垂下。括れ部に沈線。	堀1
1-G	238	-	胴	灰黄	石英、輝・角	括れ部に沈線、貼付文。以下は沈線文。上部は刺突を入れた隆帯文。	堀1
1-G	239	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文。	堀1
1-G	240	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文。	堀1
1-G	241	-	胴	淡橙	白粒、小石	沈線文、充填縄文。	堀1
1-G	242	-	胴	灰黄	輝・角	沈線文。	堀1
1-G	243	-	胴	浅黄橙	輝・角	条線文。	堀1
1-G	244	-	胴	黒	白粒、輝・角	条線文。	堀1
1-G	245	-	胴	鈍橙	輝・角	条線文、沈線。	堀1
1-G	246	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	沈線文。	堀1
1-G	247	-	胴	鈍橙	輝・角	円形刺突のある隆帯。条線文。	堀1
1-G	248	-	胴	橙	輝・角	沈線文。	堀1
1-G	249	-	胴	黒	白粒、輝・角	沈線文。	堀1
1-G	250	鉢	口～底	灰黄	輝・角	平底、強い撫で。2/3残存。(口12.4、底8.9、高8.1)	堀1
1-G	251	-	胴	灰黄	輝・角	沈線文。	堀1
1-G	252	-	胴	暗灰褐	輝・角	沈線文。	堀1
1-G	253	-	胴	灰黄	輝・角	沈線文、充填縄文。	堀1新
1-G	254	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	沈線幾何学文、充填縄文。	堀1新
1-G	255	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	堀1新
1-G	256	-	底	橙	白粒、輝・角、小石	平底、無文。底面に網代痕あり。(底19.9)	堀1新
1-G	257	-	胴～底	淡橙	輝・角、小石	無文。(底12.1)	堀1新
1-G	258	-	口	淡橙	白粒、黒雲母、小石	口縁部に刻みを持つ隆帯。沈線幾何学文、充填縄文。	堀2
1-G	259	-	口	黒褐	輝・角	沈線幾何学文、充填縄文。内外面に煤付着。	堀2
1-G	260	-	口	鈍橙	輝・角、小石	口唇部刻みを入れた隆帯。平行沈線、充填縄文。	堀2
1-G	261	-	胴	黒褐	輝・角	沈線文。	堀2
1-G	262	-	胴	黒褐	輝・角	沈線文、充填縄文。	堀2
1-G	263	-	底	鈍橙	白粒、輝・角	平底。底面に網代痕あり。	
II-G	264	-	胴	鈍橙	輝・角	「C」字状刺突を入れた隆帯、沈線文。縄文。	勝坂2
II-G	265	-	口	鈍橙	金雲母、小石	口唇部に沈線の平行線と渦巻文。ともに上面に刻み、側面に刺突文を有する。	勝坂3

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
II-G	266	-	胴	鈍橙	金雲母、小石	上面に刻み、中段に竹筥刺突を入れた環状隆帯文。	阿I b
II-G	267	-	胴	鈍黄橙	金雲母、小石	刺突文。	阿I b
II-G	268	-	口	黒褐	金雲母、小石	押圧で刻む鱗状突起。突起の左側は細かい刺突で方形に区画。	阿I b
II-G	269	-	口	暗褐	白粒、金雲母	隆帯区画、区画内二重刺突文列、沈線。	阿玉II
II-G	270	-	口	赤褐	金雲母、小石	波状口縁。口縁部連続刺突文、隆線。胴部原体押圧によると見られる重弧状文。	阿玉II
II-G	271	-	胴	黒褐	金雲母、小石	隆線文。	阿玉II
II-G	272	-	胴	鈍黄橙	褐色粒、金雲母、小石	横位隆線以下、横位沈線、縄文。	阿玉IV
II-G	273	-	胴	橙	白粒、輝・角	隆帯区画、区画内沈線。	中期中
II-G	274	-	胴	鈍橙	輝・角	沈線文。	中期中
II-G	275	-	胴	橙	輝・角	刺突文列。微かに縄文。	中期中
II-G	276	-	胴	赤褐	白粒、小石	縄文、隆帯文。隆帯脇に鱗状の刺突文が沿う。(七郎内II群)	中期中
II-G	277	-	胴	橙	白粒、輝・角	2条1組の沈線文。	E I 古
II-G	278	-	口	鈍赤褐	輝・角、小石、粗砂	横位沈線。沈線間を交互刺突で波状文描く。	E I 古
II-G	279	-	胴	橙	輝・角、小石	隆帯区画。区画内沈線文。下の隆線下縄文。	E I 古
II-G	280	-	突起	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、橋状突起。波頂部内面から穿孔。	E I
II-G	281	-	把手	淡橙	白粒、輝・角、小石	刻みを入れた橋状把手。上面に渦巻文。口縁部は沈線文、刺突文。	E I
II-G	282	-	突起	橙	白粒、輝・角、小石	右側は沈線渦巻文、左側は短沈線、刺突。	E I
II-G	283	-	口	暗赤褐	輝・角、小石	「∩」字状隆帯。沈線と刺突で蕨手状文や波状文を描出。	E I
II-G	284	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	隆帯。	E I
II-G	285	-	口	鈍橙	白粒、赤色粒、輝・角	沈線3条。上位幅広の沈線間では斜めの刺突を交互に入れる。	E I
II-G	286	-	胴	橙	輝・角	隆帯、沈線による文様。	E I
II-G	287	-	胴	灰黄	輝・角、小石	括れ部沈線間刺突文。胴部沈線文。	E I
II-G	288	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	渦巻文等の沈線文。	E I 新
II-G	289	-	突起	鈍橙	小石	波頂部外面に環状貼付文、その下にとぐろ状の隆起。内屈する口唇部に太沈線。	E I 新?
II-G	290	-	口	橙	輝・角、小石、粗砂	沈線区画。鐮状突出部は押圧により波形を呈する。	E I 新
II-G	291	-	口	赤褐	白粒、輝・角	一部に刻みを入れた隆帯と沈線による文様構成。内側に鐮状の隆線。	E I 新
II-G	292	-	口	橙	輝・角、小石	大きく広がる口唇部上面に隆帯区画。縁は刻み状押圧。597と同一個体か。	E I 新
II-G	293	-	口	暗赤褐	石英、輝・角、小石	縄文、隆帯、沈線文。	E I 新
II-G	294	-	胴	橙	赤色粒、輝・角、小石	横位および「V」字状の隆帯区画。区画内沈線文。区画下縄文。橋状突起基部。	E I 新 ~II 古
II-G	295	-	胴	鈍黄橙	輝・角	刺突文、隆帯区画、沈線文。	E I ~ II
II-G	296	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口縁部横位沈線内を交互刺突した波状文。胴部縄文上に沈線波状文。	E II 古
II-G	297	-	口	橙	白粒、赤色隆、小石	1対の沈線渦巻文。破片左下に小円形刺突列。	E II 古
II-G	298	-	口	浅黄橙	石英、輝・角、小石	隆帯・沈線で区画、渦巻文。区画内縄文。	E II 古
II-G	299	-	口	浅黄橙	輝・角	口縁部隆帯区画、沈線文、刺突。胴部微かに縄文か条線文か。	E II 古
II-G	300	-	口	暗褐	白粒、輝・角	沈線を入れた隆帯で文様を構成。	E II 古
II-G	301	深鉢	上半	鈍橙	白粒、輝・角	口縁部隆帯区画、渦巻文。胴部沈線「II」字状文、磨消縄文。(口21.2)	E II
II-G	302	-	突起	明赤褐	白粒、輝・角、小石	突起部、口縁部は隆帯・沈線による区画、渦巻文。区画内、胴部充填縄文。	E II
II-G	303	-	突起	橙	石英、小石、粗砂	突起部正面と正面に渦巻文。隆帯区画の下、胴部縄文。	E II
II-G	304	-	突起	鈍橙	白粒、輝・角	隆帯・沈線による区画、文様。区画内沈線。	E II
II-G	305	-	口	鈍橙	輝・角、小石	隆帯・沈線による区画、文様。区画内縄文。	E II
II-G	306	-	口	極暗赤褐	白粒、輝・角、小石	隆帯区画、文様。区画内沈線。	E II
II-G	307	-	口	鈍橙	白粒、褐色粒、粗砂	瘤状突起有り。隆帯・沈線区画、区画内刺突。胴部縄文。	E II

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
II-G	308	-	口	暗赤褐	白粒、輝・角、小石	口縁部隆帯・沈線による区画、文様。区画内縄文。胴部無文。	E II
II-G	309	-	口	暗褐	白粒、輝・角	隆帯・沈線区画、区画内充填縄文。	E II
II-G	310	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	隆帯区画、区画内および胴部は縄文。	E II
II-G	311	-	口	灰褐	輝・角、小石	隆帯・沈線で区画、渦巻文。区画内および胴部縄文。	E II
II-G	312	-	口	赤褐	白粒、輝・角	波状口縁。隆帯区画、区画内沈線。	E II
II-G	313	-	口～胴	鈍黄橙	輝・角、小石、粗砂	縄文、横位沈線。	E II
II-G	314	-	口	橙	白粒、輝・角、小石	縄文。平行沈線。	E II
II-G	315	-	口	鈍橙	輝・角、黒雲母、小石	縄文、沈線文。	E II
II-G	316	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	縄文、沈線文。	E II
II-G	317	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口唇部稜有り。横位沈線文、縦位条線文。括れ部に沈線。	E II
II-G	318	-	口	浅黄橙	輝・角	平行沈線、捺糸文。	E II
II-G	319	-	口	灰黄	輝・角、小石	沈線文、刺突文。	E II
II-G	320	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	縦縞状の沈線文。破片上辺に横位沈線痕。	E II併
II-G	321	-	口	鈍赤褐	輝・角、小石	波状口縁。沈線区画、縄文。	E II
II-G	322	-	口	橙	輝・角、小石	口縁部沈線間に竹管状刺突列。頸部状文。括れ部沈線波状文、貼付文痕有り。(口15.0)	E II
II-G	323	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	口唇部肥厚。口縁部区画、区画内とも沈線。	E II
II-G	324	-	把手?	暗灰褐	白粒、輝・角	沈線文。破片右側に径2cmほどの丁寧な穿孔。内面は雫。	E II
II-G	325	-	突起	灰褐	白粒、輝・角	突起部上向き蕨手状文。胴部縄文、平行隆帯、突起部下沈線「し」字状文。	E II
II-G	326	-	口	黒灰	輝・角、小石	隆帯文、沈線文。	E II
II-G	327	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	一部刺突を入れる隆帯区画。区画内沈線文。	E II
II-G	328	-	口	淡橙	輝・角、小石	隆帯区画、渦巻文。区画内沈線、縄文。	E II
II-G	329	-	口	暗赤褐	石英、輝・角	隆帯・沈線で区画、渦巻文。区画内沈線。胴部条線文。	E II
II-G	330	-	口	黒褐	白粒、輝・角、粗砂	鎖状隆帯、沈線。	E II
II-G	331	-	口	浅黄橙	白粒、小石	隆帯区画、文様。	E II
II-G	332	-	突起	鈍赤褐	輝・角、小石、粗砂	瘤状の突起。沈線を入れた隆帯で区画、区画内沈線。	E II
II-G	333	-	突起	橙	白粒、石英、小石	口唇部上面に沈線。口縁部沈線区画、区画内縄文。	E II
II-G	334	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	隆帯・沈線による区画、区画内縄文、沈線。区画間に上面に渦巻文を施す突起。	E II
II-G	335	-	口	淡橙	白粒、輝・角	緩い波状口縁、波頂部に刺突。胴部は縄文、沈線連弧文。	E II
II-G	336	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	波頂部外面に隆帯渦巻文。渦巻内に沈線文。口唇部沈線が波頂部上面で渦巻文。	E II
II-G	337	-	口	黄褐	白粒、小石	隆帯・沈線による区画、区画内縄文。	E II
II-G	338	-	把手	橙	輝・角、小石	沈線を施す隆帯区画から繋がる橋状突起。区画内刺突列。把手正面に貫通孔。	E II?
II-G	339	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	隆帯、沈線。その下に縄文。	E II
II-G	340	-	胴	赤褐	白粒、輝・角	条線文。沈線文。	E II
II-G	341	-	胴	橙	褐色粒、輝・角、小石	平行隆帯の下に縄文、その下に沈線。	E II
II-G	342	-	胴	黒褐	白粒、輝・角	隆帯、縄文。	E II
II-G	343	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	捺糸文、隆帯文。	E II
II-G	344	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	縄文、隆帯。	E II
II-G	345	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	隆線文、磨消縄文。	E II
II-G	346	-	胴	橙	白粒、赤色粒、輝・角	縄文、平行隆帯。	E II
II-G	347	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	隆帯文、磨消縄文。	E II
II-G	348	-	胴	灰褐	白粒、輝・角	捺糸文、隆線文。	E II
II-G	349	-	胴	灰褐	白粒、輝・角	捺糸文。沈線区画、隆帯蕨手状文。	E II
II-G	350	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	R L 縄文、沈線文。	E II
II-G	351	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	縄文、沈線文。	E II
II-G	352	-	胴	鈍赤褐	白粒、輝・角、粗砂	縄文、沈線文。	E II
II-G	353	-	胴	灰白	輝・角、小石	縄文、沈線文。	E II
II-G	354	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	縄文、隆帯文。一部条線集中。	E II
II-G	355	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	縄文、沈線文。	E II
II-G	356	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	縄文、沈線文。	E II
II-G	357	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	縄文。	E III

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
II-G	358	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	縄文、沈線文。	E II
II-G	359	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	平行隆帯文による渦巻状文、充填縄文。	E II
II-G	360	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	横位平行沈線、渦巻状文。充填縄文。	E II
II-G	361	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	捺糸文、沈線文。	E II
II-G	362	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	隆帯垂下、沈線渦巻文。それぞれに刺突文。	E II ?
II-G	363	-	胴	暗赤褐	石英、輝・角、小石	沈線文。	E II
II-G	364	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	隆帯小連弧文、沈線文。	E II
II-G	365	-	胴	暗灰黄	白、輝・角	隆帯区画、区画内沈線。	E II
II-G	366	-	胴	橙	白粒、輝・角、小石	環状隆帯の両脇と内部に沈線文。	E II
II-G	367	-	胴	暗褐	白粒、輝・角	縄文、沈線文。	E II
II-G	368	-	胴	灰	白粒、輝・角	隆帯・沈線区画。区画内沈線。	E II
II-G	369	-	胴	橙	白粒、小石	沈線綾杉文の上に沈線波状文。	E II
II-G	370	-	胴	鈍橙	輝・角、小石、粗砂	平行隆帯、以下微かに縄文。	E II
II-G	371	-	胴	灰黄	白粒、輝・角、小石	縄文、沈線文。	E II
II-G	372	-	胴	鈍黄橙	輝・角	微かに条線文?隆帯文、突起部。	E II
II-G	373	-	胴	赤褐	輝・角、小石	微かに縄文?隆帯文。	E II
II-G	374	-	胴	橙	赤色粒、輝・角	捺糸文、沈線文。	E II
II-G	375	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	捺糸文。	E II
II-G	376	-	胴	灰白	輝・角	沈線3条。地文は捺糸文か。	E II
II-G	377	-	胴	橙	赤色粒、輝・角、小石	縄文、沈線。	E II
II-G	378	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文。微かに縄文。	E II
II-G	379	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線、縄文。	E II
II-G	380	-	底	灰黄	白粒、輝・角	平底、沈線、縄文。	E II
II-G	381	-	底	淡橙	白粒、輝・角	沈線、充填縄文。	E II
II-G	382	-	底	橙	赤色粒、輝・角	平底、沈線、縄文。	E II
II-G	383	-	把手?	鈍黄橙	白粒、輝・角	側面、上面に沈線。外面は3辺と透かし孔周囲に沈線、角は渦巻文。	E II
II-G	384	-	底	鈍橙	輝・角、小石	平底。縄文、隆帯。	E II
II-G	385	-	底	橙	白粒、輝・角、小石	縄文。両脇沈線の隆帯文。	E II
II-G	386	-	口	黒褐	白粒、輝・角、小石	口縁部隆帯区画、渦巻文。区画内沈線。胴部縄文。	E II新
II-G	387	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	隆帯区画、渦巻文。区画内縄文。	E II新
II-G	388	-	口	鈍赤褐	白粒、輝・角	条線文。(口9.2)	E II~ III
II-G	389	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	条線文。	E III
II-G	390	-	底	淡橙	白粒、輝・角	平底、無文。(底5.6)	E II~ III
II-G	391	-	胴	浅黄橙	輝・角	状文、沈線。原体押圧による小波状文。	E II~ III
II-G	392	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角	縄文。	E II~ III
II-G	393	-	底	鈍黄橙	輝・角	無文。(底6.0)	E II~ III
II-G	394	-	底	淡橙	白粒、輝・角、小石	平底、縄文。(底11.2)	E II~ III
II-G	395	浅鉢	口~胴	淡橙	石英、小石	口唇部肥厚、太沈線。胴部無文。内面煤付着。(口25.4)	E II~ III
II-G	396	-	口	赤褐	白粒、小石	無文。口唇部肥厚。	E II~ III
II-G	397	-	口	鈍橙	輝・角、小石	無文。	E II~ III
II-G	398	-	口	橙	赤色粒、輝・角	口唇部稜有り、無文。	E II~ III
II-G	399	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	無文。	E II~ III
II-G	400	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	無文。	E II~ III
II-G	401	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	隆帯区画、区画内縄文。胴部へ平行沈線垂下。	E III
II-G	402	-	口	浅黄橙	白粒、小石	口唇部肥厚。区画内円形刺突。	E III
II-G	403	-	口~胴	暗灰黄	輝・角	口縁部隆帯区画、渦巻文。胴部平行沈線。磨消縄文。	E III
II-G	404	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	隆帯区画、区画内縄文。	E III
II-G	405	-	口	鈍橙	赤色粒、輝・角	隆帯・沈線区画。区画内磨消縄文。	E III

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
II -G	406	-	口	淡橙	白粒、輝・角、小石	隆帯、太沈線による区画。	E III
II -G	407	-	口	鈍橙	輝・角、小石	口縁部隆帯・沈線による区画、文様。区画内および胴部縄文。	E III
II -G	408	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	隆帯・太沈線区画。区画内縄文。	E III
II -G	409	-	口	暗灰褐	白粒、赤色粒、小石	口縁部隆帯区画、区画内縄文。胴部平行沈線、磨消縄文。	E III
II -G	410	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部隆帯槽円形区画、円形文。区画内および胴部縄文。	E III
II -G	411	-	口	浅黄橙	赤色粒、輝・角	太沈線で区画。区画内縄文。	E III
II -G	412	-	口	黒	白粒、輝・角、小石	太沈線で区画。区画内縄文。	E III
II -G	413	-	口~胴	灰褐	白粒、輝・角	波状口縁。口縁部隆帯・太沈線の区画。胴部は沈線区画、文様。磨消縄文。	E III
II -G	414	-	口	浅黄橙	白粒、小石	波状口縁。隆帯区画、渦巻文。	E III
II -G	415	-	突起	鈍黄橙	白粒、輝・角	口縁部太沈線区画、渦巻文。胴部平行沈線。磨消縄文。	E III
II -G	416	-	突起	淡橙	白粒、褐色粒	突起部両側から凹む。太沈線文、縄文。	E III
II -G	417	-	口	灰黄	輝・角	沈線文、充填縄文。	E III
II -G	418	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	円形刺突列を入れた沈線が2条。胴部太沈線文、磨消縄文。	E III
II -G	419	-	口~胴	灰褐	白粒、輝・角	波状口縁。二重沈線「n」字状文、充填縄文。	E III
II -G	420	-	口~胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	無文帯の下に隆帯区画、縄文、沈線文。	E III
II -G	421	-	胴	淡橙	輝・角、小石	平行沈線、充填縄文。	E III
II -G	422	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石、粗砂	隆帯区画。平行沈線垂下、LR充填縄文。	E III
II -G	423	-	胴	灰黄~黒褐	輝・角、小石	平行沈線、充填縄文。	E III
II -G	424	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	E III
II -G	425	-	胴	浅黄橙	輝・角	平行沈線、充填縄文。442、426と同一個体か。	E III
II -G	426	-	胴	輝・角	輝・角	平行沈線、充填縄文。425、442と同一個体か。	E III
II -G	427	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	E III
II -G	428	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	E III
II -G	429	-	胴	黒褐	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。	E III
II -G	430	-	胴	鈍橙	赤色粒、輝・角、小石	平行沈線、状文。452と同一個体の可能性有り。	E III
II -G	431	-	胴	赤褐	白粒、小石	平行沈線文、磨消縄文。	E III
II -G	432	-	胴	浅黄橙	輝・角	平行沈線、充填縄文。	E III
II -G	433	-	胴	浅黄橙	褐色粒、輝・角、小石	太沈線槽円形区画、区画内縄文。中細沈線垂下、充填縄文。	E III
II -G	434	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	平行沈線、充填縄文。一部煤付着。	E III
II -G	435	-	胴	黒褐	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。	E III
II -G	436	-	胴	浅黄橙	褐色粒、輝・角	沈線、充填縄文。	勝坂2
II -G	437	-	胴	鈍黄橙	白粒、褐色粒、輝・角	太沈線、充填縄文。	E III
II -G	438	-	胴	灰褐	白粒、赤色粒、輝・角	微隆起線文、充填縄文。	E III
II -G	439	-	胴	灰黄	輝・角	沈線、充填縄文。	E III
II -G	440	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。	E III
II -G	441	-	胴	鈍橙	白粒、金雲母、輝・角	沈線文、縄文。	E III
II -G	442	-	胴	浅黄橙	輝・角	平行沈線、充填縄文。425、426と同一個体か。	E III
II -G	443	-	胴	鈍黄橙	白粒、小石	横位太沈線、縦位沈線、充填縄文。煤付着。	E III
II -G	444	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	平行沈線、充填縄文。沈線文。	E III
II -G	445	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	E III
II -G	446	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。その後波状沈線。	E III
II -G	447	-	胴	灰黄	白粒、小石	縄文、沈線文。	E III
II -G	448	-	胴	橙~赤	輝・角、小石、粗砂	平行沈線、縄文。沈線波状文。	E III
II -G	449	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	隆帯・太沈線区画、縄文。	E III
II -G	450	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	E III
II -G	451	-	胴	鈍黄橙	赤色粒、小石	沈線文。	E III
II -G	452	-	胴	鈍橙	赤色粒、輝・角、小石	隆帯・太沈線区画。区画内縄文。	E III
II -G	453	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	平行沈線。縄文部と無文部の交互構成。	E III
II -G	454	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文、磨消縄文。	E III
II -G	455	-	胴	鈍黄橙	白粒、小石、粗砂	隆帯と太沈線で渦巻状文、区画内縄文。	E III
II -G	456	-	胴	鈍赤褐	白粒、輝・角、小石	条線文、沈線文。	E III
II -G	457	-	胴	鈍橙	白粒、小石	条線文、沈線文。	E III
II -G	458	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	縦位隆帯。3単位条線文。	E III
II -G	459	-	胴	暗赤褐	石英、小石	条線波状文。	E III
II -G	460	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	条線波状文。	E III
II -G	461	-	胴	橙	白粒、輝・角一	重なり合う。条線重円文。	E III
II -G	462	-	胴	黒褐	輝・角、小石	条線文。	E III

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
II-G	463	-	胴	暗褐	輝・角、小石	条線波状文。	E III
II-G	464	-	胴	灰褐	輝・角、小石	条線文、沈線文。	E III
II-G	465	-	底	橙	白粒、輝・角、小石	平底、無文。	E III
II-G	466	深鉢	下半	橙	白粒、赤色粒、輝・角	胴部平行沈線、充填縄文。平底。(底 7.0)	E III
II-G	467	-	底	橙	赤色粒、輝・角	平底。平行隆帯、縄文。	E III
II-G	468	-	底	鈍橙	白粒、輝・角	やや丸みを帯びる平底。無文。	E III
II-G	469	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角	平底、無文。(底 7.2)	E III
II-G	470	-	底	淡橙	輝・角	縄文、沈線。(底 8.8)	E III
II-G	471	-	底	淡橙	白粒、輝・角、小石	平底、無文。	E III
II-G	472	器台	底	鈍橙	褐色粒、小石	無文。楕円形と思われる透かし孔 2カ所。1/3 残存。(底 17.8)	E III?
II-G	473	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	無文。一部煤付着。	E III~ IV
II-G	474	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	括れ部横位沈線、以下縄文。	E III~ IV
II-G	475	-	胴	鈍黄橙	輝・角	微隆起線文、充填縄文。	E IV
II-G	476	-	口	灰褐	輝・角、小石	縄文、隆線文。	E IV
II-G	477	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口縁部隆帯区画、区画内縄文。胴部縄文後、沈線文。	E IV
II-G	478	-	口	橙	輝・角	横位隆線。	E IV
II-G	479	-	底	鈍い橙	白粒、輝・角	平底、無文。端部突出。	中期後
II-G	480	-	口	灰黄	白粒、小石	沈線、縄文。	E IV~ 称
II-G	481	-	口	淡橙	白粒、輝・角、小石	隆線、縄文。	E IV~ 称
II-G	482	-	口	黒灰	白粒、輝・角、小石	突起。横位微隆起線、一部瘤状に高まる。	E IV~ 称
II-G	483	-	口	鈍橙	輝・角	波状口縁。沈線文、短沈線状刺突文。	称
II-G	484	-	口	暗灰	白粒、黒雲母	横位沈線。	称
II-G	485	-	口	浅黄橙	輝・角	口縁部隆線。胴部沈線文。	称
II-G	486	-	突起	暗褐	輝・角、小石	突起部上面には円形刺突と沈線円。口唇部には沈線で囲まれた刺突列。	称
II-G	487	-	胴	浅黄橙	黒雲母、小石	沈線文。	称
II-G	488	-	胴	暗灰	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	称
II-G	489	-	胴	灰黄	輝・角、小石	沈線文。	称
II-G	490	-	突起	淡橙	輝・角、小石	沈線文、刺突文。	称
II-G	491	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線。	称
II-G	492	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線文、刺突文。	称
II-G	493	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角	沈線文。	称
II-G	494	-	胴	黒褐	輝・角	沈線文、刺突文。	称
II-G	495	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角	沈線。	称
II-G	496	-	底	橙	白粒、小石、粗砂	平底、無文。端部やや突出。(底 14.0)	称-堀 1
II-G	497	-	口	灰褐	白粒、輝・角	横位沈線下、僅かに沈線文、縄文。	称-堀 1古
II-G	498	-	口	灰白	白粒、輝・角	口唇部刻み状押圧。胴部沈線文。	堀1古
II-G	499	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文。	堀1古
II-G	500	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	条線文。	堀1古
II-G	501	-	突起	灰黄	輝・角、小石	突起中央の貫通孔の周辺に刺突、沈線。口縁部は沈線区画、刺突。	堀1
II-G	502	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	斜めに鎖状隆帯。沈線文、縄文。	堀1
II-G	503	-	口	暗灰黄	白粒、輝・角	沈線。	堀1
II-G	504	-	口	暗灰黄	輝・角、小石	波頂部に刺突3点、連係する沈線。	堀1
II-G	505	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文、縄文。	堀1
II-G	506	-	口	鈍橙	白粒、小石	上面、外面に沈線、円筒状工具による刺突。一部貫通。円形貼付文に刺突。	堀1
II-G	507	-	口	淡橙	白粒、粗砂	口縁部は沈線と刻みを入れた隆帯。胴部は沈線区画、条線文。	堀1
II-G	508	-	口	鈍黄橙	輝・角、黒雲母、小石	口縁部に沈線2条。	堀1
II-G	509	-	突起	暗灰黄	輝・角、小石	刺突3点、連係する沈線。破片最下部に沈線。	堀1
II-G	510	-	口	灰褐	白粒、輝・角	無文。	堀1
II-G	511	-	口	灰	輝・角、小石	沈線。	堀1
II-G	512	-	突起	浅黄橙	輝・角	片方の突起が欠損。刺突、沈線。突起下の穴は最後に内側から穿たれ貫通する。	堀1

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
II -G	513	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口唇部に沈線文。胴部は燃糸文か。	堀1
II -G	514	-	口~胴	淡橙	白粒、小石	波状口縁波頂部肥厚、沈線。頸部無文。胴部微かに沈線、縄文。	堀1
II -G	515	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	縄文、沈線文。括れ部貼付文から刻みを入れた隆帯が垂下。	堀1
II -G	516	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線垂下。	堀1
II -G	517	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	沈線文。	堀1
II -G	518	-	胴	黒褐	白粒、小石	「8」字状貼付文。沈線文、充填縄文。	堀1
II -G	519	-	頸	鈍褐	白粒、輝・角	「8」字状貼付文の横に沈線、上へ微隆起線。	堀1
II -G	520	-	胴	橙	輝・角、小石	沈線文、微かに縄文。	堀1
II -G	521	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線渦巻文。	堀1
II -G	522	-	胴	橙	赤色粒、輝・角	横位平行沈線、渦巻状文。	堀1
II -G	523	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	平行沈線。	堀1
II -G	524	-	胴	灰褐	輝・角、金雲母、小石	沈線文。	堀1
II -G	525	-	胴	黒褐	輝・角	条線文、平行沈線。	堀1
II -G	526	-	胴下半	鈍橙	白粒、赤色粒、輝・角	平底、無文。(底 8.0)	堀1
II -G	527	-	胴	鈍橙	白粒、小石	無文。	堀1?
II -G	528	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	沈線。	堀1
II -G	529	-	底	鈍黄橙	輝・角、小石	平底、無文。(底 7.8)	堀1?
II -G	530	鉢	口~胴	浅黄橙	白粒、褐色粒、輝・角	貫通孔のある山形小突起。無文。(口 13.0)	堀1?
II -G	531	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	上面に縄文、両脇に沈線を施した隆帯文。	堀1
II -G	532	-	胴	灰黄	輝・角	微隆起線文、交差箇所に刺突。	堀1新
II -G	533	-	口	暗灰黄	白粒、輝・角、石英	波状口縁。波頂部に縦沈線。	堀1新
II -G	534	-	突起	鈍黄橙	輝・角	波頂部下貫通孔、刺突に連係する沈線。胴部沈線文。	堀1新
II -G	535	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	「8」字状貼付文。沈線文、充填縄文。	堀1新
II -G	536	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	刻みを入れた隆帯、斜めに沈線。	堀1新
II -G	537	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石、粗砂	沈線幾何学文、充填縄文。	堀1新
II -G	538	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	堀1新
II -G	539	-	底	黒褐	白粒、輝・角	やや上げ底。(底 8.5)	堀1~2
II -G	540	-	胴	極暗赤褐	輝・角、小石	沈線文、沈線間縄文。	堀1新
II -G	541	-	口	黒褐	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	堀2
II -G	542	-	口	鈍橙	白粒、小石	沈線文。	堀2
II -G	543	-	口	浅黄橙	輝・角	無文。	堀2
II -G	544	-	口	鈍黄橙	白粒、小石	沈線文。	堀2
II -G	545	-	口	橙	輝・角、小石	無文。	堀2
II -G	546	-	胴	鈍黄橙	白粒、小石	沈線文、充填縄文。	堀2
II -G	547	-	胴	黒灰	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文と無文部の交互構成。	堀2
II -G	548	-	胴	橙	赤色粒、輝・角	条線文。	堀2
II -G	549	-	胴	暗灰黄	輝・角	平行微隆起線。	堀2?
II -G	550	-	胴	鈍橙	白粒、小石	刻みを入れた隆帯。沈線文、充填縄文。	堀2
II -G	551	-	胴	黒	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	堀2
II -G	552	-	底	鈍橙	白粒、輝・角	平底、無文。底面に網代痕あり。端部やや突出。内部の仕上げが雑。(底 5.2)	堀2
II -G	553	-	底	鈍黄橙	輝・角、小石	平底、無文。よく研磨される。	堀2
II -G	554	-	底	鈍橙	白粒、小石	平底、無文。端部やや突出。	堀2
II -G	555	-	底	鈍黄橙	白粒、輝・角	平底、無文。端部突出。(底 9.2)	堀2
II -G	556	-	底	暗灰黄	白粒、輝・角	平底。底面に網代痕あり。(底 8.4)	堀2
II -G	557	-	底	鈍橙	白粒、輝・角、小石	僅かに上げ底、無文。端部やや突出。(底 8.5)	堀2
II -G	558	-	底	鈍橙	白粒、小石	平底、無文。端部突出。(底 10.5)	堀2
II -G	559	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	沈線区画、充填縄文。	堀2新
II -G	560	-	口	灰褐	輝・角	波状口縁。横位平行沈線。	堀2新
II -G	561	-	胴	暗褐	輝・角	沈線文、充填縄文。	堀2新
II -G	562	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	条線文。	堀?
II -G	563	-	底	灰黄	白粒、輝・角	平底、無文。端部突出。(底 8.2)	堀
II -G	564	-	底	淡橙	輝・角、小石	平底、無文。(底 9.0)	堀?
II -G	565	鉢	口~底	浅黄橙	輝・角	ミニチュア。無文。(口 3.4、底 3.2、高 4.9)	E II
II -G	566	-	底	鈍黄橙	白粒、輝・角、粗砂	平底、無文。(底 10.8)	後期
II -G	567	注口	注口	暗灰	白粒、輝・角	無文。先細り。	
II -G	568	手捏	1/2 残	鈍黄橙	白粒、赤色粒、輝・角	無文。鉢か。(口 2.6、底 5.6、高 5.7)	?
2-G	569	-	胴	鈍赤褐	白粒、輝・角	沈線文、半截竹管や爪での刺突文、充填縄文。尖った三角形の彫り込みあり。	勝坂 3

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
2-G	570	-	口	橙	輝・角、小石	口唇部と横位隆帯に刻み。口縁部は隆帯と刺突文で楕円形に区画、区画内無文。	阿玉 I b
2-G	571	-	口	鈍橙	金雲母、小石	隆帯区画、区画内鱗状刺突文。	阿玉 I b
2-G	572	-	胴	淡橙	白粒、金雲母、小石	隆帯に刻み状の押圧。その上下に波状条線文。	阿玉 II
2-G	573	-	胴	鈍橙	金雲母、小石	隆帯、2列に刺突文。	阿玉 II
2-G	574	-	胴	鈍黄橙	金雲母、小石	隆帯区画、爪形文、刺突文、沈線文。	阿玉 III
2-G	575	-	胴	灰黄褐	輝・角、小石	弧状隆帯、同心円状沈線文。	中期中
2-G	576	-	突起	赤褐	輝・角、小石	2段ブリッジの鱗状突起。上面に縄文、側面に刺突文。胴部は沈線文、縄文。	阿玉 IV
2-G	577	-	突起	淡橙	石英、輝・角、小石	上面、側面に環状貼付文、口唇部刺突、沈線。	
2-G	578	-	胴	橙	輝・角、小石	沈線文。	中期前
2-G	579	-	胴	橙・黒	輝・角、小石	隆線文。	中期中
2-G	580	-	口	鈍赤褐	白粒、輝・角	口縁部沈線区画、中段無文で上段・下段に円形刺突を交互に入れる。胴部条線文	E I 古
2-G	581	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口唇部に刻み。横位沈線の間に交互刺突による波状文を描出。	E I 古
2-G	582	-	胴	赤褐	輝・角、小石	隆帯文。	E I 古
2-G	583	-	口	橙	輝・角、小石	沈線文。破片下部は刻みを入れた隆帯。	E I
2-G	584	-	突起	赤褐	赤色粒、輝・角、小石	橋状突起。胴部沈線文、縄文。	E I
2-G	585	-	口	橙	白・赤粒、輝・角、小石	口縁部上半無文、下半に燃糸文。括れ部に隆帯。	E I 併
2-G	586	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	隆帯・沈線による区画、区画内および胴部燃糸文。	E I
2-G	587	-	突起	灰褐	白粒、輝・角、小石	正面中央に凹み、上部に刻み。側面は捻れるような沈線文。	E I ?
2-G	588	-	突起	橙	白粒、小石、粗砂	両側から迫り上がる突起、両側面に穿孔。沈線で文様構成。	E I ?
2-G	589	-	胴	橙	白粒、輝・角	横位沈線、間に交互刺突。	E I
2-G	590	-	胴	極暗赤褐	白粒、輝・角、小石	刻みを入れた隆帯、沈線文。沈線間に斜位沈線を施す部分有り。	E I
2-G	591	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。	E I ?
2-G	592	-	胴	灰白	輝・角	燃糸文。	E I
2-G	593	-	胴	鈍橙	石英、輝・角、小石	隆帯文、微かに条線。	E I
2-G	594	-	胴	赤褐	白粒、輝・角、小石	隆帯、縄文。	E I
2-G	595	-	口	赤褐	輝・角、小石	太沈線を施す太い隆帯が両側から迫り上がる突起。	E I 新
2-G	596	-	胴	黒褐	輝・角、小石	燃糸文、隆帯文。	E I 新
2-G	597	-	口	橙	輝・角、小石	口唇部に隆帯区画、渦巻文。刻み状押圧。頸部は隆線3条垂下。292と同一か。	E I 新
2-G	598	-	口～胴	鈍赤褐	白粒、輝・角、小石	口縁部隆帯・沈線による区画、文様。胴部微かに縄文。	E I 新
2-G	599	-	口	淡橙	白粒、輝・角、小石	口縁部沈線間交互刺突。胴部沈線文、微かに縄文。	E I 新 ～E II
2-G	600	-	底	淡橙	白粒、輝・角、小石	平底、燃糸文。(底 10.0)	E I - II
2-G	601	-	口～胴	橙	輝・角、小石	突起。口縁部は沈線区画、区画内も短沈線。胴部は隆帯垂下、充填縄文。	E II
2-G	602	-	突起	鈍赤褐	輝・角、小石	突起部上面に沈線文。口縁部沈線文、充填縄文、刺突文。頸部無文帯下に沈線。	E II
2-G	603	-	口	淡橙	輝・角	刻みを入れた隆帯で区画。区画内沈線。	E II
2-G	604	-	口	鈍橙	白粒、小石	隆帯区画、「∞」字状文。	E II
2-G	605	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	縄文。隆帯で区画、文様。	E II
2-G	606	-	口	橙	白粒、輝・角、小石	隆帯・沈線による区画、区画内縄文。	E II
2-G	607	-	口	暗赤褐	石英、小石	隆帯・沈線区画、区画内縄文。	E II
2-G	608	-	口	暗灰	白粒、小石	隆帯による区画、文様。区画内沈線。	E II
2-G	609	-	口	橙	白・赤粒、輝・角、小石	隆帯・沈線による区画、文様。微かに縄文。	E II
2-G	610	-	口	鈍赤褐	赤色粒、輝・角	隆帯・沈線で区画、区画内縄文。	E II
2-G	611	-	口	灰黄	輝・角、小石	隆帯区画、渦巻文。区画内縄文。	E II
2-G	612	-	口	灰褐	輝・角	無文帯下に隆帯。胴部縄文。	E II
2-G	613	-	口	橙	輝・角、小石	条線文。	E II
2-G	614	-	口	橙	白粒、輝・角、粗砂	口縁部隆帯・沈線区画、区画内刺突文。胴部縄文。	E II

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
2-G	615	-	口~胴	鈍橙	白、輝・角	口縁部隆帯・沈線区画、渦巻文、区画内沈線。胴部平行沈線、充填縄文。	E II
2-G	616	-	突起	淡橙	輝・角	口縁部隆帯・沈線区画、文様。胴部沈線3条垂下。充填縄文。	E II
2-G	617	-	口	淡橙	輝・角	隆帯・沈線区画、区画内縄文。	E II
2-G	618	-	口	鈍赤褐	白粒、小石	隆帯・沈線による区画、文様。区画内縄文。	E II
2-G	619	-	口	灰褐	白粒、輝・角、小石	細く浅い沈線文。	E II?
2-G	620	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線を入れた隆帯で区画、区画内沈線。突起物が欠落した痕跡有り。	E II
2-G	621	-	突起	鈍黄橙	小石	隆帯区画が波頂部で捻転する突起。左口唇部と胴部に沈線文。	E II
2-G	622	-	胴	橙	白粒、小石	隆帯区画。区画内刺突、沈線。	E II
2-G	623	-	突起?	鈍赤褐	石英、輝・角、小石	沈線渦巻文。	E II
2-G	624	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	隆帯文、縄文。	E II
2-G	625	-	胴	鈍赤褐	輝・角、小石	捺糸文。沈線文。	E II
2-G	626	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	上部隆帯文、下部平行沈線。充填縄文。	E II
2-G	627	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	隆帯2条の下に縄文。	E II
2-G	628	-	胴	淡橙	赤色粒、輝・角	沈線区画、充填縄文。	E II
2-G	629	-	胴	橙	赤色粒、輝・角、小石	縄文、平行隆線。	E II
2-G	630	-	胴	橙	輝・角、小石	条線、3条の隆線。	E II
2-G	631	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	縄文、隆線文。	E II
2-G	632	-	胴	黒褐	白粒、輝・角	隆帯文、磨消縄文。	E II
2-G	633	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	縄文、沈線文。	E II
2-G	634	-	胴	灰白	輝・角	平行沈線、充填捺糸文。	E II
2-G	635	-	胴	灰白	白粒、輝・角	沈線文、充填捺糸文。	E II
2-G	636	-	胴	鈍赤褐	白粒、石英、輝・角	沈線文、縄文。	E II
2-G	637	-	胴	鈍黄橙	白粒、小石	縄文、沈線文。	E II
2-G	638	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	縄文、沈線文。	E II
2-G	639	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	捺糸文。沈線文。	E II
2-G	640	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	縄文、沈線文。	E II
2-G	641	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	縄文、沈線文。	E II
2-G	642	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	縄文、鎖状隆帯。	E II
2-G	643	-	胴	暗赤褐	白粒、小石	微かに縄文の痕跡。	E II
2-G	644	-	胴	橙	白粒、赤色粒、輝・角	地文は捺糸文か。横位平行沈線。	E II?
2-G	645	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	縦位沈線、横位短沈線、	E II併
2-G	646	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文、刺突文。	E II
2-G	647	-	口	浅黄橙	金雲母、輝・角	隆帯、沈線による区画、文様。区画内縄文。	E II
2-G	648	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	隆帯・沈線による区画。	E II
2-G	649	-	胴	鈍黄橙	白粒、小石	沈線文。	E II
2-G	650	-	底?	淡橙	白粒、輝・角	脚部には隆帯の剥かれた痕と縄文。胴部は隆帯で文様構成か。	E II
2-G	651	-	底	淡橙	白粒、輝・角、粗砂	平底、縄文。(底8.8)	E II
2-G	652	-	底	鈍橙	輝・角、小石	平底。隆帯、縄文。(底10.8)	E II
2-G	653	-	口	鈍黄橙	白粒、石英、輝・角	隆帯で区画、区画内縄文と隆帯波状文。	E II新
2-G	654	-	口	橙	白粒、小石	無文。口唇部に煤付着。	E II~ E III
2-G	655	-	口	暗灰	白粒、褐色粒	無文。	E II~ E III
2-G	656	-	口	淡橙	輝・角、小石	隆帯区画、渦巻文。R L横位充填縄文。	E III古
2-G	657	深鉢	口~胴	暗灰褐	白粒、輝・角	口縁部は斜位、胴部は縦位の集合沈線。横位・縦位の鎖状隆帯。	E III併
2-G	658	-	口	灰	輝・角、小石	口縁部2条の沈線間に円形刺突列。胴部細沈線上から2条の太沈線で波状文。	E III
2-G	659	-	口	黒褐	白粒、輝・角	条線文。	E III?
2-G	660	-	口	灰黄褐	白粒、小石、粗砂	2段円形刺突列。縦位集合沈線、沈線文。	E III
2-G	661	-	口	灰	白粒、輝・角	波状口縁。沈線区画、区画内充填縄文。	E III
2-G	662	深鉢	口~底	鈍黄橙	白粒、輝・角	4単位波状口縁、口唇部肥厚。口縁部は隆帯と沈線で、崩れた楕円形区画。区画内充填縄文。平行沈線間の充填縄文上から蕨手波状沈線が垂下。1/2残存。(口29.8、底7.9、高35.4)	E III
2-G	663	-	突起	鈍黄橙	輝・角	隆帯・沈線による区画、波頂部下に円形文。胴部平行沈線。区画内・胴部縄文。	E III

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
2-G	664	-	口	浅黄橙	輝・角	沈線区画、文様。区画内縄文。	E III
2-G	665	-	突起	鈍黄橙	褐色粒、輝・角	隆帯と太沈線での渦巻文。	E III
2-G	666	-	上半	淡橙	白粒、輝・角、	口縁部隆帯区画、胴部平行沈線。充填縄文。 1/4 残存。(口 26.7)	E III
2-G	667	-	突起	灰黄	白粒、輝・角	隆帯・沈線区画、文様。区画内縄文。	E III
2-G	668	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	隆帯・沈線による区画文様。区画間上部に円形刺突。区画内・胴部は充填縄文。	E III
2-G	669	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	隆帯・沈線で区画、区画内円形刺突文。胴部縄文。	E III
2-G	670	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、粗砂	隆帯・太沈線による区画、文様。区画内縄文。	E III
2-G	671	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	隆帯・沈線区画、区画内縄文。	E III
2-G	672	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線、縄文。	E III
2-G	673	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石、粗砂	口唇部上面に沈線。胴部縄文、隆帯文。	E III併
2-G	674	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部隆帯区画、区画内縄文。胴部平行沈線。	E III
2-G	675	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	無文帯の下横位隆帯、その下縄文。	E III
2-G	676	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口唇部肥厚。胴部縄文。	E III
2-G	677	-	口	暗灰黄	白粒、輝・角、小石	横位太沈線。縦位細沈線、条線文。	E III
2-G	678	-	口～胴	浅黄橙	褐色粒、輝・角、小石	横位隆帯下に沈線区画、円形文様。区画内および胴部に縄文。	E III
2-G	679	-	口	橙	白粒、輝・角、小石	口縁部太い沈線。胴部 R L 横位縄文。	E III
2-G	680	-	突起	赤褐	赤色粒、石英、小石	波頂部に隆帯で捻転状突起。胴部に沈線文か。	E III
2-G	681	-	胴	鈍黄橙	石英、輝・角、小石	隆起線文。縄文部と無文部の交互構成。	E III
2-G	682	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線、充填縄文。	E III
2-G	683	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。	E III
2-G	684	-	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	隆帯区画、縄文部と無文部の交互構成。	E III
2-G	685	-	胴	浅黄橙・暗灰	白粒、輝・角、小石	平行沈線、磨消縄文。	E III
2-G	686	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	平行沈線、磨消縄文。	E III
2-G	687	-	胴	灰白	褐色粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。	E III
2-G	688	-	胴	鈍黄橙	石英、小石	平行沈線、充填縄文。	E III
2-G	689	-	胴	暗灰黄	輝・角、小石	平行沈線、磨消縄文。	E III
2-G	690	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。	E III
2-G	691	-	胴	浅黄橙	輝・角	平行沈線、R L 充填縄文。	E III
2-G	692	-	胴	淡橙	輝・角、小石	平行沈線、充填縄文。	E III
2-G	693	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。	E III
2-G	694	-	胴	淡橙	輝・角	平行沈線、充填縄文。	E III
2-G	695	-	胴	鈍橙	金雲母、輝・角	平行沈線、充填縄文。	E III
2-G	696	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	平行沈線、充填縄文。	E III
2-G	697	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	平行沈線、充填縄文。沈線文。	E III
2-G	698	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角	沈線「II」字状文、充填縄文。	E III
2-G	699	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	平行沈線、充填縄文。	E III
2-G	700	-	胴	淡橙	赤色粒、輝・角、粗砂	沈線、縄文。	E III
2-G	701	-	胴	灰黄	輝・角	隆帯・沈線区画、区画内縄文。	E III
2-G	702	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	隆帯文渦巻状文。沈線区画、充填縄文。	E III
2-G	703	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線断手状文、楕円形状区画文。区画内充填縄文。	E III
2-G	704	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	隆帯区画、縄文。	E III
2-G	705	-	胴	灰褐	輝・角	平行沈線、充填縄文、沈線波状文。	E III
2-G	706	-	胴	鈍黄橙	輝・角	擦糸文。	E III
2-G	707	-	胴	暗灰	白粒、輝・角	縄文、沈線文。	E III ?
2-G	708	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	平行沈線、集合沈線波状文。	E III
2-G	709	-	胴	橙	赤色粒、輝・角	波状条線文。	E III
2-G	710	-	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	縦位 R L 縄文。	E III
2-G	711	-	底	鈍黄橙	白粒、輝・角	平底。沈線、縄文。	E III
2-G	712	-	底	浅黄橙	輝・角、小石	平行沈線、充填縄文。	E III
2-G	713	-	底	浅黄橙	褐色粒、輝・角	やや丸みを帯びる平底。無文。(底 6.6)	E III
2-G	714	-	底	淡橙	白粒、輝・角	平底。縄文、沈線文。(底 7.0)	E III
2-G	715	-	底	灰白	白粒、輝・角	微かに縄文の痕跡。(底 7.2)	E III
2-G	716	-	底	灰褐	輝・角	平底、縄文。	E III
2-G	717	-	口	灰白	石英、輝・角、小石	口唇部肥厚、口縁部無文帯の下に横位隆線。	E IV
2-G	718	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	横位隆線。	E IV
2-G	719	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	口唇部肥厚。無文帯の下縄文。	E IV
2-G	720	-	口	淡橙	輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	E III
2-G	721	-	胴	浅黄橙	褐色粒、輝・角	隆帯文、平行沈線、充填縄文。	E IV
2-G	722	-	胴	淡橙	輝・角、小石	沈線、充填縄文。	E IV
2-G	723	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	E IV

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
2-G	724	-	底	鈍赤褐	輝・角、小石	平底、無文。(底 9.5)	中期
2-G	725	-	底	浅黄橙	石英、輝・角、小石	平底、無文。(底 6.6)	中期
2-G	726	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角	平底、無文。(底 4.8)	中期後
2-G	727	-	底	鈍橙	白粒、輝・角	平底、無文。(底 7.5)	中期後
2-G	728	-	底	橙	赤色粒、石英、小石	平底、無文。	中期後
2-G	729	-	口	黒褐	白粒、輝・角	横位隆線。以下縄文。	E IV - 称
2-G	730	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	隆線、縄文。	E IV ~ 称
2-G	731	-	口	浅黄橙	輝・角、粗砂	横位・縦位の隆線。	E IV - 称
2-G	732	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	二重沈線文。間に破線沈線文。(口 26.5)	称
2-G	733	-	口	鈍黄橙	白粒、赤色粒	沈線文、刺突文。	称
2-G	734	-	口	浅黄橙	輝・角	沈線文、刺突文。	称
2-G	735	-	口	浅黄橙	褐色粒、輝・角	二重沈線文。間に破線沈線文。	称
2-G	736	-	口	淡橙	白粒、小石	横位沈線、刺突文。	称
2-G	737	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文。	称
2-G	738	-	口	灰白	輝・角、小石	沈線区画、刺突文。	称
2-G	739	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文。	称
2-G	740	-	口	鈍橙	輝・角、金雲母(少)	沈線文、刺突文。	称
2-G	741	-	口	浅黄橙	輝・角、粗砂	沈線文。	称
2-G	742	-	口~胴	暗褐	白粒、石英、輝・角	口縁部 2 条の隆線の内側に沿って円形刺突文。 胴部沈線文、充填縄文。	称
2-G	743	-	口	鈍黄橙	輝・角、粗砂	無文。	称
2-G	744	-	口	浅黄橙	赤色粒、輝・角	口縁部 2 条沈線の間に横位刺突列。胴部縄文。	称併
2-G	745	-	口	赤	赤色粒、輝・角	沈線文。	称
2-G	746	-	口	淡橙	赤色粒、輝・角、小石	短沈線文。	称
2-G	747	-	口	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	2 条の隆起線の内側に 2 列の円形刺突文。 胴部は沈線、縄文。	称
2-G	748	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口唇部稜有り。無文。	称?
2-G	749	-	口	暗褐	輝・角、小石	無文。	称?
2-G	750	-	口	橙	白粒、小石	無文。	称?
2-G	751	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、刺突文。	称
2-G	752	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文、刺突文。	称
2-G	753	-	口	鈍橙	白粒、小石	波頂部の突起が欠損。胴部は沈線文、充填縄文。	称
2-G	754	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線文。	称
2-G	755	-	胴	淡橙	輝・角	沈線、刺突文。	称
2-G	756	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文、刺突文。	称
2-G	757	-	胴	浅黄橙	輝・角	沈線文。	称
2-G	758	-	胴	鈍橙	輝・角	沈線文、刺突文。	称
2-G	759	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。	称
2-G	760	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石、粗砂	沈線文。	称
2-G	761	-	胴	淡黄	輝・角、小石、粗砂	沈線文、刺突文。	称
2-G	762	-	胴	灰白	輝・角、小石	沈線、刺突文。	称
2-G	763	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線文。	称
2-G	764	-	胴	黒褐	白粒、褐色粒、小石	平行沈線、短沈線状の刺突。	称
2-G	765	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文。	称
2-G	766	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文、刺突文。	称
2-G	767	-	胴	橙	赤色粒、輝・角	沈線文。	称
2-G	768	-	胴	黒褐	輝・角	沈線文、刺突文。	称
2-G	769	-	胴	浅黄橙	白粒、褐色粒	雨垂れ状刺突文。	称
2-G	770	-	胴	灰白	白粒、輝・角	沈線、刺突文。	称
2-G	771	-	胴	黒褐	輝・角	沈線文。	称
2-G	772	-	胴	灰黄	褐色粒、輝・角	沈線文。縄文部と無文部の交互構成。破片中 中央に刻みを入れた隆帯。	称
2-G	773	-	胴	灰白	輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	称
2-G	774	-	胴	鈍橙	赤色粒、輝・角、小石	沈線「J」字状文、充填縄文。	称
2-G	775	-	胴	鈍橙	石英、小石	沈線文、充填縄文。	称
2-G	776	-	胴	鈍橙	白粒、小石	沈線文。充填縄文部と無文部の交互構成。	称
2-G	777	-	胴	灰白	白粒、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	称
2-G	778	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角	平底、無文。端部突出。(底 9.2)	称?
2-G	779	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	称
2-G	780	-	口~胴	鈍橙	小石	貼付文 2 個。	称併?
2-G	781	-	胴	暗灰黄	輝・角	隆帯 2 条の上に沈線。	称
2-G	782	-	底	鈍橙	輝・角、小石	平底、無文。(底 13.6)	称

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
2-G	783	-	胴	黒	輝・角、小石	無文。	称?
2-G	784	-	底	浅黄橙	輝・角	やや上げ底、無文。(底 8.8)	称
2-G	785	-	胴	暗灰	輝・角、小石	無文。注口部の付け根部分。	称
2-G	786	浅鉢	口~底	淡橙~暗灰	白粒、輝・角	無文。平底。2/3 残存。(口 17.8、底 6.5、高 5.6)	称
2-G	787	-	口	淡橙	褐色粒、輝・角	鎖状隆帯、沈線文、刺突文。	称新
2-G	788	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線文。	称~堀 1 古
2-G	789	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線文。	称新~ 堀 1 古
2-G	790	-	底	淡橙	白粒、輝・角	平底、無文。	称~堀
2-G	791	-	底	鈍橙	白粒、輝・角	平底、無文。	称~堀 1
2-G	792	-	底	鈍黄橙	白粒、輝・角	平底、無文。端部突出。(底 11.2)	称~堀
2-G	793	-	胴	鈍橙・黒	白粒、輝・角	沈線文。	堀 1 古
2-G	794	-	胴	鈍黄橙・黒	白粒、輝・角、小石	沈線文。	堀 1 古
2-G	795	-	胴	淡橙	赤色粒、輝・角、小石	沈線文。	堀 1 古
2-G	796	-	胴	浅黄橙	褐色粒、輝・角	沈線文。	堀 1 古
2-G	797	-	口	浅黄橙	褐色粒、輝・角、石英	口縁部無文帯有り、以下縄文。	堀 1
2-G	798	-	口	暗褐	輝・角、小石	条線文。	堀 1
2-G	799	-	口	浅黄橙	輝・角、小石	条線文。	堀 1
2-G	800	-	突起	淡橙	白粒、輝・角	捻転状突起。正面刺突と刻みを有する隆帯、左右対称に刺突、沈線文。縄文。	堀 1
2-G	801	-	口	淡橙	輝・角	口唇部沈線、胴部縄文。	堀 1
2-G	802	-	口	浅黄橙	輝・角、小石	波状口縁。刺突、沈線文。胴部縄文、隆線。	堀 1
2-G	803	-	口	灰白	輝・角	口唇部に沈線。貼付文の欠落痕から斜位刻みを入れた隆帯垂下。胴部沈線区画、区画内縄文。	堀 1
2-G	804	-	突起	浅黄橙	輝・角、小石	突起正面は渦巻状、両脇の円形刺突と連係して口唇部に沈線。外面突起部下の円形刺突から斜位刻み入りの隆帯垂下、両側に沈線文。	堀 1
2-G	805	-	口	灰黄	白粒、輝・角	口唇部沈線間に刺突列。胴部縄文。	堀 1
2-G	806	-	突起	浅黄橙	輝・角、小石	突起部下は弧状沈線文、円形刺突と繋がる沈線間に刺突列。胴部縄文。	堀 1
2-G	807	-	突起	橙	石英、黒雲母、小石	上面に沈線。正面縁に刻み、中心に渦巻文。胴部は縄文。	堀 1 併
2-G	808	-	突起	鈍黄橙	石英、輝・角、小石	口縁部円形刺突 2 個、太沈線。胴部縄文、細沈線。	堀 1
2-G	809	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口縁部横位太沈線、胴部細沈線文。	堀 1
2-G	810	-	口	淡橙	輝・角、小石	口唇部内屈。沈線コンパス文、微かに縄文。	堀 1
2-G	811	-	口	浅黄橙	輝・角	沈線、磨消縄文。	堀 1
2-G	812	-	突起	浅黄橙	輝・角、小石	口縁部刺突、沈線。胴部縄文、隆線。	堀 1
2-G	813	-	口	暗赤褐	石英、小石	口唇部に刻み状の押圧。胴部縄文。	堀 1
2-G	814	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	横位沈線口唇部 2 条、口縁部 1 条。	堀 1
2-G	815	-	口	暗灰黄	輝・角、小石、粗砂	沈線。	堀 1
2-G	816	-	口	暗赤褐	輝・角、小石	緩やかな波状口縁、刺突、沈線文。	堀 1
2-G	817	-	口	淡橙	生殖粒、輝・角、小石	口唇部内屈、胴部無文。	堀 1
2-G	818	-	口	黒灰	輝・角	口唇部沈線。胴部無文。	堀 1
2-G	819	-	口	淡橙	輝・角、小石	口唇部沈線。胴部無文。	堀 1
2-G	820	-	口	鈍橙	輝・角、小石	口縁部内屈。	堀 1
2-G	821	-	口	淡橙	輝・角、小石	口唇部円形押圧列、太沈線。	堀 1
2-G	822	-	口	暗灰	輝・角	突起部正面縦位沈線、刺突と連係する沈線。	堀 1
2-G	823	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	無文。	堀 1
2-G	824	-	口	鈍橙	輝・角、小石	口縁部内屈、口唇部上面に沈線。	堀 1
2-G	825	-	口	淡橙	輝・角、小石	口唇部太沈線。	堀 1
2-G	826	-	口	浅黄橙	白粒、石英、小石	口唇部内屈。強い横撫で。	堀 1
2-G	827	-	口	淡橙	輝・角、小石、粗砂	口唇部両面に沈線、刺突。	堀 1
2-G	828	-	口	暗灰	輝・角	隆線、条線文。	堀 1
2-G	829	-	口	浅黄橙	輝・角	鎖状隆帯、以下条線文。	堀 1
2-G	830	-	口	灰	輝・角	無文。	堀 1
2-G	831	-	突起~胴	灰褐	白粒、小石	環状突起、貫通孔両側に刺突、沈線。括れ部に沈線、「8」字状貼付文。	堀 1
2-G	832	-	口	鈍黄橙	輝・角	口唇部内側にやや突出。「8」字状貼付文と連係する横位沈線。	堀 1
2-G	833	-	口	淡橙	輝・角、小石	沈線区画。「8」字状貼付文。	堀 1
2-G	834	-	口	淡い橙	白粒、輝・角	2 ないし 4 単位の条線文。	堀 1

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
2-G	835	-	口	灰黄褐	輝・角、小石	無文。	堀1
2-G	836	-	口	淡橙	赤色粒、輝・角	円形刺突、沈線2条。	堀1
2-G	837	-	口	浅黄橙	輝・角、小石、粗砂	無文。	堀1
2-G	838	-	口	橙	石英、輝・角、小石	口唇部肥厚。口縁部沈線2条。	堀1
2-G	839	-	口	鈍橙	輝・角、小石	口唇部肥厚、上面沈線。胴部微かに縄文。	堀1
2-G	840	-	突起	鈍黄橙	白粒、輝・角	突起部下に貫通孔。無文。	堀1?
2-G	841	-	突起	浅黄橙	輝・角	内面に環状貼付文、刺突、沈線。	堀1
2-G	842	-	口	橙	輝・角、金雲母(少)	瘤状突起。沈線文。	堀1
2-G	843	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	環状貼付文から下に鎖状隆帯、横に沈線。	堀1
2-G	844	-	胴	灰	輝・角	括れ部横位沈線、以下縄文。「8」字状貼付文から鎖状隆帯が垂下。	堀1
2-G	845	-	胴	鈍黄橙	輝・角	環状貼付文から鎖状隆帯垂下。	堀1
2-G	846	-	胴	鈍黄橙	白粒、小石	沈線文、充填縄文。	堀1
2-G	847	-	胴	灰白	赤色粒、石英、小石	括れ部2条の沈線と刺突文。「8」字状貼付文の下に沈線文。磨消縄文。	堀1
2-G	848	-	胴	淡橙	赤色粒、輝・角、小石	沈線文、微かに縄文。	堀1
2-G	849	-	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、微かに縄文。	堀1
2-G	850	-	胴	暗灰	輝・角	刺突、沈線文。区画内3単位の刻み状飾描文。	堀1
2-G	851	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文、充填縄文。	堀1
2-G	852	-	胴	暗褐	輝・角、小石	縄文、沈線文。	堀1
2-G	853	-	胴	灰黄	褐色粒、輝・角	上から沈線2条、刺突列、沈線、縄文。	堀1
2-G	854	-	胴	浅黄橙	輝・角	縄文、沈線文。破片上部に円形刺突、横位沈線。	堀1
2-G	855	-	胴	暗灰黄	赤色粒、輝・角、小石	縄文、沈線文。859と同一個体か。	堀1
2-G	856	-	胴	浅黄橙	赤色粒、輝・角、小石	沈線文、磨消縄文。	堀1
2-G	857	-	胴	暗灰黄	輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	堀1
2-G	858	-	胴	鈍黄橙	赤色粒、輝・角、粗砂	沈線文、充填縄文。	堀1
2-G	859	-	胴	黒褐	赤色粒、輝・角、小石	縄文、沈線文。855と同一個体か。	堀1
2-G	860	-	胴	橙	赤色粒、輝・角、小石	沈線文、微かに縄文。	堀1
2-G	861	-	胴	灰白	白粒、輝・角	縄文、沈線文。	堀1
2-G	862	-	胴	橙	白粒、輝・角	沈線。	堀1
2-G	863	-	胴	灰褐	輝・角	条線文。	堀1
2-G	864	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線、縄文。	堀1
2-G	865	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	条線文。	堀1
2-G	866	-	胴	灰黄	赤色粒、輝・角	条線文。	堀1
2-G	867	-	胴	灰黄	褐色粒、輝・角	条線文。	堀1
2-G	868	-	胴	鈍橙	白粒、赤色粒、輝・角	条線文。	堀1
2-G	869	-	胴	橙	白粒、赤色粒、小石	条線文。	堀1
2-G	870	-	胴	浅黄橙	赤色粒、輝・角	沈線文。	堀1
2-G	871	-	胴	淡橙	褐色粒、輝・角	平行沈線、間に沈線波状文。	堀1
2-G	872	-	胴	暗灰黄	輝・角、小石	縄文、隆帯。	堀1?
2-G	873	-	胴	灰黄	輝・角、小石	縄文。	堀1
2-G	874	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	条線文。	堀1
2-G	875	-	胴	灰	白粒、輝・角	縄文。	堀1?
2-G	876	-	胴	黒灰	白粒、輝・角	縄文。	堀1
2-G	877	-	胴	鈍橙	輝・角	無文。	堀1?
2-G	878	-	胴	淡橙	赤色粒、輝・角	条線文。	堀1
2-G	879	-	胴	鈍黄橙	輝・角	縄文。	堀1?
2-G	880	-	胴	鈍橙	輝・角、粗砂	条線文。	堀1
2-G	881	-	胴	黒褐	白粒、輝・角	条線文。	堀1?
2-G	882	-	胴	鈍褐	輝・角、小石	条線文。	堀1
2-G	883	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	無文。	堀1?
2-G	884	-	胴	灰褐	褐色粒、輝・角	条線文。	堀1
2-G	885	深鉢	底欠	鈍橙	白粒、輝・角、小石	3単位沈線で直線、曲線を組み合わせる文様。一部充填縄文。(口20.5)	堀1新
2-G	886	-	口~胴	浅黄橙	白粒、輝・角	口唇部横位隆帯。胴部微隆起線文、交点に円形刺突文。(口15.8)	堀1新
2-G	887	-	胴	暗灰	輝・角	縄文、沈線文。	堀1新
2-G	888	-	胴	黒褐	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	堀1新
2-G	889	-	胴	黒褐	輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	堀1新
2-G	890	-	胴	淡橙	白粒、赤色粒、輝・角、小石	沈線文、縄文部と無文部の交互構成。	堀1新
2-G	891	-	胴	橙	輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	堀1新
2-G	892	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	堀1新
2-G	893	-	底	黒褐	白粒、輝・角	平底、無文。端部やや突出。	堀1・ 2
2-G	894	-	口	浅黄橙	輝・角	沈線文。	堀2

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
2-G	895	深鉢	口～胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部下半に微かに縄文。胴部沈線文。(口22.8)	堀2
2-G	896	-	口～底	浅黄橙	白粒、輝・角	口縁部横位隆帯2条。やや上げ底で端部突出、網代痕。1/4残存。(口14.8、底7.0、高14.8)	堀2
2-G	897	-	胴	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	堀2
2-G	898	-	口～胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	堀2
2-G	899	深鉢	上半	灰黄	輝・角	口縁部鎖状隆帯。胴部沈線幾何学文、充填縄文部と無文部の交互構成。(口22.0)	堀2
2-G	900	-	口	鈍黄橙	赤色粒、輝・角	口縁部細い鎖状隆帯2段。胴部沈線幾何学文、充填縄文。煤付着。	堀2
2-G	901	-	口～胴	灰褐	輝・角、小石	「8」字状貼付文から横へ刻みを持つ隆帯。胴部沈線文。	堀2
2-G	902	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	縄文、沈線文。刺突に連係する鎖状隆帯。	堀2
2-G	903	-	口	黒褐	輝・角、小石	鎖状隆帯、沈線文、充填縄文。	堀2
2-G	904	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	細い鎖状隆帯。胴部沈線文。	堀2
2-G	905	-	口	鈍黄橙	輝・角	口唇部内屈。鎖状隆帯。	堀2
2-G	906	-	口	鈍黄橙	輝・角	横位・縦位の鎖状隆帯。下に沈線。	堀2
2-G	907	-	口	鈍橙	輝・角	沈線文、充填縄文。	堀2
2-G	908	-	口	鈍黄橙	赤色粒、輝・角	「8」字状貼付文と連係する2段の鎖状隆帯。	堀2
2-G	909	-	突起	黒褐	輝・角	突起部上面、内面に刺突。正面に貫通孔と細い鎖状隆帯。	堀2
2-G	910	-	突起	黒灰	白粒、輝・角	口唇部沈線。突起部下に「8」字状貼付文、内面に縦位沈線、刺突文。	堀2
2-G	911	-	胴	鈍黄橙	石英、輝・角、小石	沈線文。	堀2
2-G	912	-	胴	鈍黄橙	赤色粒、輝・角、小石	縄文、沈線文。	堀2
2-G	913	-	胴	暗灰	白粒、輝・角、小石	沈線渦巻文、充填縄文。	堀2
2-G	914	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	条線、沈線文。	堀2?
2-G	915	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文、充填縄文。	堀2
2-G	916	-	胴	鈍橙	石英、輝・角、小石	沈線文。	堀2
2-G	917	-	胴	黒褐	白粒、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。918と同一個体か。	堀2
2-G	918	-	胴	暗褐	白粒、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。917と同一個体か。	堀2
2-G	919	-	胴	暗灰	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	堀2
2-G	920	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	堀2
2-G	921	-	胴	暗灰	輝・角	沈線文、充填縄文。	堀2
2-G	922	-	口	鈍橙	白粒、小石	口唇部内側に突出。口唇部・突起部上面に沈線文。外面括れ部に横位沈線。	堀2
2-G	923	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	堀2
2-G	924	-	口	暗灰黄	白粒	波頂部、「8」字状貼付文の痕跡。沈線幾何学文、節の細かい縄文。	堀2
2-G	925	-	口	暗灰褐	白粒、輝・角	条線文。	堀
2-G	926	-	口	淡橙	輝・角、小石	無文。	堀?
2-G	927	-	口	淡橙	輝・角	隆帯・沈線区画、区画内縄文。	堀?
2-G	928	-	脚部?	暗灰	白粒、輝・角	無文。煤付着。内面の整形はやや雑。	堀?
2-G	929	-	底	鈍黄橙	白粒、輝・角	僅かに上げ底。底面に網代痕あり。(底10.6)	堀
2-G	930	-	底	橙	白粒、赤色粒、小石	平底、無文。端部突出。(底7.8)	堀
2-G	931	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角	無文。端部突出。	堀
2-G	932	-	口	暗褐	輝・角、小石、粗砂	無文。(口21.2)	後期?
2-G	933	-	口	淡橙	金雲母、小石	口唇部上面平ら。2条の隆帯でできた溝をまたぐ橋状突起。	堀?
2-G	934	-	胴	暗褐	白粒、輝・角	条線文。	堀1
2-G	935	-	胴	鈍黄橙	輝・角	ランダムな細沈線。	後期
2-G	936	手捏	完形	鈍黄橙	白粒、輝・角	手捏ね、平底、無文。底部に煤付着。(口4.8、底3.7、底3.3)	後期
2-G	937	-	上半	黒褐	白粒、輝・角	環状突起、上面に刺突。口縁部刺突に連係する沈線。胴部横位沈線、沈線文。	B1
2-G	938	-	胴	黒褐	白粒、輝・角	沈線文。	B1
2-G	939	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	口唇部に縄文、沈線。無文帯の下に細い鎖状隆帯。胴部に斜位沈線文。	B1
2-G	940	-	胴	鈍橙	白粒、小石	横位・斜位沈線。	B1
2-G	941	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	B1?
III-G	942	-	底	橙	白粒、小石	平底、縄文。(底8.2)	E I ~ II

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
III-G	943	-	底	淡橙	赤色粒、小石	平底、無文。(底 11.1)	E I ~ II
III-G	944	-	口	淡橙	赤色粒、輝・角	2条の沈線間に鎖状刺突。	E II 併
III-G	945	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	E II
III-G	946	-	口	暗赤褐	白粒、輝・角、小石	隆帯区画、渦卷文。区画内縄文。954と同一個体の可能性有り。	E II
III-G	947	-	胴	橙	赤色粒、輝・角	縄文後、沈線波状文。948~950と同一個体か。	E II
III-G	948	-	胴	橙	赤色粒、輝・角	縄文後、3単位縦位沈線。	E II
III-G	949	-	胴	橙	赤色粒、輝・角	縄文後、3単位縦位沈線。	E II
III-G	950	-	胴	橙	赤色粒、輝・角	縄文後、3単位縦位沈線。	E II
III-G	951	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	縄文後、平行沈線、波状沈線。	E II
III-G	952	-	胴	灰黄	白粒、輝・角	縄文、沈線文。	E II
III-G	953	-	胴	暗褐	白粒、輝・角	縄文。隆帯による区分	E II
III-G	954	-	口	暗赤褐	白粒、輝・角、小石	隆帯区画、文様。区画内縄文。	E II
III-G	955	-	胴	灰褐	白色粒、輝石・角閃石	頸部無文帯の下、縄文後隆帯貼付。	E II
III-G	956	-	底	淡橙	白・赤色粒、石英、小石	平底、無文。(底 9.8)	E II ?
III-G	957	-	底	灰白	白粒、輝・角	平底。無文。端部やや突出。(底 7.3)	E II ~ III
III-G	958	-	口	灰白	石英、輝・角、小石	隆帯区画、区画内縄文。	E III
III-G	959	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	E III
III-G	960	-	口	灰黄褐	輝・角、小石	波状口縁、口唇部沈線、内側に稜有り。胴部沈線文。	E III
III-G	961	-	口	灰黄	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	E III
III-G	962	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	口唇部肥厚。胴部縄文。	E III
III-G	963	-	口	灰褐	白粒、輝・角、粗砂	口唇部肥厚。口縁部隆線。胴部縄文。	E III
III-G	964	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	口唇部肥厚。口縁部隆帯。胴部縄文。	E III
III-G	965	-	口	浅黄橙	褐色粒、輝・角、粗砂	隆帯区画、区画内縄文。	E III
III-G	966	-	胴	黒灰	白粒、輝・角	微隆起線で充填縄文部と無文部を区画。	E III
III-G	967	-	胴	暗灰	白粒、輝・角、小石	隆帯文、縄文。	E III
III-G	968	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	平行沈線。縄文部と無文部の交互構成。	E III
III-G	969	-	胴	明黄褐	白粒、小石	平行沈線、充填縄文。	E III
III-G	970	-	胴	灰	白粒、輝・角	沈線文。微かに充填縄文。	E III
III-G	971	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	底部付近で先細りの隆帯。	E III
III-G	972	-	底	鈍黄橙	輝・角、小石	無文。(底 14.2)	E III
III-G	973	-	底	淡橙	輝・角、小石	平底、無文。(底 8.3)	E III - IV
III-G	974	-	口	鈍赤褐	白粒、輝・角、小石	口唇部肥厚、内側に稜有り。口縁部隆帯。	E IV
III-G	975	-	胴	鈍橙	赤色粒、輝・角、小石	隆線文。	E IV
III-G	976	-	胴	淡橙	白粒、石英、小石	隆線垂下。	E IV
III-G	977	-	脚部	淡橙	白粒、小石	無文。	中期後
III-G	978	-	底	淡橙	白粒、輝・角	平底。無文。(底 6.8)	中期
III-G	979	-	底	灰黄褐	白粒、輝・角	平底、無文。(底 7.9)	中期
III-G	980	-	口	暗灰	白粒、輝・角、小石	横位隆線。	E IV
III-G	981	-	口~胴	灰黄褐	白粒、小石	口縁部横位、胴部縦位の隆線文。内面橙色。	E IV ~ 称
III-G	982	-	突起~胴	鈍橙	石英、輝・角、小石	波頂部中央に貫通孔、胴部は沈線間に縄文。	称
III-G	983	-	口	鈍橙	白粒、輝・角小石	無文。	称?
III-G	984	-	胴	鈍橙・黒	白粒、輝・角、小石	微隆起線で充填縄文部と無文部を区画。	E IV ~ 称
III-G	985	-	口	灰褐	白粒、輝・角、小石	口縁部横位微隆起線。	E IV ~ 称
III-G	986	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	無文。	称
III-G	987	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	称
III-G	988	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	口縁部縄文、胴部沈線文。	堀 1
III-G	989	-	口	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	横位沈線、その下縄文。	称
III-G	990	-	口~胴	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線文、刺突文。	称
III-G	991	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口縁部沈線。胴部沈線文。	称
III-G	992	-	口	鈍橙	赤色粒、輝・角	胴部沈線幾何学文様。文様内微かに縄文。	称
III-G	993	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	口縁部沈線。胴部沈線文。	称
III-G	994	-	口	鈍黄橙	白粒、石英、輝・角	口唇部肥厚、上面に刺突と沈線。胴部沈線文、刺突文。	称
III-G	995	-	口~胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口唇部内屈、鋭い稜有り。外面沈線文、区画内刺突文。1007と同一個体か。	称
III-G	996	-	口	黒灰	白粒、輝・角、小石	口唇部斜位刺突列の下に沈線。	称?

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
III-G	997	-	口	浅黄橙	白粒、金雲母、小石	口縁部2条の沈線の間に凹形刺突列。	称?
III-G	998	-	口	黒灰	白粒、小石	口唇部2条沈線、間に竹筴刺突文。	称
III-G	999	-	口	灰黄	白粒、輝・角	口唇部稜有り。凹形刺突文。	称
III-G	1000	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線、刺突文。	称
III-G	1001	-	口	淡橙	赤色粒、輝・角、小石	波状口縁。口縁部沈線で区画、区画内刺突文。	称
III-G	1002	-	口~胴	鈍橙	白・褐粒、輝・角、小石	口縁部沈線2条。胴部沈線文。	称
III-G	1003	-	口	黒灰	白粒、輝・角、小石	口縁部沈線間に刺突列。	称
III-G	1004	-	口	淡橙	輝・角、小石	口唇部沈線。口縁部刺突入り隆帯区画、区画内沈線。	称
III-G	1005	-	口	浅黄橙	白色粒、輝石・角閃石	内外面に隆帯巡る。	
III-G	1006	-	口	浅黄橙	輝・角、小石	口唇部刻みと沈線。波頂部から刻みを入れた隆帯垂下。	称
III-G	1007	-	突起	鈍黄橙	白粒、石英、輝・角	基部外面は沈線、刺突文。内面は突出し、鋭い稜を持つ。995と同一個体か。	称
III-G	1008	-	突起~胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	半環状突起か。口唇部凹形刺突と連係する沈線。胴部無文。	称
III-G	1009	-	胴	灰褐	白粒、輝・角	沈線文。充填縄文部と無文部の交互構成。	称
III-G	1010	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	称
III-G	1011	-	胴	鈍橙	赤色粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	称
III-G	1012	-	胴	灰褐	白・赤色粒、石英、輝・角	沈線文。縄文部と無文部の交互構成。1013・1024と同一個体か。	称
III-G	1013	-	胴	灰褐	白・赤色粒、石英、輝・角	沈線文。縄文部と無文部の交互構成。1012・1024と同一個体か。	称
III-G	1014	-	胴	黒灰	白粒、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	称
III-G	1015	-	胴	灰白	白粒、輝・角、小石	沈線文。	称
III-G	1016	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	堀1
III-G	1017	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、充填縄文部と無文部の交互構成。	称
III-G	1018	-	胴	鈍褐	白粒、輝・角、小石	沈線文、縄文。	称
III-G	1019	-	胴	黒褐	輝・角、小石	微隆起線沿いに凹形刺突文、下に沈線文、充填縄文。	称
III-G	1020	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文。	称
III-G	1021	-	胴	鈍橙	白粒、石英、輝・角	沈線渦巻文。充填縄文。	称
III-G	1022	-	胴	鈍橙	輝・角	平行沈線、充填縄文。	称
III-G	1023	-	胴	鈍橙	白粒、石英、小石	沈線文。	称
III-G	1024	-	胴	灰褐	白・赤色粒、石英、輝・角	沈線文。縄文部と無文部の交互構成。1013・1012と同一個体か。	称
III-G	1025	-	胴	橙	白・褐粒、輝・角、小石	沈線文。	称
III-G	1026	-	胴	黒灰	白粒、輝・角、小石	沈線文、雨垂れ状刺突文。1037と同一個体の可能性有り。	称
III-G	1027	-	胴	灰黄褐	白粒、石英、輝・角	沈線文、刺突文。	称
III-G	1028	-	胴	淡橙	褐色粒、輝・角、小石	沈線文、雨垂れ状刺突文。	称
III-G	1029	-	胴	灰	褐色粒、輝・角	沈線文、竹筴斜位刺突文。	称
III-G	1030	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文、雨垂れ状刺突文。	称
III-G	1031	-	胴	灰	白粒	沈線文、竹筴斜位刺突文。	称
III-G	1032	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文、刺突文。	称
III-G	1033	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	平行沈線垂下。雨垂れ状刺突文。	称
III-G	1034	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	平行沈線垂下。雨垂れ状刺突文。	称
III-G	1035	-	胴	浅黄橙	赤色粒、石英、小石	沈線文、雨垂れ状刺突文。	称
III-G	1036	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	平行沈線、雨垂れ状刺突文。	称
III-G	1037	-	胴	黒褐	白粒、輝・角	沈線文、雨垂れ状刺突文。1026と同一個体か。	称
III-G	1038	-	胴	灰白	輝・角、小石	沈線文、刺突文。	称
III-G	1039	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文。煤付着。	称
III-G	1040	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	微かに沈線文の痕跡。左上に貼付文の一部。	称
III-G	1041	-	口~胴	暗灰	輝・角、小石	交点に刺突を入れた隆線文。円孔は注口部か。	堀1
III-G	1042	-	胴	淡橙	輝・角、小石	環状突起。刺突列、沈線文。円形に調整した印象有り、他に転用か。	称
III-G	1043	-	突起?	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	手捏ねのミニチュア土器?	?
III-G	1044	-	底	淡橙	白粒、輝・角。	平底。(底8.6)	称-堀
III-G	1045	-	底	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	平底、無文。(底8.2)	称-堀
III-G	1046	-	底	橙	白粒	平底。(底8.3)	称-堀
III-G	1047	-	底	浅黄橙	輝・角	平底、無文。(底7.8)	称-堀
III-G	1048	-	胴~底	橙	輝・角、小石、粗砂	無文。(底8.7)	称-堀
III-G	1049	-	口~胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	口唇部稜有り。胴部沈線間に刺突文。	称-堀 1古

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
III-G	1050	-	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	刺突施文部と無文部を沈線で区画。1051と同一個体と思われる。	称-堀1古
III-G	1051	-	胴	淡橙	白粒、小石	刺突施文部と無文部を沈線で区画。1050と同一個体か。	称-堀1古
III-G	1052	-	口	灰黄	褐色粒、石英、小石	口唇部に刻み状の押圧。胴部は沈線文、刺突文。	堀1古
III-G	1053	-	口	橙	白粒、石英、小石	口唇部に刻み状の押圧。	堀1古
III-G	1054	-	口	淡橙	赤色粒、輝・角	口唇部円形刺突、沈線。胴部沈線文。	堀1古
III-G	1055	-	突起	明黄褐	白粒、石英、小石	波頂部に刺突、口唇部上面に沈線。胴部沈線文。	堀1古
III-G	1056	-	口	灰黄	白粒、輝・角	口唇部に円形抉り穴、沈線。胴部沈線文。 1060と同一個体と思われる。	堀1古
III-G	1057	-	口	鈍黄橙	白粒、褐色粒、輝・角	口唇部に点線、円形刺突。胴部沈線文、刺突文。	堀1古
III-G	1058	-	口	淡橙	石英、小石	口唇部に沈線。	堀1古
III-G	1059	-	口	浅黄橙	輝・角、小石	口唇部に隆帯で囲んだ円形刺突と連係する沈線。	堀1古
III-G	1060	-	口	暗灰	白粒、輝・角	口唇部に円形抉り穴、沈線。胴部沈線文。 1056と同一個体と思われる。	堀1古
III-G	1061	-	口~胴	鈍黄橙	白粒、石英、輝・角	口唇部内屈。胴部沈線文。	堀1古
III-G	1062	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	括れ部に2条の横位沈線、間に刺突文。	堀1古
III-G	1063	-	突起	浅黄橙	輝・角	貫通孔の周囲に沈線文。	堀1古
III-G	1064	-	口	鈍橙	褐色粒、輝・角	口唇部上面に沈線。胴部沈線文。	堀1古
III-G	1065	-	胴	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	縄文、沈線。	堀1古
III-G	1066	-	胴	灰黄褐	輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	堀1古
III-G	1067	-	胴	黒灰	石英、輝・角、小石	沈線文。	堀1古
III-G	1068	-	胴	橙	輝・角	沈線3条、「8」字状貼付文。	堀1古
III-G	1069	-	胴	淡橙	白粒、輝・角、粗砂	沈線文。	堀1古
III-G	1070	-	胴	黒褐	白粒、輝・角、小石	沈線文、爪形文。	堀1古
III-G	1071	-	胴	灰黄	褐色粒、輝・角、小石	沈線文。	堀1古
III-G	1072	-	胴	淡橙	白・褐粒、輝・角、小石	沈線文。	堀1古
III-G	1073	-	胴	灰黄褐	白・赤粒、輝・角、粗砂	沈線文。	堀1古
III-G	1074	-	胴	灰黄	白粒、輝・角、小石	無文。煤付着。	堀1古
III-G	1075	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文。	堀1古
III-G	1076	-	胴	橙	輝・角、小石	沈線文。沈線間に鎖状刺突文。	堀1古
III-G	1077	-	胴	暗灰黄	白粒、輝・角、小石	沈線文。	堀1古
III-G	1078	-	胴	明黄褐	白粒、輝・角、小石	沈線文。	堀1古
III-G	1079	-	口~胴	橙	白粒、輝・角	口唇部沈線、円形刺突文。胴部沈線、磨消縄文。	堀1
III-G	1080	-	口~胴	暗灰褐	白粒、輝・角	口縁部横位沈線。胴部縄文、沈線文。	堀1
III-G	1081	-	口	鈍橙	白粒、石英、輝・角	口唇部肥厚。縄文、沈線文、刺突文。	堀1
III-G	1082	-	口	灰白	輝・角	沈線文、刺突文、充填縄文。	堀1
III-G	1083	-	口	淡橙	白粒、石英、輝・角	口唇部沈線。胴部縄文、沈線垂下。	堀1
III-G	1084	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	縄文、沈線文。内面に横位沈線。	堀1
III-G	1085	-	口	鈍黄橙	石英、輝・角	口唇部沈線。胴部縄文、条線文。	堀1
III-G	1086	-	口	淡橙	白粒、小石	口唇部肥厚、沈線。胴部縄文。	堀1
III-G	1087	-	口	灰黄	白粒、輝・角	無文。	堀1
III-G	1088	-	口	橙	白粒、小石	口唇部上面は円形刺突、沈線。口縁部は刺突文を入れた隆帯区画。	堀1
III-G	1089	-	口	淡橙	白粒、輝・角、小石	刺突列を施す隆帯と沈線による区画、区画内縄文。	堀1
III-G	1090	-	口	淡橙	赤色粒、輝・角、小石	口縁部2条の沈線の間に方形刺突列。	堀1
III-G	1091	-	口	灰	白粒、小石	沈線区画、区画内と区画間に竹筴斜位刺突。	堀1
III-G	1092	-	口	淡橙	褐色粒、輝・角、小石	口唇部沈線間に鎖状隆帯。胴部沈線文、刺突文。	堀1
III-G	1093	-	口	浅黄橙	輝・角、小石	波状口縁。沈線文、刺突文。	堀1
III-G	1094	-	口	浅黄橙	輝・角	突起部円形刺突。口縁部沈線区画。	堀1
III-G	1095	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口唇部沈線間に鎖状隆帯。	
III-G	1096	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口唇部沈線2条。	堀1
III-G	1097	-	口	橙	褐色粒、小石	沈線区画、区画内縄文。区画間に刺突文。	堀1
III-G	1098	-	口~胴	鈍黄橙	赤色粒、輝・角	口縁部円形刺突と沈線。胴部沈線文。	堀1
III-G	1099	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部円形刺突2個、沈線。胴部微かに沈線。	堀1
III-G	1100	-	口	浅黄橙	褐色粒、輝・角	突起部円形刺突。口縁部沈線。	堀1
III-G	1101	-	口~胴	灰白	赤色粒、石英、小石	口縁部円形刺突と沈線。胴部沈線文、間に鎖状刺突列。	堀1
III-G	1102	-	口	灰黄	白粒、輝・角	口唇部円形刺突と沈線。胴部沈線間に刺突文。	堀1
III-G	1103	-	口	暗灰	白粒、小石	口縁部円形刺突と沈線。	堀1
III-G	1104	-	突起・口	灰白	金雲母、白粒、小石	突起基部に円形刺突。口縁部沈線区画。	堀1
III-G	1105	-	口	暗灰褐	石英、輝・角、小石	口唇部肥厚。口縁部刺突と連係する沈線。胴部無文。	堀1
III-G	1106	-	口	浅黄橙	褐色粒、輝・角	口縁部太沈線。胴部刺突文?	堀1

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
III-G	1107	-	突起	灰黄	白粒、輝・角	口唇部円形刺突と連係する沈線。胴部刺突文。	堀1
III-G	1108	-	口	橙	石英、小石	口唇部沈線。胴部縄文、太沈線垂下。	堀1
III-G	1109	-	口	赤褐	白粒、小石	口唇部沈線。胴部縦位沈線。	堀1
III-G	1110	-	口	鈍黄橙	白粒、小石	沈線文。	堀1
III-G	1111	-	口	浅黄橙	白粒、小石	口唇部円形刺突と連係する沈線。胴部沈線。	堀1
III-G	1112	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文。	堀1
III-G	1113	-	口	浅黄橙	白粒、褐色粒、輝・角	口唇部沈線。胴部円形刺突文。	堀1
III-G	1114	-	口	灰褐	白粒、小石	口縁部円形刺突列。	堀1
III-G	1115	-	口	灰褐	白粒、輝・角、小石	口唇部刻み状押圧。	称
III-G	1116	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	口唇部円形刺突文2個。	堀1
III-G	1117	-	口	鈍橙	白粒、小石	口唇部円形刺突と連係する沈線。胴部沈線。	堀1
III-G	1118	-	突起	黄橙	赤色粒、輝・角、小石	波頂部中央に貫通孔、円形刺突、左右に沈線文。 口縁沈線間に鎖状刺突文。	称
III-G	1119	-	突起	灰	白粒、輝・角、小石	沈線文、竹管刺突文。	堀1
III-G	1120	-	突起	橙	白粒、小石	波頂部下に円形刺突を囲む沈線文、口唇部に 円形刺突と沈線。胴部縦位隆線。	堀1
III-G	1121	-	突起	鈍黄橙	石英、輝・角、小石	波頂部沈線弧線文、刺突文と連係する沈線。 胴部微かに縄文、沈線。	堀1
III-G	1122	-	口	鈍黄橙	白粒、石英、輝・角	波状口縁。口縁部に刺突と沈線。波頂部刺突 に連係した刻みの入る隆帯が垂下。	堀1
III-G	1123	-	突起	浅黄橙	白粒、輝・角	波頂より左右に沈線弧線文、刺突文と連係す る沈線。	堀1
III-G	1124	-	口	浅黄橙	白粒、褐色粒、輝・角	口唇部上面に沈線。胴部沈線文。	堀1
III-G	1125	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	口縁部横位沈線、胴部条線。	堀1
III-G	1126	-	口	淡橙	白粒、輝・角、小石	口縁部太沈線。胴部縦位沈線。	堀1
III-G	1127	-	口~胴	淡橙	白粒、石英、小石	口縁部太沈線。胴部平行沈線。	堀1
III-G	1128	-	口~胴	鈍橙	輝・角、小石	口縁部内外面に沈線巡る。胴部無文。	堀1
III-G	1129	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部に沈線巡り、円形押圧痕2個。	堀1
III-G	1130	-	口	灰黄	白粒、輝・角、小石	口唇部太沈線。	堀1
III-G	1131	-	口	浅黄橙	赤色粒、輝・角、小石	口唇部沈線。	堀1
III-G	1132	-	口	灰黄	白粒、輝・角	口唇部沈線。	堀1
III-G	1133	-	口~胴	浅黄橙	輝・角	口唇部沈線。胴部粗い撫で。	堀1
III-G	1134	-	口~胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	波状口縁、口唇部円形刺突と沈線。胴部無文。	堀1
III-G	1135	-	口	鈍橙	白粒、石英、小石	口唇部沈線。	堀1
III-G	1136	-	口	淡橙	赤色粒、輝・角	無文。	堀1
III-G	1137	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	口唇部円形刺突、沈線。	堀1
III-G	1138	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	口唇部沈線。	堀1
III-G	1139	-	口	灰白	白粒、輝・角	口唇部沈線。	堀1
III-G	1140	-	口	灰	白粒、輝・角	波状口縁、波頂部内面に円形穿孔。口縁部に 隆帯巡る。	堀1
III-G	1141	-	突起	橙	褐色粒、小石	波頂部下に円形孔、口唇部に円形刺突と連係 する沈線。	堀1
III-G	1142	-	口	黒	輝・角、小石	波状口縁頂部下に貫通孔、口唇部刺突、沈線。	堀1
III-G	1143	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	口唇部両面に横位沈線。	堀1
III-G	1144	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口唇部沈線。	堀1
III-G	1145	-	口	鈍黄橙	輝・角	口唇部沈線、刺突。	堀1
III-G	1146	-	突起	鈍赤褐	白粒、小石	環状突起、上面に刺突と連係する沈線。外面 は無文。	堀1
III-G	1147	-	口	鈍橙	白粒、輝・角	口縁部は連続して三日月状に削り取る文様。 胴部は無文。	堀1
III-G	1148	-	口	鈍黄橙	輝・角、小石	無文。胴部粗い撫で。	堀1
III-G	1149	-	口	浅黄橙	赤色粒、輝・角、小石	円形刺突入り貼付文、沈線2条。	堀1
III-G	1150	-	口	灰白	輝・角	口唇部沈線。胴部粗い撫で。	堀1
III-G	1151	-	口	橙	白粒、小石、粗砂	無文。	堀1
III-G	1152	-	口	暗灰褐	白粒、輝・角	口唇部尖る。無文。	堀1
III-G	1153	-	口	赤褐	白粒、輝・角、小石	上下に刺突を入れた貼付文。胴部は沈線文。 煤付着。	堀1
III-G	1154	-	突起	灰白	白粒、小石	突起部中央に穴、下部欠落。口唇部刺突・沈線。	堀1
III-G	1155	-	口	鈍橙	輝・角、小石	口唇部上面に刺突3個。	堀1?
III-G	1156	-	口~胴	黒灰	輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	堀1
III-G	1157	-	胴	黒褐	白粒、輝・角	沈線文。文様内微かに縄文。	堀1

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
III-G	1158	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	刺突を持つ貼付文を囲む沈線文。その外側に目の細かい縄文。	堀1
III-G	1159	-	胴	浅黄橙	白粒、褐色粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	堀1
III-G	1160	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。	堀1
III-G	1161	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。縄文。	堀1?
III-G	1162	-	胴	鈍赤褐・黒灰	白粒、輝・角、小石	沈線文、縄文。	堀1
III-G	1163	-	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線文、微かに縄文。	堀1
III-G	1164	-	胴	橙	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	堀1
III-G	1165	-	胴	橙	輝・角、小石	竹管刺突、沈線文、縄文。	堀1
III-G	1166	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文、微かに縄文。	堀1
III-G	1167	-	胴	灰	白粒、輝・角	縄文。	堀1
III-G	1168	-	胴	灰褐	白粒、輝・角	縄文。	堀1
III-G	1169	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、充填縄文。	堀1
III-G	1170	-	胴	明黄褐	白粒、輝・角	無節縄文を縦位・横位に施文。	堀1
III-G	1171	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	括れ部の沈線2条の下は縄文。	堀1
III-G	1172	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	円形刺突入り貼付文、沈線文、竹管斜位刺突文。	堀1
III-G	1173	-	胴	淡橙	石英、輝・角、小石	「8」字状貼付文、横位沈線間に刺突文。沈線弧線文。	堀1
III-G	1174	-	胴	灰黄褐	輝・角、小石	「8」字状貼付文の下半分か。沈線文。	堀1
III-G	1175	-	胴	明黄褐	白粒、輝・角	沈線文。括れ部の貼付文に円形刺突。	堀1
III-G	1176	-	胴	灰黄褐	白粒、小石	「8」字状貼付文、沈線、刺突。	堀1
III-G	1177	-	胴	灰褐	白粒、輝・角、小石	環状貼付文と連係する鎖状隆帯。	堀1
III-G	1178	-	口	浅黄橙	白粒、褐色粒、小石	「8」字状貼付文が剥がれた痕有り。そこから横へ沈線2条、下へ鎖状隆帯。	堀1
III-G	1179	-	胴	淡橙	褐色粒、石英、輝・角	沈線文。	堀1
III-G	1180	-	胴	灰褐	白粒、輝・角	括れ部に横位沈線。	堀1
III-G	1181	注口	注口基部	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。	堀1
III-G	1182	-	胴	灰白	白粒、小石	沈線文。	堀1
III-G	1183	-	胴	浅黄橙	石英、小石	沈線文。	堀1
III-G	1184	-	胴	浅黄橙	赤色粒、輝・角、小石	条線文。	堀1
III-G	1185	-	胴	鈍橙	石英、輝・角、小石	沈線文。	堀1
III-G	1186	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。	堀1
III-G	1187	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。	堀1
III-G	1188	-	胴	浅黄橙	石英、輝・角、小石	沈線文。	堀1
III-G	1189	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石、粗砂	沈線文。	堀1
III-G	1190	-	胴	鈍橙・黒	輝・角、小石	条線。	堀1
III-G	1191	-	突起	鈍黄橙	白粒、輝・角	無文。	堀1
III-G	1192	-	底	淡橙	赤色粒、石英、輝・角	平底。無文。	堀1
III-G	1193	-	口	灰黄	輝・角、小石	沈線幾何学文。	堀1新
III-G	1194	-	口	淡橙	輝・角	沈線幾何学文、充填縄文。	堀1新
III-G	1195	-	口	暗灰	白粒、輝・角	沈線文、充填縄文。	堀1新
III-G	1196	-	口	淡橙	輝・角	波頂部下に環状突起。口縁部刺突・沈線。胴部鎖状隆帯垂下。1199と同一か。	堀1新
III-G	1197	-	口	浅黄橙	輝・角、小石	口唇部上面に沈線。	堀1新
III-G	1198	-	突起	鈍黄橙	白粒、輝・角	捻転状突起に貫通孔。沈線文、刺突文。	堀1新
III-G	1199	-	口	橙	輝・角	波頂部下に環状突起。口縁部刺突・沈線。胴部鎖状隆帯垂下。1196と同一か。	堀1新
III 3-G	1200	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	沈線文。	堀1新
III-G	1201	-	胴	橙	赤色粒、輝・角	沈線文、充填縄文。裏面剥離。	堀1新
III-G	1202	-	胴	浅黄橙	白粒、石英、小石	沈線文、微かに縄文。	堀1新
III-G	1203	-	胴	明黄褐	白粒、輝・角	沈線幾何学文、充填縄文。	堀1新
III-G	1204	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	二重沈線で区画、沈線間竹管刺突、区画内微かに縄文。	堀1新
III-G	1205	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	微隆起線に小振りの「8」字状貼付文。その周囲に沈線文。	堀1新
III-G	1206	-	胴	鈍橙	輝・角、小石	縄文、沈線文。	堀1新
III-G	1207	-	胴	橙	輝・角、小石	底部付近。無文。	堀1新
III-G	1208	-	底	赤	輝・角、小石、粗砂	平底、無文。端部突出。(底10.2)	堀
III-G	1209	-	底	淡橙	白粒、小石	平底、無文。(底7.4)	堀
III-G	1210	-	底	灰白	赤色粒、小石	平底、無文。(底8.6)	堀
III-G	1211	-	口~胴	黒褐	輝・角、小石	沈線文。充填縄文部と無文部の交互構成。	堀2
III-G	1212	-	口	暗灰	白粒、輝・角	沈線文、縄文。	堀2
III-G	1213	-	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	条線状の集合沈線。	堀2 併?
III-G	1214	-	口	灰黄褐	白粒、輝、小石	波状口縁に沿って隆線巡る。一部瘤状に隆起。	後期
III-G	1215	-	口	明黄褐	輝・角、粗砂	瘤状の隆起。	後期

出土地点	No.	器種	部位	色調	胎土	特徴、法量等	時期
Ⅲ-G	1216	-	口	暗灰褐	輝・角、小石	口唇部内屈。外面に刺突・沈線。波頂部(突起部)は欠損。	後期
Ⅲ-G	1217	-	胴	鈍橙	白粒、小石	沈線。	後期
Ⅲ-G	1218	-	底	橙	輝・角、小石	平底。無文。(底7.4)	後期
Ⅲ-G	1219	-	口	暗灰	白粒、小石	刺突・沈線を施した小さな環状突起。胴部は沈線文、刺突。	?
Ⅲ-G	1220	-	底	浅黄橙	白粒、石英、小石	平底、無文。(底12.4)	後期
3-G	1221	-	胴	暗灰	白粒、石英、小石	「Y」字状隆帯、両脇に沈線。	阿玉?
3-G	1222	-	胴	橙	赤色粒、輝・角、小石	縄文、沈線文。	E II
3-G	1223	-	胴	鈍黄橙	白粒、石英	縄文後、沈線文。	E II
3-G	1224	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	縄文後、沈線文。	E II
3-G	1225	-	把手	鈍赤褐	赤色粒、小石	3方向に開口する橋状把手と思われるが、把手部分欠落。	E II
3-G	1226	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	刺突、沈線を施す突起部は上下とも欠損。胴部は沈線文。	E II?
3-G	1227	-	底	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	平底、無文。(底7.3)	E II~III
3-G	1228	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。	E IV
3-G	1229	-	口	淡橙	白粒、赤色粒、小石	隆帯・沈線で区画、円形刺突列。突起部欠損。	称
3-G	1230	-	口	灰褐	白粒、輝・角	刺突文、沈線文。	称
3-G	1231	-	口	暗灰	白粒、粗砂	沈線文。	称?
3-G	1232	-	口	橙	白粒	沈線文。	称
3-G	1233	-	胴	灰黄褐	白粒、石英、輝・角	沈線文、充填縄文部と無文部の交互構成。	称
3-G	1234	-	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文。	称
3-G	1235	-	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線区画内に雨垂れ状短沈線文。	称
3-G	1236	-	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。	称
3-G	1237	-	胴	淡橙	赤色粒、輝・角、小石	平行沈線、雨垂れ状刺突施文部と無文部の交互構成。	称
3-G	1238	-	胴	淡橙	輝・角、小石	沈線文。	称
3-G	1239	-	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文。	称
3-G	1240	-	胴	淡黄	輝・角	沈線文、雨垂れ状刺突文。	称
3-G	1241	-	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線文。	称?
3-G	1242	注口	注口	暗灰	白粒、輝・角、小石	刺突を施した橋状把手の直下に注口部。胴部は沈線文、縄文。	称?
3-G	1243	-	胴	淡橙	白粒、小石	沈線文。	称~堀1古
3-G	1244	-	胴	淡橙	白粒、輝・角	沈線文。	称古~堀1新堀1古
3-G	1245	-	口	淡橙	白粒、褐色粒、輝・角	口唇部竹管刺突4個、連係する沈線。胴部沈線文。	堀1古
3-G	1246	-	口	橙	白粒、輝・角	口唇部刻み状押圧。胴部沈線文。	堀1古
3-G	1247	-	口	鈍黄橙	白粒、小石	沈線文。	堀1古
3-G	1248	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角	口唇部沈線。胴部沈線、縄文。	堀1
3-G	1249	-	口	浅黄橙	白粒、石英、輝・角	口唇部沈線。胴部縦位沈線、微かに縄文。	堀1
3-G	1250	-	口	浅黄橙	褐色粒、輝・角	口唇部沈線2条。胴部沈線、充填縄文。1263と同一個体の可能性有り。	堀1
3-G	1251	-	突起	灰黄	石英、輝・角	口唇部肥厚、円形刺突と連係する沈線。波頂部に弧状沈線。胴部は沈線、縄文。	堀1
3-G	1252	-	口	淡橙	輝・角、小石	口唇部沈線。胴部沈線文、縄文。	堀1
3-G	1253	-	口~胴	赤褐・黒	白粒、粗砂	口唇部沈線間に鎖状刺突文。胴部縄文。	堀1
3-G	1254	-	口	橙	石英、小石	口唇部に隆帯。胴部無文。	堀1
3-G	1255	-	口	灰白	輝・角	口唇部沈線。胴部縄文後、沈線文か。	堀1
3-G	1256	-	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	突起部に円形刺突と沈線文。胴部縄文、隆線垂下。1260、1257と同一個体か。	堀1
3-G	1257	-	口	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	波状口縁。口縁部刺突文、沈線文。胴部隆線垂下、充填縄文。	堀1
3-G	1258	-	口	灰黄	白粒、石英、輝・角	口唇部沈線間に鎖状刺突文、円形刺突文2、沈線弧線文。1261と同一個体か。	堀1
3-G	1259	-	口	浅黄橙	白・褐色粒、石英、小石	口唇部沈線間に鎖状刺突文。胴部無文。	堀1
3-G	1260	-	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口唇部肥厚、円形刺突、沈線間鎖状刺突文。胴部縄文。1257、1256と同一か。	堀1